

北海道博物館 要覽

HOKKAIDO MUSEUM
SURVEY AND GUIDE

10



北海道博物館要覧

HOKKAIDO MUSEUM SURVEY AND GUIDE

第10号

VOLUME 10

目次

I 北海道博物館の役割と機能	1
1 基本的運営方針 -北海道博物館の目指す方向-	2
2 第2期中期目標・計画（令和2～6年度（2020年度～2024年度））	4
3 第3期中期目標・計画（令和7～11年度（2025年度～2029年度））	10
II 北海道博物館の活動（2024年度）	19
組織（2025年3月31日現在）	20
1 資料の収集・保存	22
2 展示	25
3 調査研究	31
4 北海道開拓の村の整備	37
5 教育普及事業	39
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化	46
7 施設及び周辺環境の整備	48
8 広報	51
9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握	56
10 道民参加の推進	62
11 博物館ネットワーク	64
12 情報発信	68
13 人材育成機能の強化と社会貢献	71
14 研究成果の発信	80
15 アイヌ民族文化研究センターの事業	84
16 4つのビジョン（重点目標）	90
令和7年度（2025年度）（第3期）事業計画	92
予算（令和6年度（2024年度）・令和7年度（2025年度））	94
III 資料	97
1 館長の紹介	98
2 学芸職員の博物館活動	99
3 利用者数	117
4 企画展開催一覧	118
5 刊行物一覧	126
6 条例、規則など	129
7 利用案内	138

凡例

- この要覧は、北海道博物館の令和6年度（2024年度）の事業及び活動の実績報告ならびに令和7年度（2025年度）の事業計画をお伝えするために作成したものです。令和6年度（2024年度）は当館の「第2期中期目標・計画」（令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度））の5年目にあたります。本書は、この目標・計画を踏まえた報告を兼ねております。
- 要覧第8号が令和4年度（2022年度）および令和5年度（2023年度）の2ヶ年度分の事業計画と実績報告を示しており、要覧第9号を兼ねております。そのため令和6年度（2024年度）の事業及び活動の実績を示すこの要覧を第10号としています。
- 令和7年度（2025年度）は当館の「第3期中期目標・計画」（令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度））の1年目にあたります。本書は「第3期中期目標・計画」（令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度））の概要と令和7年度（2025年度）の事業計画の報告を兼ねております。
- 本書は、Ⅰ～Ⅲの全3章で構成しており、「Ⅰ 北海道博物館の役割と機能」及び「Ⅲ 資料」では博物館に関する基本情報を記し、「Ⅱ 北海道博物館の活動」では、「第2期中期目標・計画」の15の項目番号に対応する形で、2024（令和6年度）の事業及び活動の実績を記載しています。
- 「Ⅱ 北海道博物館の活動」における、「年度計画（2024年度）」のなかの【ア】【イ】などは、「第2期中期目標・計画」（本書4～9ページに記載）の「ア」「イ」などに対応します。

I 北海道博物館の役割と機能



1 基本的運営方針 -北海道博物館の目指す方向-

2015（平成27）年3月策定

昭和46（1971）年に設置された開拓記念館は、総合的な歴史博物館として、開館から40年以上にわたり、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきたが、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まるとともに、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割に関する北海道文化審議会の答申を踏まえ、平成22（2010）年9月に「北海道博物館基本計画」を策定し、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」としてアイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することとし、そのため、アイヌ文化に関する専門的な調査研究等を行いアイヌ文化の継承と振興に寄与することを目的として平成6（1994）年に設置されたアイヌ民族文化研究センターとの統合の方向性を明記した。

こうして平成27（2015）年4月1日、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターとの統合により、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。

本方針は、「北海道博物館基本計画」を踏まえ、北海道博物館が果たすべき社会的使命を明文化するとともに、今後の博物館活動の指針として策定した。

I 北海道博物館の使命

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。
- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちにこたえます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

II 基本方針

1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

- (1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
- (2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

- (1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。
- (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

- (1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。
- (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館

づくりを推進します。

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します

- (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。
- (2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

Ⅲ 中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

2 第2期中期目標・計画（令和2～6年度（2020年度～2024年度））

2020（令和2）年10月策定

概要

●基本的な考え方

第1期中期目標・計画期（平成27～令和元年度）の活動をとおして築き上げてきた魅力を背景に、さらなる道民からの信頼と愛着を確保すべく、平成27年に策定した北海道博物館基本的運営方針を継承し、以下の15項目の基礎的な事業に取り組みます。とりわけ、第2期（令和2～6年度）における北海道博物館を取り巻く状況と北海道の未来を見据え、4つのビジョン（重点目標）の達成を目指します。

●15の事業展開

- ① 資料の収集・保存
- ② 展示
- ③ 調査研究
- ④ 北海道開拓の村の整備
- ⑤ 教育普及事業
- ⑥ ミュージアムエデュケーター機能の強化
- ⑦ 施設及び周辺環境の整備
- ⑧ 広報
- ⑨ 評価制度の活用と利用者ニーズの把握
- ⑩ 道民参加の推進
- ⑪ 博物館ネットワーク
- ⑫ 情報発信
- ⑬ 人材育成機能の強化と社会貢献
- ⑭ 研究成果の発信
- ⑮ アイヌ民族文化研究センターの事業

●4つのビジョン（重点目標）

- ① 北海道開拓記念館開館50年（令和3年）、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年（令和3年）、北海道開拓の村開村40年（令和5年）、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年（令和6年）を機会に、それぞれの活動と成果の蓄積を特に未来を担う若い世代、子どもたちへと継承する事業を展開します。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-4に依拠）
- ② 道民参加型の活動の推進により、博物館に対する認知と愛着の醸成に努めます。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-2に依拠）
- ③ ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め、北海道内博物館の活性化に貢献します。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-3に依拠）
- ④ 樺太（サハリン）に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」を推進し、樺太研究の拠点化を目指します。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-1に依拠）

※「樺太記憶継承事業」：一般社団法人全国樺太連盟から寄贈を受けた樺太関係資料（約6,000点）を適切に収蔵・保管するとともに、これらを活用した調査研究および展示活動を推進し、樺太の歴史や文化等を後世に継承していく事業。令和2～16年度までの15年計画で実施。

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。
- イ 収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。
- ウ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、広く公表するとともに、展示や研究などでより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

(2) 収蔵機能の強化

- ア 収蔵資料データベースの適正かつ安全な運用により、資料の受入れ、出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化するとともに、利用者への資料情報の提供に役立てる。
- イ 東日本大震災時や平成 30 年 9 月の台風 21 号ならびに北海道胆振東部地震時の教訓を活かし、災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制を整備する。
- ウ 市町村合併など地域社会の急激な変動による資料の散逸などの課題に対し、北海道の中核的博物館として、北海道の自然・歴史・文化遺産を保存・継承するためのプロジェクトを推進し、その受け皿としての収蔵スペースの確保について検討を進める。

(3) 資料保存環境の維持

貴重な公共の財産を預かる立場から、温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策などを徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

(4) 収蔵資料の利用への対応

収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応し、より多くの人びとが北海道博物館の収蔵資料を利用する機会を創出する。

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。
- イ これまで利用者からいただいたさまざまな意見を踏まえ、より魅力的な総合展示のあり方を検討し、順次改善していく。
- ウ 総合展示のメンテナンスに努める。

※総合展示室利用者数の目標値を、次のとおり定める。

総合展示室利用者数（5年間）	400,000 人
うち外国人利用者数（5年間）	34,000 人

(2) 企画展示の開催

- ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。
- イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。
- ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。

※特別展示室利用者数の目標値を、次のとおり定める。

特別展示室利用者数（5年間）	260,000 人
----------------	-----------

3 調査研究

- ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業等に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。
- イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
- ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
- エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域等の博物館や研究機関との

交流及び共同研究を推進する。

オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

4 北海道開拓の村の整備

ア 北海道開拓の村に移築・復原されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。

イ 建造物内の展示の充実に取り組む。

ウ 博物館としての役割を基本としながら、観光拠点や古民家再生等人材の育成拠点などとしての活用について検討し、取組を進める。

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

ア 総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できるイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。

イ 調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。

ウ 博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。

エ 利用者ニーズに対応した解説員による展示解説活動を展開する。

※イベントの参加者数の目標値を、次のとおり定める。

イベントの参加者数（5年間）	80,000人
----------------	---------

(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

ア 学校団体をはじめとした各種団体を対象としたレクチャーや「はっけん広場」でのプログラムなど、団体向けのプログラムを実施する。

イ 情報・通信技術を活用した機器（ICT 機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわれる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。

(3) はっけん広場の運営

ア 「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者と解説員の交流の輪を育む。

イ 学校現場など、利用者の声も反映させながら、教材やプログラムの改良や開発、イベントの充実に努める。

ウ 博物館利用促進の一環として、学校など、館外への貸出し用教材の開発を進め、貸出しを推進する。

※はっけん広場利用者数の目標値を、次のとおり定める。

はっけん広場利用者数（5年間）	100,000人
-----------------	----------

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

ア 一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。

イ 道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用を促進するための取組を進める。

ウ 平成 29～31 年に改訂された学習指導要領をふまえ、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための取組を進める。

7 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

ア 休憩スペース、キッズ・コーナー等を含め、年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に施設を利用できるようアメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。

イ 記念ホール、講堂、グランドホールなどの一層の活用を図る。

(2) 周辺環境の整備

ア 公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。

- イ 野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。
- ウ 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。

8 広報

(1) 広報活動の強化

- ア 道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。
- イ 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。

(2) 他機関との連携による広報活動の強化

他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ア 毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対処する。
- イ オーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対処する。
- ウ 自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。

10 道民参加の推進

- ア 道民の自主的なサークル活動の支援、ボランティア活動の導入、北海道博物館を支援する組織の創設などにより、博物館活動への道民参加を促進し、道民との連携を強化する。
- イ 道民とともに進める調査研究や企画展示、道民が博物館活動に深く関わる事業を企画・立案、実施する。
- ウ 外部としての意見聴取・交換の機能を充実させるため、館長の諮問に応える道民組織を立ち上げ、北海道博物館における道民参加型活動のあり方を検討する。

11 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

- ア 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、全国博物館の最新動向に関する情報を入手し、道内の加盟館へと伝える一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- イ 北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。

(2) 博物館交流の促進

- ア 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。
- イ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。

12 情報発信

(1) 情報発信機能の強化

- ア 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物等に関するデータベース化を進め、ウェブサイト等で発信する。
- イ SNS の活用など多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。

※ウェブサイトのアクセス数の目標値を、次のとおり定める。

ウェブサイトのアクセス数 (5年間)	1,300,000 件
--------------------	-------------

(2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ア 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。
- イ 収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを充実させる。
- ウ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、他の博物館や関係機関との連携を強め、レファレンスや学習支援の機能を強化する。

※レファレンス件数の目標値を、次のとおり定める。

レファレンス件数 (5年間)	2,800 件
----------------	---------

13 人材育成機能の強化と社会貢献

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

- ア 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラムを構築する。
- イ 学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

(2) 外来研究員の受入

外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。

(3) 当館職員の資質向上

外部機関が開催する博物館学系研究会や技術研究会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を集積し、博物館機能の向上に結びつける。

(4) 職員の対外貢献

講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力し、社会貢献に努める。

(5) 外部機関との事業連携

民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- ア 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献する。
- イ 北海道総合計画などとリンクし、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究を推進する。
- ウ 多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会など、北海道であるからこそ率先して目指すべき社会のあり方についてのビジョンを提言する。

14 研究成果の発信

(1) 学術刊行物などの刊行

- ア 研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。
- イ 北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。
- ウ 企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

(2) 学会への発信

各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、北海道博物館の研究成果を積極的に発信する。

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及

- ア 北海道の総合博物館としてアイヌ文化の継承と理解促進に資するため、アイヌ民族の言語・口承文芸、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化と、それらの理解に欠かせない歴史について、重点的に調査研究を進める。
- イ 関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。
- ウ 調査研究などを通じて収集した未公開の資料や研究情報については、その公開を進め、アイヌ文化の継承、学習、研究などに広く活用できるよう整備を進める。
- エ 調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。

(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援

- ア アイヌ文化に関する資料及び学術情報を一元的に集約し、そのデータベース化を進める。
- イ これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通じた提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究にとっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。

3 第3期中期目標・計画（令和7～11年度（2025年度～2029年度））

2025（令和7）年3月策定

第1 基本的な考え方

北海道博物館では、平成27年のリニューアルオープン以来、「北海道立総合博物館条例」（平成26年10月14日条例第91号）が定める設置目的（第1条）を果たし、また同第4条で定める事業を実施するため、「北海道博物館基本的運営方針」に基づき、中・長期的視点で事業のあり方や内容を検討し、5年ごとに中期目標・計画を策定してきました。

- ・第1期中期目標・計画（平成27～令和元年度）
- ・第2期中期目標・計画（令和2～令和6年度）

第2期中期目標・計画期間が終了することにもない、令和7～令和11年度までの5年を期間とする「第3期中期目標・計画」を新たに策定します。

策定にあたっての基本的な考え方は、下記のとおりです。

- (1) 北海道立総合博物館条例第4条が定める事業を、北海道博物館が基本的に取り組むべき事業とします。
- (2) 第1期および第2期中期目標・計画のもとで実施してきた事業について、その成果と残された課題等の整理を踏まえます。
- (3) 新型コロナウイルス感染症拡大などの社会情勢の変化、「博物館法の一部を改正する法律」（令和5年度施行）、「北海道総合計画」（第9期：令和6年7月策定）をはじめ、博物館の役割を規定する法令や道政の基本方針の改正等により博物館に求められるようになった新たな役割を踏まえます。
- (4) 北海道博物館が第3期の5年間の事業を実施するにあたって特に意識すべきことを、第2「重点目標」として設定します。
- (5) 以上を踏まえ、第3期において取り組む事業を内容ごとに13の「事業別項目」として整理します。それぞれの項目について、基本的な方針や目指すものを「目標」として示すとともに、設定が可能なものについて、5年間で目指す具体的な到達点などを「事業別計画」として示します。

第2 重点目標

- ① 令和7年度に北海道博物館が開館して10年を迎えることから、これまでの10年間の博物館運営・事業において残してきた課題について、段階的な解消を意識して事業を進める。
- ② 多様な来館者がそれぞれに、安心・安全な施設として訪問・利用できる博物館であるための取組を推進する。
- ③ 多様な学習ニーズを踏まえて、「道民の知りたい気持ち」「学校教育などでの新たな学びのかたち」に対応し、特に博物館としての特徴を活かした情報発信・情報提供を強化する。
- ④ 文化観光拠点施設としての博物館の役割を意識し、野幌森林公園エリア全体の一体的な活用と利用向上を目指し、「文化観光拠点計画」に基づく取組を実施する。また、同計画の終了後も引き続き、野幌森林公園エリア全体の活用の維持・拡充を図る。

第3 事業別項目

1 資料の収集・保存と利活用

【目標】

(1) 資料の収集・保存

- ・ 「北海道博物館資料収集基本方針」に基づき、北海道の自然・歴史・文化に関わる資料の調査と適切な収集を進めます。
- ・ 収集した資料は速やかに登録・整理を進めます。登録・整理に当たっては、館内の収蔵資料データベースによる一元的な管理を行い、資料の背景情報や受入・出納の記録及びコンディション情報等を蓄積します。
- ・ 資料の保存・管理については、適切な保存環境の維持に努め、「公開承認施設」としての条件を維持し、その責務を果たします。また、現在の保存スペースの適切な活用を図りつつ、必要なスペースの確保に努めます。

(2) 資料の利活用

- ・ 館内収蔵資料データベースに登録した資料について、順次、ウェブサイトで公開しているデータベースへの掲載や、資料目録の刊行等による情報提供を進めます。
- ・ 収蔵資料については登録後にも調査を進め、収蔵資料データベースに掲載する資料情報の充実を図り、新たな情報を得た時は随時更新していきます。
- ・ 収蔵資料データベースに登録する資料情報については、北海道博物館の SNS や動画サイトのほか、ジャパンサーチ等の全国的なデジタルアーカイブなど多様な媒体でも発信していきます。

【事業別計画】

(1) 資料の収集・保存

北海道博物館の収蔵資料の総件数は、令和6年12月現在で約19万件であり、第3期の5ヶ年間に20万件に達すると見込みますが、一方で、令和6年度末時点で収集に着手していながら未整理・未登録の資料があります。第3期の5ヶ年間では、段階的な整理・登録を進め、解消を目指します。

(2) 資料の利活用

ア 収蔵資料の情報をウェブサイト上のデータベースで公開する作業を進めます。

※5ヶ年目標値 ウェブサイト「収蔵資料検索ページ」新規公開数 3,600件
--

イ 収蔵資料の利活用促進のため、その高精細画像の撮影と公開を進めます。

ウ 収蔵資料の二次利用を促進するため、知的財産権が存在しないまたは消滅した状態（パブリックドメイン）としての公開が可能となるよう取組みを進めます。

2 展示

【目標】

(1) 総合展示室の運営

来館者の多様な関心に応えられるよう、展示解説の充実を進めます。

展示資料の入れ換えやクローズアップ展示等により、多くの収蔵資料を展示する取組みを進めます。

(2) 企画展示の開催

総合展示では展示しきれない様々なテーマや資料を紹介するために、企画展示（特別展、企画テーマ展等）の開催を進めます。

企画展示では、北海道博物館の最新の研究成果等を反映した展示や、他の博物館や民間企業との連携・協働による展示、さらに道民参加による展示など、より魅力的な展示の開催に取り組みます。

また、企画展示の開催に合わせて、展示内容や学術的意義等の理解をより深めるための展示図録や解説用冊子を刊行します。

【事業別計画】

(1) 総合展示室の運営

- ア 日本語以外の母語話者である来館者等にもより伝わりやすくするよう、英語を中心とした展示の多言語解説を拡充します。
- イ 点字による案内・解説など、障がいのある方々の観覧の補助となるコンテンツを充実します。
- ウ 展示室内外の案内表示について、ユニバーサルデザインに基づく見直しを行います。
- エ 利用者の方々からの様々な意見を踏まえながら、総合展示がより魅力的になるよう、解説や演示の工夫、新たな内容の導入などの改修を検討します。
- オ 展示解説の研修の充実や知見の共有をはかり、人材の育成に努めます。
- カ 安心・安全な観覧のために、展示室への防犯カメラ等の導入を検討します。

※5ヶ年目標値	
総合展示室利用者数	491,300人
うち外国人利用者数	29,700人

(2) 企画展示の開催

※5ヶ年目標値	
特別展示室利用者数	271,500人

3 調査研究

【目標】

(1) 調査研究の実施

北海道の自然・歴史・文化に関する調査研究を進めます。

外部研究機関や外部研究者との連携による学際的な研究プロジェクトや、道民の参画による研究プロジェクトなどにも積極的に取り組みます。

また、北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域や、地理的・歴史的につながりのある地域等の博物館や研究機関と、オンラインも含めた交流や共同研究を進めます。

(2) 研究成果の公開と社会還元

調査研究の成果を展示や教育普及事業等に反映させるほか、出版物（研究紀要・研究報告書・展示解説書等）の刊行、学会での発表や学術雑誌への投稿、専門的知識の提供（講演、出版物への寄稿等）などを通して積極的に公開し社会還元を進めます。

【事業別計画】

(1) 調査研究の実施

- ア これまで進めてきたカナダ・アルバータ州及びロシア・サハリン州の博物館との共同研究について、第2期の5ヶ年では世界的な感染症の流行拡大等の影響を受けましたが、今期はアルバータについて現地との研究交流を再開し、サハリンについては、往来が困難な状況が続いた場合でも、国内での調査等を再開します。
- イ 第2期の中で全国樺太連盟から寄贈を受けた資料について、その整理を進めるとともに、関連する調査研究を進めます。

(2) 研究成果の発信と社会還元

- ア 研究紀要および各種学術雑誌等への投稿、学会発表、館内外での講演会・講座などを通して、研究成果の公開・社会還元を行います。

※5ヶ年目標値	
成果発表（総計）	300件

- イ 研究成果を展示（企画展示、クローズアップ展示等）に活用します。

4 教育普及事業

【目標】

(1) 魅力あるイベントの充実

調査研究の成果を活用した講座等の行事のほか、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、幅広い年齢層やニーズに対応した多彩な行事を実施し、適切な学習機会・学習環境の提供に努めます。

(2) はっけん広場の運営

展示や行事の他に、利用者みずからの新たな発見を促す体験学習の空間である「はっけん広場」の活動を持続していくため、職員のノウハウ・技術・知識についての共有・継承の取り組みを進め、効率的な運用方法の検討・構築を図ります。

学校現場等の利用者の声も反映させながら、はっけん広場で用いる教材や館外への貸出し用教材の改良や開発、イベントの充実に努めます。

【事業別計画】

(1) 魅力あるイベントの充実

- ア 利用促進を図るため、講座・イベントのオンライン配信の拡充を進めます。
- イ 様々な世代や文化的背景を持つ来館者のニーズに応え交流を促すような、講座等のイベントの内容やあり方の検討・構築を進めます。

※5ヶ年目標値 イベントの参加者数 20,000人

(2) はっけん広場の運営

- ア 体験学習用の教材（はっけんキット）、体験プログラム（はっけんプログラム）の安定的・持続的な提供を実現するための運営マニュアルを作成します。

※5ヶ年目標値 はっけん広場利用者数 50,000人

5 道民・地域との協働と、地域活性化への貢献

【目標】

(1) 博学連携の推進

学校団体をはじめとした各種団体を対象としたレクチャーなどを実施します。
道内の学校、博物館等とも連携しながら、より効果的な博物館の利用を促進する取組を進めます。

(2) 次代の博物館活動・地域活動を担う人材の育成

地域の文化財を受け継ぐ活動を担う人材を育成するために、博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れます。

(3) 地域連携の強化

- ア 地域文化の保存・振興、教育プログラムの提供や地域イベントの開催を通じて地域連携を促進します。
- イ 外部機関の事業への協力・後援の依頼に積極的に対応します。

【事業別計画】

(1) 博学連携の推進

北海道博物館をより活用していただくための、学校教員向け対象の研修会の充実をはかります。遠隔地の参加者のためウェブサイトを活用して資料を提供できる仕組みの検討と構築を図ります。

(2) 次代の博物館活動・地域活動を担う人材の育成

博物館実習のプログラムについて、不断に検証するとともに、他館の事例なども踏まえ随時更新します。

(3) 「外来研究員」制度の検討

北海道博物館の調査研究等の活性化や地域の文化継承・文化財保存につながるものとしての「外来研究員」について、様々な課題を整理しながら、望ましい制度の策定を図ります。

6 野幌森林公園エリアの活用と整備

【目標】

(1) 館内施設の整備と活用

年齢等を問わず誰もが快適かつ安心・安全に施設を利用できるよう、バリアフリー化や施設設備の改修などに努めます。
博物館の講堂やグランドホールなどの施設の一層の活用を図り、現在は限定的な公開となっている記念ホールについても、より広く道民が利用でき一層の活用を図れるようにします。

(2) 北海道開拓の村の整備

北海道開拓の村の歴史的建造物群について、日常的な維持・修繕に努めるとともに、大規模な修繕（改修）を計画的に進めることができるよう努めます。
また、大規模改修を実施する際には、建物内の展示についても時代に合わせた内容となるよう、充実を図ります。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な整備の取組

北海道博物館、北海道開拓の村及び自然ふれあい交流館の連携を強化し、野幌森林公園内の一体的かつ効果的な運営に努めます。

【事業別計画】

(1) 館内施設の整備と活用

- ア 授乳スペースの整備、補助犬ユーザーの受入れに係る設備（補助犬の排泄場所等）の整備、学校団体等向けの荷物置き場の確保、館内外の段差のある箇所のバリアフリー化など、乳幼児を連れた方や障害のある方、大人数で来館される方々など、多様な来館者が利用しやすい施設の整備に取り組みます。
- イ 荒天時にも安全に来館できるよう、博物館入り口や周辺の石畳や階段の転倒防止対策など、利用者の安全に配慮した施設整備の検討を進めます。
- ウ 収蔵庫の入退室管理システム、冷暖房、排水管等、博物館を維持するための設備・システムについて、持続的に運用できるよう長寿命化に向けた措置を進めます。

(2) 北海道開拓の村の整備

- ア 開拓の村の歴史的建造物について、その建物をめぐる往事の生活文化等の建物にまつわる歴史や文化をわかりやすく伝える展示の改訂・充実を図ります。
- イ 開拓の村の歴史的建造物について、建物の周辺の景観や施設設備のユニークベニュー化など、多様な魅力の発信に取り組みます。
- ウ 開拓の村の歴史的建造物について、建物の文化財としての価値をより明確にし、後世に残すために、文化財指定に向けた検討（候補となる建造物の選定、関係部署との協議等）を行います。
- エ 開拓の村の建物に対するアライグマ等の獣害による破損・汚損が深刻となっていることから、野生動物の進入防止のための対策を進めます。
- オ 開拓の村の歴史的建造物内における展示資料や家具・調度は、野外施設という環境の中で長期的な演示を行うことと、歴史的建造物としてのリアリティとの両立を図りながら維持・整備を進めます。

(3) 野幌森林公園内施設の一体的な整備の取組

- ア 野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上の取組等を進め、施設相互の回遊性の向上を図ります。
- イ 公園内や各施設の案内標識について、ユニバーサルデザインに準拠した充実を図ります。
- ウ 公園内の街灯や安全柵等の設備について、定期的な点検を実施するとともに、必要に応じて老朽化等への対応を検討します。
- エ 公園内の散策路の整備、北海道博物館の屋上解放など、野外・屋外でも楽しめる施設や機会の充実に向けた取組を進めます。

7 広報

【目標】

多様なターゲットに対して、それぞれに効果的なアプローチができる広報活動を推進するため、ウェブサイト、公式の SNS や YouTube 等を活用し、多様な博物館情報やコンテンツを発信します。

また、道の広報や他機関との連携による広報活動に、積極的に企画・参画します。

【事業別計画】

博物館利用者の多様なニーズに向け、紙媒体での広報活動を継続するほか、多言語案内や SNS との連動を含む、ウェブサイトのコンテンツを充実させます。

※5ヶ年目標値 ウェブサイトのアクセス数 2,340,000 件

8 評価と利用者調査を活用した管理運営

【目標】

(1) 評価制度と利用者調査の活用

毎年度の事業について、あらかじめ点検・評価の項目と指標を定め、館として自己点検評価を行うとともに、博物館協議会による外部点検を行います。

継続的に利用者調査を実施し、博物館に対するニーズの把握に努めます。

これらを次の事業目標策定等に活かすことを通じて、より良い博物館づくりにつなげていきます。

(2) ガバナンスの強化

博物館内の目標・業務管理体制を明確にし、業務の進捗管理を適切に行うとともに、業務の効率化に努めます。

博物館の課題については、環境生活部文化振興課と情報の共有を図り、適切な連携のもと、解決に努めます。

北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献できる博物館を目指します。

【事業別計画】

ハラスメント等に関する近年の社会通念のあり方を踏まえ、北海道博物館としてのハラスメント対策のガイドラインを策定します。

9 道民参加の推進

【目標】

博物館活動への道民参加を促進するために、継続的に博物館を利用する方などを対象とした来館者の動向調査や意見交換会等を企画・実施し、道民が博物館を利用する機会や目的等の把握に努めます。

【事業別計画】

ア 道民による博物館事業への参加について、「参加」（企画展示・普及教育事業等への立案・参画など）、「サークル・学習」（博物館の資料や文化資源を活かしたサークル活動のなど）、「支援」（博物館業務・事業のサポート）などの、さまざまなあり方を検討し、具体的に取り組めるものから進めていきます。

イ 道民参加のあり方の検討・着手と並行して、控え室等の施設・設備の整備や、道民との協働・連携を進めるための制度のあり方などの課題について、他の博物館などの事例にも学びながら、その解決を目指します。

10 博物館ネットワーク

【目標】

日本博物館協会の北海道地区支部長館、全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たします。

また、北海道博物館協会の事務局館として、同協会との連携・協力により、道内の博物館ネットワークにおける中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげていきます。

中核的博物館の役割の一つである、災害発生時などの応急的な対応や防災に向けた継続的な取り組みについて、仕組みづくり等の連携・協力を進めます。

さらに、道内の博物館や図書館、教育委員会などの社会教育機関と連携し、共同研究、共同事業などを実施していきます。

【事業別計画】

北海道の中核的博物館として、北海道博物館協会等で開催する研修会について、講師派遣や様々な知見の提供などを行い、実施内容の充実に努めます。

11 情報発信

【目標】

- ・ 博物館の図書室について、博物館としての情報の蓄積と提供の充実に目指し、北海道の自然・歴史・文化に関わる図書や視聴覚資料、博物館刊行物などを収集し、蔵書目録（OPAC）等に情報を蓄積していきます。
- ・ 館内における調査研究や博物館活動に関するアーカイブの整理とデジタル化、レファレンス事例の集積を進め、学習支援やレファレンスの質の向上を図ります。
- ・ 蓄積した資料情報や学習支援の情報について、ウェブサイト、SNS、動画配信、デジタルアーカイブなどの多様な媒体を通じた、利用しやすいかたちでの発信を進めます。
- ・ 北海道の自然・歴史・文化に関わる専門的知見を提供する窓口として、レファレンスや学習支援等に対応します。

【事業別計画】

※5ヶ年目標値 レファレンス件数 1,200件

12 職員の人材育成機能の強化

【目標】

調査研究や教育普及等に関する館内での研究会・研修会の実施、学会・研究会等への職員の派遣・発表の促進、博物館に関する専門技術や管理運営の研修会への派遣、館外での長期研修への派遣などを進め、職員の専門知識・技能の向上を中心とした人材育成と資質向上に取り組みます。

【事業別計画】

博物館運営や行政上の課題、多様化する地域の課題に対応するため、学芸員の専門知識・幅広い能力の向上を図るとともに、そのような活動を後押しする館内環境の充実に努めます。

13 アイヌ民族文化に関する調査研究や理解促進への取り組み

【目標】

(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及

北海道の総合博物館としてアイヌ文化の継承と理解促進に資するため、館のアイヌ民族文化研究センターが中心となって、アイヌ民族の言語、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化及び歴史について、重点的に調査研究を進めます。

また、関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、それらの整理・保存を進めます。

これらの調査研究や資料整理などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催、総合展示の充実や企画展示の実施などを進めます。

(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究等の活動支援

アイヌ文化に関する資料及び学術情報を集約し、そのデータベース化を進めます。

これらの成果については、北海道博物館の収蔵資料データベースやデジタルアーカイブをはじめ、ウェブサイト、SNS、オンライン配信などのさまざまな媒体や機会を通じた提供を進めるとともに、学習者や関係者、関係機関や地方自治体等における研究その他の活動を支援するために積極的に提供していきます。

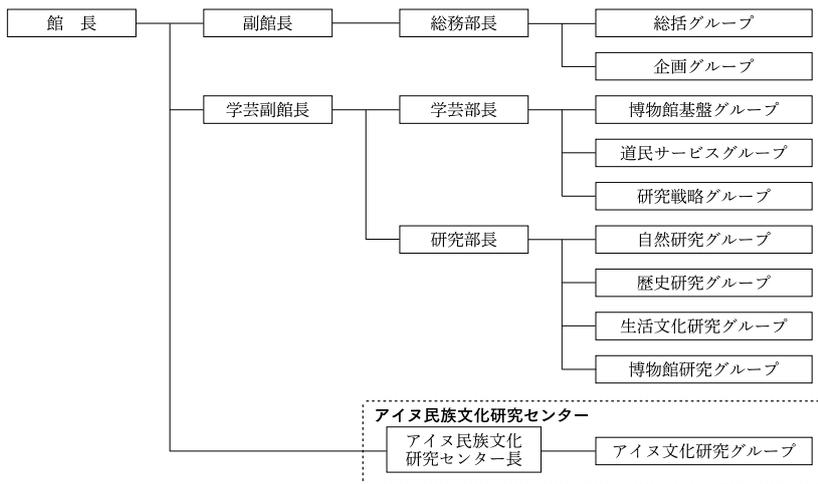
【事業別計画】

調査研究などを通じて収集した未公開の資料や研究情報については、アイヌ文化の継承、学習、研究などに広く活用できるよう整備を進め、5ヶ年で10件以上の資料を新たに公開します。

Ⅱ 北海道博物館の活動 (2024年度)



組織 (2025年3月31日現在)



グループ	主な事務分担、または研究分野	第2期中期目標・計画の所管
総務部	総括グループ	7 施設、及び周辺環境の整備
	企画グループ	4 北海道開拓の村の整備 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10 道民参加の推進 11 博物館ネットワーク 13 人材育成機能の強化と社会貢献
学芸部	博物館基盤グループ	1 資料の収集・保存 2 展示 12 情報発信
	道民サービスグループ	5 教育普及事業 6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 8 広報
	研究戦略グループ	3 調査研究 14 研究成果の発信
研究部	自然研究グループ	自然史系分野 (地学、生物学)
	歴史研究グループ	歴史系分野 (考古学、歴史学、美術史学)
	生活文化研究グループ	生活文化系分野 (産業学、生活学)
	博物館研究グループ	博物館学系分野 (展示学、博物館教育学、保存科学、資料管理学、図書館学)、建築学
アイヌ民族文化研究センター		15 アイヌ民族文化研究センターの事業
	アイヌ文化研究グループ	アイヌ文化系分野 (言語、歴史、芸能、民具・伝統的生活技術)

※ 2025年度からはグループ制ではなく、部課制の組織となっている。

現員（2024年度；2025年3月31日現在）

所属	区分	常勤		非常勤		合計
		行政職	研究職	特別職	一般職	
館長				1		1
副館長		1				1
学芸副館長			1			1
部長		1	1(1)			2(1)
アイヌ民族文化研究センター長			(1)			(1)
総括グループ		7(1)				7(1)
企画グループ			6			6
博物館基盤グループ		1	8			9
道民サービスグループ			9			9
研究戦略グループ			3			3
自然研究グループ			(6)			(6)
歴史研究グループ			(5)			(5)
生活文化研究グループ			(4)			(4)
博物館研究グループ		(1)	(5)			(6)
アイヌ文化研究グループ			(7)	2		2(7)
解説員					9	9
合計		10(2)	28(29)	3	9	50(31)

※（ ）内は兼務数で外教

職員名簿（2025年3月31日現在）

館長 石森 秀三

副館長 須田 光政

学芸副館長 小川 正人

総務部

総務部長 島村 哲也

総括グループ

主幹 (GL) (兼) 島村 哲也

主幹 (調整) 小野寺 努

主査 (総務) 藤田 竜太

主査 (調整・公園利用) 丹羽 章夫

主査 (調整・施設管理) 葛野 俊介

主任 西尾 千秋

主任 川田 宣人

主事 熊谷 那月

企画グループ

学芸主幹 (GL) 会田 理人

学芸主査 (企画調整) 遠藤 志保

学芸主査 (社会貢献) 山際 秀紀

学芸主査 (中核的博物館) 成田 敦史

研究職員 鈴木 明世

学芸員 久保見 幸

学芸部

学芸部長 三浦 泰之

博物館基盤グループ

学芸主幹 (GL) 鈴木 琢也

学芸主査 (展示) 尾曲 香織

学芸主査 (資料管理) 大坂 拓

主査 (図書・情報発信) 櫻井 万里子

学芸員 田中 祐未

学芸員 高橋 佳久

学芸員 石子 智康

研究職員 大谷 洋一

学芸員 堀 繁久

道民サービスグループ

学芸主幹 (GL) 青柳 かつら

学芸主査 (利用促進) 圓谷 昂史

学芸主査 (普及事業) 表 溪太

学芸員 亀丸 由紀子

学芸員 鈴木 あすみ

学芸員 渋谷 美月

研究職員 吉川 佳見

学芸員 谷口 生貴斗

学芸員 右代 啓視

研究戦略グループ

学芸主幹 (GL) 水島 未記

学芸主査 (調査研究) 東 俊佑

研究職員 甲地 利恵

研究部

研究部長 (兼) 小川 正人

自然研究グループ

学芸主幹 (GL) (兼) 水島 未記

学芸主査 (兼) 表 溪太

学芸主査 (兼) 圓谷 昂史

学芸主査 (兼) 成田 敦史

学芸員 (兼) 久保見 幸

学芸員 (兼) 堀 繁久

歴史研究グループ

学芸部長 三浦 泰之

学芸主幹 (GL) (兼) 鈴木 琢也

学芸主査 (兼) 東 俊佑

学芸員 (兼) 田中 祐未

学芸員 (兼) 石子 智康

学芸員 (兼) 右代 啓視

生活文化研究グループ

学芸主幹 (GL) (兼) 会田 理人

学芸主査 (兼) 山際 秀紀

学芸主査 (兼) 尾曲 香織

学芸員 (兼) 舟山 直治

博物館研究グループ

学芸主幹 (GL) (兼) 青柳 かつら

主査 (兼) 櫻井 万里子

学芸員 (兼) 鈴木 あすみ

研究職員 (兼) 鈴木 明世

学芸員 (兼) 渋谷 美月

学芸員 (兼) 高橋 佳久

アイヌ民族文化研究センター

アイヌ民族文化研究センター長 (兼) 小川 正人

アイヌ文化研究グループ

研究主査 (兼) 遠藤 志保

学芸主査 (兼) 大坂 拓

学芸員 (兼) 亀丸 由紀子

研究職員 (兼) 吉川 佳見

研究職員 (兼) 大谷 洋一

研究職員 (兼) 甲地 利恵

研究職員 (非常勤) 佐々木 利和

研究職員 (非常勤) 奥田 統己

解説員

主事 (非常勤) 越田 雅子

主事 (非常勤) 福島 奈緒子

主事 (非常勤) 堀 泰子

主事 (非常勤) 山田 日登美

主事 (非常勤) 浅井 雅世

主事 (非常勤) 工津 尋美

主事 (非常勤) 川村 昌江

1 資料の収集・保存

当館の収蔵資料は、北海道ならではの自然・歴史・文化に関する遺産であり、その研究に必要な不可欠な基礎資料である。当館では、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までの一連の流れを、学芸部博物館基盤グループが所管し、各研究グループ、担当学芸職員との連携のもと進めている。また、資料を良好な状態で未来につなぎ伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めている。

なお、当館は、文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）として文化庁より承認を受けている。

活動実績

年度計画

重点	<p>【中期目標・計画/重点①】文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」による、資料のデジタル化の実施</p> <p>【中期目標・計画/重点④】「樺太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国樺太連盟より受け入れた樺太関係資料（以下「樺連資料」）約6,000点の収蔵・整理・保管</p>
一般	<p>(1) 資料の収集</p> <p>【ア】 北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料の収集（受入）と資料登録活動を継続的に実施 [資料審査会を年6回開催]</p> <p>【イ】 収集資料の調査、整理・分類・登録の推進</p> <p>(2) 収蔵機能の強化</p> <p>【ア】 収蔵資料データベースの効率的な運用</p> <p>【イ】 災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討</p> <p>【ウ】 収蔵スペースの確保に向けた検討・取組</p> <p>(3) 資料保存環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な資料保存環境の維持に向けた取組 ・ 文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の変更申請及び会議・研修などへの参加 <p>(4) 収蔵資料の利用への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の貸出への対応 [年間見込 25 件 500 点程度] ・ 資料の特別観覧への対応 [年間見込 70 件 1,000 点程度] ・ 資料の模写品等使用への対応（北海道博物館） [年間見込 120 件 300 点程度] ・ 資料の模写品等使用への対応（開拓の村） [年間見込 40 件 150 点程度]

【重点計画】

○ 資料のデジタル化の実施

2024年度は、道内各地における戦前から高度経済成長期までの自然環境や街並み、人びとの暮らしを撮影した映像資料の修復及びデジタル化（8mmフィルム20本、16mmフィルム5本）、開拓の村建造物の移築復元前の外観や内部の様子、周囲の街並み、建物の解体から移築復元に至る工事のようすを記録した写真のデジタル化（北海中学校、青山家漁家住宅、菊田家農家住宅を中心とした写真フィルム7,640点）を実施した。

○ 樺連資料の収蔵・整理・保管

2024年度は受け入れた資料を樺太連盟作成のリストや画像データ等と突き合わせながら点検する作業を継続して実施し、当館における収蔵資料のリスト作成を進めた。

資料の整理の成果として、2023年度に「文書」「図書」計3,246件分を掲載した『資料目録 第3号 全国樺太連盟資料1』を刊行したの続き、2024年度には残る「絵葉書」「写真」「生活」など計3,335件、および稚内市に委譲された資料2,329件分を掲載した『資料目録 第4号 全国樺太連盟資料2』を刊行した。

【一般計画】

(1) 資料の収集

当館の資料は、旧北海道開拓記念館資料、旧北海道立アイヌ民族文化研究センター資料、2015（平成27）年の北海道博物館設置以後収集した資料から構成されている。旧北海道開拓記念館と旧北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵していた資料は、2015年の北海道博物館設置に伴い管理換が行われ、180,418件の資料を有する博物館として開館した。

2025（令和7）年3月末日現在の資料件数は192,980件で、そのうち約2,000件が総合展示に供されている。

①「資料収集基本方針」に基づく収集活動

当館の資料収集は、道民からの日常的な情報提供等による寄贈が大部分を占めている。寄せられた資料の情報は、資料収集基本方針に照らして検討したうえで、「資料審査会」（当館資料の適切な収集、保存、活用について協議するための内部組織）の審査を経てから、資料を収集している。

2024年度の資料収集

資料情報件数	18件	調査収集件数	20件	資料審査会回数	6回
--------	-----	--------	-----	---------	----

2024年度分類別・受入区分別資料件数

分類	管理換	購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消	計	2023年度までの累計	累計総件数
0 総集	0	0	0	0	0	0	0	0	3,047	3,047
1 記録	0	0	1,617	0	0	0	0	1,617	11,312	12,929
2 地学	0	0	34	0	1	0	0	35	7,674	7,709
3 生物	0	0	32	0	19	0	0	51	8,053	8,104
4 考古	0	0	0	0	0	0	0	0	1,801	1,801
5 民族	13	0	12	0	0	0	0	25	6,219	6,244
6 生活	0	0	567	0	0	0	0	567	36,647	37,214
7 産業	0	0	321	0	0	0	0	321	21,452	21,773
8 文書	0	0	744	0	0	0	0	744	92,521	93,265
9 美術	0	0	96	0	0	0	0	96	798	894
合計	13	0	3,423	0	20	0	0	3,456	189,524	192,980

2024年度地域別寄贈資料収集件数 3,456件

地域	札幌市	江別市	その他道内	道外	計
資料件数	3,431件	1件	22件	2件	3,456件

②収集資料の調査、整理・分類・登録の推進

「資料審査会」において、収集することが決定した資料の登録に向けた進捗状況を共有して、資料の整理及び資料管理システムへの登録作業の推進を呼びかけた。

資料新規登録件数	3,559件
----------	--------

(2) 収蔵機能の強化

①資料管理システムの運用

資料情報をデータベース上で管理するために、クラウドサービスの形態で提供されている収蔵品管理システム「I. B. MUSEUM SaaS」を用いて、新規受入資料の資料情報を随時登録するとともに、既存データの更新を進めている。

※ 資料情報の管理と発信、資料情報のウェブサイト公開件数については、「12 情報発信」を参照。

②被災資料の受け入れや保存処理などの機能・体制整備

研修や他館の事例調査を実施し、体制整備に向けて検討を進めた。

③収蔵スペース確保に向けた検討

新規に収蔵する資料は、博物館内で二酸化炭素処理、低酸素処理、低温処理、市販の薬剤等を使った防虫、70%エタノールを使った殺菌などの処理をする他、必要に応じて外注で殺虫処理を行っている。2024年度も、新規受入資料収蔵のために、館内の収蔵スペースの再検討・再配置を進めた。

(3) 資料保存環境の維持

①資料保存環境の維持

資料保存環境を維持するために、化学薬剤のみに頼らない方法として、IPM (Integrated Pest Management ; 総合的有害生物管理) に取り組んでいる。2024年度も、IPMによる保存環境の維持を行いつつ、資料収蔵環境管理に関する連絡会議を12回開催し、情報共有を行った。日常の資料保存環境により資料のカビ・汚損等の発生はなかった。

2024年度IPMによる作業

IPMによる作業の内容	回数	実施日	担当者
① 捕虫トラップの設置・回収・調査（展示室、収蔵庫）	12回	随時	博物館基盤グループ
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査	0回		博物館研究グループ
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	10回	随時	博物館研究グループ
④ 定期収蔵庫清掃（資料メンテナンス、庫内・配架棚クリーニング等）	12回	1か月に1回程度	博物館基盤グループ、各研究グループ
⑤ 収蔵庫大掃除（資料メンテナンス、庫内・配架棚クリーニング等）	1回	12月18日	学芸職員全員
⑥ 総合展示室大掃除（資料メンテナンス、ケース内清掃等）	1回	12月19～20日	学芸職員・解説員全員
⑦ 新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業		恒常的に実施	博物館基盤グループ
⑧ 収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理	10回	月1回程度	博物館研究グループ、博物館基盤グループ
⑨ 収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）		開館日毎日	博物館基盤グループ
⑩ その他、収蔵環境の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応）		恒常的に実施	博物館基盤グループ

②公開承認施設の変更申請及び会議・研修などへの参加

当館は、2010（平成22）年に公開承認施設として承認を受けた（第130号）。2015（平成27）年に更新し（第130-2号）、現在は、2020（令和2）年8月10日から2025（令和7）年8月9日までの承認を受けている。

2024年度は、変更申請を行う状況変化はなかった。また、文化庁主催の「公開承認施設担当者会議」（6月14日開催、オンライン）には3名の職員が参加した。

（4）収蔵資料の利用への対応

当館の収蔵資料は、他の博物館への貸出のほか、調査・研究等を目的とした収蔵資料の観覧（特別観覧）等にご利用されている。また、博物館資料の撮影物や複写物（模写品等の刊行等）としても利用されている。

2024年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用 （北海道博物館）		模写品等使用 （開拓の村）	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係	7	32	10	183	11	27	2	2
報道機関	0	0	1	1	14	20	7	8
官公庁	0	0	4	76	3	6	2	2
出版社	0	0	0	0	25	29	2	2
その他	0	0	30	270	21	29	20	37
計	7	32	45	530	74	111	33	51

2 展示

当館の展示活動は、おもに総合展示室、特別展示室で行われている。各展示室は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる博物館をめざし、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる資料を最大限に活かす展示を展開している。また、総合展示は、クローズアップ展示などによる資料の定期的な入れ替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく楽しめる展示となるよう努めている。さらには、当館独自の研究成果を積極的に反映した特別展や企画テーマ展などの企画展示を、期間を限って年に数回開催している。

また、展示室や展示資料の保守点検・管理を日常的に実施するとともに、年に1回、2日間にわたって大掃除を行っている。

活動実績

年度計画

重点	<p>【中期目標・計画/重点④】 収集した樺連資料の展示に向けた検討</p> <p>【中期目標・計画/重点②】 【(1)イ】 利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成</p> <p style="padding-left: 20px;">【(2)イ】 道民参加型展示の企画・推進</p>
一般	<p>(1) 総合展示室の運営</p> <p>【ア】 総合展示室における展示資料の入替え推進 [年間延べ40件程度]</p> <p>【ア】 クローズアップ展示コーナーの更新推進 [年間7件27回程度]</p> <p>【ア】 アイヌ文化Q & A (第2テーマ) の更新推進 [年間3回程度]</p> <p>【ア】 総合展示2階出口付近の参加型展示の更新 [年間1回程度]</p> <p>【ア】 第4テーマ「今とこれからをつくる」の入替え推進 [年間3件程度]</p> <p>【ア】 学芸員紹介コーナーの入替え [年間1回程度]</p> <p>【イ】 総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改訂の実施</p> <p>【イ】 次年度総合展示更新実施計画 (各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示) の作成</p> <p>【イ】 総合展示資料目録の作成・更新</p> <p>【ウ】 総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理 [随時]</p> <p>【ウ】 大掃除の実施計画作成と推進 [年間1回]</p> <p>(2) 企画展示の開催</p> <p>【ア】 他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成</p> <p>【ウ】 特別展の開催推進・運営 [年間1件程度]</p> <p>【ウ】 企画テーマ展の開催推進・運営 [年間3件程度]</p> <p>【ウ】 アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営 [年間1件程度]</p> <p>【ウ】 企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行 [年間4件程度]</p> <p>特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理 [随時]</p>

【重点計画】

○ 収集した樺連資料の展示に向けた検討

「樺太記憶継承事業」の参画メンバーを中心に、資料の展示に向けた検討および資料整理を進めた。

※ 詳細は「3 調査研究」の「樺太記憶継承事業」を参照。

○ 道民参加型展示の企画・推進

中2階休憩ラウンジにおいて、道民参加型の展示や北方領土コーナーを設置しているほか、以下の企画展、展示コーナーにおいて道民参加型展示を推進した。

- 来館者参加型展示コーナー (アイヌ文化Q & A (総合展示室第2テーマ)、総合展示2階出口付近の参加型展示)
- 総合展示第4テーマ「今とこれからをつくる」
- 休憩ラウンジにおける道民参加型展示 (アンモナイト)

○ 利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成

総合展示、及び企画展示等の事業を円滑に進めるため、館内の内部組織として学芸部長を座長とする展示ワーキングチームを設置している。総合展示の担当チームから改修箇所の意見・要望を募り、展示ワーキングチームにて集約し、2021～2024年度の4か年で順次改修する中期改修計画を2020年度に作成している。2024年度は、国の文化観光補助事業を活用しつつ、その計画に則り以下の部分改修を実施した。

2024 年度総合展示部分改修 2 件

テーマ	部 所	内 容
第3テーマ 「北海道らしさの秘密」	「三等客車」	車室内の照明を改修するとともに、客車前にタッチパネル式モニターを設置し、乗客たちの会話の内容や、当時の北海道の生活文化とその多様性を伝えるコンテンツを公開。
第4テーマ 「わたしたちの時代へ」	「アジアの戦争と北海道」	戦時下の道民生活や樺太・千島の様子、戦後の引揚などに関する展示パネル・資料を公開。
	「高度経済成長の時代」	昭和期に開業し、令和の時代まで営業を続けた銭湯の番台を新たに展示するとともに、「衛生」に関する資料を公開。

【一般計画】

(1) 総合展示室の運営

総合展示は、1 階と 2 階を合わせて 3,011 m²の広さがある総合展示室のなかで、収蔵資料の中から約 2,000 件の実物資料のほか、模型、ジオラマ、映像装置などを使った展示を展開している。1 階にはプロローグ、第 1 テーマ、第 2 テーマ、2 階には第 3 テーマ、第 4 テーマ、第 5 テーマを配し、来るたびに違う、飽きない展示を演出するため、資料の定期的な入れ替えや、クローズアップ展示の入れ替えなどを行っている。

①総合展示室利用者数

2024 年度総合展示室利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	累計	達成率
利用者数	3,526	6,037	5,538	6,194	8,488	11,523	7,671	3,827	2,686	2,871	3,154	4,669	66,184	374,296	93.57%
うち外国人利用者数	410	419	382	633	543	458	482	390	493	574	629	524	5,937	14,918	43.88%

※ 総合展示室利用者数の目標値 (2020～24 年度) : 400,000 人 (うち外国人利用者数 34,000 人)、「累計」「達成率」は第 2 期中期目標・計画期 (2020～2024 年度) における総計。

②総合展示の資料入替

2024 年度総合展示資料入替件数 (場面替を含む)

場所		4～5 月	6～7 月	8～9 月	10～11 月	12～1 月	2～3 月	計
プロローグ	クローズアップ展示 0	1	0	17	0	2	0	20
	そ の 他	0	0	3	0	6	0	9
第 1 テーマ	クローズアップ展示 1	19	2	0	2	0	19	42
	クローズアップ展示 2	4	9	0	5	7	17	42
	そ の 他	0	0	0	0	3	0	3
第 2 テーマ	クローズアップ展示 3	5	0	0	0	3	0	8
	クローズアップ展示 4	5	0	1	0	1	0	7
	そ の 他	1	0	1	0	4	0	6
第 3 テーマ	クローズアップ展示 5	14	0	30	0	10	0	54
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0
第 4 テーマ	クローズアップ展示 6	7	0	7	0	6	0	20
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0
第 5 テーマ	クローズアップ展示 7	1	0	4	0	2	0	7
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0
計		57	11	63	7	44	36	218

③クローズアップ展示

普段の総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、当館が所蔵する資料などを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーで、総合展示室内に 8 か所設けている。

2024年度のクローズアップ展示（27テーマ、資料点数：200点、展示替：27回）

場所	テーマ	展示期間	担当	資料点数	展示期間	
プロローグ	「地質の日」関連展示 恐竜絶滅の痕跡—北海道浦幌町の白亜紀(K)/古第三紀(Pg)境界層の剥ぎ取り標本—	4月12日(金)～8月8日(木)	久保見幸	1	1	
	「化石の日」関連展示「植物化石と石炭」	8月9日(金)～12月18日(水)	成田敦史	17	1	
	北広島市で新たに発見されたクジラ化石	12月21日(土)～2025年4月10日(木)	圓谷昂史	2	1	
第1テーマ	ヨイチ場所請負人林家文書の世界①	4月12日(金)～6月13日(木)	東 俊佑	19	1	
	『蝦夷島奇観』写本から①：オットセイ猟	6月14日(金)～10月10日(木)	東 俊佑、 田中祐未	2	1	
	『蝦夷島奇観』写本から②：クマ祭り	10月11日(金)～2025年2月13日(木)		2	1	
	幕末における幕府高官の随行と接待	2月14日(金)～4月10日(木)	東 俊佑	19	1	
	ヨイチ場所請負人林家文書の世界②	4月12日(金)～6月13日(木)	三浦泰之	4	1	
	【特別展開連】近代の交通・通信を支えた駅通	6月14日(金)～10月10日(木)		9	1	
	新選組の元幹部隊士 永倉新八	10月11日(金)～12月18日(水)		5	1	
	第2テーマ	国境の地域「樺太」	12月21日(土)～2025年2月13日(木)	石子智康	7	1
		新しく仲間入りした歴史資料たち	2月14日(金)～4月10日(木)	三浦泰之	17	1
新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち		4月12日(金)～8月8日(木)	亀丸由紀子	5	1	
第3テーマ	【特別展開連】「開発」とアイヌの暮らし—消えたサノイベの集落—	8月9日(金)～12月18日(水)	大坂拓	0	1	
	「北海道立アイヌ民族文化研究センター」の21年～開設30周年から振り返る～	12月21日(土)～2025年4月10日(木)	小川正人、大谷洋一、 甲地利恵、奥田統己	3	1	
	文字に記されたアイヌ語—アイヌ自身によるアイヌ語の表記(1)—	4月12日(金)～8月8日(木)	遠藤志保、吉川佳見	5	1	
	【特別展開連】測量技師・川村カ子トと駅員・森竹竹市の活動	8月9日(金)～12月18日(水)	小川正人	1	1	
	北海道博物館が所蔵するトンコリ	12月21日(土)～2025年4月10日(木)	甲地利恵	1	1	
第4テーマ	岩手県から北海道へ渡った神楽	4月12日(金)～8月8日(木)	尾曲香織	14	1	
	【特別展開連】乗る・引く・運ぶ、馬の道具	8月9日(金)～12月18日(水)	山際秀紀	30	1	
	いろいろな鋸	12月21日(土)～2025年4月10日(木)	青柳かつら、 会田理人	10	1	
第5テーマ	たくぎん(北海道拓殖銀行)	4月12日(金)～8月8日(木)	石子智康	7	1	
	【特別展開連】バスに乗っていこう!	8月9日(金)～12月18日(水)	会田理人	7	1	
	建物を彩るガラス	12月21日(土)～2025年4月10日(木)	鈴木明世	6	1	
第6テーマ	<歩く宝石>北海道のおサムシ	4月12日(金)～8月8日(木)	堀 繁久	1	1	
	【特別展開連】植物名に見る「ホロムイ」の謎	8月9日(金)～12月18日(水)	水島未記	4	1	
	鳥の骨いろいろ	12月21日(土)～2025年4月10日(木)	表 溪太	2	1	
計				200	27	

④来館者参加型展示コーナー

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、ともに考えるきっかけにいただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れることのできるハンズオン展示や、第2テーマの「アイヌ文化Q&A」や総合展示2階出口付近の参加型展示など、展示に加わるなどの能動的な体験ができるスペースを設けている。

2024年度来館者参加型展示コーナー参加件数

件名	参加件数	期間
アイヌ文化Q&A(第2テーマ)	180	(通年)
乗り物の思い出 おしえてください(総合展示2階出口付近)	985	4月20日(土)～9月29日(金)
北海道のおすすめミュージアムを教えて(総合展示2階出口付近)	—	10月26日(土)～(継続)

⑤第4テーマ「いまとこれからの創る」

総合展示室2階・第4テーマでは、北海道に住む同時代を生きる人びとが各地で直面している課題に取り組み、北海道の現在と未来を創りつつある状況を伝えることを目的に、その活動を行っている人に主体的に展示に関わっていただくコーナーを設け、定

期的に更新をしている。

2024年度「いまとこれからの創る」(展示替:3件)

番号	テーマ	執筆者	展示期間	備考
1	函館の路面電車をささえる —市電の熟練工の技を守り、伝える	村上英彦氏 (NPO 法人函館市電の熟練工の技を伝える会 理事長)	2024年6月29日～2025年5月30日	新規
2	くらしの“今”を記録する—コロナ関係資料の収集—	持田 誠氏 (浦幌町立博物館 学芸員)	2024年12月21日～2025年9月30日	新規
3	記憶や風景を共有していく —一般社団法人まなざしのアーカイブ	小町谷健彦氏 (株式会社 fuchi 代表取締役)	2024年6月29日～2025年5月30日	新規

⑥北海道博物館スタッフ紹介

総合展示室2階交流ゾーンに、当館の学芸職員を紹介するコーナーを設け、定期的に入れ替わりで学芸職員の研究等を展示している。2024年度は、新規採用、退職にともない、学芸職員を紹介する個別ボードを更新した。

(2) 企画展示の開催

①特別展示室利用者数

2024年度特別展示室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計	達成率
利用者数	1,872	4,900	3,591	1,872	6,188	5,487	870	3,797	2,344	1,459	2,563	2,244	37,187	218,977	84.22%

※ 特別展示室利用者数の目標値(2020～24年度):260,000人、「累計」「達成率」は第2期中期目標・計画期(2020～2024年度)における総計。

②特別展

特別展は、総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化についてさらに内容を深めた展示、あるいは総合展示の内容を補う特定の分野や主題で企画するもので、ふだんの総合展示では見ることのできない貴重な資料を、他機関などから借用し展示を構成している。多くの国宝・重要文化財を展示するものから、子どもや親子連れをメインターゲットに据えた企画まで、趣向を変えながら、基本的に毎年1回開催し、特別展示室で実施する展示会としてはもっとも規模の大きなものと位置づけている。

2024年度の特別展 1件

第10回特別展 「みんなの鉄道 —がんばれ！地域の公共交通—」			
会 期 (開催日数)	2024年7月20日(土)～9月23日(月・祝) (休館日を除く57日間)		
主 催	北海道博物館		
共 催	一般財団法人北海道歴史文化財団		
協 力	北海道旅客鉄道株式会社、一般財団法人 JR 北海道文化財団、日本貨物鉄道株式会社北海道支社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、ジェイ・アール北海道バス株式会社、北海道鉄道活性化協議会、一般社団法人北海道バス協会、株式会社 AIRDO、北海道旅客船協会、NPO 法人北海道遺産協議会、公益社団法人北海道観光振興機構、札幌市交通局、株式会社じょうてつ、夕張鉄道株式会社、函館市企業局交通部、函館市電の熟練工の技を伝える会、北海道拓殖バス株式会社、北広島市エコミュージアムセンター、岩内町教育委員会、釧路市立博物館、浦幌町立博物館、小樽市総合博物館、有島記念館、別海町郷土資料館		
後 援	朝日新聞北海道支社、北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK 札幌放送局、HBC 北海道放送、STV 札幌テレビ放送、HTB 北海道テレビ、UHB 北海道文化放送、TVh テレビ北海道、STV ラジオ、AIR-G' エフエム北海道、FM NORTH WAVE、北海道教育委員会、札幌市教育委員会		
観 覧 者 数	13,547 人	展 示 構 成 チ ャーム	小川正人(チーフ)、会田理人、石子智康、圓谷昂史、尾曲香織、表 溪太、高橋佳久、三浦泰之
観 覧 料	一般1,000円、高校生・大学生350円 団体料金 一般850円、高校生・大学生250円 総合展示セット券 一般1,600円(団体1,400円)、高校生・大学生600円(団体400円)		
内 容	北海道の地域社会の形成と営みを支えてきた鉄道。多くの人のびとに親しまれ、熱心なファンも多い鉄道。これからの地域を支える公共交通の大切さが見直されている今、鉄道を中心に、ひろく公共交通を視野に入れ、その歩みを振り返った。		



第10回特別展 チラシ

第10回特別展 「みんなの鉄道 ―がんばれ！地域の公共交通―」	
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム 北海道の鉄道 その魅力を伝える ・特別展関連イベント 北海道「鉄道に取り組む学芸員」サミット ・特別展関連イベント 鉄道と行商を語る！列島「ガンガン」サミット ・特別展関連イベント フォーラム 北海道の「駅通所」を語る～その歴史と文化資産～ ・特別展関連イベント 日記や新聞に見る北海道と樺太の鉄道
印刷物	広報用ポスター、チラシ、展示図録、謎解きクエスト みんなの鉄道タイムトリップ用指令書

③企画テーマ展

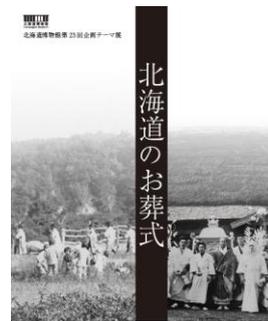
企画テーマ展は、当館所蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催している。共同研究プロジェクト等での研究成果や北海道の自然・歴史・文化に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示や、当館のコレクション紹介、新着資料紹介等、数多くの当館所蔵資料を紹介する展示を実施している。

2024年度の企画テーマ展 3件

第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡 ―スキャンアートと標本で見る木々のかたち―」			
会期 (開催日数)	2024年4月27日(土)～2024年6月23日(日) (休館日を除く51日間)		
主催	北海道博物館		
観覧者数	9,243人	展示構成 チーム	水島未記(チーフ)、成田敦史、田中祐未
展示内容	アーティスト(スキャナグラファー)・孫田敏氏が制作している、植物をスキャンした画像をレイアウトしてアート作品とした「スキャンアート」に、館所蔵の腊葉標本および化石標本を加え、野幌森林公園ほか北海道内で見られる樹木の「形」に焦点を当てた。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会「樹木の「美」をじっくり見てみよう」 ・ミュージアムカレッジ「樹木を知る」 		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、パンフレット		
第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」			
会期 (開催日数)	2024年10月26日(土)～2025年1月13日(月・祝) (休館日を除く64日間)		
主催	北海道博物館		
観覧者数	8,470人	展示構成 チーム	尾曲香織(チーフ)、大坂拓、亀丸由紀子
展示内容	近代以降のお葬式を、本州以南からの移住者とアイヌそれぞれがどのように行ってきたか、博物館に残された資料を中心に紹介した。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の日講演会 変わりゆく葬送儀礼と死生観 ・ミュージアムカレッジ お葬式に関する「モノ」から読み取るアイヌ民族の近代 ・ミュージアムカレッジ お葬式に関する「コト」からみる移住者にととの「葬式」 		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、パンフレット		
第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える ―北海道博物館資料+柘谷隆男氏コレクション―」			
会期 (開催日数)	2025年2月8日(土)～4月6日(日) (休館日を除く50日間)		
主催	北海道博物館		
観覧者数	8,334人	展示構成 チーム	甲地利恵(チーフ)、尾曲香織、表 溪太、亀丸由紀子、谷口生貴斗
展示内容	近代以降のお葬式を、本州以南からの移住者とアイヌそれぞれがどのように行ってきたか、博物館に残された資料を中心に紹介した。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもワークショップ「シカ笛をつくろう！」 ・はじめての「トンコリ」体験(計4回) ・ミュージアムトーク(計4回) 		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、パンフレット		



第22回企画テーマ展
チラシ



第23回企画テーマ展
チラシ



第24回企画テーマ展
チラシ

④巡回展(アイヌ文化巡回展)

2024年度は、第18回アイヌ文化巡回展を広尾町で開催した(広尾町教育委員会との共催)。

※ 詳細は「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照。

(3) 休憩ラウンジにおける展示

休憩ラウンジにおいて、北海道化石会の協力による「アンモナイト」の展示（道民参加型展示）、及び北海道総務部北方領土対策本部による北方領土に関する広報コーナーの展示（パネル展示）を実施した。

①道民参加型展示

団体名	北海道化石会
会期	2016年1月29日～2025年3月31日（継続中）
会場	休憩ラウンジ
展示資料	アンモナイト化石31点（北海道化石会所蔵） 2024年度：アンモナイト化石31点入替



道民参加型展示

②北海道総務部北方領土対策本部による広報コーナー

北方領土に関する広報コーナーの展示（パネル展示）を実施した。

(4) 探してみよう！地域のお宝-高齢者と協働する地域学習プログラムの開発-

モデル館である朝日郷土資料室（士別市）や智恵文公民館（名寄市）を事例の中心とし、高齢者と協働して実践した地域学習プログラムを紹介する目的で展示を実施した。

探してみよう！地域のお宝-高齢者と協働する地域学習プログラムの開発-	
会期 （開催日数）	2024年4月12日（金）～2024年8月8日（木）（休館日を除く98日間）
会場	北海道博物館 総合展示室2F 交流ゾーン
企画制作	青柳かつら
観覧料	無料
展示内容	モデル館である朝日郷土資料室（士別市）や智恵文公民館（名寄市）を事例の中心とし、高齢者参画型で開発した地域学習コンテンツを、映像、パネル、実物資料で紹介した。

3 調査研究

当館では、北海道の自然・歴史・文化を明らかにするための基礎研究として、①当館が収集し、保管し、展示する資料（開拓の村歴史的建造物を含む）に関する基礎的情報の調査と専門的な研究、②資料の保管・保存、展示及び教育普及等の業務をより効果的に進めるための博物館学的研究を行っている。また、日本列島の北辺にあって、北東アジアとの係わりが深い北海道の自然・歴史・文化の地域性や歴史的特徴を明らかにするための総合研究として、③専門研究の推進及び諸分野との共同研究を図りながら、道費による5つの研究プロジェクト及び文部科学省の科学研究費などの競争的外部資金を獲得した調査研究を実施している。そのほか、「樺太記憶継承事業」による調査研究（樺連資料を活用した調査研究）も進められている。その成果は館の各種刊行物（→「14 研究成果の発信」）、展示（→「2 展示」）、教育普及（→「5 教育普及」）などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっている。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画/重点④】「樺太記憶継承事業」（樺連資料を活用した調査研究）の実施推進 [寄附金を原資とする研究]
一般	【ア】 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：4 課題] 【ア】 アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：2 課題] 【イ】 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進 [道費による研究：5 課題] 【ア】 【ウ】 科学研究費による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：13 課題+α 見込み] 【ア】 【ウ】 科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：2 課題] 【エ】 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進（サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進） [道費による研究：2 課題] 【オ】 研究課題評価の実施 [道費による研究：13 課題] 【オ】 館内定例研究報告会の実施 [年間 12 回]

【重点計画】

○「樺太記憶継承事業」（樺連資料を活用した調査研究）の実施推進

樺太記憶継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用継続			継続
研究期間	2021 年度～2034 年度（14 年間）		
研究代表者	小川正人 (アイヌ民族文化研究センター)	メンバー	三浦泰之（学芸部長）、尾曲香織（生活文化研究 G）、鈴木あすみ（博物館研究 G）、石子智康（歴史研究 G）、高縁訓子（会計年度任用職員）
研究概要	旧樺太連盟から寄贈を受けた資料をもとに、同連盟からの寄附金による基金により、寄贈を受けた資料の整理と関連する調査研究及び展示等のこれらの資料・調査成果の利活用を通して〈樺太〉の記憶の継承に取り組むもの。「資料保管」「調査研究」「資料活用」の3つの柱で進める。		
2024 年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 研究メンバーが中心となって、昨年度に引き続き、当館で受け入れた樺太連盟から寄贈を受けた資料の整理を進め、特に今年度は同連盟から稚内市に寄贈された資料についても調査を行い、これらを包括的に対象とした資料目録（北海道博物館資料目録 4 全国樺太連盟資料目録 2）を刊行した。刊行に当たっては、稚内市教育委員会（齋藤譲一氏）及び館内各研究グループ等の協力を得た。 関係者の高齢化が進むなか、昨年度の目録（全国樺太連盟資料目録 1）の刊行や今年度における特別展での資料展示（後述）等ともあいまって、体験者・関係者から当館への問い合わせ等が増えてきた傾向を踏まえ、関係者に対する聞き取り調査に着手した。本年度はなお端緒的な取り組みではあったが、その成果の一部を北海道博物館研究紀要に投稿した。 また、関係者からの新たな資料寄贈の申し出も幾つかあり、順次受け入れるに至っている。 一方で、特に目録刊行において当初の計画を大きく上回る件数の資料を対象としたため、多くの人日を要し、道内外での関連資料調査については、部分的な着手にとどまり、十分に行うことができなかった。 		

【一般計画】

A 道費による5つの研究プロジェクト

道費による研究プロジェクトは、次の5つのカテゴリーに区分される。各カテゴリーのなかに数件の研究課題を設定し、数名の研究チームによる共同研究、または個別研究を実施している。

(1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト (5 課題)

道民と協働・連携し、北海道の自然・歴史・文化に関わる基礎的な調査研究を行うプロジェクトである。

野幌森林公園の生物インベントリー調査 (第三次)			新規
研究期間	2024年度～2028年度 (5年間)		
研究代表者	水島未記 (自然研究G)	メンバー	表 溪太・堀 繁久 (自然研究G)、鈴木あすみ (博物館研究G)
研究概要	野幌森林公園の生物相および生態系の現況を明らかにし、生物インベントリーの作成を進めることで、当該地域の環境変化や希少種の動向、外来種の動向をモニタリングし、保全のための基礎資料を蓄積する。過去の調査内容・成果を踏まえつつも、同じ目的・手法で調査を継続することで、長期的な変化の把握にも貢献する。		
2024年度活動概要	(1) 昆虫相調査：鞘翅目・双翅目・膜翅目・トビムシ類を中心とした調査を外部協力者とともに実施した。 (2) 植物相調査：種子植物の植物相調査を行った。春季～秋季にかけて遊歩道沿いを中心に園内を踏査し、植物相を記録した。植物標本のデジタル化を進めた。北大総合博物館で標本調査を行った。 (3) 菌類相調査：北海道キノコの会と連携・協働し菌類相の調査を行った。春季～秋季にかけておおむね1か月に1回、遊歩道沿いを中心に園内を踏査し、菌類相を記録した。主な種は採集・標本の製作を行った。標本367点 (2023年度採集172、2024年度採集195) を受入登録した。 (4) クマゲラ生息数調査：野幌森林公園を守る会と連携・協働し、同会主催・当館共催のイベント「野幌森林公園クマゲラ一斉調査2025」として、一般市民から参加者を募って市民参加型調査の形式で行った。		
北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査			終了
研究期間	2020年度～2024年度 (5年間)		
研究代表者	山際秀紀 (生活文化研究G)	メンバー	会田理人・尾曲香織・谷口生貴斗 (生活文化研究G)、青柳かつら・鈴木明世 (博物館研究G)
研究概要	戦中・戦後の生活の変遷について、地域と連携した総体的な情報集積を行うとともに、特に日常生活についてこれまで記録されてこなかった記憶の聞き書きを重点的に進めていく。また、それらを基に、当館総合展示のさらなる充実について検討を加えていく。		
2024年度活動概要	川田男爵関係調査、リンゴ農家・湿地等の農具等に関する聞き書き調査、昭和期の農林業・商工業・食・水害等をテーマに道北4市町と連携して高齢者参加型のサロン等を開催し高齢者の記憶を記録、木古内町・知内町における祭礼・信仰伝承の変遷に関する調査、北海道開拓の村旧岩間家農家住宅に関連して伊達市における岩間家の生活文化に関する調査などを行った。調査の成果は、企画展 (北海道のお葬式、総合展示クローズアップ展示ほか)、総合展示第3・4テーマ展示改訂、旧岩間家農家住宅展示改訂、普及行事に活用したほか、『北海道博物館研究紀要』第10号への投稿、学会発表などにより公開した。		
北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用			継続
研究期間	2023年度～2027年度 (5年間)		
研究代表者	水島未記 (自然研究G)	メンバー	表 溪太・圓谷昂史・久保見 幸・成田敦史・堀 繁久 (自然研究G)
研究概要	海岸を構成する地形・地質、海浜性植物・昆虫、鳥類や哺乳類を含めた生物など、多様な自然物を対象として基礎情報を集める。一般道民や他の研究機関・団体等の関係者との連携により、北海道、特に日本海側の海岸の自然環境に関する情報収集・標本採集を行い、基礎データを蓄積する。採集した標本の展示や普及イベント等での効果的な活用法も研究する。		
2024年度活動概要	10月に石狩市望来海岸において自然漂着物、人工漂着物を中心に、海岸植物、海浜性昆虫、地形、地質などについて調査事業を行った。本件は北海道ココ・コーラボトリング株式会社からの依頼による同社社員の研修および社会貢献活動も兼ねており、道民参加型の調査かつ道民への普及の役割を果たした。石狩市 (いしかり砂丘の風資料館・石狩海浜植物センター) とも連携・協力して実施した。		
北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究			継続
研究期間	2023年度～2027年度 (5年間)		
研究代表者	三浦泰之 (学芸部長)	メンバー	鈴木琢也・東 俊佑・田中祐未・石子智康・右代啓視 (歴史研究G)
研究概要	北海道博物館所蔵の歴史資料 (文書・記録・美術・考古資料) については、一部を除き、その所蔵情報が広く知られているとは言い難い。そこで、本研究では、それらの歴史資料について改めて調査研究を行い、その歴史的な価値を高めること、そして、デジタル化やデータベースの充実化などを通して、所蔵情報を広く発信し、利活用を促進することを目的とする。		
2024年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 当館所蔵資料の調査研究、新規資料の収集、他機関が所蔵する関連資料の調査を行った。 当館所蔵の映像・文書・絵画資料について、デジタル化、内容分析、文書資料の翻刻作業等を行ったほか、関連資料の調査として、函館市、札幌市、奥尻町、枝幸町、東京都などで文書・絵画等の資料調査や発掘調査を行った。また、新規資料の収集に関連して、その内容整理・調査を行った。 		

博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究			継続
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）		
研究代表者	櫻井万里子（博物館研究G）	メンバー	青柳かつら・鈴木あすみ・鈴木明世・渋谷美月・高橋佳久（博物館研究G）
研究概要	博物館には、調査研究や館業務を通じた学術的蓄積がありながら、十分な共有・活用が図られていないモノ・コト・ヒトの資源が数多く存在する。本課題は、博物館の調査研究及び館業務に資するため、社会的に広く活用される情報資源の体系的な整理と共有・公開活用のあり方と、分野横断的な学術研究及び学術に留まらない多様な分野での活用を促進する公開の手法を研究する。		
2024年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開拓の村建造物に関連する道内歴史的建造物情報の蓄積を進め、QRコードを用いた新たな展示解説手法を開発した。 ・ 収蔵庫内における清浄度の管理手法として、ATPふき取り検査を用いた方法の基礎的な原理の理解と手技・手順の整理、ニューハクシミに対する防除方法の評価・検討を実施した。 ・ 博物館資料の3Dモデル化について、博物館向け試作機を用いた撮影及び改善に向けた議論を開発側と実施。 ・ 昭和20年代末の古写真データを素材に、土別市等にて開催した高齢者参加型のサロンから、高齢者の記憶を抽出し、データベース化を目指したリスト製作を進めた。 ・ 博物館図書室のレファレンスに係る文献調査を進め、レファレンスの蓄積に向けた記録の方法を検討した。 		

（2）北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト（3課題）

道内の地域博物館等と連携し、北海道の自然・歴史・文化に関して、特定の事項を明らかにしたり、未解決の学問的課題を明らかにしたりなど、より深く探求するための総合的な調査研究を行うプロジェクトである。

石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ			終了
研究期間	2020年度～2024年度（5年間）		
研究代表者	圓谷昂史（自然研究G）	メンバー	久保見 幸・成田敦史（自然研究G）
研究概要	本研究では、野幌丘陵を含む石狩低地帯北部地域の新生代（約6,600万年前～現在）の地質や古生物を対象に、外部機関とも連携した調査を実施し、本地域の地質や産出する化石から古環境を解明するとともに、地学のさらなる振興を図ることを目的とする。具体的には、第1期で実施した北広島市及び月形町における野外調査を継続し、道内各地や道外との比較・検討も行う。また各地の博物館等と連携し、地学資料の収集と関連情報の集積を行うとともに、各地の地学的な研究課題を明らかにする。さらに、研究成果を活用した展示や教材の開発を行うことで、道民へのアウトリーチ活動も行う。		
2024年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野幌丘陵から産出した化石資料を主対象とした研究：外部研究者に当館が保管する化石資料の整理・同定に協力をいただき、北広島市における野外調査にも協力をいただいた。 ・ 北海道北部地域の地質・化石を対象とした研究：10月に名寄・土別・美深地域で野外調査を実施した。本調査では、新生代新第三紀（約1,300万年前（まか））の地層から産出する植物や貝類化石等を採集した。また、中生代後期白亜紀の地層から年代測定用の凝灰岩を採集した。 ・ 調査の成果は企画展、普及行事、『北海道博物館研究紀要』第10号への投稿、学会発表、他機関主催のワークショップなどにより公開・活用を図った。 		
北海道の言語・生活文化にかんする音声映像資料のデジタルアーカイブ構築にむけた基礎的研究			新規
研究期間	2024年度～2028年度（5年間）		
研究代表者	吉川佳見（アイヌ文化研究G）	メンバー	尾曲香織（生活文化研究G）、鈴木あすみ・櫻井万里子（博物館研究G）
研究概要	本研究では、北海道内の言語・生活文化に関する音声・映像資料の保存と多角的な利用の推進を目的とし、当該領域における北海道博物館所蔵資料および職員採録資料の整理と公開を目指す。対象とする資料は、①アイヌ民族文化研究センター所有資料のうち、アイヌがおもに道内の生活のようすについて語った音声資料と、②生活文化研究グループ所属職員が所有する、道内の生活文化についての聞き取りの音声・映像資料である。また、①②は相互に紐付けし、研究期間終了後にデジタルアーカイブ等の形式を以て公開することを視野に入れている。		
2024年度活動概要	<p>上記①について、該当する音声資料をリスト化した。リストに入れたものは、既に当館アイヌ語アーカイブで細目次を公開（音声はオンラインでは視聴不可）している計18点である。上記②について、職員（尾曲）採録の音声資料のうち約50点を概観し、簡易的なリストを作成した。</p> <p>調査のための出張としては、1月に吉川・尾曲・櫻井の3名で東京出張を行い、昭和館（千代田区）、東京文化財研究所（台東区）、しょうけい館（千代田区）、早稲田大学演劇博物館（新宿区）を訪問し、音声・映像資料の管理・活用・公開についての調査を行った。特に、昭和館ではオーラルヒストリーアーカイブの整理と公開について聞き取り調査と館内見学（図書室見学、館内デジタルアーカイブ試聴）を行い、東京文化財研究所では民俗学的調査における採録資料の取り扱いや研究倫理についての聞き取りを行い、本プロジェクトにおける今後の調査の指針の一助となる知見を得た。</p>		

特別展「新選組永倉新八とその時代」(仮)に向けた調査研究			新規
研究期間	2024年度(1年間)		
研究代表者	三浦泰之(学芸部長)	メンバー	石子智康(歴史研究G)
研究概要	<p>松前藩の中級家臣・長倉勘次の次男として松前藩江戸藩邸で生まれた永倉新八(1839~1915)は、幕末期の京都で新選組の幹部隊士として活動した。幕府側の一員として参戦した戊辰戦争に敗れた後は、松前藩医・杉村家の婿養子となり、杉村義衛と名前を改めた。維新後は、新選組幹部の数少ない生き残りの一人として、新選組の活動を後世に伝える役回りを務めながら、樺戸集治館で剣術師範を務めたり、東京で剣術道場を開くなどした後、晩年は小樽で余生を過ごしている。その永倉には、大正2年(1913)に札幌で撮影された1枚の集合写真がある(当館所蔵)。一緒に写る、元会津藩士・栗田鉄馬、元棚倉藩士で永倉と同じく樺戸集治館に勤めた牧田重勝もやはり、戊辰戦争で「敗れた」側の人物である。本研究を通じて、永倉を中心とする新選組の活動から幕末期という激動の時代を考えるとともに、1枚の集合写真を手がかりに、戊辰戦争で「敗れた」側の人物、元武士の視点から、北海道近代史を再考する機会とする。</p>		
2024年度活動概要	京都府京都市、東京都日野市、山形県米沢市、福島県会津若松市、高知県高知市、函館市、余市町、小樽市などの関連資料所蔵機関において、資料調査及び写真撮影を実施し、特別展に向けた打合せを行った。		

(3) 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト(2課題)

「北東アジアのなかの北海道」という視野で、道との友好協定地域との研究交流事業を含んだ国際共同研究を総合的に行うプロジェクトである。ここ最近では、ロシア・サハリン州のサハリン州郷土博物館及びカナダ・アルバータ州のロイヤル・アルバータ博物館の2館と友好協定を結んで実施している。

北海道とサハリン(仮)			終了
研究期間	2020年度~2024年度(5年間)		
研究代表者	小川正人(研究部長)	メンバー	三浦泰之・東 俊佑(歴史研究G) 圓谷昂史・表 溪太・堀 繁久(自然研究G) 山際秀紀・会田理人・尾曲香織(生活文化研究G) 鈴木あすみ・鈴木明世(博物館研究G) 大谷洋一・遠藤志保・大坂 拓・亀丸由紀子(アイヌ文化研究G) 【2024年度時点】
研究概要	北海道と隣接するロシア極東地域とは、自然、文化、歴史のそれぞれにおいて深いつながりがあり、互い様々な特徴を持ちつつも、多くの共通点も有している。北海道とサハリンに焦点を合わせ、サハリン州郷土博物館との交流のなかで、自然、歴史及び文化についての多面的な研究を進める。並行する「北方文化共同研究事業」とも連携を図り、個々の調査研究の成果の蓄積とともに、博物館交流・地域間交流を通して北海道の総合博物館としての基本的機能や諸事業の充実を目指す。		
2024年度活動概要	サハリン州郷土博物館との研究交流の再開が困難な情勢のため実施を見送った。		
寒冷地の自然と適応			新規
研究期間	2024年度~2028年度(5年間)		
研究代表者	表 溪太(自然研究G)	メンバー	圓谷昂史・久保見 幸・成田敦史(自然研究G)、 尾曲香織(生活文化研究G)、 鈴木明世・高橋佳久・渋谷美月(博物館研究G)、 甲地利恵・亀丸由紀子・吉川佳見(アイヌ文化研究G)
研究概要	互いに姉妹提携を結び、また気候としては亜寒帯に属するなど類似した地理的環境にある北海道とアルバータ州の自然・歴史・文化および博物館について、ロイヤル・アルバータ博物館との交流のなかで学際的な調査研究をおこない、ともに亜寒帯地域研究のセンター的な博物館づくりを目指すとともに、両地域の相互理解・相互友好をいっそう推進する。		
2024年度活動概要	ロイヤル・アルバータ博物館と友好館提携の再開に向けて協議し、前回と同様の内容の覚書で5年間の再締結を行うことで合意した。また、45周年記念行事の事前訪問として、10月14日から17日にかけて国際課主導の訪問団(副知事、道議会議員等)に当館職員が随行することとなり、久保見学芸員を派遣した。そのうち1日は、ロイヤル・アルバータ博物館で展示や収蔵庫等の案内をしていただき、研究職員と交流することができた。		

(4) 北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究

(5) アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト

上記(4)、(5)の研究プロジェクトは、アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトである。

※ 詳細は、「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照。

B 競争的外部資金による調査研究

(1) 科学研究費補助金による調査研究（当館職員が研究代表者であるもの）2024年度10課題（うち期間延長5課題）

アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査				終了
研究期間	2018年度～2022年度（5年間）※2024年度まで延長（継続）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	甲地利恵（アイヌ文化研究グループ）	
リモートセンシングおよびGISによるニヴフの植物資源採取における空間利用の解析				終了
研究期間	2019年度～2022年度（4年間）※2024年度まで延長（継続）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	水島未記（自然研究グループ）	
北方交易の展開にともなう擦文文化集団の拡散についての考古学的研究				終了
研究期間	2020年度～2023年度（4年間）※2024年度まで延長（継続）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	鈴木琢也（歴史研究グループ）	
貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発				終了
研究期間	2019年度～2022年度（4年間）※2024年度まで延長（継続）			
研究種目	若手研究	研究代表者	圓谷昂史（自然研究グループ）	
北海道の小型哺乳類標本コレクションの可視化および収集傾向の時空間解析				終了
研究期間	2020年度～2023年度（4年間）※2024年度まで延長（継続）			
研究種目	若手研究	研究代表者	鈴木あすみ（博物館研究グループ）	
戦後北海道における女性の海産物行商と地域社会－「ガンガン部隊」の民俗的研究－				継続
研究期間	2022年度～2026年度（5年間）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	尾曲香織（生活文化研究グループ）	
博物館収蔵アイヌ民具資料の考古学的手法による分析：移入品としての漆器を対象として				継続
研究期間	2022年度～2025年度（4年間）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	大坂 拓（アイヌ文化研究グループ）	
『蝦夷島奇観』成立史と写本構造の研究－「アイヌ文化成立」言説の探究－				継続
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	東 俊佑（歴史研究グループ）	
考古学的手法を導入した移入品アイヌ民族資料の基礎的研究－耳飾りと首飾りを題材に				継続
研究期間	2023年度～2026年度（4年間）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	亀丸由紀子（アイヌ文化研究グループ）	
北海道への養蚕技術の流入と養蚕建築の変容過程				継続
研究期間	2023年度～2026年度（4年間）			
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	鈴木明世（博物館研究グループ）	

(2) 科学研究費補助金による調査研究（当館職員が研究分担者であるもの）2024年度4課題

個体群の遺伝的多様性推移におよぼす復元手法の影響				継続
研究期間	2022年度～2026年度（5年間）	研究代表者	我妻尚広（酪農学園大学）	
研究種目	基盤研究(C)	研究分担者	水島未記（自然研究グループ）	
北からの視点・考古学分析・広域比較に基づく日本古墳築造の総合的研究				継続
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）	研究代表者	菊池芳朗（福島大学）	
研究種目	基盤研究(C)	研究分担者	鈴木琢也（歴史研究グループ）	
近現代日本の地域における野球の普及・発展史に関する学際的研究				新規
研究期間	2024年度～2028年度（4年間）	研究代表者	中村哲也（高知大学）	
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	三浦泰之（学芸部長）	

在ドイツのアイヌ・コレクションの調査研究				新規
研究期間	2024年度～2027年度(3年間)	研究代表者	鈴木建治(北海道大学)	
研究種目	基盤研究(C)	研究分担者	大坂 拓(アイヌ文化研究グループ)	

(3) その他の競争的外部資金による研究(当館職員が研究代表者であるもの) 2024年度該当なし

C 定例研究報告会

学芸職員の研究レベルの向上に資することを目的に、道費による研究や個人研究の成果、外部資金による研究の成果などについて発表し、知見を共有する場とする報告会を、月1回程度実施している。

2024年度定例研究報告会開催実績 10回

回数	開催日	研究グループ等	発表者	テーマ	参加者数
第1回	5月29日			(研究プロジェクトの年間計画)	26名
第2回	6月26日	生活文化研究G	谷口生貴斗	イエを継承した個人による伝承の実践 —福岡県糸島市におけるイエの歴史の内面化—	23名
第3回	8月7日	自然研究G	表 溪太	北海道とサハリンのナキウサギ/鳥類標本におけるDNA半減期について	28名
第4回	8月28日	アイヌ文化研究G	大坂 拓	アイヌの土地問題をめぐる最近の調査研究成果	39名
第5回	9月25日	自然研究G	久保見幸	北海道の白亜紀層の地質調査と年代測定	18名
第6回	10月30日	アイヌ文化研究G	吉川佳見	道費研究プロジェクトの展望 ～北海道奥尻島方言の間投助詞についての考察をとおして～	28名
第7回	11月27日	歴史研究G	東 俊佑	『箱松蝦殻秘考』と長島忠親 —『蝦夷島奇観』をめぐる諸問題—	22名
第8回	12月18日	生活文化研究G	会田理人	大正期『小樽新聞』に見る小樽・余市地方のニシン漁	23名
第9回	1月29日	生活文化研究G	山際秀紀	北海道のリンゴ栽培と関連資料について	23名
第10回	2月26日	自然研究G	堀 繁久	オサムシから見た野幌の森	15名
計					245名

4 北海道開拓の村の整備

1983（昭和58）年4月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の建設は、北海道百年記念事業の一環として計画された。建設事業は、北海道開拓記念館と、1971（昭和46）年4月に設置された北海道野幌森林公園管理事務所（野幌森林公園事務所、野幌森林公園分室を経て2010年度をもって廃止）とで推進され、特に開拓の村の歴史的建造物の移築復原・再現、および内部展示（屋内展示）の制作は開拓記念館が中心となって進められた。このことから、北海道博物館の開館後も、建造物や内部展示の維持・管理は当館の重要な業務となっている。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画/重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討
一般	<ul style="list-style-type: none"> 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）[年間2件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の老朽度調査[年間2件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物のメンテナンス [随時] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計52棟+インフラ） 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計52棟） 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善 [6カ国語、110コンテンツ] 【ウ】北海道開拓の村歴史的建造物の魅力発信コンテンツの制作・発信

【重点計画】

○ 北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討

「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」の認定に伴い、北海道開拓の村の魅力発信につなげるため、旧岩間家農家住宅の屋内展示物や展示パネルの更新・設置を行った。

【一般計画】

(1) 大規模改修工事

建造物全体の劣化・破損部分を修復するための大規模な改修工事は、2019年度より北海道建設部が主体となって事業を実施している。2024年度から2025年度にかけて、旧北海中学校ほか2022年1月から3月に大雪被害を受けた建造物等について、大規模修繕工事が実施されている。当館は、2023年度に実施した設計の段階から、北海道開拓の村の管理者として、また歴史的建造物に対する専門知識を有する立場として、事業実施における指導・助言を行っている。

2024年度大規模改修関連業務 1件（道建設部による発注）

業務名	工期
北海道開拓の村旧北海中学校ほか改修工事	2024年12月11日～2026年1月23日

(2) 補修工事、小破修繕など

大規模改修のほかにも、建造物の日常的な管理・点検によって発見された部分的な劣化・損傷の補修を行っている。また、当館による補修工事以外にも、指定管理者である北海道歴史文化財団発注による小破修繕などが適宜実施されている。

2024年度補修工事、小破修繕 1件（北海道博物館発注分）

工事名	工期
北海道開拓の村旧青山家漁家住宅屋根修繕工事	2024年6月19日～7月19日

このほか、指定管理者発注による日常的な修繕や、建設部発注の電気設備や井水埋設配管等の修繕・更新を行った。

(3) 老朽度調査

開拓の村建造物の大規模改修工事計画の策定などに向けて、毎年2棟、建物全体の劣化度や破損部分の調査及び簡易的な耐震診断を実施している。

2024 年度老朽度調査 1 件

業務名
開拓の村建造物旧大石三省堂支店及び旧山本理髪店老朽度調査業務

(4) 内部展示等改修

開拓の村歴史的建造物の内部展示や、村内の看板・サイン等は、北海道博物館が管理しており、必要に応じて改修や修繕等を行っている。

指定管理者から「展示資料破損・亡失報告書」が5件(5点)提出され、これを受けて実物資料3点を展示から撤去し、博物館へ引き上げた。また、将来の内部展示等の改修に向け、改修が必要な建造物の調査(資料・パネル等の状態確認)を行った。

2024 年度展示造作業務 1 件

業務名
北海道開拓の村旧岩間家農家住宅調度品等複製制作業務
北海道開拓の村旧岩間家農家住宅グラフィックパネル制作業務

(5) その他

2023 年度のデジタル田園都市国家構想交付金の採択事業である「北海道開拓の村の3次元化・オープンデータ化プロジェクト」により作成した開拓の村建造物の3次元点群データを公開可能な状態とした。

また、「文化観光推進拠点計画」により全棟の英語解説を新規作成した。

5 教育普及事業

当館の教育普及事業は、道民の学習支援事業として、利用者の視点に立つて展開することを心がけている。生涯学習施設かつ社会教育施設としての博物館の役割を果たすべく、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、調査研究の成果を活用しながら北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができるよう配慮した個々の事業を展開している。

総合展示室における展示解説や各種イベントをはじめ、はっけん広場における学習活動・イベント、学校団体などへの「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」、館内外での講座・講演会・ワークショップ・自然観察会などの各種普及行事など、展示および資料の公開を除く広い範囲の活動を行っている。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討
一般	(1) 魅力あるイベントの充実
	【ア】 【イ】 【ウ】 一般普及行事の実施推進 [年間50回程度]
	【ア】 【イ】 総合展示室等で行うイベントの実施推進 [随時]
	【ア】 「ちやれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充 [常時]
	【ア】 【イ】 【ウ】 次年度普及行事実施計画の作成
	【エ】 「情報デスク」を活用した交流・誘導 [常時]
	【エ】 解説員による総合展示の展示解説 [常時]
	【エ】 解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討・試行
	(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実
	【ア】 学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施 [10メニュー]
	【ア】 はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 [6メニュー]
	【イ】 「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充
【イ】 展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充	
【イ】 総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討	
【イ】 総合展示室における子ども向け展示解説の検討	
【イ】 ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新	
【イ】 視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充	
【イ】 オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充	
(3) はっけん広場の運営	
【ア】 解説員によるはっけん広場の展示解説 [常時]	
【ア】 【イ】 「はっけんイベント」の実施 [年間7メニュー]	
【イ】 「はっけんキット」の運用 [41メニュー]	
【ウ】 学校教育用補助教材の貸出と開発の推進	

【重点計画】

○「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討

2024年度は、文化庁による文化観光拠点施設機能強化事業に基づく拠点計画のなかで、多言語による解説サービスの拡充等についても検討した。

また、文化庁による文化観光拠点施設機能強化事業に基づく拠点計画の中で、北海道博物館の概要や総合展示の各テーマおよび音声ガイドの充実のためにインバウンド向け解説原稿の作成を実施した。加えて、コロナ禍で休止していた「はっけん広場」におけるはっけんイベントを再開した。

【一般計画】

(1) 魅力あるイベントの充実

①総合展示室における利用者への対応（案内・誘導・解説・レファレンス等）

総合展示や展示資料の詳しい内容を知りたいという来館者の質問に速やかに回答するための情報窓口として、総合展示室内の1階と2階の交流ゾーンに情報デスクを設置している。

2024年度総合展示室における利用者対応件数 5,200件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階	案内・誘導	63	133	203	163	237	342	195	74	67	71	76	107	1,731
	展示解説	16	10	18	9	15	41	18	7	1	6	5	8	154
	ご意見等	1	1	1	2	3	4	3	0	0	0	1	1	17
	計	80	144	222	174	255	387	216	81	68	77	82	116	1,902
2階	案内・誘導	114	234	247	352	463	626	224	129	82	106	154	183	2,914
	展示解説	22	35	31	46	27	44	29	37	10	7	15	27	330
	ご意見等	2	6	8	6	8	9	2	4	4	0	2	3	54
	計	138	275	286	404	498	679	255	170	96	113	171	213	3,298
3階	案内・誘導	177	367	450	515	700	968	419	203	149	177	230	290	4,645
	展示解説	38	45	49	55	42	85	47	44	11	13	20	35	484
	ご意見等	3	7	9	8	11	13	5	4	4	0	3	4	71
	計	218	419	508	578	753	1,066	471	251	164	190	253	329	5,200

②祝休日における職員の利用者対応

祝休日は利用者のニーズに応える開館日とし、学芸職員・解説員を総合展示室等に配置し、利用者サービスを行った。

③総合展示室等におけるイベント

総合展示室では、主に祝日のイベントとして、当館職員と交流ができる「学芸員ハローデスク」の設置や、「ミュージアムトーク」（学芸職員が展示室内で30分程度解説を行うイベント）、「ハンズオン」（普段は触ることのできない資料に特別に触ることができるコーナー）、「ちゃれんがラリー」（展示室内に関する簡単な問題に答えながら、スタンプを集めるクイズラリー）など、来館者が気軽に参加できるイベントを随時行っている。

2024年度は、企画テーマ展に関連したイベントとして、特別展示室内でのミュージアムトークを再開した。

2024年度ミュージアムトーク内訳 9件 403名

開催日	テーマ	開催場所	担当	参加者数
5月3日（金・祝）	「樹木万華鏡」みどころ解説	特別展示室	水島未記	38名
5月4日（土・祝）	「樹木万華鏡」みどころ解説	特別展示室	成田敦史	40名
5月5日（日・祝）	「樹木万華鏡」みどころ解説	特別展示室	田中祐未	34名
11月23日（土・祝）	「北海道のお葬式」みどころ解説	特別展示室	尾曲香織・大坂 拓	58名
1月13日（月・祝）	「北海道のお葬式」みどころ解説	特別展示室	亀丸由紀子	42名
2月11日（火・祝）	「楽器見る知る考える」みどころ解説	特別展示室	甲地利恵	46名
2月23日（日・祝）	「楽器見る知る考える」みどころ解説	特別展示室	甲地利恵	49名
2月24日（月・祝）	「楽器見る知る考える」みどころ解説	特別展示室	甲地利恵	41名
3月20日（木・祝）	「楽器見る知る考える」みどころ解説	特別展示室	甲地利恵	55名

④普及行事と特別イベント

普及行事は、当館所蔵の資料、学芸員の調査研究、総合展示などの内容をより深めていただくことを目的とし、受講者の参加体験に重きをおく「ちゃれんがワークショップ」「子どもワークショップ」「自然観察会」や、学芸職員による講話を中心とする「ミュージアムカレッジ」「アイヌ語講座」「古文書講座」などを開催している。また、特別イベントとしては、「北海道ジオパークまつり」などの大型体験イベントや、文化の日を開催するミュージアムコンサート、祝日の天気の良い日に開催する「屋上スカイビュー特別開放」などを実施している。

2024年度普及行事・特別イベント内訳 66件 述べ3,417名

開催日	種別	行事名	担当・講師	参加者数
4月6日	自然観察会	「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」	水島末記・表 溪太・堀 繁久、 小川由真・畔柳 遥・阿保秀都 (自然ふれあい交流館)	35
4月20日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第1回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
4月21日	特別イベント	「博物館のウラ側を見てみよう～地学編～」	青柳かつら・櫻井万里子・高橋佳 久・鈴木明世・圓谷昂史	18
5月11日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第2回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	16
5月12日	アイヌ語講座	「アイヌ語講座～きほんのキ～」(第1回) 全4回	吉川佳見	11
5月18日	自然観察会	「樹木の美しさをじっくり見てみよう」	水島末記・成田敦史・表 溪太・堀 繁久、畔 柳遥・長代拓真・神 真琴 (自然ふれあい交流館)	35
6月1日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第3回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	16
6月2日	アイヌ語講座	「アイヌ語講座～きほんのキ～」(第2回) 全4回	吉川佳見	9
6月15日	ちやれんがワークショップ	「のこぎりでネームプレートをつくろう」	青柳かつら・山際秀紀・鈴木明世	11
6月16日	特別イベント	「石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう!」	圓谷昂史・久保見 幸・成田敦史、 北海道化石会会員	20
6月22日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第4回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
6月30日	アイヌ語講座	「アイヌ語講座～きほんのキ～」(第3回) 全4回	吉川佳見	9
7月7日	特別イベント	「レクチャー&コンサート『じっくり聴こ う!アイヌ音楽』」	甲地利恵、 スルク&トノト(コンサート)	64
7月13日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第5回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
7月14日	アイヌ語講座	「アイヌ語講座～きほんのキ～」(第4回) 全4回	吉川佳見	10
7月27日	特別イベント	「フォーラム 北海道の鉄道 その魅力を伝 える」	矢野直美氏(フォトライター)、 依田英将氏(北海道テレビ放送ア ナウンサー)	113
8月3日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第6回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
8月10日	特別イベント	「鉄道模型 大運行会」	札幌急行鉄道模型クラブ	312
8月11日	特別イベント	「鉄道模型 大運行会」	札幌急行鉄道模型クラブ	377
8月12日	特別イベント	「鉄道模型 大運行会」	札幌急行鉄道模型クラブ	576
8月17日	子どもワークショップ	「トノサマバッタをさがそう」	水島末記・表 溪太・堀 繁久、 阿保秀都・神 真琴(自然ふれあい 交流館)	34
8月24日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第7回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
9月8日	特別イベント	「フォーラム 北海道の「駅通所」を語る ～その歴史と文化資産～」	小川正人、 戸田博史氏(別海町教育委員会)、 畠 誠氏(北広島市エコミュージア ムセンター)	76
9月14日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第8回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
9月14日	特別イベント	ミニミニ新幹線に乗ろう		106
9月15日	ミュージアムカレッジ	「日記や新聞に見る北海道と樺太の鉄道」	三浦泰之・石子智康	80
9月15日	特別イベント	ミニミニ新幹線に乗ろう		126
9月16日	特別イベント	ミニミニ新幹線に乗ろう		381
10月5日	ミュージアムカレッジ	「オンラインで楽しむアイヌ語<初級編>」	吉川佳見	9
10月5日	古文書講座	ちやれんが古文書クラブ(第9回)全12回	三浦泰之・東 俊佑	12
10月6日	特別イベント	「“海岸漂着物”への取り組みー2023年度調 査報告ー」	圓谷昂史、 志賀健司氏(いしかり砂丘の風資 料館学芸員)、 高橋杏奈氏(北海道コカ・コーラボ トリング株式会社広報・サステイ ナビリティ推進部)、 浅井康孝氏(北海道環境生活部環 境保全局循環型社会推進課一般廃 棄物係長)	22

開催日	種別	行事名	担当・講師	参加者数
10月12日	子どもワークショップ	「親子で探検！森のコレクションをつくろう」	鈴木あすみ・表 溪太・久保見幸・櫻井万里子	9
10月13日	特別イベント	「北方世界の交易と貿易陶磁器」	鈴木琢也、日本貿易陶磁器研究会	18
10月14日	特別イベント	「北方世界の交易と貿易陶磁器」	鈴木琢也、日本貿易陶磁器研究会	10
10月19日	ミュージアムカレッジ	「国境の島：エトロフ島とクナシリ島―橿丸・改俗・勤番―」	東 俊佑	27
10月19日	ミュージアムカレッジ	「オンラインで楽しむアイヌ語く中級編」	吉川佳見	5
10月26日	古文書講座	ちゃれんが古文書クラブ(第10回) 全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
11月2日	講演会	「樺太アイヌによる言葉のとりもどし」	北原モコットウナン氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)	27
11月3日	文化の日講演会	「変わりゆく葬送儀礼と死生観」	山田慎也氏(国立歴史民俗博物館副館長・教授)	75
11月4日	特別イベント	「アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート」	川村久恵氏・加納レミ子氏・八谷麻衣氏(マレウレウ)、菅原謙氏(音響監督)	91
11月16日	古文書講座	ちゃれんが古文書クラブ(第11回) 全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
11月17日	ミュージアムカレッジ	「お葬式に関する「モノ」から読み取るアイヌ民族の近代」	大坂 拓	33
12月7日	古文書講座	ちゃれんが古文書クラブ(第12回) 全12回	三浦泰之・東 俊佑	14
12月8日	ミュージアムカレッジ	「お葬式に関する「コト」からみる移住者の「葬式」」	尾曲香織	47
12月14日	ちゃれんがワークショップ	「植物化石から地質時代の環境を調べる」	成田敦史・圓谷昂史・久保見 幸	11
12月21日	ミュージアムカレッジ	「イオマンテカイヨマンテカ―アイヌ語の『わたり音』を再考する」	奥田統己	12
1月18日	特別イベント	「博物館のウラ側を見てみよう～生物編～」	青柳かつら・櫻井万里子・鈴木明世・鈴木あすみ・高橋佳久・水島未記	20
1月19日	子どもワークショップ	「ヒツジの毛にふれてみよう① 初めての草木染め」	会田理人	25
1月19日	ちゃれんがワークショップ	「稲わらで『錦敷き』を作ってみよう！」	尾曲香織・表 溪太・谷口生貴斗	21
1月25日	古文書講座	はじめての古文書講座(第1回) 全8回	東 俊佑	24
2月1日	古文書講座	はじめての古文書講座(第2回) 全8回	東 俊佑	23
2月8日	古文書講座	はじめての古文書講座(第3回) 全8回	東 俊佑	25
2月9日	子どもワークショップ	ヒツジの毛にふれてみよう① 初めての草木染め	会田理人	10
2月9日	特別イベント	はじめての「トンコリ」体験(第1回) 全4回	甲地利恵	4
2月15日	古文書講座	はじめての古文書講座(第4回) 全8回	東 俊佑	23
2月15日	特別イベント	はじめての「トンコリ」体験(第2回) 全4回	甲地利恵	5
2月16日	子どもワークショップ	「シカ笛をつくろう！」	表 溪太・甲地利恵	15
2月22日	古文書講座	はじめての古文書講座(第5回) 全8回	三浦泰之	25
3月1日	自然観察会	「動物の足あと調査」	水島未記・表 溪太・堀 繁久、神 真琴・畔柳 遥・長代拓真(自然ふれあい交流館)、木下豪太氏(富山大学助教)	37
3月1日	古文書講座	はじめての古文書講座(第6回) 全8回	三浦泰之	24
3月8日	古文書講座	はじめての古文書講座(第7回) 全8回	三浦泰之	25
3月9日	特別イベント	クマガラー斉調査	水島未記	100
3月15日	古文書講座	はじめての古文書講座(第8回) 全8回	三浦泰之	25
3月16日	特別イベント	はじめての「トンコリ」体験(第3回) 全4回	甲地利恵	6
3月23日	子どもワークショップ	ヒツジの毛にふれてみよう② フェルトの雪だるまストラップ	会田理人	6
3月29日	特別イベント	はじめての「トンコリ」体験(第4回) 全4回	甲地利恵	5

2024年度イベント参加者数（総合展示室等におけるイベント+普及行事+特別イベント） 3,417名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成率
総合展示室等イベント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12.22%
普及行事	49	62	59	24	62	94	76	149	84	70	121	117	967	4,536	
特別イベント	18	0	20	177	1,265	689	50	91	0	20	9	111	2,450	5,242	
合計	67	62	79	201	1,327	783	126	240	84	90	130	228	3,417	9,778	

※ イベント参加者数（2020～2024年度）の目標値：80,000人。「累計」「達成率」は第2期中期目標・計画期（2020～2024年度）における総計。

(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

① 団体利用件数・利用者数

2024年度団体利用件数・利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
予約団体	学校団体	人数	0	17	31	22	4	85	52	3	3	2	3	3	225
		件数	0	1,335	1,748	782	91	5,480	3,483	138	310	103	280	411	14,161
	一般団体	人数	8	15	12	18	16	13	28	13	8	5	3	2	141
		件数	222	345	321	376	422	303	473	190	131	80	35	22	2,920
	福祉団体	人数	18	9	3	12	19	13	5	26	10	10	3	3	131
		件数	292	90	31	165	319	148	56	282	85	105	15	29	1,617
	その他団体 (利用料金免除)	人数	3	2	4	5	3	2	4	6	3	2	1	0	35
		件数	18	7	9	50	11	13	24	45	12	15	2	0	206
	合計	人数	29	43	50	57	42	113	89	48	24	19	10	8	532
		件数	532	1,777	2,109	1,373	843	5,944	4,036	655	538	303	332	462	18,904

※ グループプレクチャー実施回数は団体ごとに1メニュー1回として集計。

2024年度学校団体利用件数・利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
小学校	団体件数	0	1	17	9	2	79	32	3	2	0	0	0	145	
	人数	引率	0	17	81	33	6	381	156	10	9	0	0	0	693
		被引率	0	56	739	286	71	5,322	2,261	138	156	0	0	0	9,029
		合計	0	73	820	319	77	5,703	2,417	148	165	0	0	0	9,722
中学校	団体件数	0	15	10	10	1	1	5	0	0	0	0	0	42	
	人数	引率	0	108	63	41	2	3	16	0	0	0	0	0	233
		被引率	0	1,159	849	388	2	5	212	0	0	0	0	0	2,615
		合計	0	1,267	912	429	4	8	228	0	0	0	0	0	2,848
高等学校	団体件数	0	1	0	3	0	4	12	0	1	2	1	3	27	
	人数	引率	0	2	0	9	0	19	43	0	8	12	17	25	135
		被引率	0	10	0	58	0	118	807	0	146	91	151	386	1,767
		合計	0	12	0	67	0	137	850	0	154	103	168	411	1,902
幼稚園 保育園	団体件数	0	0	2	0	1	1	2	0	0	0	2	0	8	
	人数	引率	0	0	10	0	5	2	14	0	0	0	14	0	45
		被引率	0	0	68	0	11	11	72	0	0	0	98	0	260
		合計	0	0	78	0	16	13	86	0	0	0	112	0	305
特別支援 学校・学級	団体件数	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	
	人数	引率	0	0	12	0	0	0	13	0	0	0	0	0	25
		被引率	0	0	7	0	0	0	45	0	0	0	0	0	52
		合計	0	0	19	0	0	0	58	0	0	0	0	0	77
合計	団体件数	0	17	31	22	4	85	52	3	3	2	3	3	225	
	人数	引率	0	127	166	83	13	405	242	10	17	12	31	25	1,131
		被引率	0	1,225	1,663	732	84	5,456	3,397	138	302	91	249	386	13,723
		合計	0	1,352	1,829	815	97	5,861	3,639	148	319	103	280	411	14,854

②団体向け教育プログラム

団体向けの教育プログラムのうち、体験型プログラムである「はっけんプログラム」は前年度に引き続き中止した。講話型プログラムである「グループレクチャー」は所要時間約25分・定員120名で前年度と同様に実施した。

2024年度グループレクチャー実施件数・利用者数 97件 5,507名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	2	8	7	10	6	25	31	4	1	1	0	2	97
人数	148	744	499	297	337	1,359	1,735	108	46	4	0	230	5,507
メニュー別実施件数	①総合展示ダイジェスト	2	4	2	6	3	5	19	2	0	0	0	43
	②北海道の生き物	0	0	2	0	1	1	1	0	0	0	0	5
	③北海道の化石	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	④アイヌ文化の世界	0	0	1	0	1	7	8	1	0	0	0	20
	⑤北海道の歴史	0	1	1	1	0	5	1	0	1	0	0	10
	⑥北海道のくらし	0	2	1	1	0	6	1	0	0	0	0	11
	⑦北海道の産業	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3
	⑧博物館・学芸員の仕事	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	⑨北海道博物館のあらし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑩その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2

※ グループレクチャー実施回数は団体ごとに1メニュー1回として集計。

③補助教材の開発、検証・運用見直し、貸出

当館では、学校団体をはじめとする各種団体や、障害のある方、外国語を母語とする方など、博物館を訪れるすべての人びとが当館の資料や展示をより深く理解することができるよう、社会的ニーズに合わせた教材の開発に取り組んでいる。

また、総合展示室内の解説文の一部（全部で67コンテンツ）を各国語（日本語、英語、中国語（中国）、中国語（台湾）、韓国語、ロシア語）で読み上げる機器を総合案内で貸し出している（1回300円：2024年4月現在）。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため貸出を休止していたが、2022年度2月から再開した。

2024年度音声ガイド貸出件数 397件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
音声ガイド	40	36	38	51	40	17	60	18	13	25	38	21	397

(3) はっけん広場の運営

はっけん広場は、体験型教材「はっけんキット」を自由に手に取って遊んだり体験したりできる部屋で、期間ごとにテーマを変えて、簡単なものづくりの体験ができる「はっけんイベント」を開催している。

2024年度はっけん広場利用者数 8,603名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
はっけん広場	625	706	671	701	1,310	796	792	581	602	485	509	825	8,603	15,013	15.01%
はっけんキット	499	546	516	521	1,046	600	603	451	473	396	406	660	6,717	10,855	
はっけんイベント	84	127	102	74	151	131	90	95	99	71	138	196	1,358	2,652	

※ はっけん広場利用者数（5年間）の目標値：100,000人

2024年度はっけんイベント開催内訳 7件 参加者数1,312名

開催日	行事名	開催日数	参加者数
4月～5月の土曜日・日曜日・祝日	野鳥モビールを作ろう	19日間	211名
6月～7月の土曜日・日曜日・祝日	紙でサンキャッチャーをつくろう	19日間	176名
8月～9月の土曜日・日曜日・祝日	「あじろパステース」を作って、旅に出よう！	21日間	282名
10月～11月の土曜日・日曜日・祝日	羊の毛でおバケちゃん指人形を作ろう！	20日間	185名
12月の土曜日・日曜日・祝日	稲わらで、お正月飾りを作ろう♪	7日間	88名
1月の土曜日・日曜日・祝日	今年の干支 ぐるぐる縄へびをつくろう	9日間	71名
2月～3月の土曜日・日曜日・祝日	羊毛ボールを作ろう	21日間	297名

(4) その他 -おうちミュージアム

2020(令和2)年の新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、子どもたちが家庭で楽しみながら学ぶための素材として、インターネットでさまざまな学習コンテンツをダウンロードできるウェブサイト「おうちミュージアム」を公開した。また、道内外の博物館等とロゴを共有し、「おうちミュージアム」の活動に参加する博物館等の情報をウェブサイトを集約している。

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

当館では、学校教育、社会教育との連携事業を重要な事業と位置づけている。そのため、博物館を学校教育や生涯学習などの場においてより効果的に活用していただくため、地域の博物館や学校などのニーズ把握に努めながら、事業を進めている。あわせて、学校団体（学校教職員）向けの教材の開発、学校団体の受入体制の整備・強化、学校教職員への研修の機会提供、個々の教育活動を担う学芸職員・解説員の専門的知識及び技能の向上などにより、博物館全体のミュージアムエデュケーター機能の強化に努めている。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる、新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討
一般	<p>【ア】文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣の調整【都度実施】</p> <p>【ア】博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討</p> <p>【ア】解説員研修の実施【都度実施】</p> <p>【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向けの研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員のための博物館の日」への参加【年間1回、8月、対象：学校教員等】 ・「博物館教育プログラム研修会」の実施【年間1回、1月、対象：学校教員等】 <p>【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施【年間30件程度】</p> <p>【イ】学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の編集・刊行【年1回】</p> <p>【イ】学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充</p>

【重点計画】

○ 新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討

新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための学校利用ガイドを更新、公開した。

【一般計画】

(1) 職員のミュージアムエデュケーター養成関連研修会派遣

学芸職員の教育普及に関する理解と資質の向上を目的に、文化庁や北海道博物館協会等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会へ職員を派遣している。また、展示室で利用者と接する職員の専門知識向上を目的として、企画展示などに関する館職員向けの研修会等を定期的に開催している。

職員の外部研修への参加人数 10名

※ 詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。

(2) 職員研修の実施

2024年度職員研修 実施回数10回、実施延べ人数120名

研修会名	実際回数	開催日	参加者数（延べ人数）
企画テーマ展「北海道樹木万華鏡」研修	2回	4月28日、29日	30名
特別展「みんなの鉄道」研修	3回	7月19日、20日、23日	30名
企画テーマ展「北海道のお葬式」研修	2回	10月29日、30日	30名
企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」研修	3回	2月9日、12日、13日	30名

(3) 学校団体の受入体制

小学校、中学校、高等学校などの学校団体が、現地学習や社会科見学、修学旅行などで当館を利用する際に必要な手順や情報をまとめた『学校利用ガイド』を作成している。

学校教職員が見学前に実施する展示室等の「下見」の対応のほか、旅行会社のクルーズコンサルタントや、通訳案内士など、団体利用を仲介する人びとへの対応も、随時行っている。

(4) 学校教職員向けの博物館研修会

博物館を利用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員を対象とした研修会を開催している。

全国各地の博物館で学校教職員を対象に開催されている「教員のための博物館の日」の札幌会場として、2024年度は北海道開拓の村および当館において開催した。

2024年度博物館研修会 1回、参加者数 55名

研修会 1 教員のための博物館の日 in 札幌					
日 時	2024年7月31日(水) 10:00~16:00	場 所	北海道博物館・北海道開拓の村	参加者数	55名
対 応 者	表 溪太・鈴木あすみ、細川健裕・扇谷真知子（一般財団法人北海道歴史文化財団）				
研 修 内 容	(1) 博物館の教育プログラム (2) 開拓の村ガイドツアー (3) 文化財の保存と活用				
開 催 形 式	主催 北海道博物館 共催 一般財団法人北海道歴史文化財団（北海道開拓の村）、国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会 後援 文部科学省				



チラシ

(5) 学校団体向け教材開発と教材貸出

学校団体などでの見学学習の際に、総合展示の学習を効果的に進めるためのワークシート「ちゃれんがワーク」を数種類開発している。また、事前学習やオリジナルワークシートなどの教材作成で利用可能な展示資料などの画像の提供も行っており、ともにウェブサイト上にて配信している。

学校教育用補助教材（体験用教材）の貸し出しについては、ウェブサイトに要領を掲載し、受付を行った。

2024年度補助教材貸出件数 1件

7 施設及び周辺環境の整備

道民とともに歩み、愛される博物館として豊かな時間と空間を提供し続けるために、関係機関と連携を図りながら周辺環境の整備や利用者の安全確保に努めるとともに、記念ホールなどの館内施設の活用を図っている。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画／重点①】【(3)】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる具体的取組の検討
一般	<p>(1) 館内施設の整備と活用</p> <p>【ア】 特別展の開催に合わせたグッズ販売など博物館の魅力アップの取組に向けた検討</p> <p>【ア】 老朽化した施設・設備の補修、および快適かつ安全な施設利用に向けた検討・取組</p> <p>【ア】 年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の整備に向けた検討・取組</p> <p>【イ】 屋上スカイビューの特別開放を実施 [年間10回]</p> <p>【イ】 記念ホールの開放 [随時]</p> <p>(2) 周辺環境の整備</p> <p>【ア】 JR北海道、JR北海道バス、指定管理者等と連携し、アクセス向上に向けた検討・取組</p> <p>【イ】 サインの統一化に向けた検討・取組</p> <p>【ウ】 野外展示の具体化に向けた検討・取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修 <p>(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関との連絡会議・協議会への運営・参加

【重点計画】

○「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる具体的取組

昨年度から継続して「野幌森林公園エリア活性化事業」の一環として、収蔵資料のデジタルアーカイブ化を進め、博物館の魅力向上に取り組んだ。

「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」
道立自然公園野幌森林公園内にある北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔等の今後のあり方について、北海道環境生活部が2018（平成30）年12月に策定。施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し、国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間として再生をめざすとする。

※「構想」の詳細は「16 4つのビジョン（重点目標）」を参照。

【一般計画】

(1) 館内施設の整備と活用

当館は1971（昭和46）年に竣工して以来数度にわたり施設改修や設備の補修を実施しており、その後も利用者の安全確保と利便性向上を目的に、館内設備の補修や周辺環境の整備・充実に取り組んでいる。

また、祝休日における屋上スカイビューの特別開放や、特別展開会式などの記念式典や各種イベントに際した記念ホール・講堂・グランドホールなどの館内施設の活用等、指定管理者などと連携しながら、開発に取り組んでいる。

2024年度は、総合展示の魅力の磨き上げに向けた展示改訂やインバウンド向け英語解説文を作成するなど館内の魅力向上に取り組んだ。

2024年度館内施設の活用 3件

施設	実施日または期間	内容	主催・企画者
記念ホール	2024年7月19日	特別展「みんなの鉄道—がんばれ！地域の公共交通—」開会式	北海道博物館
記念ホール	2024年10月16日	北海道開拓の村ボランティア北海道知事感謝状贈呈式	北海道（文化振興課）
記念ホール	2025年3月6日	AED日常点検講習	北海道博物館

2024年度屋上スカイビュー特別開放利用者数 10日、延べ2,540名

開催日	利用者数	開放状況
4月29日 昭和の日	161名	開放
5月3日 憲法記念日	108名	開放(午後、荒天のため閉鎖)
5月4日 みどりの日	355名	開放
5月5日 こどもの日	255名	開放
7月15日 海の日	246名	開放
8月12日 山の日振替休日	183名	開放
9月16日 敬老の日	258名	開放
9月22日 秋分の日	406名	開放
9月23日 秋分の日振替休日	243名	開放
10月14日 スポーツの日	325名	開放

2024年度オリジナルグッズ開発件数 0件(10品販売中)

区分	グッズ名
総合展示関連(9品) (2015年度より販売中)	付箋、定規、コットンバッグ(小)、メモ帳、鉛筆2本セット、木札ストラップ、消しゴム、珪藻コースター、B5ノート
総合展示関連(1品) (2023年度より販売中)	コットンバッグ(大)

※2024年度のオリジナルグッズ開発件数は0件であるが、上記10品は、令和7年11月5日現在も北海道博物館内のミュージアムショップ(指定管理者運営)で販売中。



オリジナルグッズ販売コーナー

(2) 周辺環境の整備

北海道博物館は、道立自然公園野幌森林公園の中に位置し、周辺施設として北海道開拓の村、自然ふれあい交流館があるため、公園内施設との連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努めながら、公園の環境整備や利用者の利便性と満足度の向上に積極的に取り組んでいる。具体的には、利用者のアクセス環境の改善、公園内サインの統一化、野外展示の実現などをめざしており、関係機関との連携を図りながら、「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の実現に向けて取り組みを進めている。

2024年度は、百年記念広場階段手摺の改修や遊歩道の支障木の除去、車道舗装修繕、大地の手の防水処理など周辺環境の整備に取り組んだ。

2024年度設備及び周辺環境の整備 3件

実施日または期間	内容
2024年10月31日～11月27日	野幌森林公園車道舗装修繕工事
2024年10月31日～2025年1月31日	野幌森林公園百年記念広場手摺改修工事
2024年11月19日～12月6日	野幌森林公園支障木処理業務

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

当館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館及び道立自然公園野幌森林公園の一体的かつ効果的な管理・運営に努めていくため、関係機関との一層の連携を進めている。

2024年度は、以下のとおり、連絡会議・協議会に出席し、施設管理上の問題点の把握や対応方針の協議などを行った。

(1) 北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議

北海道立総合博物館の管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上を図ることを目的に、月1回のペースで定期的開催。
構成：北海道博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団(指定管理者)

(2) 野幌森林公園林野火災予防対策会議

野幌森林公園における林野火災の予防及び消火に万全を期すため、関係機関との連絡調整をはじめ、公園区域内のパトロールや林野火災予防のための普及啓発活動を実施することを目的に設置。

会議に参加している機関(2024年4月時点)

江別市消防本部、厚別消防署、北広島市消防署、野幌森林愛護組合、一般財団法人北海道歴史文化財団、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、石狩森林管理署、空知総合振興局(森林室)、石狩振興局林務課、札幌市、江別市、北広島市、北海道博物館(事務局)など

2024 年度関係機関との連絡会議・協議会の実施参加 13回

連絡会議・協議会名	実施回数	開催日・備考
北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議	12回	4月12日、5月8日、6月4日、7月2日、8月1日、9月3日、10月1日、11月1日、12月3日、1月10日、2月4日、3月4日
野幌森林公園園林野火災害予防対策会議	1回	4月23日（書面開催）

8 広報

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などを知っていただくため、さまざまな広報活動を行っている。そのような広報活動には、当館を利用するすべての人が自らの興味や関心によって楽しみながら学べるための支援や、道民や一般企業などによる各種事業への参画や協働を促進し、地域に支えられる博物館づくりの裾野を広げていくという側面がある。

当館では、その役割や事業（おもに展示会や普及行事・イベント）などを知っていただくため、北海道民や社会に対し、自らが積極的・戦略的に働きかける活動を広報（利用促進、狭義の広報）と呼び、資料情報や調査研究の成果など、博物館の基盤に係る情報をアーカイブスとして整備し、利用者の学習支援に応えるような受動的な広報活動を情報発信（情報サービス）と呼んでいる。

※ 情報発信は「12 情報発信」を参照。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画／重点①】「まっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組
一般	<p>(1) 広報活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ア】 報道機関等への対応（新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか） 【ア】 報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施 【ア】 各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供（協力、寄稿、出演等）の推進 【ア】 招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進 【ア】 ICTを活用した広報（ウェブサイト、Twitter等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信）の実施 【ア】 広報誌『森のちゃれんがニュース』の編集・発行・配布（年間4回（季刊）刊行） 【ア】 『行事あんない』の編集・発行・配布（年間2回（前期・後期）刊行） 【ア】 特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回） 【ア】 企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間3回） 【ア】 特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回程度） 【ア】 各種印刷・刊行物の発送・配布（年間7回程度） 【ア】 修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組 【ア】 海外に向けた情報発信の強化に向けた検討 【イ】 愛称やロゴマークの積極的活用 【イ】 愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討 <p>(2) 他機関との連携による広報活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道生涯学習協会と連携した一般普及行事の「道民カレッジ連携講座」への登録申請（年間2回） ・ 他機関との連携による広報活動の実施（年間5件程度）

【重点計画】

○ 各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組

特に、札幌市及びその近郊からの身近な利用者層の誘客促進に向けた取組として、行事あんない、展示会のポスターやチラシ等の広報物を公共施設や道の駅、学校等に積極的に配布すると共に、北海道庁が有する広報媒体等を使用して実施した。

【一般計画】

(1) 広報活動の強化

各新聞社や放送局、地域の情報誌などに対し、事業の内容についての積極的な情報提供を行った。また、当館からマスメディア側へ働きかけていく広報として、企画展の開催などに合わせた報道機関向け展示説明会を企画し、実施している。

① 報道機関等への対応

2024年度報道機関等への対応（掲載・報道実績） 154件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新聞	2	7	2	5	2	2	1	5	0	1	5	3	35
雑誌	1	0	2	3	2	0	2	1	2	1	2	2	18
単行本	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
テレビ	0	0	0	2	2	0	1	0	1	0	0	1	7
ラジオ	0	0	0	2	2	1	0	1	1	1	2	0	10
その他	5	7	4	43	9	0	3	5	0	2	3	2	83
合計	8	14	8	55	18	3	7	12	4	5	12	8	154

2024年度報道機関向け説明会 5件

展示説明（概要）	日時	報道機関からの参加者
第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡 ―スキャンアートと標本で見る木々のかたち―」 報道機関向け展示説明会	2024年4月26日 ①10:00～ ②13:30～	5名
2023年度笹川科学研究奨励賞の受賞に関する報告会	2024年6月26日 11:00～12:00	7名
第10回特別展「みんなの鉄道 ―がんばれ！地域の公共交通―」報道機関向け展示説明会	2024年7月19日 13:30～15:00	5名
第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」報道機関向け展示説明会	2024年10月25日 ①10:00～ ②13:30～	5名
第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える ―北海道博物館収蔵資料+榎谷隆男氏コレクション―」報道機関向け展示説明会	2025年2月7日 ①10:00～ ②13:30～	3名

2024年度記念セレモニー等 1件

展示説明（概要）	日時	報道機関からの参加者
第10回特別展「みんなの鉄道 ―がんばれ！地域の公共交通―」 入場1万人達成セレモニー	2024年9月11日 11:00～	2名

2024年度職員の報道機関等への学術的な情報・知見の提供 7件

対応者	タイトル/内容	出展/番組名	掲載日等	社名等	種別
久保見 幸	浦幌町から採集されたK/Pg境界の標本を公開	北海道新聞	2024年5月2日	北海道新聞社	新聞
田中祐未	吉田初三郎が描いた北海道「北海道鳥瞰図」	北海道新聞	2024年5月19日	北海道新聞社	新聞
高橋佳久	文化財害虫防除に関する研究で研究奨励賞受賞	北海道新聞	2024年7月9日	北海道新聞社	新聞
亀丸由紀子	アイヌ民族の装身具について	毎日新聞	2024年7月23日	毎日新聞北海道支社	新聞
高橋佳久	文化財害虫防除に関する研究で研究奨励賞受賞	毎日新聞	2024年7月28日	毎日新聞北海道支社	新聞
圓谷昂史	第2回望来浜海岸漂着物調査	今日ドッキリ！	2024年10月10日	HBC	テレビ
高橋佳久	文化財害虫防除に関する研究で研究奨励賞受賞	まんまる新聞	2024年11月8日	くらしの新聞社	新聞

※ 報道機関等への学術的な情報・知見の提供のうち、職員個人が依頼を受けて対応したものは、「外部刊行物等への執筆協力」として整理した。
詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。

②招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進

当館や当館行事のアナウンス、チラシ等の参加者への配布などにより、職員一人一人が広報活動に務めた。

③広報用印刷物の作成

当館のリーフレットや企画展・行事のポスター・チラシなどの印刷物を作成し、道内外の博物館、公共施設や観光案内所を中心に配布し、掲示や配置を依頼している。このほか、博物館活動全般を定期的に発信している広報誌『森のちゃれんがニュース』（年間4回刊行）や、展示会や普及行事・イベント等のスケジュールを紹介する「行事あんない」（年間2回刊行）を作成し、道内外の博物館・公共施設等に配布をしているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしている。

2024年度はそれぞれの企画展について、ポスター・チラシを作成した。第10回特別展では、子ども用チラシも作成した。『行事あんない』は、例年どおりに年2回発行し、広報誌『森のちゃれんがニュース』は、例年どおり年4回発行した。

2024年度広報用印刷物 作成11件

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
第10回特別展「みんなの鉄道 ―がんばれ！地域の公共交通―」ポスター	2024年6月	B2判	3,000部
第10回特別展「みんなの鉄道 ―がんばれ！地域の公共交通―」チラシ	2024年6月	A4判	20,000部
第10回特別展「みんなの鉄道 ―がんばれ！地域の公共交通―」子ども用チラシ	2024年7月	A4判 1/3サイズ	25,000部
第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」ポスター	2024年9月	A2判	150部
第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」チラシ	2024年9月	A4判	3,000部
第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える ―北海道博物館収蔵資料+榎谷隆男氏コレクション―」ポスター	2024年12月	A2判	150部

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える —北海道博物館収蔵資料＋榎谷隆男氏コレクション—」チラシ	2024年12月	A4判	3,000部
行事あんない (2024年10月～2025年3月)	2024年8月	A4判、4頁	20,000部
行事あんない (2025年4月～9月)	2025年2月	A4判、4頁	20,000部
第4回蔵出し展「アイヌの衣服」ポスター	2025年3月	A2判	150部
第4回蔵出し展「アイヌの衣服」チラシ	2025年3月	A4判	3,000部

2024年度森のちやれんがニュース 4回発行

第36号 2024夏 2024年6月27日



第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡—スキャンアートと標本で見る木々のかたち—」開催	吉川佳見
収蔵資料紹介 収蔵資料の活用から新種の植物化石を見いだす！—化石に見る収蔵資料の大切さ—	成田敦史
総合展示室資料紹介・第3テーマ 大漁（大量）のニシンを肥料に加工する道具	会田理人
研究活動紹介 様々なモノを運ぶガンガン部隊	尾曲香織
解説案内スタッフレポート 手から手へ—博物館で技術を伝える—	浅井雅世
トピックス 博物館の建物の改修工事を実施しました	鈴木明世
アイヌ民族文化研究センターだより 当館のアイヌ語講座のご紹介	吉川佳見
活躍ダイアリー／人事異動／来館者数	—

第37号 2024秋 2024年9月26日



第10回特別展「みんなの鉄道—がんばれ！地域の公共交通—」開催 (2024年7月20日～9月23日)	圓谷昂史
博物館活動紹介 樺太警察部の辞令	石子智康
展示紹介・第4テーマ 夢の大衆車「トヨタ・パブリカ」	会田理人
研究活動紹介 高齢者福祉施設レク担当者の博物館への意識とは	青柳かつら
解説案内スタッフレポート 展示室巡回中！博物館と人、心温まる出逢いへ	堀 いくみ
道民参加型展示「北海道化石会のアンモナイト」開催	圓谷昂史・ 成田敦史・ 久保見 幸
アイヌ民族文化研究センターだより 第18回「アイヌ文化巡回展」を広尾町で開催しました	小川正人
活躍ダイアリー／来館者数	—

第38号 2024冬 2025年1月10日



第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」開催 (2024年10月26日～2025年1月13日)	吉川佳見
博物館活動紹介 北海道開拓の村 歴史的建造物を守るための基本方針	鈴木明世
総合展示室資料紹介・第5テーマ 展示室で活躍する“役者”たち	鈴木あすみ
研究活動紹介 アイヌの耳飾り・首飾り、そして衣服	亀丸由紀子
解説案内スタッフレポート 稲わらのかおり	越田雅子
トピックス めざせ学芸員！今年も博物館実習を実施しました	鈴木明世
アイヌ民族文化研究センターだより 北海道立アイヌ民族文化研究センターの20年(上)	小川正人
活動ダイアリー／来館者数	—



第 24 回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料 + 榎谷隆男氏コレクション—」	谷口生貴斗
開催 (2025 年 2 月 8 日~4 月 6 日)	
収蔵資料紹介 ある石の話 —郷里と自身とをつなぐもの—	谷口生貴斗
総合展示紹介・第 1 テーマ 縄文文化の土偶などの 3D モデル展示	鈴木琢也・鈴木あすみ
研究活動紹介 北海道を旅した芸術家たち	田中祐未
解説案内スタッフレポート はっけん広場羊毛毡	奈良美咲
総合展示トピック 文化観光事業による総合展示室の展示改修	小野寺 努・水島未記・圓谷昂史
アイヌ民族文化研究センターだより 北海道立アイヌ民族文化研究センターの 20 年(下)	小川正人
活動ダイアリー/来館者数	—

④広報用印刷物・刊行物の配布による広報

特別展示図録、研究紀要、資料目録、要覧など、当館の資料・調査研究・展示・教育活動に係る各種刊行物を道内外の博物館、図書館などの公共施設、研究機関に送付し、博物館活動の情報配信に努めている。

⑤ICT を活用した広報（ウェブサイト、X（旧 Twitter）等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信）の実施

当館の事業や活動などさまざまな情報をリアルタイムで発信することを目的に、インターネットを活用した広報活動を行っている。

2024 年度 ICT を活用した広報実績 634,286 件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
ウェブサイト	アクセス件数	23,728	28,716	25,377	32,901	36,131	31,254	24,208	19,078	15,597	18,143	17,593	21,255	293,981	1,757,898
	投稿件数	9	6	5	15	18	17	5	4	7	5	9	5	105	746
X (旧 Twitter)	インプレッション	16,337	9,531	10,141	113,455	56,348	38,085	46,779	19,195	8,359	8,536	10,023	3,411	340,200	3,279,806
	フォロワー数	5,135	5,149	5,189	5,244	5,266	5,291	5,338	5,357	5,358	5,362	5,372	5,380		

※ ウェブサイトのアクセス数の目標値（2020～2024 年度）：1,300,000 件。累計数：1,747,898 件（目標達成度：135%）

※ 「累計」「達成率」は第 2 期中期目標・計画期（2020～2024 年度）における総計。

※ インプレッション：利用者のタイムラインまたは検索結果にツイートが表示された回数

動画共有サービス「YouTube」による広報

当館の活動に関するさまざまな情報をわかりやすく発信するため、2021（令和 3）年 3 月 23 日、動画共有サービス「YouTube」上に公式チャンネル「北海道博物館チャンネル」を開設した。2024 年度は、第 24 回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える —北海道博物館収蔵資料+榎谷隆男氏コレクション—」の解説動画 30 件を公式チャンネルで公開した。

⑥海外に向けた情報発信の強化に向けた検討

外国人観光客が多数訪れる札幌駅の観光案内所等で、当館の外国語版リーフレット等の配布などにより、情報発信に努めた。

⑦愛称やロゴの積極的活用

当館の印刷物・刊行物に愛称、ロゴを積極的に使用するなど、愛称・ロゴの普及を行った。

⑧アクセス情報の充実

当館へのアクセス情報の充実とさらなる集客のため、最寄り駅である地下鉄新さっぽろ駅、JR 新札幌駅、JR 森林公園駅から公共交通機関を活用した道順案内マップを作成し、ウェブサイトに掲載した。

(2) 他機関との連携による広報活動の強化

○イベント等を活用した広報

各種団体が主催する事業への出展・参画や、当館が周辺施設や関係機関と構築したネットワーク事業のなかで実施するイベントへの出展・参画により、当館の活動や事業のPR活動を行っている。

2024年度外部イベントへの出展・参画 1件

・サイエンスパーク

「サイエンスパーク」は、子どもたちが科学技術を身近に体験・学習する機会を提供し、豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道と独立行政法人北海道総合研究機構の共催（2023年度より国立大学法人北海道大学も共同主催）で開催され、民間企業等も参加しているイベントである。当館は、このイベントに毎年出展し、体験活動を通じた北海道の自然・歴史・文化に関する知識の普及や事業のPR活動を行っている。

2024年度	
概要	体験教室（北海道大学 高等教育推進機構）令和6年(2024年)8月9日(金) 【1日間】 に出展
URL	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssg/sp/2024top.html
当館の出展	「北広島市の砂の中から化石や宝石を探して標本を作ろう!」というタイトルで、北広島市で採集した砂の中から本物の貝化石や鉱物を探して、化石や地質についても学びながら、オリジナルの標本を作成するという内容で出展した。

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

利用者と共に歩み、親しまれ、よりよい博物館となるためには、自らの行いを自己点検し、評価を行い、問題点を認識し、改めるべき点の改善を図っていくことが必要である。当館では、前年度の事業実績を年度当初にまとめ、その実績報告書としての『要覧』を編集・刊行するとともに、自己点検評価及び博物館協議会による外部評価（協議会評価）を行っている。また、アンケート調査や来館者調査などのオーディエンス・リサーチにより、利用者からの意見聴取にも積極的に取り組んでいる。

第5期北海道立総合博物館協議会委員 7名

任期 2023年12月6日～2025年12月5日

氏名	所属
岡田真弓	北海道大学アイヌ共生推進本部 本部長補佐・准教授
小川哲也（副会長）	公益社団法人北海道アイヌ協会 常務理事、 本別アイヌ協会 会長
佐々木史郎（会長）	国立アイヌ民族博物館 館長
小林快次	北海道大学総合博物館 副館長（教授）
住吉徳文	和弘食品株式会社 管理本部 本部長
村木美幸	公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 本部長
矢野ひろ	株式会社ノーザンクロス シニアマネージャー

第5期アイヌ民族文化研究センター専門部会委員 6名

任期 2024年3月4日～2025年12月5日

氏名	所属
小川哲也 （部会長・兼任）	公益社団法人北海道アイヌ協会 常務理事、 本別アイヌ協会 会長
白石秀才	札幌学院大学経済経営学部 教授
関根真紀	平取アイヌ文化保存会 理事
藤岡千代美	札幌ウポポ保存会 事務局長
村木美幸（兼任）	公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 本部長
結城幸司	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画/重点②】博物館に対する認知と愛着の醸成に関わるオーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施検討
一般	<p>(1) 評価制度の活用</p> <p>【ア】 前年度の事業実績の取りまとめの推進 【ア】 「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営 [事前評価1回、事後評価1回] 【ア】 『要覧』の編集・刊行 [年1回] 【イ】 「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度計画の作成 【ウ】 「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間2回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営 【ウ】 「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間1回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営</p> <p>(2) 利用者ニーズの把握</p> <p>【イ】 特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析 【イ】 利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施） 【イ】 解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】 図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】 アイヌ文化Q & A（総合展示室第2テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】 指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】 口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握（開館日毎日）</p>

【重点計画】

出口調査・追跡調査によるオーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施

利用者からの意見・要望を幅広く集め、今後の展示の企画や教育普及事業、広報活動といった博物館活動や運営の改善に活かすため、さまざまな方法で利用者ニーズの把握を行っている。

出口調査・追跡調査による利用者調査（オーディエンス・リサーチ）、アンケート調査・各種日誌からの利用者ニーズや意見の把握、利用者満足度調査を含め、総合的・俯瞰的な見地から利用者ニーズの把握方法を見直し、北海道博物館の新たな「オーディエンス・リサーチ」を構築・確立する必要があることから、2022（令和4）年度計画の重点項目に「オーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施検討」を盛り込んだ。

【一般計画】

(1) 評価制度の活用

①前年度事業実績取りまとめの推進と『要覧』の編集・刊行

前年度事業の実績を取りまとめ、『北海道博物館要覧』第8号(要覧2022・2023)として刊行した。

2024年度の要覧作成実績

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
『北海道博物館要覧』第8号(要覧2022・2023)	2024年9月20日	A4判・173頁	400部

②博物館評価(自己点検評価)の実施

第2期中期目標・計画期間の最終年度は、第2期5カ年の総合評価を実施した。

第2期中期目標・計画 総合評価(自己点検評価)総括表

事業項目 (Plan)	主な活動実績 (Do)	評価結果 (Check)	今後の課題・対応方向 (Action)
1 資料の収集・保存 (博物館基盤G)	○ 収集活動の継続実施 ○ IPMによる保存環境維持 + 構連資料の受入・保管	B +	・ 資料に関するデジタル・アーカイブ化の推進 ・ 未整理・未登録資料の段階的な解消 ・ 公開承認施設としての条件維持のための保存環境の維持
2 展示 (博物館基盤G)	○ 利用者目標 総合94%、特別85% △ インバウンド目標 44% + おうちミュージアム開設	C +	・ よりわかりやすく、魅力的・訴求力ある企画 ・ 多様な来館者への対応(多言語解説、ユニバーサル表示等)
3 調査研究 (研究戦略G)	○ 研究成果の展示への反映 ○ 調査研究の継続実施 + 構連資料の研究	B +	・ 研究成果のデジタル技術による還元などを検討・強化 ・ 資料の「意義」を意識した調査研究を推進
4 北海道開拓の村の 整備 (企画G)	○ 開拓の村の計画的整備 ○ 外部資金を活用した展示改修 + 文化観光認定計画事業による整備	B +	・ 建造物にまつわる歴史・文化を伝える展示改訂・充実 ・ 建造物のリアリティと建物内の演示(家具・調度品等)両立
5 教育普及事業 (道民サービスG)	△ イベント参加者目標 12% △ はっけん広場利用者目標 15% + おうちミュージアム開設	C +	・ 講座等のイベント参加者、はっけん広場利用者数の拡大 ・ 場所や時間を問わず参加可能なデジタル技術活用方法の検討
6 ミュージアムエデュ ケーター機能の強化 (道民サービスG)	○ 来館者対応の職員研修の実施 ○ 博物館の利用方法の周知	B	・ 職員の資質とスキル向上に資する組織環境の整備・充実 ・ 補助教材貸出等についての学校や教育委員会等への一層の周知と連携
7 施設及び 周辺環境の整備 (総括G)	○ 記念ホール等の活用 ○ 博物館の利用方法の周知 + 文化観光認定計画事業による整備	B +	・ バリアフリー化など多様な利用者の安全・安心を確保 ・ 道民・観光客等、多様な来館者への対応を一層充実 ・ 3施設一体となったフィールドミュージアムの認知向上
8 広報 (道民サービスG)	◎ ウェブサイトアクセス目標 135% △ 外部イベント参加停滞 + 企画展広報のデジタル活用	B +	・ 多様なターゲットに対して、効果的なアプローチを行うため、SNS等による情報・コンテンツの発信強化
9 評価制度の活用と 利用者ニーズの把握 (総括G、企画G)	○ 利用者満足度の実施、高水準 △ 一部評価未実施	C	・ 博物館の運営の改善を図るため、組織として課題等の共通認識化と、各事業の水準向上に資する評価制度のあり方を検討
10 道民参加の推進 (企画G)	○ サークル、ボランティア活動実施 ○ 道民参加型展示の実施 + ちやれんが古文書クラブ開設	B +	・ 地域との信頼・関わりを深めていくため、参加対象にとって望ましい相互関係のあり方を検討、取組を充実 ・ 道民からの意見やニーズを把握する必要
11 博物館 ネットワーク (企画G)	○ 日博協、道博協での連携 ○ 近隣文教施設の活動継続 + ウボボイの運営協力	B +	・ 地域との信頼・関わりを深めていくため、参加対象にとって望ましい相互関係のあり方を検討、取組を充実 ・ 防災に関する博物館等との連携・協力

事業項目 (Plan)	主な活動実績 (Do)	評価結果 (Check)	今後の課題・対応方向 (Action)
12 情報発信 (博物館基盤G)	◎ ウェブサイトアクセス目標 135% △ レファレンス目標 40% + 権連資料の保管・研究・活用	B +	・ 資料、調査研究、博物館活動に関するデジタル・アーカイブ化推進 ・ レファレンス事例集積による学習支援・レファレンスの質向上
13 人材育成機能の強化 と社会貢献 (企画G)	○ 博物館実習等の継続実施 ○ 職員外部研修・派遣の実施 + 博物館実習評価基準の明確化	B +	・ 職員の資質とスキル向上に資する、より多くの参加機会の創出
14 研究成果の発信 (研究戦略G)	○ 学術刊行の継続実施 ○ 学会発表の継続実施 + 権連資料の保管・研究・活用	B +	・ 研究成果のデジタル技術による還元などを検討・強化 ・ 資料の「意義」を意識した調査研究を推進
15 アイヌ民族文化研究 センターの事業 (アイヌ研)	○ アイヌ文化研究・講演等継続実施 ○ アイヌ文化学術情報誌発信 + ウボボイの運営協力	B +	・ 伝統的なモノを展示・解説するだけでなく、モノとともにある精神や歴史を共有し、その文化が現代にどのように継承されているのか等を意識して事業を進める

【評価結果】A：計画以上に達成、B：概ね計画どおり達成、C：達成せず

③北海道立総合博物館協議会・アイヌ民族文化研究センター専門部会の開催

北海道立総合博物館条例に基づき、北海道立総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、「北海道立総合博物館協議会」を設置している。7名に委員を委嘱しているほか、特別委員を6名委嘱し（うち2名は協議会委員と兼任）、「アイヌ民族文化研究センター専門部会」を設置している。

2024年度北海道立総合博物館協議会・アイヌ民族文化研究センター専門部会の開催実績 4件

令和6年度第1回北海道立総合博物館協議会			
日 時	2024年10月31日(木) 10:00~12:00	場 所	北海道博物館 記念ホール
出席委員	佐々木史郎会長、小川哲也副会長、岡田真弓委員、小林次次委員、住吉徳文委員、村木美幸委員、矢野ひろ委員		
議 題	(1) 令和5年度事業報告 (2) 令和6年度事業経過報告 (3) 北海道博物館第3期中期目標・計画の策定に向けた検討(考え方)について (4) 新たな時代に対応する北海道立総合博物館のあり方について(答申策定に向けて) (5) その他		
令和6年度アイヌ民族文化研究センター専門部会			
日 時	2024年12月12日(木) 13:30~15:30	場 所	北海道博物館 講堂
出席委員	小川哲也部会長、白石英才委員、関根真紀委員、藤岡千代美委員、村木美幸委員、結城幸司委員		
議 題	(1) 令和6年度第1回及び第2回北海道立総合博物館協議会実施報告 (2) 令和5年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告 (3) 令和6年度アイヌ民族文化研究センター事業経過報告(4~11月) (4) 「新たな時代に対応する北海道立総合博物館のあり方について」(答申策定に向けた協議の経過について) (5) 北海道博物館 第3期中期目標・計画(素案)について(アイヌ民族文化研究センター事業を中心に) (6) その他		
令和6年度第2回北海道立総合博物館協議会(書面開催)			
日 時	2024年11月20日(水)~12月10日(火)	場 所	書面開催
出席委員	佐々木史郎会長、小川哲也副会長、岡田真弓委員、小林次次委員、住吉徳文委員、村木美幸委員、矢野ひろ委員		
議 題	(1) 北海道博物館第3期中期目標・計画(素案)について		

令和6年度第3回北海道立総合博物館協議会		
日 時	2025年3月5日(水) 10:00~12:00	場 所 北海道博物館 講堂
出席委員	佐々木史郎会長、小川哲也副会長、岡田真弓委員、小林快次委員、住吉徳文委員、村木美幸委員、矢野ひろ委員	
議 題	(1) 令和6年度第2回北海道立総合博物館協議会(書面開催)実施報告 (2) 令和6年度アイヌ民族文化研究センター専門部会実施報告 (3) 令和6年度北海道博物館事業経過報告 (4) 北海道博物館第3期中期目標・計画(案)について	

④協議会評価(外部評価)の実施

北海道立総合博物館協議会では、博物館の自己点検評価が適切に行われているかを主たる対象として、「博物館評価」(内部評価)に対する「協議会評価」(外部評価)を実施してきた。

2024年度は、「博物館評価」(内部評価)および「協議会評価」(外部評価)は実施せず、2024年度も含めた第2期中期目標・計画の総括評価としての自己点検評価のみ実施した(上記項目②を参照)。

⑤年度計画の作成

各業務グループにおいて所管する項目に係る「事業計画」を決定した。

(2) 利用者ニーズの把握

①来館者アンケート調査

アンケート調査は、展示(総合展示と企画展)の内容について実施している。主に2階ロビー(特別展示室出口付近)にアンケート用紙を設置し、利用者の年代・居住地・同伴者・情報源・満足度などを調査している。

第10回特別展「みんなの鉄道-がんばれ!地域の公共交通-」、第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡」、第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」、第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」、第18回アイヌ文化巡回展(広尾町)の開催時にアンケート調査を行った。

2024年度利用者調査結果

	期 間	観覧者数	アンケート回答数						
			回答率	総数	男性	女性	その他	無回答	
No.1	第22回企画テーマ展 北海道樹木万華鏡	令和6年4月27日~6月23日	9,243	2.7%	249	83	125	0	41
	総合展示(上記の1項目として実施)	令和6年4月27日~6月23日	11,244	2.2%	249	83	125	0	41
No.2	第10回特別展 みんなの鉄道-がんばれ!地域の公共交通-	令和6年7月20日~9月23日	13,547	3.7%	508	334	105	0	69
	総合展示(上記の1項目として実施)	令和6年7月20日~9月23日	20,809	2.4%	508	334	105	0	69
No.3	第23回企画テーマ展 北海道のお葬式	令和6年10月26日~令和7年1月13日	8,470	2.6%	224	93	97	0	34
	総合展示(上記の1項目として実施)	令和6年10月26日~令和7年1月13日	8,670	2.6%	224	93	97	0	34
No.4	第24回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える	令和7年2月8日~4月6日	8,334	2.2%	184	68	78	1	37
	総合展示(上記の1項目として実施)	令和7年2月8日~4月6日	8,527	2.2%	184	68	78	1	37
No.5	第18回アイヌ文化巡回展(広尾町)	令和6年6月12日~6月26日	299	7.7%	23	11	9	0	3

■年代

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60~64歳	65~69歳	70代	80代以上	無回答	その他	計	
No.1	第22回企画テーマ展 北海道樹木万華鏡	18	25	30	27	28	37	27	15	34	7	1	0	249
No.2	第10回特別展 みんなの鉄道-がんばれ!地域の公共交通-	35	63	51	46	91	90	44	39	43	6	0	0	508
No.3	第23回企画テーマ展 北海道のお葬式	12	28	33	14	39	45	14	10	24	4	1	0	224
No.4	第24回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える	30	31	23	14	24	18	20	6	16	2	0	0	184
No.5	第18回アイヌ文化巡回展(広尾町)	0	0	1	3	0	3	5	5	3	3	0	0	23

■居住地

		札幌市内	江別市	その他道内	道外	国外	無回答	計
No.1	第22回企画テーマ展 北海道樹木万華鏡	159	19	35	29	1	6	249
No.2	第10回特別展 みんなの鉄道ーがんばれ！地域の公共交通ー	272	36	107	86	3	4	508
No.3	第23回企画テーマ展 北海道のお葬式	119	15	33	45	11	1	224
No.4	第24回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える	108	21	15	37	1	2	184
計		658	91	190	197	16	13	1,165

		広尾町	十勝管内	その他道内			無回答	計
No.5	第18回アイヌ文化巡回展（広尾町）	21	1	1			0	23

■同伴者

		ひとりで	友人・仲間	カップル	家族	学校	その他	無回答	計
No.1	第22回企画テーマ展 北海道樹木万華鏡	91	32	32	80	7	3	4	249
No.2	第10回特別展 みんなの鉄道ーがんばれ！地域の公共交通ー	272	42	28	160	2	2	2	508
No.3	第23回企画テーマ展 北海道のお葬式	84	39	19	75	3	1	3	224
No.4	第24回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える	53	22	20	81	5	3	0	184
計		500	135	99	396	17	9	9	1,165

		ひとりで	友人・仲間	カップル	夫婦	家族・親子	学校	その他	無回答	計
No.5	第18回アイヌ文化巡回展（広尾町）	22	0	0	1	0	0	0	0	23

■情報源

		新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	ロコミ	当館の広報	SNS	当館 X (Twitter)	当館ウェブサイト	当館イベント	屋外看板	ポスター	チラシ	来館して	その他
No.1	第22回企画テーマ展 北海道樹木万華鏡	31	17	7	0	13	154	24	2	25	4	2	48	49	29	10
No.2	第10回特別展 みんなの鉄道ーがんばれ！地域の公共交通ー	88	18	22	8	32	440	96	24	78	12	13	115	102	31	17
No.3	第23回企画テーマ展 北海道のお葬式	22	3	3	2	18	142	25	7	39	5	4	36	26	34	10
No.4	第24回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える	18	11	13	3	3	127	20	3	28	1	0	38	37	27	14
計		159	49	45	13	66	863	165	36	170	22	19	237	214	121	51

		開催地の広報	友人・知人から	当館の広報										来館して	その他
No.5	第18回アイヌ文化巡回展（広尾町）	14		2	3									2	4

②利用者満足度調査

来館者アンケート調査により満足度を調査した。

・企画テーマ展3回の利用者満足度平均	97.4%
・特別展の利用者満足	97.2%
・企画テーマ展および特別展期間中の総合展示室への利用者満足度調査	98.3%
・アイヌ文化巡回展の利用者満足度調査	100.0%
・指定管理者による利用者満足度調査	88.6%

2024 年度利用者満足度調査内訳

		満足度	大変満足	満足	不満	大変不満	見ていない	無回答	その他	計
No. 1	第 22 回企画テーマ展 北海道樹木万華鏡	97.8%	122	102	1	4		20		249
	総合展示（上記の1項目として実施）	97.8%	64	71	2	1	91	20		249
No. 2	第 10 回特別展 みんなの鉄道ーがんばれ！地域の公共交通ー	97.2%	304	175	9	5		15		508
	総合展示（上記の1項目として実施）	97.6%	134	148	6	1	165	54		508
No. 3	第 23 回企画テーマ展 北海道のお葬式	97.2%	127	82	6	0		9		224
	総合展示（上記の1項目として実施）	99.3%	89	49	1	0	51	34		224
No. 4	第 24 回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える	97.1%	107	59	3	2		13		184
	総合展示（上記の1項目として実施）	98.3%	67	51	1	1	29	35		184
No. 5	第 18 回アイヌ文化巡回展（広尾町）	100.0%	3	15	0	0				18

※満足度：回答者のうち、「見ていない」と「無回答」を除き、「たいへん満足」＋「満足」と答えた方

③利用者ニーズ・意見の把握・分析

展示室・図書室・総合案内などで、解説員や指定管理者などに対し利用者から直接寄せられた意見・要望は、日々の日報（解説員活動日誌、図書室業務日誌、指定管理者日報）に記録し、これを館内で供覧し、対応を協議している。2024 年度は、来館者アンケート、利用者満足度調査のほか、以下の手段・方法により、利用者ニーズ・意見の把握を行った。

2024 年度利用者ニーズ・意見の把握

手 段	所管・対応	方 法	備 考
解説員活動日誌	道民サービスグループ	総合展示室及びはっけん広場における利用者からの質問・意見等、利用者への解説・案内・誘導等の内容を日誌に記録。	開館日毎日
図書室業務日誌	博物館基盤グループ	図書室における利用者からの質問・意見等の内容を日誌に記録。	開館日毎日
指定管理者日報	総括グループ	総合案内（チケット売り場）等において指定管理者が受けた利用者からの質問・意見等の内容を日誌に記録。	開館日毎日
口頭受理票	対応職員	電話、FAX、メール、その他利用者から直接受けた質問・意見等の内容を口頭受理票	都度

利用者からの意見等は館内職員で共有し、対応の可否を管理職員または担当部署等で判断し、即時対応できるものについては都度実施した。一方、対応に予算を伴うもの、あるいは中長期的な検討が必要なものについては、意見等を集約し、次年度計画や次期中期計画に反映させるよう情報共有を図った。

10 道民参加の推進

道民や市民団体等が学びの場、または学びの発表の場として博物館を活用する取組や、さまざまな博物館事業に参画しながら、主体的に活動する事業などを展開している。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画/重点②】 【ア】 【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進 【中期目標・計画/重点②】 【ア】 第3期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討 【中期目標・計画/重点②】 【ウ】 北海道博物館における道民参加型事業のあり方検討
一般	【ア】 【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービスGと連携） 【ア】 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤Gと連携） 【イ】 道民参加型調査研究の推進（研究戦略Gと連携） 【イ】 道民参加型展示の推進（博物館基盤Gと連携） 【ア】 ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新 【イ】 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期1回実施）

【重点計画】

○ 道民参加型学習サークル活動、ボランティア組織、支援組織にかかる活動

試行的な取組として、2018年度から当館の図書室における「図書室支援員制度」、2020年度から学習サークル活動として「ちゃれんが古文書クラブ」を実施している。

2024年度は、新たな道民参加型学習活動を推進することはできなかった。学習サークル活動やボランティア活動などを含めた道民参加型活動のあり方全般については、次年度以降の検討課題とする。

【一般計画】

(1) 道民参加型学習サークル活動の推進

2020年度より、当館所蔵の古文書を参加者とともに講読する学習サークル活動として「ちゃれんが古文書クラブ」が活動をスタートさせた。一般普及行事のように、博物館が活動回数・活動日を決め、毎年登録者を募集する形態での活動推進である。

2024年度は4～12月に12回の活動が行われた。

ちゃれんが古文書クラブ

当館所蔵の古文書をテキストとして、参加者の輪読により読み進めていく参加型の古文書学習サークルである。できあがった古文書の翻刻文は、研究紀要などに「資料紹介」として掲載し、調査研究活動の普及・公開を図る予定である。

2024年度道民参加型学習サークル 1件

ちゃれんが古文書クラブ					
開始時期	2020年	登録者数	16人(2024年度)	世話人	三浦泰之・東俊佑(研究部歴史研究グループ)
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 定期的集まり、北海道博物館所蔵の古文書をテキストとして、参加者の輪読により古文書を読み進め、内容について意見を述べ合う。2024年度は前年度に続き、林梅家資料(『北海道開拓記念館一括資料目録第38集 林家資料目録』記載の資料番号D33～D35)を用いた。 読み進めた古文書を翻刻し、活動成果を資料紹介の形で公表する。 				
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 「ちゃれんが古文書クラブ」の講読会(学習会)を各年度12回実施した。 『北海道博物館研究紀要』10号(2025年3月刊行:東俊佑・三浦泰之・ちゃれんが古文書クラブ「北海道博物館所蔵の林梅家資料(四)」) 				

2024年度ちやれんが古文書クラブ参加者数 述べ参加者数 170名

回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
開催日	4月20日	5月11日	6月1日	6月22日	7月13日	8月3日	8月24日	9月14日	10月5日	10月26日	11月16日	12月7日
参加者	14名	16名	16名	14名	14名	14名	14名	14名	12名	14名	14名	14名

(2) 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進

北海道博物館の図書室運営の補助として「図書室支援員」が蔵書整理などの活動に従事した。

図書室支援員制度

2018（平成30）年6月から開始した、当館の図書室で蔵書の整理等を行うボランティア制度である。数名の方を「支援員」とし、週1回程度の活動を行っている。

2024年度図書室支援員 3名 延べ活動日数 55日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室支援員活動日数	3	8	10	7	12	7	4	1	2	1	0	0	55
おもな活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新着図書を受入 ・開架スペース及びバックヤードの環境整備（清掃、図書の配架等） ・収蔵資料画像データの整理 												

(3) 道民参加型調査研究の推進

当館の調査研究や展示の一部を道民や各種団体などと協働で作成する取り組みを進めている。

2024年度は、道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生物インベントリー調査（第三次）」の市民参加として、昆虫相調査、植物相調査、菌類相調査、クマゲラ生息数調査を行った。その成果は研究紀要2本（堀 繁久・伊藤直哉 2025「野幌森林公園の生物インベントリー調査 ケシキスイ類（鞘翅目）」、堀 繁久ほか 2025「野幌森林公園の観察会で確認されたバッタ目昆虫種の変化」）としての報告、企画テーマ展「北海道樹木万華鏡」や普及行事・イベント6件（「エゾアカガエルのラブコール」「樹木の美しさをじっくり見てみよう」「トノサマバッタを探そう」、「動物の足あと調査」、「樹木を知る」、C I S Eサイエンスフェスティバル出展「くるくる回るタネの模型をつくって飛ばそう」）の実施をとおして成果を公表・活用することができた。

※ 研究プロジェクトの詳細は「3 調査研究」を参照。

(4) 道民参加型展示の推進

以下の企画展、展示コーナーについて計4件の道民参加型展示を推進した。

- 来館者参加型展示コーナー2件（アイヌ文化Q & A（総合展示室第2テーマ、総合展示2階出口付近の参加型展示）（再掲）
- 総合展示第4テーマ「いまとこれからを創る」（再掲）
- 休憩ラウンジにおける道民参加型展示（アンモナイト）（再掲）

※ 詳細は「2 展示」を参照。

(5) 博物館実習生が企画・作成した展示コーナーの運営

博物館実習生が実習期間で企画・作成した展示を、総合展示室1階交流ゾーンで展示した。

2024年度博物館実習生による展示の運営（展示期間：2024年8月31日～9月23日）

班	内容
A班	サケと人との関わり
B班	くらべてみよう！ナウマンゾウとマンモスゾウ
C班	編みかごから見るアイヌ民族の多様性

※ 2024年度博物館実習の詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。

11 博物館ネットワーク

当館は、道内の博物館や資料館などとの連携をとおして、北海道の自然・歴史・文化の活用を実践し、道内博物館全体の水準の向上や活力強化のためのネットワークづくりをすすめている。北海道内の中核的な博物館としての役割を果たすべく、北海道博物館協会、日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などの各種博物館団体の事務局・幹事館業務を担うことで、道内博物館と全国の博物館をつなぎ、地域の活性化に貢献することを目的とした事業や活動を展開している。また、当館周辺の関係施設との連携・協力を密にすることにより、札幌市・江別市周辺地域の文化事業の活性化にも取り組んでいる。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取組（アイヌ民族文化研究センターと連携）
一般	<p>(1) 各種博物館団体との連携</p> <p>【ア】 日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営 【ア】 全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力 【イ】 北海道博物館協会との連携・協力 【イ】 北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行） 【イ】 北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進</p> <p>(2) 博物館交流の促進</p> <p>【ア】 周辺施設とのネットワーク事業の実施 [年間3件程度] 【ア】 外部主催イベントへの参画 [年間3件程度] 【イ】 道内学芸職員対象の研修会等の開催検討（学芸職員部会との連携）</p>

【重点計画】

○ ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討・取組

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」（愛称ブンカラ）は、アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進やさまざまな事業の活性化を図るための、国立アイヌ民族博物館並びに国内外の博物館によるネットワーク組織である（主催：国立アイヌ民族博物館）。当館は、2021（令和3）年1月からネットワークに参加し、アイヌ民族文化研究センターを中心に、国立アイヌ民族博物館との連携を強め、北海道内博物館との意見交換や各種事業への協力・協働などを行った。

- ・国立アイヌ民族博物館ネットワーク（愛称ブンカラ）への加盟（運営委員）
- ・国立アイヌ民族博物館運営委員会及び同展示ワーキング会議及び学术交流ワーキング会議の委員への就任・派遣
- ・国立アイヌ民族博物館による展示事業への協力（資料貸出等）

【一般計画】

(1) 各種博物館団体との連携

① 日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営

当館は、博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会に加盟している。また、当館の館長は、同協会北海道支部長及び参与を委嘱されている。当館は同協会北海道支部の支部長館を担っており、全国規模の組織と道内の博物館をつなぐ役割を果たし、協会および支部会員館との連絡・協力体制の維持に努めている。また、北海道支部の声を全国に届けるため、年に1回開催される参与会、支部長会、全国博物館長会議へ館長が出席するほか、全国博物館大会へも職員が出席し、連携の強化に努めている。令和6年度は下記の全国博物館長会議・参与会・支部長会へ出席した。

- 【北海道支部加盟館】39館（2025年3月31日現在）
- 【おもな業務】協会および支部会員館との連絡調整

2024年度日本博物館協会との連携・協力（概要）

項目	摘要
全国博物館長会議・参与会・支部長会への出席	<ul style="list-style-type: none"> ・全国博物館長会議（第31回）日時：2024年7月3日（水）9:30～17:30 ・支部長会 2024年7月2日（火）13:00～14:30 ・参与会 日時：2024年7月2日（火）支部長会終了後
その他	大規模災害に係る被災博物館等の復興支援募金・寄附金募集への協力 (募金箱設置期間：2024年5月9日～2025年3月22日、35,086円)

②全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力

当館は歴史・民俗系博物館の全国ネットワーク組織である全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、北海道ブロックの幹事館として、全国と道内博物館をつなぐ中継館としての役割を担っている。

【北海道ブロック加盟館】56館（2025年3月31日現在）
【おもな業務】協議会およびブロック館との連絡調整

2024年度全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力（概要）

項目	摘要
総会・年次集会への出席	2024年度は、令和6年度年次集会（第10回）が7月4日（木）～5日（金）に千葉県佐倉市（国立歴史民俗博物館）で開催され、総会、幹事館会、研究集会（テーマ「記憶と記録をつなぐー歴史継承を担う地域と博物館ー」）に当館から職員1名が参加した。

③北海道博物館協会との連携・協力

2024年度北海道博物館協会との連絡調整（北海道博物館への照会に対する協力等）

項目	摘要
照会事項への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・『道博協ニュース』第135～136号掲載の展示会・行事予定調査への回答 ・協会表彰顕彰者の推薦（2024年度該当者なしで回答）

④北海道博物館協会の運営

北海道博物館協会は、1961（昭和36）年に発足した道内博物館のネットワークである。当館は、協会の事務局館として、各種活動に係る連絡調整などの役割を担っている。

【会員】団体会員132、個人会員31、賛助会員11、計173（2025年3月31日現在）
【おもな業務】役員会理事、各地区ブロック、加盟館園との連絡調整

2024年度北海道博物館協会の主な活動（概要）

項目	摘要
役員会	年間3回開催（5月17日、7月10日、12月3日）
第62回北海道博物館大会	<p>【主催】北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部、函館市教育委員会 【共催】道南ブロック博物館施設等連絡協議会、函館市 【後援】北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会 【内容】</p> <p>〇7月11日（会場：函館市民会館） 総会、ポスターセッション、特別報告、研究大会（テーマ「博物館資料の望ましい管理」） 〇7月12日：エクスカッション Aコース（市立函館博物館・北方民族資料館）、 Bコース（函館市縄文文化交流センター、大船・垣ノ島遺跡）</p>
研修会・部会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・マネージメント研修会（12月4日～5日、札幌市） テーマ「新さっぽろアーキティホテル・札幌市青少年科学館」 ・道央地区博物館等連絡協議会 役員会（年間2回開催）、研修会（テーマ「博物館資料のデジタル化と活用」「博物館におけるコレクションの管理」）

⑤北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進

学芸職員としての能力向上を目的に、北海道博物館協会において実施される研修への積極的な参加を促進している。

※ 詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。

(2) 博物館交流の促進

①かるちやる net

2010（平成22）年2月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちやる net」（文化施設連絡協議会）が発足した。参加施設は現在10施設で、当館が事務局を担当し、各施設の広報・PR活動や体験イベントなどを共同で開催している。

【参加施設】10施設

札幌市青少年科学館、新さっぽろサンピアザ水族館、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館、北海道立図書館、北海道立文書館、北海道立埋蔵文化財センター、野幌森林公園自然ふれあい交流館、北海道開拓の村、北海道博物館

【おもな事業】

スタンプラリー、サンピアザ光の広場等を活用したワークショップやパネル展、共通行事チラシの発行・配布など

2024年度活動概要 スタンプラリー・イベント・パネル展開催 計4件、通信発行4回

項目	摘要
スタンプラリー 1件	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止していた「てくてく、ぺったん！かるちやるスタンプラリー」については、春期に再開した（2025年3月15日～4月6日）。
共同イベント 3件	○「発見・体験 文化の夏 ～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ～」 ・日時：2024年9月8日（日） 10:00～20:00 ・会場：サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目） ・実施内容：パネル展示（かるちやる net 活動紹介パネル、参加各館の紹介パネル、各館出題のかるちやるクイズボード）、ワークショップ、各館のリーフレットやチラシ等の配置 ○かるちやる net パネル展 ・2024年11月10日（日）10:00～21:00 新さっぽろ光の広場 ・2025年3月22日（土）10:00～21:00 新さっぽろ光の広場
共通行事予定チラシ『かるちやる通信』の作成・発行 4回	各年4回（3か月ごと）発行している『かるちやる通信』は、予定どおり発行するとともに、ウェブサイト版をアップロードした。 ・『かるちやる通信』2024年7～9月号、2024年6月 ・『かるちやる通信』2024年10～12月号、2024年9月 ・『かるちやる通信』2025年1～3月号、2024年12月 ・『かるちやる通信』2025年4～6月号、2025年3月
商業施設における広報活動	商業施設に設置しているラックに、各施設のリーフレットやチラシ等を配置した。 ・サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目） ・イオンモール札幌平岡（札幌市清田区平岡3条5丁目3-1）
ウェブサイトの運営	当館ウェブサイト内の「かるちやる net」のページから情報発信を行った。

②CISE ネットワーク

北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワークである。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を行っている。当館は2015年度から正式メンバーとして加わった。

2024年度活動概要 イベント参加1件

項目	摘要
CISE サイエンスフェスティバル	○第10回CISEサイエンスフェスティバル in チ・カ・ホ ・日時：2025年1月9日（木） 10:00～16:00、1月10日（金） 10:00～16:00 ・会場：札幌駅前地下歩行空間（チカホ）「北3条交差点広場（西）」 ・実施内容：CISE ネットワーク参画機関が各テーマのブースを設置し、体験学習を提供。当館は「くるくる回るタネの模型をつくって飛ばそう」として、植物の種子・果実にはさまざまな散布方法があることを、実物標本や写真を使って学び、「風散布」型の果実について、その模型をつくる工作と実際に飛ばす体験をつうじて、さらに興味を深め、自分の手や体を使って体感させる取り組みを行った。

③生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワークである。事務局は札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課。当館は2015年度から参加した。

2024年度活動概要 会議等参加1件

項目	摘要
会議	昨年度実施していたクイズラリーは開催されず、書面会議の開催と当館における生物多様性関連事業の情報提供のみに活動は留まった。

④周辺地域とのネットワーク会議への参加

当館は、以下の地域ネットワーク会議に参加し、会議への参加のほか、事業の協力、専門的知見からの助言等を行っている。

・あつべつ区民協議会

厚別区の住民が自分たちの住んでいる厚別区に興味を持ち、住みよい街にするための取り組みについて、区民一人一人が地域の中で共に考え、共に行動し、創意と工夫でより良い街に作り上げていくことを目的とした会議（事務局：厚別区市民部地域振興課）。

・三笠ジオパーク推進協議会

地域経済の活性化及び文化の発展に寄与することを目的として、ジオパークに関する各種事業を行う団体（事務局：三笠市役所）。

・北海道ジオパークネットワーク連絡会議

北海道内のジオパーク関係者が一堂に会し、様々な情報交換や情報共有を図ることでジオパーク地域全体の活性化をめざすため開催されている（事務局：北海道総合政策部地域創生局地域政策課）。

・北海道恐竜・化石ネットワーク研究会

恐竜・化石資源を活用した地域づくりに向け、道内各地における取組の現状や課題、他県の事例などを共有・蓄積しながら、地域間の連携や産学官の協働による取組の検討、及び推進を図ることを目的に設置されている（庶務：北海道総合政策部地域振興局地域政策課）。

・アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク事務局（愛称“ブンカラ”）

国立アイヌ民族博物館並びに国内外の博物館・美術館・研究機関及びその他博物館等事業に関係のある団体とのネットワークでアイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進や様々な事業の活性化を図るとともに、アイヌ文化の振興・啓発に寄与することを目的とする。

2024年度ネットワーク会議参加1件

項目	摘要
あつべつ区民協議会	第10期（2024年度）企画課主幹が委員として第3回および第5回全体会議に参加し、厚別区のまちづくりに関わるテーマについて審議した。

12 情報発信

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などをより多くの人に知っていただくためには、さまざまな広報活動が欠かせない。当館では、その役割や事業（おもに展示会や普及行事・イベント）などを知っていただくため、北海道民や社会に対し、当館自らが積極的・戦略的に働きかける活動を広報（利用促進、狭義の広報）と呼び、当館の資料情報や調査研究の成果など、博物館の基盤に係る情報をアーカイブスとして整備し、利用者の学習支援に応えるような受動的な広報活動を情報発信（情報サービス）と呼んでいる。

※ 広報・利用促進は「8 広報」を参照。

活動実績

年度計画

重点	<p>【中期目標計画／重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」に関わる情報発信</p> <p>【(1)ア】 収集資料データベースに登録する情報（デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャン、資料情報内容の調査等）の拡充推進</p> <p>【(1)ア】 収集図書（道内外の博物館展示会図録等を含む）の整理とデータベース登録</p> <p>【(1)ア】 北海道博物館（旧開拓記念館、旧センター含む）刊行物（特別展図録、研究紀要、ニュースレター等）のスキャンによるアーカイブス化の検討</p> <p>【(1)イ】 収集資料データベース、収集図書データベース、刊行物アーカイブスの公開のあり方検討</p>
	<p>(1) 情報発信機能の強化</p> <p>【ア】 情報システム（収集資料データベース）の保守・管理・機能拡充</p> <p>【イ】 情報システムを活用した関係機関（道内外博物館、文書館、図書館等）とのネットワーク構築に向けての検討</p> <p>【イ】 デジタル技術を用いた総合展示の情報発信</p> <p>【イ】 『北海道博物館資料目録』刊行実施計画の作成</p> <p>(2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援</p> <p>【ア】 収集図書の充実 [年度末時蔵書数見込 153,000 冊程度]</p> <p>【ア】 図書ボランティア制度の運用</p> <p>【イ】 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備 [年間利用者見込 3,500 人程度（うち展示室利用のない図書室のみの利用者 35 人程度）]</p> <p>【イ】 企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営（年間6回程度）</p> <p>【ウ】 各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進 [年間見込 560 件程度]</p> <p>【ウ】 レファレンスの窓口一元化（ICTを活用したレファレンスなど）と効率化（よくある問い合わせQ&Aの開設など）による機能強化に向けた検討</p> <p>【ウ】 関係機関（道内外博物館、文書館、図書館など）との連携によるレファレンスの検討</p>
一般	

【重点計画】

○ 樺太（サハリン）資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」に関わる情報発信

2024年度に刊行した『資料目録 第4号 全国樺太連盟資料 2』をウェブサイトでPDF公開したことに加え、北海道庁「行政情報センター」で有償頒布（販売）を行った。

※ 樺太記憶継承事業については「1 資料の収集・保存」を参照。

○ 収集資料データベースに登録する情報の拡充推進

資料の調査研究、写真撮影、目録整備を推進し、資料情報の基盤整備に努めている。新たに受け入れた収集資料はもとより、過去の受け入れ分についても、資料管理システムへの資料情報や画像データの登録を進めている。また登録内容を精査し公開可能と判断した収集資料については、ウェブサイト「収集資料検索」のページで順次公開している。

2024年度の資料情報の登録・更新

資料管理システム累計登録件数	210,479件
うち新規登録件数	3,484件
ウェブサイト公開件数	12,202件
うち新規公開件数	298件

○ ウェブサイトアクセス数

- ・2024年度ウェブサイトアクセス数 293,981件
- ・ウェブサイトのアクセス数の目標値（2020～2024年度）：1,300,000件。累計数：1,747,898件（目標達成度：135%）

※ ウェブサイトについては「8 広報」も参照。

○ 収蔵図書の整理とデータベース登録

新規図書の受入作業とデータベース登録を随時実施した。

※ 詳細は次ページ「2024年度新規受入図書数」を参照。

○ 北海道博物館刊行物のスキャンによるアーカイブ化の検討

旧開拓記念館の刊行年の古い刊行物、旧アイヌ民族文化研究センターの刊行物のうち、デジタル化が未実施または画質が不鮮明で再度のスキャンが必要なもののリスト化を進めた。

○ 収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブスの公開のあり方検討

当館は、当館資料管理システムと他機関が構築・公開するシステムとの連携を積極的に進めている。現在は北海道立図書館の「北方資料デジタルライブラリー」に横断検索参加館として参加しているほか、資料管理システム「I. B. MUSEUM SaaS」を利用する全国の博物館の資料情報が横断検索できるシステム「MAPPS Gateway」に参加し、資料情報の効果的な発信と利活用の促進に取り組んでいる。さらに、北海道環境生活部が運営する道内の博物館や美術館の情報を包括的に発信するポータルサイト「北海道デジタルミュージアム」へ資料情報の提供を行っている。

・北海道デジタルミュージアム <https://hokkaido-digital-museum.jp/>

また、日本全国の自然史系博物館や研究機関が参加して作る自然史標本データ共有ネットワーク「サイエンスミュージアムネット(S-Net)」(運営:国立科学博物館)に対し、植物コレクション35点と古生物コレクション117点の標本データを提供した。提供した標本データはS-Netを通じて地球規模生物多様性情報機構(GBIF)にも提供され、当館の生物資料の情報が国内だけでなく海外からも利用できるようになっている。

・S-Net <https://science-net.kahaku.go.jp/>

・GBIF <https://www.gbif.org/>

収蔵図書データベース、刊行物アーカイブスの公開については、上述のとおり館内での準備を進めるに留まり、公開までは至らなかった。

【一般計画】

(1) 情報発信機能の強化

当館の情報システムは、資料情報を管理する資料管理システムのほか、インターネットで広報・情報発信を行うためのウェブサイト、アイヌ語音声資料をインターネット上で検索・視聴できる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」、図書室の蔵書管理のための図書管理システムなどによって構成されている。

①北海道博物館情報システムの保守・管理

情報システムのハード面について、ウイルス対策ソフトによる常時監視を行い、機器の動作不良には業者と都度連絡を取り対応した。また当館がクラウド上で運用するサーバーは、保守を通年で業者に委託し、セキュリティ上の脅威が生じないよう各種対策を講じている。

②資料情報を活用した関係機関とのネットワーク構築に向けての検討

※ 「11 博物館ネットワーク」を参照。

③資料目録の刊行 1件

『資料目録 第4号 全国樺太連盟資料 2』を刊行し、北海道博物館ウェブサイトで全文をPDFで公開したほか、北海道庁「行政情報センター」で有償頒布(販売)を行った。

(2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

①図書室の運営

総合展示室1階から入れる図書室には、北海道の自然・歴史・文化に関する図書や各地の博物館の機関誌、図録などを配架するとともに、映像資料や音声資料を視聴できるスペースや、企画展やクローズアップ展示開催にあわせて関連する図書を配架するコーナーを設けている。また、図書カウンターでは、総合展示、博物館の資料を含め、北海道の自然・歴史・文化に関する利用者からの質問に対応する「レファレンス」の窓口としての機能も有している。なお、当館では、総合案内での申請により、展示室の利用を利用せず、図書室のみの利用にも対応している。

2024 年度図書室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室利用者数	206	310	282	378	452	361	280	271	135	179	160	187	3,201
うち図書室のみ	1		3		1	2	2	2		2	1	7	21

2024 年度新規受入図書数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規受入 図書数	単行本図書	116	52	24	33	21	26	17	20	20	29	20	77	455
	雑誌	29	9	10	6	10	13	18	8	17	9	11	11	151
	博物館関係出版物	193	61	74	88	45	52	82	42	39	56	35	98	865
	除籍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	338	122	108	127	76	91	117	70	76	94	66	186	1,471
図書資料数累計		162,916	163,038	163,146	163,273	163,349	163,440	163,557	163,627	163,703	163,797	163,863	164,049	162,538

②図書紹介コーナーの展示

第10回特別展「みんなの鉄道 ―がんばれ！地域の公共交通―」の会場内で鉄道関連図書の展示を行った。また、総合展示クローズアップ展示の入れ替えや企画テーマ展の開催に合わせて、関係図書の紹介コーナーを設けた（入替回数9回）。

③レファレンス対応

利用者からの展示や資料に関する質問は、総合展示室1階・2階の情報デスクなどで解説員が対応し、より深く「知りたい」利用者には、図書室へ案内したり、専門分野の学芸職員に連絡をしたりして、個別に対応している。また、北海道の自然・歴史・文化に関する電話などでの問い合わせにも対応している。

※ 当館では、図書室または学芸職員が対応するものをレファレンスとして集計し、展示室での解説員等による対応は「5 教育普及事業」の「利用者対応」を参照。

2024 年度レファレンス対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
レファレンス 対応総件数	8	24	17	18	31	13	19	16	18	17	9	15	205	1,112	39.7%

※ レファレンスの目標値（2020～2024年度）：2,800件、「累計」「達成率」は第2期中期目標・計画期（2020～2024年度）における総計。

13 人材育成機能の強化と社会貢献

職員の専門的知識及び教育普及活動等の技能の向上を図るために、館外で実施される研修会などへの当館職員の派遣・参加を行っている。また、北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、研究成果を活かして広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、博物館実習生の受け入れや外部団体などの研修への協力、各種委員等への就任や講師の派遣などを行っている。

活動実績

年度計画

重点	【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。
一般	(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ 【ア】 博物館実習生やインターンシップの受入れ [年間 20 人程度] 【ア】 職場体験・見学実習の受入れ [年間 10 件、延べ 100 人程度] 【イ】 高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣
	(2) 外来研究員の受入 外来研究員（外部研究者や大学院生等）の受入に関する検討・取組・制度整備
	(3) 当館職員の資質向上 博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加 [年間見込 10 件、延べ 20 人程度]
	(4) 職員の対外貢献 招待講演（講座・講演会）等への職員派遣、各種委員・非常勤講師への就任、学術的な協力（指導助言等）、執筆依頼等 [年間 70 件程度]
	(5) 外部機関との事業連携 他機関等との連携・協力 [年間 20 件程度]
	(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 【ア】 【ウ】 アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進 【イ】 「北海道総合計画」（平成 28 年度～令和 7 年度）などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進

【重点計画】

○ 当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつけるための取組

当館に寄せられる各種研修情報を迅速に周知し、当初計画にある研修に加え、必要と認めた研修についての学芸職員の参加を促した。

※ 参加した研修の詳細は「(3) 当館職員の資質向上」を参照。

【一般計画】

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

当館の館務の体験による博物館活動への深い理解と必要な技術習得の普及を目的に、学芸員資格取得をめざす大学生を博物館実習生として積極的に受け入れ、将来の博物館経営を担う人材の育成に取り組んでいる。また、短期・中期に人材を受け入れ、当館学芸職員が研修を行うインターンシップや、中学校、高校、大学のカリキュラムの一環として行われる職場体験、見学実習等についても積極的に受け入れている。

8月に10日間の日程で博物館実習を実施し、2024年度は15名（上限15名）を受け入れた。

2024年度博物館実習（館務実習）の受入 15名

日程	2024年8月20日（火）～30日（金） 10日間			
実習生内訳	学年別内訳：大学3年生6名、大学4年生7名、大学院修士1年1名、大学院修士2年生1名 地域別内訳：道内10名、道外5名			
	実施日	実習内容	対応	
プログラム	第1日目	8月20日	ガイダンス、施設設備の見学、総合展示室見学	企画グループ
	第2日目	8月21日	文書資料の整理	歴史研究グループ
	第3日目	8月22日	自然観察会の企画と運営	自然研究グループ
	第4日目	8月23日	資料保存・情報・建築、図書、収蔵環境に関わる講義・討議	博物館研究グループ
	第5日目	8月24日	アイヌ文化・アイヌ史にかかわる講義・資料整理	アイヌ民族文化研究センター
	第6日目	8月25日	産業資料の整理 展示制作ガイダンス、野外博物館北海道開拓の村の見学	生活文化研究グループ、 企画グループ、開拓の村
	第7日目	8月27日	展示制作（企画づくり）	企画グループ
	第8日目	8月28日	展示制作実習	企画グループほか
	第9日目	8月29日	展示制作実習	企画グループほか
	第10日目	8月30日	展示講評、総括・意見交換など	企画グループほか

2024年度インターンシップの受入 2件14名

期間	所属・氏名	内容
8月22日	環境生活部（北海道大学、北星学園大学、酪農学園大学大学院、札幌大学、北海道科学大学、計5名）	北海道庁の業務内容や魅力を伝えるインターンシップの一環として、北海道博物館の仕事（収蔵庫の管理、調査研究）について見学と体験を行う。
10月17日	札幌手稲高等学校（9名）	総合的な探究の時間におけるインターンシップとして、博物館や学芸員の仕事の見学と体験

2024年度見学実習の受入 4件、72名

実施日・期間	団体名	人数	内容
6月8日	北翔大学「博物館実習」の見学実習履修学生	10名	概要説明、バックヤード見学、総合展示・企画テーマ展観覧
6月14日	北海道大学「博物館実習」見学実習（前期）履修学生	48名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
9月18日	藤女子大学「地域資源活用法」履修学生	10名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
10月11日	北海道大学「博物館実習」見学実習（後期）履修学生	4名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

（2） 外来研究員の受入

将来的に博物館学や北海道の自然・歴史・文化に関する研究に精通した研究者（大学卒業程度以上）を外来研究員として受け入れ、当館の資料整理、調査研究、展示、教育普及などの活動を学芸職員とともに担う制度の構築に向け、検討を行っている。

2024年度は、外来研究員制度を創設する際の当館組織上の位置づけ、外来研究員の役割、外部研究者や大学院生などを外来研究員として受け入れるに際しての問題点などについて検討を行った。

（3） 当館職員の資質向上

博物館職員としての知識・技術の向上に資する研修会等へ学芸職員を参加させ、当館職員の人材育成に努めている。

2024年度職員の外部研修への参加 10件 述べ10名

研修名	主催	研修内容	期間	研修場所	受講職員
令和6年度 国立文化財機構 文化財防災センター研修「民俗資料の応急処置ワークショップ」	独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター	民俗資料の取り扱いから適切な応急処置の手法について講義と実習を通して学び、学芸職員の技能と資質の向上に資する研修	2024年11月29日	国立民族学博物館	高橋佳久
令和6年度 国立文化財機構 文化財防災センター研修「民俗資料の応急処置ワークショップ」	独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター	民俗資料の取り扱いから適切な応急処置の手法について講義と実習を通して学び、学芸職員の技能と資質の向上に資する研修	2024年11月29日	国立民族学博物館	尾曲香織

研修名	主催	研修内容	期間	研修場所	受講職員
令和6年度 ミュージアム・パブリックリレーションズ研修	文化庁、国立アイヌ民族博物館	地域や社会との望ましい関係を創り出すため、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに必要な知識・技能の習得を目指す研修	2024年12月3日～12月6日	国立アイヌ民族博物館 交流室およびオンライン (今回はオンライン)	吉川佳見
令和6年度 ミュージアム・パブリックリレーションズ研修	文化庁、国立アイヌ民族博物館	地域や社会との望ましい関係を創り出すため、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに必要な知識・技能の習得を目指す研修	2024年12月3日～12月6日	国立アイヌ民族博物館 交流室およびオンライン (今回はオンライン)	櫻井万里子
令和6年度 ミュージアム・パブリックリレーションズ研修	文化庁、国立アイヌ民族博物館	地域や社会との望ましい関係を創り出すため、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに必要な知識・技能の習得を目指す研修	2024年12月3日～12月6日	国立アイヌ民族博物館 交流室およびオンライン (今回はオンライン)	高橋佳久
令和6年度北海道博物館協会 ミュージアム・マネジメント研修会	北海道博物館協会 道央地区博物館等連絡協議会	“まち”の再構築、“まちづくり”の中核的機能として、地域博物館が寄与するべき役割と、持つべき機能、博物館の存在意義を官民で確認する研修	2024年12月4日	新さっぽろ アークシティホテル	鈴木あすみ
令和6年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」成果報告会	文化庁参事官(生活文化創造担当) 付美術工芸品公開促進係	地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業の成果に関する研修	2024年12月5日	北海道博物館内 (オンライン受講)	高橋佳久
第33回北海道美術館学芸員研究協議会	北海道美術館学芸員研究協議会	美術館におけるアクセシビリティの事例報告や講話、研究発表を行う研修	2025年3月6日・7日	北海道立近代美術館	田中祐未
国立歴史民俗博物館より地域歴史文化大学フォーラム「複合災害期における資料保存・継承の展望」	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 歴史文化資料保全ネットワーク事務局	複合災害期における資料保存・継承の展望にかかる事例報告や総論討論を行う研修	2025年3月15日	北海道博物館内 (オンライン受講)	高橋佳久
令和6年度 被災文化財対応基礎研修 (オンライン)	独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター	文化財被災の場合に、どのような体制でどのように対応すべきかについて、過去の対応事例や文化財救援活動のスキーム、体制について学ぶ研修	2025年2月21日～3月6日	北海道博物館内 (オンライン受講)	石子智康

(4) 職員の対外貢献

学芸職員の知識・技術、研究成果などを広く社会に還元するため、外部団体などが主催する研修会・講演会などへの講師派遣、各種委員等への就任、学術的な専門的知見や情報の提供(指導助言・監修など)、執筆依頼などに対して、対応・協力を行っている。

①職員の各種委員・非常勤講師等への就任

2024年度各種委員への就任 27件

氏名	委嘱名	委嘱内容等	依頼先	期間
圓谷昂史	委員	石狩浜海浜植物保護センター運営委員会の委員	石狩市(石狩浜海浜植物保護センター)	2024年4月1日～2026年3月31日
圓谷昂史	構成員	北広島市史跡旧島松駅通所保存活用計画に関する懇話会	北広島市教育委員会	2024年9月24日～2025年3月31日
久保見幸	委員	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会 委員	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	2024年8月26日～2025年10月5日

氏名	委嘱名	委嘱内容等	依頼先	期間
堀 繁久	アドバイザー	北海道新幹線(新青森・札幌間)環境影響評価 事後調査(国土交通大臣意見対応) アドバイザー	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構	2024年4月17日～ 2025年3月31日
三浦泰之	委員	国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	2024年4月1日～ 2025年3月31日
三浦泰之	委員	国立アイヌ民族博物館令和6年度ニュースレター編集デザインに係る業務請負候補者選定委員会の委員	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2025年3月12日～ 2025年3月16日
三浦泰之	委員	石狩市文化財保護審議会委員	石狩市教育委員会	2024年5月1日～ 2026年4月30日
三浦泰之	委員	「令和6～7年度国立アイヌ民族博物館買取協議会」委員	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年6月19日～ 2026年3月31日
三浦泰之	オブザーバー	北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)展示等製作・設置業務監修者確認会議	総務部イノベーション推進局財産課	2024年12月12日～ 2025年3月31日
三浦泰之	委員	国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	2025年4月1日～ 2026年3月31日
鈴木明世	アドバイザー	北見市文化財保存管理アドバイザー	北見市教育委員会	2024年6月19日～ 2025年3月31日
鈴木明世	委員	小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会委員	小樽市建設部新幹線・まちづくり推進室	2024年8月1日～ 2026年7月31日
小川正人	委員	国立歴史民俗博物館総合展示第5室・第6室リニューアル委員会	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	2024年4月1日～ 2025年3月31日
小川正人	委員	アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク運営委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年6月13日～ 2025年3月31日
小川正人	構成員	「令和6年度国立アイヌ民族博物館運営会議の学術交流等ワーキング会議」構成員	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年6月13日～ 2025年3月31日
小川正人	オブザーバー	北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)展示等製作・設置業務監修者確認会議	総務部イノベーション推進局財産課	2024年12月12日～ 2025年3月31日
小川正人	専門委員	「北海道史編さん委員会」専門委員	北海道知事 鈴木直道	2024年12月27日～ 2026年6月27日
小川正人	アドバイザー	「アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料」に係る補足資料の検討会アドバイザー	札幌市教育委員会	2024年12月27日～ 2025年3月31日
小川正人	構成員	北海道立アイヌ総合センター展示等のあり方検討ワーキンググループの構成員	北海道環境生活部アイヌ政策監	2025年1月23日～ 3月31日
小川正人	構成員	国立アイヌ民族博物館運営会議の構成員	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2025年2月28日～ 2026年5月31日
大坂 拓	委員	国立歴史民俗博物館総合展示第5室・第6室リニューアル委員会	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	2024年4月1日～ 2025年3月31日
大坂 拓	構成員	「令和6年度国立アイヌ民族博物館運営会議の展示検討ワーキング会議」構成員	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年5月28日～ 2025年3月31日
大坂 拓	評価員	第1回国立アイヌ民族博物館「買取評価員」及び「寄贈評価員」	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年7月31日
大坂 拓	評価員	第2回国立アイヌ民族博物館「買取評価員」	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年8月21日
大坂 拓	評価員	第3回国立アイヌ民族博物館「買取評価員」	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年8月21日
大坂 拓	審査委員	第58回「北海道アイヌ伝統工芸展」審査員	公益社団法人北海道アイヌ協会	2025年2月5日
大坂 拓	委員	令和6年度アイヌ工芸品展中長期計画策定委員会委員	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2025年3月12日～ 3月31日

2024年度非常勤講師への就任 19件

氏名	講義科目	大学名	委嘱期間	授業実施日	コマ数
三浦泰之	博物館展示論	札幌大学	2024年4月7日～9月13日	前期、月曜・2時限目	15コマ
鈴木琢也	史学演習A	國學院大學北海道短期大学部	2024年4月1日～2024年9月30日	前期、月曜・1時限目	15コマ
鈴木琢也	史学演習B	國學院大學北海道短期大学部	2024年10月1日～2025年3月31日	後期、月曜・1時限目	15コマ
東 俊佑	博物館展示論	北海学園大学	2024年4月1日～2024年9月30日	前期、月曜・5時限目	15コマ
東 俊佑	古文書購読	北海学園大学	2024年4月1日～2024年9月30日	前期、月曜・6時限目	15コマ
東 俊佑	古文書購読	北海学園大学	2024年10月1日～2025年3月31日	後期、月曜・3時限目	15コマ
東 俊佑	博物館教育論	北海学園大学	2024年10月1日～2025年3月31日	後期、月曜・5時限目	15コマ
東 俊佑	日本史特殊講義Ⅲ	北海学園大学	2024年4月1日～2025年3月31日	通年、月曜・4時限目	30コマ
右代啓視	博物館展示論(学)	札幌学院大学	2024年4月1日～9月30日	前期、水曜・6時限目	30コマ
右代啓視	博物館展示論	東海大学	2024年4月1日～2025年3月31日	前期、月曜・2時限目	14コマ
右代啓視	博物館実習1	東海大学	2024年4月1日～2025年3月31日	後期・集中	15コマ
右代啓視	考古学	北海道教育大学	2024年4月15日～9月30日	前期、月曜・4時限目	30コマ
田中祐未	日本文化の特色	北海道教育大学	2024年7月1日、7月8日	前期、月曜・2時限目	2コマ
会田理人	海洋水産学特別講義	東京農業大学生物産業学部	2024年12月9日	後期、月曜・1時限目	1コマ
鈴木あすみ	ミュージアム・スタディーズ演習	北海道大学	2024年8月1日～9月30日	集中講義	15コマ
吉川佳見	アイヌ語初級 I	東京外国語大学	2024年4月16日～7月29日	前期、月曜・6時限目	15コマ
吉川佳見	アジアの言語1	国立大学法人東京外国語大学	2024年4月1日～2024年9月30日	前期、月曜・2時限目	15コマ
吉川佳見	アジアの言語2	国立大学法人東京外国語大学	2024年10月1日～2025年3月31日	後期、月曜・2時限目	15コマ
吉川佳見	アイヌ語初級 I	東京外国語大学	2024年10月7日～2025年2月10日	後期、火曜・7時限目	15コマ

②職員の派遣

2024年度職員派遣（館外への派遣） 56件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼元	期日
水島未記	講師	市民公開講座「地球環境と自然を考えるフォーラム」	第39回北方圏国際シンポジウム	紋別市立博物館	オホーツク環境ネット	2025年2月17日
圓谷昂史	講師	第15期1年次「博物館学概論」	令和6年度「まちを好きになる市民大学」	広場交流センター いこーよ	北広島市教育委員会	2024年8月3日
圓谷昂史	講師	①記念講演会「徳島県内外の漂着物について」、②野外観察会「ビーチコーミング体験」	令和6年度第一回企画展「海からどんぶらこ -知られざる漂着物の世界-」関連行事	徳島県立博物館、徳島県南部各地 (バスによるツアー形式)	徳島県立博物館	2024年5月11日・12日
圓谷昂史	講師	海岸でビーチコーミングとごみ拾い	「親子で環境調査バスツアー」	札幌市西区役所、石狩市古瀬海岸	西区環境まちづくり協議会	2024年7月26日、8月8日
圓谷昂史	講師	(1) 海洋保全授業(ビデオ撮影) (2) ビーチコーミング (悪天候の場合室内プログラムに変更)	漁業体験塾「魚とつくる海のミライ」	(1) 札幌市環境プラザ (2) 銭函海水浴場	札幌エルプラザ公共4施設 指定管理者(公財)さっぽろ青少年女性活動協会	2024年8月14日、10月13日
圓谷昂史	講師	海でビーチコーミングをしよう!	環境プラザ主催子どもエコクラブ「さっぽろあそエコ団」	銭函海水浴場	札幌エルプラザ公共4施設 指定管理者(公財)さっぽろ青少年女性活動協会	2024年9月15日
圓谷昂史	協力	事業への協力 (協力機関・ワークショップ出展)	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2024	札幌市青少年科学館	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	2024年10月5日
圓谷昂史	共催・協力	学芸員の派遣等の協力	海岸漂着物調査事業の協力・共催	【研修会場】 望来コミュニケーションセンターみなくる 【調査会場】 望来浜海水浴場	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	2024年10月10日
圓谷昂史	講師	レクチャー(北海道博物館の概要、教育プログラム、実践例など)、館内見学、質疑応答等	「教職実践演習」における博物館進捗授業	北海道博物館	北海道教育大学札幌校(理数教育専攻 理科教育分野)	2024年11月20日
久保見幸	協力	事業への協力 (協力機関・ワークショップ出展)	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2024	札幌市青少年科学館	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	2024年10月5日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼元	期日
久保見幸	講師	海の地層から考える北海道大地の成り立ち	海のミュージアムサポート事業 「海が作ったタイムカプセル『化石』」連続講座 ～恐竜・化石の大地北海道のひみつがわかる～	札幌市中央図書館	CISE ネットワーク代表	2024年11月30日
成田敦史	講師	化石採集、採取化石の観察、同定	ひがし大雪自然館 自然館講座 「糠平湖の植物化石」	糠平湖三の沢、糠平温泉文化ホール	ひがし大雪自然館運営協議会	2024年5月24日・25日
成田敦史	講師	植物化石や現代の植物の葉を用いて、植生の分布と現代の気候について理解する	2024年度植生観察学習（森林研修）	北海道札幌啓成高等学校	北海道札幌啓成高等学校	2024年6月14日
成田敦史	講師	科学部生徒（対象1名）への植物化石研究の指導と助言	科学部の研究活動に対する指導・助言	北海道札幌啓成高等学校 地学教室・物理教室、北海道博物館	北海道札幌啓成高等学校	2024年6月1日 ～2025年3月31日
成田敦史	講師	「炭都夕張の地質と三笠ジオパーク」	教科「SSH」の学校設定科目「地学野外観察」	夕張市内 石炭の大露頭、本町露頭、三笠市内 野外博物館周辺等	市立札幌開成中等教育学校	2024年8月24日
成田敦史	講師	地層と化石の観察および化石採集に関する巡検	SSH 国内（北海道）派遣研修	三笠市立博物館・野外博物館等	東京都立日比谷高等学校	2024年9月29日
成田敦史	講師	北海道の自然史について、北海道博物館の展示を通して学び、地学基礎で学習した内容の深化を図る	2024年度北海道の自然史学習（3年生）	北海道博物館	北海道立札幌啓成高等学校	2024年10月11日・16日
成田敦史	協力	事業への協力（協力機関・ワークショップ出展）	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2024	札幌市青少年科学館	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	2024年10月5日
成田敦史	講師	「化石と石炭の王国」北海道	海のミュージアムサポート事業 「海が作ったタイムカプセル『化石』」連続講座 ～恐竜・化石の大地北海道のひみつがわかる～	札幌市中央図書館	CISE ネットワーク代表	2024年11月30日
堀 繁久	講師	①名寄市周辺の昆虫調査に関するヒアリング ②特別展「なよろのむし」関連講演会	名寄市北国博物館第 50 回特別展「なよろのむし」 関連講演会	名寄市北国博物館	名寄市北国博物館	2024年8月23日・24日
堀 繁久	講師	展覧会「世界一美しい昆虫展」出品作品等に関する講演	「昆虫採集は自然科学の入口」とは	丸井今井札幌本店大通館	北海道新聞社	2024年8月13日
三浦泰之	講師	「松浦武四郎の紀行文に見る登別温泉」	日本温泉地域学会第 38 回研究発表大会	登別市観光交流センター スプル	日本温泉地域学会	2024年6月2日
三浦泰之	講師	「東北諸藩による幕末の蝦夷地警備」	仙台藩白老元陣屋資料館開館40周年記念特別展シンポジウム「全道陣屋跡の現状と課題～所在市町間における人と情報・史資料のネットワーク構築に向けて～」	白老町コミュニティセンター	白老町教育委員会	2024年7月28日
三浦泰之	講師	「なつかし映像でふりかえる1930年代から60年代の札幌」	令和6年度「中央区いきいき講座」	中央区民センター	札幌市中央区民センター運営委員会	2024年8月23日
三浦泰之	講師	南幌町開拓使	令和6年度 ふるさと南幌みらい塾（生涯学習講座）兼 南幌町さわやかカレッジ（高齢者大学）閉校式講話の講師	南幌町生涯学習センター 「ぼろろ」	南幌町教育委員会	2025年2月27日
鈴木琢也	講師	須恵器などからみた秋田城と北海道の関係および末期古墳	「ふるさと歴史講座」	江別市野幌公民館	江別市教育委員会	2025年2月22日
鈴木琢也	講師	「考古学から探る北海道の歴史～北海道をめぐる古代の交流・交易～」	「わたしの生き方セミナー～終活2025」セミナー	札幌市社会福祉総合センター	社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会	2025年4月23日
田中祐未	協力	美術資料の調査に際して専門的な知見の提供	上ノ国町史編さん事業に係る資料調査	上之国館調査整備センター、上ノ国町内の社寺等	上ノ国町教育委員会	2025年2月7日 ～2月9日
右代啓視	講師	「北方の歴史文化と人類活動史Ⅰ～V」（第一連続講座5回）	令和6年度高齢者市民講座	札幌市社会福祉総合センター、札幌市西区区民センター	札幌市社会教育協会	2024年7月11日、 9月12日、10月10日、 11月20日、 2025年2月12日
右代啓視	講師	「人類活動史と環境史を考える」	「苫小牧市博物館友の会」講演会の講師	苫小牧市美術館	苫小牧市博物館友の会	2024年10月27日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼元	期日
右代啓視	講師	「北方四島の歴史・文化と継承」(地域市民と地元小中学生)	令和6年度「北方領土問題研修会」の講師	根室市立歯舞学園、千島会館	千島歯舞諸島居住者連盟 根室支部	2025年2月14日
会田理人	講師	北海道や樺太のニシン漁やコンブ漁、生産された海産物の輸出と利用	第62回北海道高等学校教育研究大会地歴・公民部会世界史分科会講演の講師	北海道有朋高等学校	北海道高等学校教育研究会	2025年1月9日
会田理人	講師	北海道博物館の収蔵資料の管理と公開・活用について	シンポジウム「博物館収蔵コレクションの新たな価値創造—公開・活用の可能性を探る—」	法政大学市ヶ谷キャンパス	法政大学キャリアデザイン学部	2025年3月8日
山際秀紀	協力	産業資料の唐箕、その他についてのインタビュー	科研費プロジェクト「「民俗資料」の収集保存基準と検索名称の開発:工場部品から日記まで」への協力	北海道博物館	研究代表者	2024年5月31日 ~2025年3月31日
尾曲香織	講師	「写真で振り返る北海道の暮らしの歴史」	美幌博物館 博物館講座	美幌博物館	美幌博物館	2024年5月25日
尾曲香織	協力	生活資料のミシン、オルガン、その他についてのインタビュー	科研費プロジェクト「「民俗資料」の収集保存基準と検索名称の開発:工場部品から日記まで」への協力	北海道博物館	研究代表者	2024年5月31日 ~2025年3月31日
尾曲香織	講師	「写真をおとして時代の変遷を学ぶ(北海道の戦中、戦後の暮らしの移り変わり)」	令和6年度 町民講座(仮) フィルムの記憶 ~北海道暮らしの歴史~	栗山煉瓦創庫くりふと	栗山町教育委員会	2024年10月22日
尾曲香織	講師	「モノから人を知る—博物館資料と聞き書き」	十勝管内博物館学芸職員等協議会研修会	帯広百年記念館	十勝管内博物館学芸職員等協議会	2024年10月7日
尾曲香織	講師	「北海道の食文化」	令和6年度(2024年度) 初任段階茶養教諭等研修(3年次)	かでの2.7	北海道教育庁	2024年10月18日
尾曲香織	講師	「北海道の行商あれこれ」	博物館講座の講師	帯広百年記念館	帯広百年記念館	2025年2月15日
青柳かつら	協力	・総合展示のねらいや目的について ・現在実施されている来館者調査について ・調査計画について	修士研究に向けた予備調査	北海道博物館	北海道大学大学院文学研究院 博物館学研究室	2025年1月24日
櫻井万里子	協力	館内の全体調整及び関連資料の提供	科研費プロジェクト「「民俗資料」の収集保存基準と検索名称の開発:工場部品から日記まで」への協力	北海道博物館	研究代表者	2024年5月31日 ~2025年3月31日
鈴木明世	講師	北海道遺産『江別のレンガ』をめぐる	令和6年度「女性建築士の集い」	北海道博物館	一般社団法人 北海道建築士会	2024年9月7日
鈴木明世	専門的知識の提供	実測調査及び写真記録等への協力	三笠市炭鉱遺産調査	三笠市内(旧幌内炭鉱跡)	日本建築学会北海道支部 歴史意匠専門委員会	2024年9月28日~30日
鈴木明世	講師	視覚、触覚による建物構造の把握や奥尻の歴史的建造物について	令和6年度おくりチャレンジスクール「みて・さわって感じる建物のちがひ」	奥尻町海半研修センター	奥尻町教育委員会	2024年10月19日
鈴木あすみ	協力	当館の資料情報管理に関する全般的事項についてのインタビュー	科研費プロジェクト「「民俗資料」の収集保存基準と検索名称の開発:工場部品から日記まで」への協力	北海道博物館	研究代表者	2024年5月31日 ~2025年3月31日
高橋佳久	講師	「動物保護と文化財保存の専門家が語る未来へのまなざし」	北海道大学「プラス・ミュージアム・プログラム」となるのしほふ5	北海道大学オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」メインラウンジ	北海道大学大学院	2024年12月1日
小川正人	講師	展示等について 案内及び解説	全国都道府県史協議会の開催に伴う展示室の見学について(依頼)	北海道博物館	総務部行政局	2024年9月6日
小川正人	講師	講義4「アイヌ民族とキリスト教伝道の歴史」	「連続講座 アイヌ民族とキリスト教」	北海道大学学術交流会館	日本聖公会北海道教区	2024年9月9日
小川正人	講師	北海道博物館総合展示・第2テーマ「アイヌ文化の世界」に関する紹介・説明	「アイヌ・先住民入門Ⅱ」エクスカーション	北海道博物館	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	2024年12月14日
小川正人	協力	・総合展示のねらいや目的について ・現在実施されている来館者調査について ・調査計画について	修士研究に向けた予備調査	北海道博物館	北海道大学大学院文学研究院 博物館学研究室	2025年1月24日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼元	期日
小川正人	講師	アイヌの歴史と文化について	「アイヌ文化でつながる博物館ネットワーク」協働PR イベント	京都国立博物館 明治古都館	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2025年3月22日
遠藤志保	パネリスト	シンポジウムへのパネリスト	2024年度北翔大学公開講座 X 北翔大学・平取町包括連携協定記念シンポジウム「アイヌの伝統文化と歴史から学ぶこれからの私たちの未来のつくり方」パネリスト	北翔大学	北翔大学	2025年2月8日
亀丸由紀子	講師	北海道博物館総合展示・第2テーマ「アイヌ文化の世界」に関する紹介・説明	「アイヌ・先住民入門II」エクスカーション	北海道博物館	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	2024年12月14日
亀丸由紀子	協力	・総合展示のねらいや目的について ・現在実施されている来館者調査について ・調査計画について	修士研究に向けた予備調査	北海道博物館	北海道大学文学院文学研究 院 博物館学研究室	2025年1月24日
甲地利恵	講師	アイヌ音楽 (の概要) について	第24回日本音楽療法学会学術大会	札幌コンベンションセンター	第24回日本音楽療法学会 学術大会 実行委員会	2024年9月28日
2024年度職員派遣（館内からのオンライン参加） 2件						
氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期日	
成田敦史	講師	古生物学者の仕事	令和6年度3年次地学オンライン特別授業	北海道伊達開来高等学校	2024年11月14日 ・15日	
吉川佳見	講師	アイヌ語における時間表現	立命館大学「移動・空間・時間研究会（いくじ研）」における講演	立命館大学大学院 文学研究科	2024年9月24日	

③職員の外部執筆協力（広報記事等をのぞく）

2024年度職員の外部刊行物等への執筆協力 13件

執筆者	タイトル等	出典	出版社・発行者	発行月日	ページ
水島未記	「野生動植物と博物館」	モーリー通信4号	公益財団法人北海道新聞野生生物基金	2025年7月	32-34
成田敦史	教材の執筆・助言・校閲等 (地史学・古生物学分野を中心とした分野)	高等学校理科教材 『ニューサポート改訂 地学基礎』	東京書籍株式会社	2026年3月 出版予定	72p.
鈴木琢也	「北海道の須恵器」	『蝦夷と古代須恵器』	有限会社高志書院	2025年3月	271-289
鈴木明世	開拓使時代の北海道遺産 (札幌市)	広報誌『文化情報』402号 「シリーズ伝える 北海道遺産」	一般財団法人北海道文化財保護協会	2025年1月	
小川正人	アイヌ民族の近現代史に関する理解のあり方について	月刊誌『ヒューマンライツ』 2024年7月号	一般社団法人部落解放・人権研究所	2024年7月	2-10
小川正人	倭人の移住とアイヌの生活の関わり、特設学校で学ぶ、辺泥五郎	『アイヌ文化事典』	丸善出版株式会社	2026年6月 出版予定	
大坂 拓	〔書評〕 朝倉有子編著『漆器からみるアイヌの社会と文化』	『弘前大学國史研究』第157号	弘前大学國史研究会	2024年12月	49-52
大坂 拓	近代に噴火湾沿岸地域で撮影された写真や文献資料の分析を通し、当時のアイヌの生活と置かれていた状況や暮らしの変化、そしてその歴史的背景を明らかにする。	写真が語るアイヌの近代	新泉社	2025年3月	208p.
大坂 拓	二谷国松、渡島（八雲・長万部、箱館）・桧山、石狩（札幌・恵庭・千歳・江別）・後志（小樽・余市・岩内）	『アイヌ文化事典』	丸善出版株式会社	2026年6月 出版予定	
吉川佳見	アイヌ語のデータ提供として「特集補遺データ」に掲載	『語学研究列論集』第29号	東京外国語大学 語学研究所	2025年3月	13p.
吉川佳見	時間表現	『アイヌ文化事典』	丸善出版株式会社	2026年6月 出版予定	
甲地利恵	'Ainu Polyphony' (tentative title) (『アイヌポリフォニー』(仮題))	"Polifonia Mundi" (「ポリフォニア・ムンディ」: 「世界ポリフォニー百科事典」)	Dr. Joseph JORDANIA Editor-in-Chief of the "Poliphonia Mundi: Encyclopaedia of World Polyphony"	2026年 出版予定	
甲地利恵	さまざまな舞踊	『アイヌ文化事典』	丸善出版株式会社	2026年6月 出版予定	

④その他の対外貢献

2024年度その他の対外貢献 5件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
久保見幸	運営補助	事務局業務	第62回北海道博物館大会	函館市民会館	北海道博物館協会	2024年7月10日 ～12日
成田敦史	運営補助	事務局業務	第62回北海道博物館大会	函館市民会館	北海道博物館協会	2024年7月10日 ～12日
成田敦史	運営補助	運営補助	2024年度 ミュージアムマネージメント研修会	新さっぽろアークシティホ テル、札幌市青少年科学館	北海道博物館協会	2024年12月4日・ 5日
会田理人	運営補助	事務局業務	第62回北海道博物館大会	函館市民会館	北海道博物館協会	2024年7月10日 ～12日
山際秀紀	運営補助	運営補助	2024年度 ミュージアムマネージメント研修会	新さっぽろアークシティホ テル、札幌市青少年科学館	北海道博物館協会	2024年12月4日・ 5日

(5) 外部機関との事業連携

当館の利用促進、及び北海道の自然・歴史・文化や博物館活動の普及啓発に寄与する他機関・他団体主催の諸事業へのさまざまな協力を行っている。

2024年度他機関との連携・協力 8件

種別	事業名	主催・団体等	開催日・期間	会場・内容等
参画	第10期あつべつ区民協議会	厚別区役所地域振興課	2024年6月～2025年6月	委員の就任
参画	第10期あつべつ区民協議会 「第3回全体会議」	厚別区役所地域振興課	2024年6月27日	厚別区民センター
参画	三笠ジオパーク推進協議会	三笠市役所商工観光課 (三笠ジオパーク推進協議会)	2015年4月24日～	当館は正会員
出展	第10回CISEサイエンス・フェスティバル in チ・カ・ホ	一般社団法人ちせ	2025年1月9日・10日	札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)
参画	令和6年度生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク会議	生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク	2024年6月25日～7月29日	ネットワーク会議 (書面開催)
協力	「みんなおいでよ！恐竜・化石大冒険まっかいどう」(北海道フェア)	北海道恐竜化石・ネットワーク研究会 (所管：総合政策部地域創生局地域政策課)	2024年7月6日～7日	イオンレイクタウンmori
協力	小林先生プレミアム授業 恐竜・化石まっかいどう in 2024	北海道恐竜化石・ネットワーク研究会 (所管：総合政策部地域創生局地域政策課)	2024年8月24日～10月20日	北海道博物館(総合受付、グランドホール、1階・2階情報デスク、はっけん広場)
協力	特別企画展「はっけん！恐竜・化石大冒険まっかいどう 海の化石ミュージアム」	北海道恐竜化石・ネットワーク研究会 (所管：総合政策部地域創生局地域政策課)	2024年10月1日～12月8日	AOAO SAPPORO

(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

①研究・公表の推進

「北海道総合計画」(2016～2025年度)の政策の方向性「北海道独自の歴史・文化の発信と継承」の実現に向け、調査研究活動とそれに伴う展示活動、教育普及活動、研究成果発信活動等を実施した。

※ 詳細は「2 展示」、「3 調査研究」、「5 教育普及」、「14 研究成果の発信」を参照。

②アイヌ文化の保存・伝承と振興の推進

※ 詳細は「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照。

③樺太記憶継承事業の展開計画の作成

※ 詳細は「3 調査研究」の「樺太記憶継承事業」を参照。

④野幌森林公園エリア活性化事業の実施計画の作成

※ 詳細は「16 4つのビジョン」を参照。

14 研究成果の発信

学芸職員（学芸員・研究職員）の個別研究課題、道費による研究プロジェクト、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の自然・歴史・文化および博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めている。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行っている。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画／重点④】収集した樺連資料（樺太；サハリンに関わる資料）の調査研究結果の発信 【(1)】各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討。
一般	(1) 学術刊行物などの刊行 【ア】 『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回） 【ア】 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回） 【イ】 職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討 (2) 学会への発信 ・ 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進 [年間 35 件程度] ・ 学会、研究会等での発表推進 [年間 20 件程度]

【重点計画】

○収集した樺連資料（樺太；サハリンに関わる資料）の調査研究結果の発信

樺太（サハリン）に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進の一環として、樺連資料の調査研究結果の発信に努めた。

○各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討

『研究紀要』掲載の論文等について、PDF ファイルを当館ウェブサイト上に配置し、研究成果を普及した。また、各学芸職員の研究業績を researchmap に掲載し、研究情報の発信・普及を行った。

【一般計画】

(1) 学術刊行物などの刊行

当館では、研究成果の定期刊行物として、『北海道博物館研究紀要』、および『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を毎年1回発行している。

定期刊行物

- ・ 『北海道博物館研究紀要』3月刊行、900部
- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3月刊行、900部

①研究紀要の編集・刊行

『北海道博物館研究紀要』第10号及び『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第10号の2冊について、編集と刊行を行った。

『北海道博物館研究紀要』第10号（2025年3月発行）

種別	執筆者	タイトル	ページ
研究ノート	久保見 幸・長田充弘	北海道蝦夷層群函淵層の広域層序対比—層序・化石相・年代からの再検討—	1-22
研究ノート	鈴木明世	北海道開拓記念館（現・北海道博物館）の建築にみられる建築家・佐藤武夫の設計意図	23-46
研究ノート	高橋佳久	ニューハクシミに対する簡便な物理的防除方法の効果検証	47-54
調査報告	水島未記・白石英才・丹菊逸治・山田祥子・Martijn Knapen	サハリンの民族植物学：現代の視点から見た『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』1 ～シュミットが報告した先住民族の植物名称～	55-84
調査報告	成田敦史・池田武史・鈴木龍夫・三松三朗・廣瀬 亘	北海道有珠郡吐留町の昭和新山から産出した植物化石	85-92

種別	執筆者	タイトル	ページ
調査報告	尾曲香織・石子智康	樺太引揚者のライフストーリー ―その1―	93-102
調査報告	高橋佳久	ATP ふき取り 検査による北海道博物館収蔵庫内の清浄度調査	103-108
調査報告	堀 繁久・伊藤直哉	野幌森林公園のケンキスイ (甲虫目)	109-130
調査報告	久保見幸・加瀬善洋・圓谷昂史・成田敦史・ 畠 誠・鈴木明彦	北海道北広島市西の里で新たに発見された第四系の堆積相 (速報)	131-140
調査報告	圓谷昂史・福田利幸・二杉佳克・柿野悠花・ 鈴木明彦	2023年に北海道余市湾沿岸に漂着したアオイガイの飼育記録	141-148
調査報告	東 俊佑	『蝦夷島奇観』写本の研究 (二)	149-184
資料紹介	田中祐未	吉田初三郎と印刷所本『旭川市』「旭川市大鳥瞰図」(1936年)	185-214
博物館活動報告	堀 繁久・神 真琴・水島未記・表 溪太	野幌森林公園のバッタ観察会で観察されたバッタ目の変化	215-226
博物館活動報告	圓谷昂史・久保見 幸・成田敦史・畠 誠	野幌丘陵の第四系堆積物を用いた地学教材の開発と実践	227-238
博物館活動報告	成田敦史・圓谷昂史・久保見 幸	連続講座「ちやれんが地学講座」の実践報告	239-252
資料紹介	東 俊佑・三浦泰之・ ちやれんが古文書クラブ	北海道博物館所蔵の林梅家資料 (四)	253-270

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第10号(2024年3月発行) 1件

種別	執筆者	タイトル	ページ
資料紹介	亀丸由紀子	アイヌ・ウイルトの布製小物類(ほか)について ―北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理報告2―	1-95

②学術刊行物の刊行検討

職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等の刊行について、科学研究費の「研究成果公開促進費」の獲得などを視野に入れながら、次年度以降も継続的に検討することとした。

(2) 学会への発信

①学会・研究会等での発表(研究成果の自主的な発表)

2024年度学会・研究会での発表 15件

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場	備考
高橋佳久	ニューハクシミに対する簡便な物理的防除方法	文化財保存修復学会第46回大会	2024年6月23日	帝京大学 八王子キャンパス	ポスター発表
鈴木明世, 金子晋也, 小林 孝二, 駒木定正, 武田明純, 西澤岳夫	北海道小樽市における戦後建築に関する調査研究 2023年度調査報告: 特に小樽中央卸市場について	日本建築学会北海道支部第96回研究発表会	2024年6月29日	室蘭工業大学	
高橋佳久	ニューハクシミに対する簡便な物理的防除方法	第62回北海道博物館大会	2024年7月11日	函館市民会館 小ホール	ポスター発表
SHIRAI SHI Hidetoshi, MIZUSHIMA Miki, TANGIKU Itsuji, YAMADA Yoshiko, and Martijn KNAPEN	Ethnobotany on Sakhalin: 19th century and present	Linguistic Prehistory and Ecology in the Northern Pacific Rim	2024年8月24日	Volkshaus Jena (ドイツ・イェーナ市)	水島はオンライン参加
谷口生貴斗	農耕儀礼から捉える歴史の内面化―福岡県糸島市O家におけるウシサマを事例に―	第20回歴史民俗学研究会	2024年8月31日	オンライン	口頭発表
鈴木あすみ, 佐々木基樹, 小藪大輔, 川田伸一郎, 押田龍夫	真無盲腸目の左右非対称胸椎の窩状構造内を走行する静脈に関する研究	日本哺乳類学会2024年度大会	2024年9月7日	神戸県立大学 神戸商科キャンパス	
久保見 幸・長田充弘・仁木創太・平田岳史	ジルコン年代学と化石相からみる蝦夷層群函淵層の層序対比の再検討	日本地質学会第131年学術大会	2024年9月8日	山形大学 小白川キャンパス	
鈴木あすみ	道内の博物館における小型哺乳類の収集状況(予報)	北海道博物館協会学芸職員部会第48回研修会	2024年9月26日	東京農業大学オホーツクキャンパス	ポスター発表
鈴木琢也	擦文文化期の交流・交易	日本貿易陶磁研究会 第44回研究集会	2024年10月13日	北海道博物館	

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場	備考
圓谷昂史, 東 飛郎, 舛田千依, 下間孝洋, 林 絵理, 小杉美咲, 平田智也	海岸漂着物を教材とした市民向け バスツアーの実践	第 23 回漂着物学会	2024 年 10 月 19 日	島根県隠岐の島町 立隠岐島文化会館	
鈴木琢也	3 年間の共同研究について	国立歴史民俗博物館・基幹研究 2024 年度第 3 回研究会	2024 年 12 月 26 日	北海道大学アイヌ ・先住民研究セン ター	
成田敦史, 乙幡康之	北海道糠平地域の上部中新統から 産出したチョウノスケソウ類縁葉 化石	日本古生物学会 第 174 回例会	2025 年 1 月 25 日	オンライン	全面オンラ イン実施
奥田統己	アイヌ語のわたり音と母音連続	北海道方言研究会第 242 回例会	2025 年 1 月 26 日	札幌市北区民セン ター	
圓谷昂史	北海道の海岸漂着物を教材とした 海洋教育の取り組み	日本海洋教育学会第 2 回大会	2025 年 3 月 9 日	東京大学本郷キャン パス理学部 1 号 館	
鈴木あすみ	北海道内の博物館における小型哺乳類 コレクションの収集傾向に関する 研究	第 72 回 日本生態学会大会	2025 年 3 月 17 日	札幌コンベンション センター	ポスター 発表

※ 外部機関等からの依頼による発表等は、「13 人材育成機能の強化と社会貢献」の「②職員の派遣」を参照。

②学術雑誌等への投稿（研究成果の自主的な発表）

2024 年度学術雑誌などへの投稿 20 件

執筆者	タイトル	出典	出版者・発行者	発行日	ページ
青柳かつら	資料 1：（研究事例）地域での取 り組み：高齢者の地域知を活用 した地域学習	自然とともに生きる 森林教育学	海青社	2024 年 6 月	317-424
武田明純, 小野寺一彦, 金子晋也, 駒木定正, 鈴木明世, 西澤岳夫	三笠市炭鉱遺構群の調査研究 (3) 旧北炭幌内炭鉱の選炭機の現況 と復元的考察	日本建築学会北海道支部研究報告 書 No. 97	一般社団法人日本建 築学会北海道支部	2024 年 6 月	453-456
小川正人	アイヌ民族の近現代史：どう学 び、受け止めるべきか	『ヒューマンライツ』436 号	部落解放・人権研究 所	2024 年 7 月	2-10
表 溪太	博物館標本から希少種の過去を取 る ：鳥類の保全遺伝学	種生物学会和文誌「タイムカプセル の開き方：博物館標本が紐ぐ 生物多様性の過去・現在・未来」	文一総合出版、 種生物学会編	2024 年 10 月	33-48
青柳かつら	林業史と高齢者の地域知を活か した地域学習プログラムの開発 ー士別市朝日町の事例ー	ウッディエイジ(854)	一般社団法人 北海 道林産技術普及協会	2024 年 10 月	4-7
大坂 拓	1876 年奥羽巡幸の奉迎に立った アイヌの姿ー「対雁に移る途上、 小樽に上陸した権太アイヌー行」 説の訂正ー	札幌博物館研究会誌 (2024)	札幌博物館研究会	2024 年 11 月 27 日	1-21
大坂 拓	〔書評〕浅倉有子編著『漆器から みるアイヌの社会と文化』	弘前大学國史研究	弘前大学國史研究会	2024 年 12 月	49-52
谷口生貴斗	3 代目が語る教員 3 代のイエー旧 宮崎町 A 家におけるイエと屋敷 の歴史ー	フィールドへようこそ！ 2023 加 美宮崎の民俗 宮城県加美郡加美 町宮崎地区	筑波大学民俗学研究 室	2025 年 2 月 28 日	12-22
氏江敏文・鈴木琢也・高 嶋孝宗・北海道枝幸高 等学校	目梨泊遺跡試掘調査報告 (2024)	枝幸研究 第 16 号	オホーツクミュージ アムえさし	2025 年 3 月	11-22
鈴木琢也	北海道の須恵器	『古代蝦夷と須恵器ー北東北・北 海道ー』(論文集)	高志書院	2025 年 3 月	271-289
小川正人	現代北海道政治史の中のアイヌ 民族	『北海道現代史 資料編 (政治・ 行政)』	北海道	2025 年 3 月 24 日	933-945
大坂 拓	写真が語るアイヌの近代 「見せ る」「見られる」のはさま		新泉社	2025 年 3 月 25 日	刊行物

執筆者	タイトル	出典	出版者・発行者	発行日	ページ
大坂 拓	近代初頭の石狩川河口域におけるアイヌの鮭漁場 ―黒田清隆の指示による大網導入とそれに起因する経営破綻を中心として―	北方人文研究 (18)	北海道大学大学院文学研究院北方研究教育センター	2025年3月31日	19-41
吉川佳見	アイヌ語沙流方言におけるモダリティ	語学研究所論集 (29)	東京外国語大学語学研究所	2025年3月31日	オンライン公開
圓谷昂史・鈴木明彦	2023年秋季における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着	漂着物学会誌	漂着物学会	2025年3月	30-31
圓谷昂史・鈴木明彦	2023年秋季における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着	漂着物学会誌	漂着物学会	2025年3月	30-31
田中祐未	栗山町の角田神社奉納額―大正期における旧佐倉藩関係者の動向を手がかりに―	北方人文研究 (18)	北海道大学大学院文学研究院北方研究教育センター	2025年3月	253-261
田中祐未	吉田初三郎が描いた旭橋	北方人文研究 (18)	北海道大学大学院文学研究院北方研究教育センター	2025年3月	1-17
奥田統己	アイヌ語のわたり音と母音連続	『北海道方言研究会 50周年記念論集 生活語の半世紀』	北海道方言研究会	2025年3月	40-45

※ 外部機関等からの依頼によるものは、「13 人材育成機能の強化と社会貢献」の「③職員の外部執筆協力」を参照。

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

1994（平成6）年6月、北海道は、貴重な財産であるアイヌ文化について、伝承者の高齢化等が進むなか、道の責務として総合的・体系的な研究を行い、その成果の普及等を図りアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、北海道立アイヌ民族文化研究センターを設立した。開設後は、アイヌ民族の言語、芸能、伝統的生活技術、歴史などの分野について、「調査研究やその成果の普及事業」「情報収集及び提供事業」「研究支援事業」の3つの柱により事業を展開してきた。また、北海道開拓記念館でも、アイヌ民族の民具等の資料の収集と調査研究、展示を進めてきた。

2015（平成27）年4月の北海道立アイヌ民族文化研究センターと北海道開拓記念館との統合による当館の開設後は、当館の内部組織としてアイヌ民族文化研究センターを置き、アイヌ民族の歴史や有形・無形の文化に関するさまざまな事業の中心を担うことを主な業務としている。

活動実績

年度計画

重点	【中期目標・計画/重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み
一般	<p>(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及</p> <p>〈調査研究〉</p> <p>【ア】 【イ】 アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進 [道費による研究：2課題]</p> <p>【ア】 【イ】 北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進</p> <p>【ア】 【イ】 日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進</p> <p>【中期目標・計画/重点④】 権太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「権太記憶継承事業」の推進</p> <p>〈資料の収集と整理・公開〉</p> <p>【イ】 アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進</p> <p>【ウ】 採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施（諸手続含む）</p> <p>【イ】 【エ】 アイヌ文化関係資料のデジタル化・情報発信の促進</p> <p>〈研究成果の発信と普及〉</p> <p>【エ】 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集計画の策定と投稿の奨励・推進</p> <p>【エ】 館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み</p> <p>【エ】 当館における企画展示の立案・実施に向けた検討（※館全体での計画策定の中で検討を進める。）</p> <p>【エ】 当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新</p> <p>【エ】 道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催（広尾町での開催を検討）</p> <p>【エ】 アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』（全9巻）の増刷・配布 [都度実施]</p> <p>【エ】 広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」等を通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信</p> <p>(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援</p> <p>【ア】 アイヌ文化に関する学術情報（収蔵資料データ、調査データ、文献情報等）の集約</p> <p>【ア】 「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信</p> <p>〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉</p> <p>【イ】 市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地から助言・支援・協力等</p> <p>【ア】 国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画</p>

【重点計画】

○ ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み【再掲】

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」（愛称ブンカラ）は、アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進やさまざまな事業の活性化を図るための、国立アイヌ民族博物館並びに国内外の博物館によるネットワーク組織である（主催：国立アイヌ民族博物館）。当館は、2021（令和3）年1月からネットワークに参加し、アイヌ民族文化研究センターを中心に、国立アイヌ民族博物館との連携を強め、北海道内の博物館との意見交換や各種事業への協力・協働などを行った。

- ・国立アイヌ民族博物館ネットワーク（愛称ブンカラ）への加盟（運営委員）
- ・国立アイヌ民族博物館運営委員会及び同展示ワーキング会議及び学術交流ワーキング会議の委員への就任・派遣
- ・国立アイヌ民族博物館による展示事業への協力（資料貸出等）

【一般計画】

(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及
 〈調査研究〉

○アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進 2件

①北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用の促進			継続
研究期間	2020年度～2024年度（5年間）		
研究代表者	遠藤志保（アイヌ民族文化研究センター研究主査）	メンバー	小川正人、大坂 拓、亀丸由紀子、吉川佳見、大谷洋一、甲地利恵、佐々木利和、奥田統己（アイヌ文化研究グループ）
研究概要	博物館事業の基礎である収蔵資料の整理と公開を着実に進めるとともに、資料の分析や背景・関連情報の調査を行い、資料情報の発信と資料の利活用の促進を図る。さらに、これらの成果をもとに新たな研究テーマの検討や策定などに繋げる。		
2024年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・音声資料、文書資料の公開計画の策定に基づく公開準備を進めた（アイヌ語筆録ノート等のデジタル化、録音資料の公開に向けた内容整理等）。 ・民具資料の写真撮影を進めた（蝦夷錦及び漆器の撮影）。 ・前年度までに新たに受け入れた資料のクローズアップ展示での紹介及び当年度に新たに受け入れた資料の研究紀要における紹介を継続して実施した。 ・第23回企画テーマ展（北海道のお葬式）、第24回企画テーマ展（楽器）において研究成果の一部を展示に活用した。 		
②アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト			継続
研究期間	2020年度～2024年度（5年間）		
研究代表者	大坂 拓（アイヌ民族文化研究センター学芸主査）	メンバー	小川正人、遠藤志保、亀丸由紀子、吉川佳見、大谷洋一、甲地利恵、佐々木利和、奥田統己（アイヌ文化研究グループ）
研究概要	言語・文学、芸能、民具・生活技術、歴史の分野別・個別の研究及び分野横断的・総合的な研究を実施し、各専門分野における諸問題の解明に取り組むことを通じて、広くアイヌ語・アイヌ文化・アイヌ史の研究を進め、アイヌ文化の振興にアイヌ民族文化研究センターとして寄与することを目指す。各課題の実施においては、もう一つのプロジェクト（北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用の促進）で整備された資料の利活用も積極的に行う。		
2024年度活動概要	言語・文学、芸能、民具・生活技術、歴史の分野について、調査・研究を行い、その成果を『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』10号及び学会誌等で発表した。また大坂 拓『写真が語るアイヌの近代』を刊行した。		

○北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進

研究プロジェクト名	研究期間	参画メンバー
北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト「北海道とサハリン」	2020年度～2024年度	【暫定】小川正人・大谷洋一・遠藤志保・大坂 拓・亀丸由紀子
北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト「寒冷地の自然と適応」	2018年度～2022年度 ※研究期間更新に向け、ロイヤルアルバータ博物館と協議中	甲地利恵・亀丸由紀子

※ 各研究プロジェクトの詳細は「3 調査研究」を参照。

○日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進

2024年度アイヌ民族文化研究センター職員による外部資金を活用した調査研究 4件（再掲）

種別	研究課題名	研究期間	研究メンバー
日本学術振興会科学研究費	アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査 [基盤研究(C)]	2018年度～2024年度（期間再延長）	甲地利恵（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	博物館収蔵アイヌ民具資料の考古学的手法による分析：移入品としての漆器を対象として [基盤研究(C)]	2022年度～2025年度	大坂 拓（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	考古学的手法を導入した移入品アイヌ民俗資料の基礎的研究—耳飾りと首飾りを題材に [基盤研究(C)]	2023年度～2026年度	亀丸由紀子（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	在ドイツのアイヌ・コレクションの調査研究 [基盤研究(C)]	2024年度～2027年度	大坂 拓（研究分担者）

○調査研究の成果を踏まえた事業展開

- ・アイヌ文化巡回展開催にあわせた開催地および近隣での資料調査とその成果の活用。
- ・調査研究プロジェクトの成果の展示等への展開（当館企画展示、クローズアップ展示、総合展示の更新など）

〈資料の収集と整理・公開〉

○資料の収集と整理

- ・これまでの未整理資料の整理作業を継続、新たに収集した資料について整理を進めた。
- ・研究紀要に「〔資料紹介〕 アイヌ・ウイльтаの布製小物類ほかについて ―北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理報告 2―」を掲載（『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第10号）

※ 【再掲】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第10号（2024年3月発行） 1件

種別	執筆者	タイトル	ページ
資料紹介	亀丸由紀子	アイヌ・ウイльтаの布製小物類ほかについて ―北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理報告 2―	1-95

○採録資料等の公開

アイヌ語、口承文芸、伝統的な生活や歴史的な出来事などについて、伝承者や体験者からの聞き取り等によって記録された資料（録音、録画、写真、筆録など）は、アイヌ文化の調査研究や継承にとって、たいへん貴重である。一方で、これらの資料には、著作権やプライバシーなどに対する慎重な配慮が必要である。博物館が収蔵する資料は、公共財として速やかに利用に供することが基本であるものの、採録資料等については、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検し、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、承諾を得てから公開することとしている。公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成し、もとの資料の保存を図るとともに、プライバシー等の事由により非公開とすることとした部分の削除等の処理を行い、関係者の権利が侵害されるおそれがないようにしている。

2024年度の採録資料の新たな公開は写真資料1件のみであったが、資料の公開手続に基づく関係者との協議の実施のほか、2025年度以降の公開に向けた準備を進めた。

種別		2024年度までに 公開準備を終えた点数
音 声 像 資 料	当館（アイヌ民族文化研究センター）採録・複製資料（職員による採録など）	306 (265)
	山田秀三文庫	91 (64)
	久保寺逸彦文庫	77 (112)
	小計	448 (441)
文 書 資 料	山田秀三文庫	102 (—)
	久保寺逸彦文庫	26 (—)
	小計	112 (—)
写 真 資 料	久保寺逸彦文庫	483 (—)
合計		1,043

〈研究成果の発信と普及〉

○『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』（第10号）の編集計画の策定と投稿の奨励・推進

※ 詳細は「14 研究成果の発信」を参照。

○館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み

①館内実施の教育普及事業 11件
○アイヌ語講座 <ul style="list-style-type: none"> ・「アイヌ語講座 きほんのキ」①～④（吉川佳見）
○ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめての「トンコリ」体験」（4回実施、甲地利恵） ・「シカ笛をつくろう！」（甲地利恵、表 溪太（自然研究））
○ミュージアムカレッジ <ul style="list-style-type: none"> ・「お葬式に関する「モノ」から読み取るアイヌ民族の近代」（大坂 拓） ・「イオマンテカイヨマンテカーアイヌ語の「わたり音」を再考する」（奥田統己） ・「オンラインで楽しむアイヌ語」（初級編）（吉川佳見） ・「オンラインで楽しむアイヌ語」（中級編）（吉川佳見）
○ミュージアムトーク <ul style="list-style-type: none"> ・「じっくり見てみよう！アイヌのお葬式の道具」（大坂 拓） 2024年11月23日（土・祝）

<ul style="list-style-type: none"> ・「じっくり見てみよう！アイヌの装身具」 (亀丸由紀子) 2025年1月13日(月・祝) ・「企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える 解説」(全4回)(甲地利恵) 	
○特別イベント	
<ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー&コンサート(仮)「じっくり聴こう！アイヌ音楽」(レクチャー：甲地利恵) 	
※ 詳細は「5 教育普及事業」を参照。	
②アイヌ文化巡回展関連講座 2件	
第18回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」関連講座	
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会「山田秀三と広尾」(6月12日(水))、会場：広尾町児童福祉会館、担当：小川正人 ・講演会「沼田武男が遺したアイヌ語十勝方言資料」(6月18日(火))、会場：広尾町児童福祉会館、担当：吉川佳見 	
③対外派遣	
各種委員等 15件	詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。
非常勤講師 4件	詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。
招待講演(講座・講演会)等への職員派遣 7件	詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。
学術的な協力(指導助言等) 2件	詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。
④その他館内における対外貢献	
学校団体へのグループレクチャー 20件	「アイヌ文化の世界」のレクチャー。詳細は「5 教育普及事業」を参照。
外部機関からの協力案件 1件	詳細は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」を参照。

○当館における企画展示の立案・実施

2024年度 2件

展示会名称	会期	参画メンバー
第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」	2024年10月26日(土) ～2025年1月13日(月・祝)	尾曲香織(生活文化研究)、大坂 拓、亀丸由紀子
第24回企画テーマ展「楽器一見る・知る・考える 北海道博物館資料+榎谷隆男コレクション」	2025年2月8日(土) ～4月6日(日)	甲地利恵、亀丸由紀子、吉川佳見、尾曲香織(生活文化研究)、 谷口生貴斗(生活文化研究)、表 溪太(自然研究)

※ 詳細は「2 展示」を参照。

○当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新

①総合展示室第2テーマにおける展示資料の入れ替え

2024年度 [延べ6点]

・衣服 (1回)、文書資料 (1回)、楽器 (1回) の入替え、および入替え計画の作成

②クローズアップ展示コーナーの更新 [年間6回、延べ8回]

場所	テーマ	展示期間	主なメンバー
第2テーマ	アイヌの子どもの遊び歌 一年寄りカラスはどうした？	2023年度～4月11日 (木)	大谷洋一
	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	4月12日 (金) ～8月8日 (木)	亀丸由紀子
	【特別展関連】 「開発」とアイヌのくらしー消えたサノイベの集落ー	8月9日 (金) ～12月18日 (水)	大坂 拓
	「北海道立アイヌ民族文化研究センター」の21年 ～開設30周年から振り返る～	12月21日 (土) ～2025年4月10日 (木)	小川正人、大谷洋一、 甲地利恵、奥田統己
	モノから見るアイヌ文化ー首飾りのいろいろ	2023年度～4月11日 (木)	亀丸由紀子
	文字に記されたアイヌ語ーアイヌ自身によるアイヌ語の表記 (1)ー	4月12日 (金) ～8月8日 (木)	吉川佳見、遠藤志保
	【特別展関連】 測量技師・川村カ子トと駅員・森竹竹市の活動 北海道博物館が所蔵するトンコリ	8月9日 (金) ～12月18日 (水) 12月21日 (土) ～2025年4月10日 (木)	小川正人 甲地利恵

※ 詳細は「2 展示」を参照。

○道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催

開催地の博物館・自治体等と連携・協力して、地域的なバランスや開催地の要望を踏まえながら、「地名」などを主なテーマとした「アイヌ文化巡回展」を開催するとともに、アイヌ文化を紹介する関連講座等も実施している。

2024年度のアイヌ文化巡回展 (1件)

第18回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」	
会期(開催日数)	2024年6月12日(水)～6月26日(水) (15日間)
会場	広尾町児童福祉会館
主催	北海道博物館・広尾町教育委員会
観覧者数	299人
観覧料	無料
関連行事	※詳細は前掲「館内外における教育普及事業」の「①アイヌ文化巡回展関連講座」を参照

○アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』 (全1～9巻) の増刷・配布

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子(アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』)を、毎年1冊ずつ発行した。北海道博物館においても、引き続き『ボン カンピソシ』の活用・配布につとめている。北海道博物館ウェブサイトには、各巻の最新版のPDFファイルをアップロードしている。

アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』発行一覧

巻	タイトル(テーマ)	発行年月日	判型等	当初発行部数	2024年度までの最新の増刷
1	はなす(アイヌ語)	1996(平成8)年3月	A5判、32ページ	10,000部	7刷:2023(令和5)年3月 (1,000部)
2	着る(衣服)	1997(平成9)年3月	A5判、32ページ	10,000部	7刷:2020(令和2)年5月 (2,000部)
3	食べる(食事)	1998(平成10)年3月	A5判、32ページ	10,000部	5刷:2023(令和5)年3月 (1,000部)
4	住まい	1999(平成11)年3月	A5判、32ページ	10,000部	4刷:2019(平成31)年3月 (2,000部)
5	祈る(信仰)	1999(平成11)年11月	A5判、32ページ	10,000部	4刷:2023(令和5)年3月 (1,000部)
6	口頭文芸	2000(平成12)年10月	A5判、32ページ	10,000部	4刷:2023(令和5)年3月 (1,000部)
7	芸能	2001(平成13)年9月	A5判、32ページ	10,000部	4刷:2023(令和5)年3月 (1,000部)
8	民具	2002(平成14)年9月	A5判、32ページ	10,000部	3刷:2023(令和5)年3月 (1,000部)
9	地名	2004(平成16)年2月	A5判、32ページ	6,000部	7刷:2021(令和3)年6月 (2,000部)

※ 配布は都度実施。

○ 当館広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信 全5件

号	記事件数	内容
第36号(2024年夏)	1件	・アイヌ民族文化研究センターだより「当館のアイヌ語講座のご紹介」
第37号(2024年秋)	1件	・アイヌ民族文化研究センターだより「第18回「アイヌ文化巡回展」を広尾町で開催しました」
第38号(2024年冬)	2件	・研究活動紹介「アイヌの耳飾り・首飾り、そして衣服」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「北海道立アイヌ民族文化研究センターの20年(上)」
第39号(2025年春)	1件	・収蔵資料紹介「宝箱から飛び出した小さなお宝ー『ボラドールレス』の笛と太鼓」 ・総合展示紹介(第2テーマ)「『ある家族の物語』のものがたり」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「北海道立アイヌ民族文化研究センターの20年(下)」

※ 詳細は「8 広報」を参照。

(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援

○ アイヌ文化に関する学術情報(収蔵資料データ、調査データ、文献情報等)の集約

・収蔵資料データの新規登録、文献資料の集約等を実施。

○ 「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、2001年度からウェブサイトを開設し、事業のあらましや研究センターの出版物、公開している資料などを紹介するほか、アイヌ文化に関する連載記事などを通じた情報提供を行ってきた。北海道博物館の開館後は、館のウェブサイトの中にこれらのページを移行して運用している。

・北海道博物館ウェブサイト内に「アイヌ文化を学ぶために」のページを設け、アイヌ文化紹介小冊子のPDFファイル版搭載等を実施。
・旧道立アイヌ民族文化研究センターホームページの情報も残しつつ、北海道教育委員会が発行したアイヌ文化に関する報告書の目次を掲載するなど、順次整理・拡充を進めている。
・「まっかいどうアイヌ語アーカイブ」について表記やレイアウトの一部修正、検索の不具合の修正などを行った。

〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉

○ 市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門の見地からの助言・支援・協力等

市町村などの関係機関やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられる、学習や伝承活動に対する専門的な知見からの助言や支援の依頼に応じている。また、アイヌ文化に関する情報や当館資料についての問合せは、レファレンスの一環として電話等により日常的に対応している。

・「アイヌ施策推進法」(2019(令和元)年)の施行に伴い、市町村等からの事業企画・実施に当たっての照会、協力要請や研修・視察の依頼が増えつつあり、適宜対応を進めている。
・レファレンス等においても、総件数はやや減少しているものの、内容において、副読本・教材作成や雑誌の特集記事等にかかる照会や情報提供依頼が増えており、適宜対応している(レファレンス件数等は「12 情報発信」を参照)。

16 4つのビジョン（重点目標）

- ① 北海道開拓記念館開館50年（令和3年）、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年（令和3年）、北海道開拓の村開村40年（令和5年）、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年（令和6年）を機会に、それぞれの活動と成果の蓄積を特に未来を担う若い世代、子どもたちへと継承する事業を展開する。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-4に依拠）
- ② 道民参加型の活動の推進により、博物館に対する認知と愛着の醸成に努める。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-2に依拠）
- ③ ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め、北海道内博物館の活性化に貢献する。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-3に依拠）
- ④ 樺太（サハリン）に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」を推進し、樺太研究の拠点化を目指す。（北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-1に依拠）

活動実績

年度計画

重点	<p>【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討（→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進）</p> <p>→ 総務部が所管し、学芸部、研究部と連携して取り組む</p> <p>【中期目標・計画／重点②】道民参加型の活動の推進</p> <p>→ 企画G（道民参加の推進）が所管し、博物館基盤G、道民サービスG、研究戦略Gと連携して取り組む。</p> <p>【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携</p> <p>→ アイヌ民族文化研究センターが所管し、企画G（博物館ネットワーク）などと連携して取り組む</p> <p>【中期目標・計画／重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進</p> <p>→ 研究戦略Gが所管し、博物館基盤G、各研究Gなどと連携して取り組む。</p>
-----------	---

【重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（北海道環境生活部策定）

道立自然公園野幌森林公園は、昭和40年代の北海道百年記念事業の一環として公園指定され、公園内に所在する当館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔は、北海道が積み重ねてきた歴史・文化や先人の遺業、そして自然に触れることができる場として、多くの方々に親しまれ、利用されてきた。

しかし、開設から約50年が経過したこともあり、施設の老朽化や利用者数の減少など様々な課題が生じていることから、北海道環境生活部では、50年後を見据えて、道民の財産であるこれらの施設を、歴史・文化・自然を体感し交流できる空間として再生し、次世代に伝えていくための基本構想として「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」を2018（平成30）年12月に策定した。

構想の概要（基本方針・主な施設の方向性）

施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し、国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間として再生を目指す。

(1) 北海道博物館

- ・ 本道の中核的博物館、道民参画型博物館として、さらなる魅力向上に努める。
- ・ 2020年に開設される国立アイヌ民族博物館等との役割分担を考慮に入れながら幅広い連携を図る。

(2) 北海道開拓の村

- ・ 博物館としての役割を基本としながら、国内外からの旅行者をターゲットにした観光拠点や、古民家再生等人材の育成拠点としての活用を図る。

(3) 百年記念塔・塔前広場

- ・ 長く道民の皆さんに親しまれてきたが、老朽化に伴う利用者への安全確保や将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断し、耐久性や維持コストにも配慮した新たなモニュメントを配置した交流空間とする（発展的継承）。

(4) 野幌森林公園・近隣施設との連携

- ・ 良好な自然環境を保全するとともに、安心して利用できる環境づくりを進める。
- ・ 周辺の文化・スポーツ施設等と連携を図ることにより、より魅力的な交流空間として再生する。

「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』構想」を実現していくため、2023年度に、文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」が認定された（R5～R9の5カ年計画）。2024年度は文化資源の魅力増進、理解促進、利便性向上・施設設備の整備に関する事業を実施した。

【重点②】道民参加型事業の推進

・来館者参加型展示コーナー

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、ともに考えるきっかけにいただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れることのできるハンズオン展示や、第2テーマの「アイヌ文化 Q&A」や総合展示2階出口付近の参加型展示など、展示に加わるなどの能動的な体験ができるスペースを設けている。

※ 詳細は「2 展示」を参照。

・道民参加型学習サークル活動の推進

2020年度より、当館所蔵の古文書を参加者とともに講読する学習サークル活動として「ちゃれんが古文書クラブ」が活動をスタートさせた。一般普及行事のように、博物館が活動回数・活動日を決め、毎年登録者を募集する形態での活動推進である。2024年度は4～12月に12回の活動が行われた。

※ 詳細は「10 道民参加の推進」を参照。

・博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進

北海道博物館の図書室運営の補助として「図書室支援員」が蔵書整理などの活動に従事した。

※ 詳細は「10 道民参加の推進」を参照。

【重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」（愛称ブンカラ）は、アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進やさまざまな事業の活性化を図るための、国立アイヌ民族博物館並びに国内外の博物館によるネットワーク組織である（主催：国立アイヌ民族博物館）。当館は、2021（令和3）年1月からネットワークに参加し、アイヌ民族文化研究センターを中心に、国立アイヌ民族博物館との連携を強め、北海道内博物館との意見交換や各種事業への協力・協働などを行った。

※ 詳細は「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照。

【重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する

「樺太記憶継承事業の推進」

・昨年度に引き続き、当館で受け入れた樺太連盟から寄贈を受けた資料の整理を進め、特に今年度は同連盟から稚内市に寄贈された資料についても調査を行い、これらを包括的に対象とした資料目録（北海道博物館資料目録4 全国樺太連盟資料目録2）を刊行した。

・関係者の高齢化が進むなか、体験者・関係者から当館への問い合わせ等が増えてきた傾向を踏まえ、関係者に対する聞き取り調査に着手した。本年度はその成果の一部を北海道博物館研究紀要に投稿した。

※ 詳細は「3 調査研究」、「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照。

令和7年度（2025年度）（第3期）事業計画

1 資料の収集・保存と活用

- ・ 資料の収集・整理・保存に関する諸活動を随時実施
- ・ 文化観光推進事業（国庫補助事業）による文書、映像資料のデジタル化
- ・ 当館資料の利活用申請（資料画像の刊行物等への利用、資料の貸出等）に随時対応

2 展示

・ 総合展示

- ・ 定期的に展示資料を入れ替えるクローズアップ展示の更新を6回実施（予定）
- ・ 文化観光推進事業によるアイヌ文化関連展示の改修

・ 企画展示

- ・ 第4回蔵出し展「アイヌの衣服」 令和7年4月26日（土）～6月15日（日）
- ・ 第11回特別展「新選組永倉新八と会津藩士栗田鉄馬」 令和7年7月19日（土）～9月15日（月）
- ・ 第25回企画テーマ展「新着資料・研究成果展」 令和7年10月18日（土）～11月30日（日）
- ・ 第26回企画テーマ展「吉田初三郎が描いた北海道」 令和8年1月31日（土）～3月22日（日）
- ・ 「北海道博物館10年間の歩み」のパネル展（10周年記念事業） 令和7年4月18日（金）～

3 調査研究

- ・ 道費による一般研究プロジェクト、道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト、競争的外部資金を活用した外部資金研究、北海道の自然・歴史・文化に関する総合研究プロジェクト、北海道と友好提携しているカナダ・アルバータ州のロイヤル・アルバータ博物館との北方文化共同研究事業を随時実施

4 教育普及事業

- ・ ミュージアムカレッジ、ちゃれんがワークショップ等の行事を開催
- ・ はっけん広場の運営、はっけんイベントの開催

5 道民地域との協働と活性化への貢献

- ・ 学校団体をはじめとした各種団体を対象としたレクチャーを実施
- ・ 博物館実習生、インターンシップ、職場体験、見学実習の受入れを実施
- ・ 職員の委員就任、講師派遣、執筆協力、学校・市内等からのインターンシップの受入れ等）を実施

6 野幌森林公園エリアの活用と整備

- ・ 道環境生活部文化振興課により、森林公園内のバーベキューエリア、シェアサイクルを試行
- ・ 野幌森林公園施設整備事業による公園内施設の整備を実施
- ・ 開拓の村歴史的建造物の老朽度調査及び文化観光推進事業による展示改修及び施設整備を実施

7 広報

- ・ 企画展、普及行事等の広報（マスコミに対する投げ込み、ウェブサイト、ポスター・チラシ、X（旧 Twitter）等）及びメディアからの取材に対応
- ・ 広報誌「森のちゃれんがニュース」、行事案内の発行
- ・ 森のちゃれんが10周年事業（記念フォーラム等）の実施

8 評価と利用者調査を活用した管理運営

- ・ 北海道立総合博物館（博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館）利用者のアンケート調査実施
- ・ 企画展示及びアイヌ文化巡回展でのアンケート調査実施
- ・ 第3期中期目標・計画期間の評価のあり方検討

9 道民参加の推進

- ・ 道民参加型学習サークル活動「ちゃれんが古文書クラブ」の実施
- ・ 図書室支援員による活動（退職した解説員有志による図書の登録・整理等）を実施

10 博物館ネットワーク

- ・ 北海道博物館協会の事務局として、北海道博物館大会を令和7年7月4日～5日に開催
- ・ 北海道教育庁と協働し、道内博物館の職員を対象にした「博物館職員研修」を令和7年7月5日に開催
- ・ かるちやる net（文化施設連絡協議会）事業としてワークショップ等の秋のイベント・パネル展（9月28日）、広報チラシ「かるちやる通信」作成・配布（4月、7月、10月）

11 情報発信

- ・ 図書室の運営（企画テーマ展及び特別展関連図書の展示等）を実施
- ・ 収蔵資料データベースの資料情報を整理し、当館ウェブサイトで情報を公開

12 職員の人材育成機能の強化

- ・ 調査研究や教育普及等に関する館内での研究会・研修会の開催
- ・ 学会・研究会等への職員の派遣の実施

13 アイヌ民族文化に関する調査研究や理解促進への取り組み

- ・ アイヌ文化に関する資料の収集、調査研究の実施
- ・ 文化観光推進事業によるアイヌ文化関連展示の改修【再掲】
- ・ クローズアップ展示、第4回蔵出展「アイヌの衣服」の開催【再掲】
- ・ アイヌ文化巡回展・講座の開催（令和7年9月18日(木)～10月10日(金)）

予算（令和6年度（2024年度）・令和7年度（2025年度））

（単位：千円）

事業項目	事業名	概要	財源内訳	令和6年度	令和7年度	備考
1 資料の収集・保存と活用	博物館事業費（資料保存・管理）	受入資料の保存処理、整理・分類・登録、データベース管理等経費	総事業 一般財源 特定財源	355 (355) [0]	355 (355) [0]	
	博物館事業費（資料保存・管理（アイヌ民族文化研究センター分））	アイヌ文化に関する音声・映像資料、文書資料等の収集経費	総事業 一般財源 特定財源	268 (268) [0]	268 (268) [0]	
	博物館事業費（情報システム整備）	収蔵品管理、図書、研究成果公表等システムの管理運用経費	総事業 一般財源 特定財源	5,344 (5,344) [0]	7,441 (7,441) [0]	
	権太記憶継承事業費（資料の保管）	全国権太連盟から委譲された資料（約6,000点）の保存処理経費	総事業 一般財源 特定財源	633 (0) [633]	663 () [663]	基金繰入金
	文化観光推進事業（魅力増進事業）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する資料デジタル化、展示改修等経費	総事業 一般財源 特定財源	13,300 (4,433) [8,867]	11,300 (3,767) [7,533]	国庫補助金
	小計		総事業 一般財源 特定財源	19,900 (10,400) [9,500]	20,027 (11,831) [8,196]	
2 展示	博物館事業費（総合展示・テーマ展）	総合展示の入替、テーマ展開催経費	総事業 一般財源 特定財源	1,374 (1,374) [0]	1,237 (1,237) [0]	
	博物館事業費（大型プリンタ）	展示会等に必要大型プリンタ借上経費	総事業 一般財源 特定財源	183 (183) [0]	183 (183) [0]	
	博物館事業費（展示解説業務）	解説員（会計年度任用職員）の雇用経費	総事業 一般財源 特定財源	12,813 (12,813) [0]	17,676 (17,676) [0]	
	特別展開催事業費	特別展の開催（展示造作、資料運搬等）経費	総事業 一般財源 特定財源	10,000 (10,000) [0]	9,000 (9,000) [0]	
	権太記憶継承事業費（展示公開）	全国権太連盟から委譲された資料（約6,000点）の展示経費	総事業 一般財源 特定財源	3,720 (0) [3,720]	4,877 (0) [4,877]	基金繰入金
	文化観光推進事業（魅力増進事業）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する資料デジタル化、展示改修等経費	総事業 一般財源 特定財源	13,300 (4,433) [8,867]	11,300 (3,767) [7,533]	[再掲1] 国庫補助金
	文化観光推進事業（理解増進事業）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する展示解説の多言語化等経費	総事業 一般財源 特定財源	6,740 (2,247) [4,493]	15,500 (5,167) [10,333]	国庫補助金
	小計		総事業 一般財源 特定財源	48,130 (31,050) [17,080]	59,773 (37,030) [22,743]	
3 調査研究	博物館事業費（調査研究（アイヌ民族文化研究センター分））	アイヌ民族に言語・口承文芸、民具、歴史等に関する調査費	総事業 一般財源 特定財源	919 (919) [0]	919 (919) [0]	
	博物館試験研究費（一般研究）	試験研究機関研究費（北東アジアの中の北海道研究プロジェクト）	総事業 一般財源 特定財源	1,399 (1,399) [0]	1,399 (1,399) [0]	
	博物館試験研究費（地域情報集積プロジェクト）	道民と連携・協働した北海道の自然・歴史・文化に関する調査研究費	総事業 一般財源 特定財源	1,964 (1,964) [0]	1,964 (1,964) [0]	
	博物館試験研究費（外部資金研究費）	競争的外部資金を活用した研究費（間接経費）	総事業 一般財源 特定財源	7,204 (0) [7,204]	3,923 (0) [3,923]	科研費間接経費
	博物館試験研究費（総合研究プロジェクト）	道内の地域博物館と連携した北海道の自然・歴史・文化に関する調査研究費	総事業 一般財源 特定財源	1,367 (1,367) [0]	1,370 (1,370) [0]	
	博物館試験研究費（北方文化共同研究）	北海道と友好提携しているカナダ・アルバータ州のロイヤル・アルバータ博物館との共同研究費	総事業 一般財源 特定財源	1,001 (1,001) [0]	1,001 (1,001) [0]	
	博物館試験研究費（研究成果の集約・発信）	研究紀要の編集・刊行経費	総事業 一般財源 特定財源	702 (702) [0]	702 (702) [0]	
	権太記憶継承事業費（調査研究）	全国権太連盟から委譲された資料（約6,000点）の分析・調査経費	総事業 一般財源 特定財源	1,680 (0) [1,680]	1,181 (0) [1,181]	基金繰入金
	小計		総事業 一般財源 特定財源	16,236 (7,352) [8,884]	12,459 (7,355) [5,104]	

(単位：千円)

事業項目	事業名	概要	財源内訳	令和6年度	令和7年度	備考
4 教育普及事業	博物館事業費（魅力あるイベント）	ちやれんがワークショップ、子どもミュージアムクラブ等運営経費	総事業 一般財源 特定財源	326 (326) [0]	326 (326) [0]	
	文化観光推進事業（理解増進事業）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する展示解説の多言語化等経費	総事業 一般財源 特定財源	6,740 (2,247) [4,493]	15,500 (5,167) [10,333]	[再掲2] 国庫補助金
	博物館事業費（展示解説業務）	解説員（会計年度任用職員）の雇用経費	総事業 一般財源 特定財源	12,813 (12,813) [0]	17,676 (17,676) [0]	[再掲2]
	小計		総事業 一般財源 特定財源	19,879 (15,386) [4,493]	33,502 (23,169) [10,333]	
5 協働・活性化	-	-	総事業 一般財源 特定財源	0 (0) [0]	0 (0) [0]	
6 野幌森林公園エリアの活用と整備	文化観光推進事業（魅力増進事業）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する資料デジタル化、展示改修等経費	総事業 一般財源 特定財源	13,300 (4,433) [8,867]	11,300 (3,767) [7,533]	[再掲1] 国庫補助金
	文化観光推進事業（理解増進事業）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する展示解説の多言語化等経費	総事業 一般財源 特定財源	6,740 (2,247) [4,493]	15,500 (5,167) [10,333]	[再掲2] 国庫補助金
	文化観光推進事業（利便性向上・施設整備）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する利便性向上・施設整備費（WIFI 工事等）	総事業 一般財源 特定財源	6,300 (2,633) [3,667]	36,100 (12,033) [24,067]	国庫補助金
	開拓の村費	開拓の村歴史的建造物の老朽度調査経費	総事業 一般財源 特定財源	2,297 (2,297) [0]	2,297 (2,297) [0]	
	北海道博物館管理運営費	博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の管理運営に係る指定管理負担金	総事業 一般財源 特定財源	409,161 (408,776) [385]	422,369 (421,984) [385]	行政財産使用料
	非常勤職員経費	非常勤職員雇用に係る経費	総事業 一般財源 特定財源	49,208 (49,208) [0]	45,513 (45,513) [0]	
	野幌森林公園管理費（維持費）	公用車等消耗品、電話料等庁舎等維持費	総事業 一般財源 特定財源	3,256 (3,256) [0]	3,414 (3,414) [0]	
	野幌森林公園管理費（標準経費）	事務費	総事業 一般財源 特定財源	529 (529) [0]	529 (529) [0]	
	野幌森林公園施設整備費	森林公園内遊歩道等改修経費	総事業 一般財源 特定財源	9,000 (9,000) [0]	9,000 (9,000) [0]	
	小計		総事業 一般財源 特定財源	499,791 (482,379) [17,412]	546,022 (503,704) [42,318]	
7 広報	博物館事業費（広報・サービス）	行事あんない、ちやれんがニュース等発行経費	総事業 一般財源 特定財源	529 (529) [0]	529 (529) [0]	
	博物館事業費（広報（アイヌ民族文化研究センター分））	アイヌ文化に関する講演会、アイヌ文化研究関連報告書作成経費	総事業 一般財源 特定財源	251 (251) [0]	251 (251) [0]	
	博物館事業費（10周年記念事業）	ロゴマークの作成、パネル展、記念フォーラムの開催等に係る経費	総事業 一般財源 特定財源	0 (0) [0]	3,954 (3,954) [0]	
	小計		総事業 一般財源 特定財源	780 (780) [0]	4,734 (4,734) [0]	
8 評価等	各種審議会経費	博物館協議会委員謝金・旅費	総事業 一般財源 特定財源	429 (429) [0]	429 (429) [0]	
9 道民参加	博物館試験研究費（地域情報集積プロジェクト）	道民と連携・協働した北海道の自然・歴史・文化に関する調査研究費	総事業 一般財源 特定財源	1,964 (1,964) [0]	1,964 (1,964) [0]	[再掲3]
10 博物館ネットワーク	各種負担金	北海道博物館協会、日本博物館協会負担金	総事業 一般財源 特定財源	65 (65) [0]	65 (65) [0]	
	博物館試験研究費（総合研究プロジェクト）	道内の地域博物館と連携した北海道の自然・歴史・文化に関する調査研究費	総事業 一般財源 特定財源	1,367 (1,367) [0]	1,370 (1,370) [0]	[再掲3]
	小計		総事業 一般財源 特定財源	1,432 (1,432) [0]	1,435 (1,435) [0]	

(単位：千円)

事業項目	事業名	概要	財源内訳	令和6年度	令和7年度	備考
11 情報発信	博物館事業費（資料保存・管理）	受入資料の保存処理、整理・分類・登録、データベース管理等経費	総事業 一般財源 特定財源	355 (355) [0]	355 (355) [0]	[再掲1]
	博物館事業費（資料保存・管理 （アイヌ民族文化研究センター分））	アイヌ文化に関する音声・映像資料、文書資料等の収集経費	総事業 一般財源 特定財源	268 (268) [0]	268 (268) [0]	[再掲1]
	博物館事業費（情報システム整備）	収蔵品管理、図書、研究成果公表等システムの管理運用経費	総事業 一般財源 特定財源	5,344 (5,344) [0]	7,441 (7,441) [0]	[再掲1]
	権太記憶継承事業費（資料の保管）	全国権太連盟から委譲された資料（約6,000点）の保存処理経費	総事業 一般財源 特定財源	633 (0) [633]	663 () [663]	[再掲1] 基金繰入金
	文化観光推進事業（魅力増進事業）	文化観光推進法に基づく認定計画により実施する資料デジタル化、展示改修等経費	総事業 一般財源 特定財源	13,300 (4,433) [8,867]	11,300 (3,767) [7,533]	[再掲1] 国庫補助金
	小 計			総事業 一般財源 特定財源	19,900 (10,400) [9,500]	20,027 (11,831) [8,196]
12 人材育成	-	-	総事業 一般財源 特定財源	0 (0) [0]	0 (0) [0]	
13 アイヌ民族文化に関する調査研究や理解促進への取り組み	博物館事業費（資料保存・管理 （アイヌ民族文化研究センター分））	アイヌ文化に関する音声・映像資料、文書資料等の収集経費	総事業 一般財源 特定財源	268 (268) [0]	268 (268) [0]	[再掲1]
	博物館事業費（調査研究 （アイヌ民族文化研究センター分））	アイヌ民族に言語・口承文芸、民具、歴史等に関する調査費	総事業 一般財源 特定財源	919 (919) [0]	919 (919) [0]	[再掲3]
	博物館事業費（広報 （アイヌ民族文化研究センター分））	アイヌ文化に関する講演会、アイヌ文化研究関連報告書作成経費	総事業 一般財源 特定財源	251 (251) [0]	251 (251) [0]	[再掲7]
	アイヌ文化情報発信強化事業	アイヌ文化に関する講座・ワークショップ、資料のアーカイブ化等に要する経費	総事業 一般財源 特定財源	10,252 (10,252) [0]	4,870 (4,870) [0]	
	小 計			総事業 一般財源 特定財源	11,690 (11,690) [0]	6,308 (6,308) [0]
総 計（再掲を除く）			総事業 一般財源 特定財源	562,569 (531,920) [30,649]	610,605 (557,643) [52,962]	

III 資料



1 館長の紹介

館長（創設館長）

石 森 秀 三 ISHIMORI Shuzo

職 名	館長（2013年度～2024年度）
称 号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
専 門	文化人類学、博物館学、観光文明学

受 賞	大平正芳記念賞（1986） 文化庁長官表彰（2019） 北海道知事表彰（2019） 日本博物館協会特別表彰（2025）
職 歴	京都大学人文科学研究所研究員（1971） 国立民族学博物館第四研究部助手（1975） 国立民族学博物館第四研究部助教授（1985） 総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻助教授（1989） 国立民族学博物館第四研究部教授（1996） 総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻教授（1996） 国立民族学博物館先端民族学研究部教授（1998） 放送大学教養学部（博物館論担当）客員教授（1998） 総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻長（2001） 国立民族学博物館民族社会研究部長（2002） 国立民族学博物館博物館民族学研究部長（2003） 国立民族学博物館文化資源研究センター長（2004） 北海道大学観光学高等研究センター長（2006） 北海道大学大学院観光創造専攻長・教授（2007） 北海道開拓記念館長（2013） 北海道大学観光学高等研究センター特別招聘教授（2013～現在に至る） 北海道博物館長（2015）
社 会 活 動	観光立国懇談会委員（内閣官房）、アイヌ政策推進会議委員（内閣官房） 文化審議会文化財分科会専門委員（文化庁）、文化審議会企画調査会会長（文化庁） 国土審議会北海道開発分科会専門委員（国土交通省）、観光と環境に関する調査委員会委員長（国土交通省） 世界遺産を活用した地域づくり調査委員会委員長（国土交通省）、地域資源活用促進事業委員会委員長（経済産業省）、 広域・総合観光集客サービス産業支援事業運営委員会委員長（経済産業省）、ラグジュアリー・トラベル・マーケット調査委員会委員長（経済産業省）、クール・ジャパン地域集客交流産業活性化支援事業審査委員会委員長（経産省）、 ボスニア・ヘルツェゴビナ国社会開発プロジェクト国内支援委員会委員長（独立行政法人国際協力機構）、 東北地域広域観光推進調査委員会委員長（東北地域整備局）、観光振興と地域づくり懇談会委員長（北海道開発局）、 歴史文化遺産を活用した観光振興策定委員会委員長（北海道開発局）、日本コンベンション研究会会長、 北海道博物館協会会長、北海道遺産協議会会長、日本ツーリズム協会理事、本州四国連絡高速道路協会理事等
主な研究業績	2018；『Satawalese Cultural Dictionary』国立民族学博物館（共編著） 2017；『観光創造学へのチャレンジ』北海道大学観光学高等研究センター（共編著） 2016；『尾道型デスティネーション・マネジメントってなに？：多様な地域遺産を生かす観光まちづくり戦略』 北海道大学観光学高等研究センター（共編著） 2011；『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社（共編著） 2010；『コミュニティ・ベースド・ツーリズム事例研究』北海道大学観光学高等研究センター（共編著） 2010；『コミュニティ・ベースド・ツーリズム：世界の実践例から学ぶ成功の鍵』財団法人日本交通公社（共編著） 2008；『大交流時代における観光創造』北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院（編著） 2003；『観光とジェンダー』国立民族学博物館（共編著） 2001；『ヘリテージ・ツーリズムの総合的研究』国立民族学博物館（共編著） 2001；『エコツーリズムの総合的研究』国立民族学博物館（共編著） 2000；『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会（著） 2000；『博物館資料論』放送大学教育振興会（著） 2000；『ビクター産業に道路をとれ：日本・都市再生への提言』日刊工業新聞社（監修） 1999；『博物館概論：ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会（著） 1999；『ジョージ・ブラウン・コレクションの研究』国立民族学博物館（共編著） 1999；『南太平洋の文化遺産』千里文化財団（編著） 1996；『観光の20世紀』ドメス出版（編著） 1995；『海南島：島世界の伝統と変容』旅の文化研究所（共編著） 1995；『Japanese Civilization in the Modern World: Tourism』National Museum of Ethnology（共編著） 1993；『「新しい旅」のはじまり：観光ルネッサンスの時代』PHP研究所（共編著） 1991；『観光と音楽』東京書籍（編著） 1985；『危機のコスモロジー：マイクロネシアの神々と人間』福武書店（著） 1977；『社会と文化：世界の民族』朝日新聞社（共著）

2 学芸職員の博物館活動

当館の研究職員は、当館の資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及をはじめとするあらゆる学芸的な博物館活動に携わっている。研究職員のなかで、学芸員資格を有する職員は、「学芸員」として発令され職務にあたっているが、当館に所属する学芸員・研究職員は、職名に関係なく博物館の学芸的な各種活動を行い、道民や当館を訪れる利用者などへの成果普及に努めている。その意味で、当館の学芸員・研究職員を学芸職員と呼んでいる。

学芸職員は、研究部またはアイヌ民族文化研究センターに属する5つの研究グループのうちの一つに所属し、北海道博物館の所蔵資料、及び博物館・アイヌ民族文化に関する調査研究活動（通常研究）を基軸として行うとともに、当館に配当された研究費（道費）による研究プロジェクト（館内共同研究）や外部資金を獲得した研究課題を抱えている。それらの成果は、資料紹介・博物館活動報告、研究成果報告、展示制作、普及行事開催などの形で、道民・利用者への成果普及を行っている。また、学会誌・研究会誌への寄稿・投稿や学会発表などにより、学術的な研究成果の発信にも努めている。

凡例

- 1 2024（令和6）年4月現在在籍の学芸職員の情報を記載しているが、「近年の主な博物館活動の実績」及び「対外研究成果発信」欄は、2025（令和7）年3月31日までの主な実績を記載している。
- 2 「資料紹介活動紹介」欄は、『森のちゃれんがニュース』や『研究紀要』の「資料紹介」「博物館活動報告」などへの概報・短報の掲載により、当館所蔵資料や博物館活動の道民・利用者への紹介に努めたものである。
- 3 「調査研究」欄は、『研究紀要』の「論文」「研究ノート」「調査報告」、特別展図録などへの論考掲載により、通常研究・館内共同研究・外部資金を獲得した研究に係る専門的な研究成果の道民・利用者への紹介に努めたものである。
- 4 「対外研究成果発信」欄は、学術雑誌・学術図書への寄稿・投稿や学会・研究会での発表などにより、学問の発展に寄与する活動に努めたものである。
- 5 紙幅の都合上、省略したり、略号を用いたりして表記している。各学芸職員のより詳細な研究情報については、当館ウェブサイト内の「スタッフ」の各ページ、または国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営するresearchmapも併せて参照。
※ 略号
・「ニュース」：『森のちゃれんがニュース』
・「紀要」：『北海道博物館研究紀要』または『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』

研究部 自然研究グループ

水島 未記 MIZUSHIMA Miki

職名	学芸部研究戦略グループ学芸主幹 研究部自然研究グループ学芸主幹(兼)
学位	修士、1993年(北海道大学大学院農学研究科)
担当分野	生物

2024年度	主な業務	研究戦略グループ業務(3調査研究、14研究成果の発信)
	研究課題	<p>通常研究 ①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究</p> <p>館内共同研究 ②野幌森林公園の生物インベントリー調査(第三次) ③北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用</p> <p>外部資金 ④個体群の遺伝的多様性推移におよぼす復元手法の影響(科研・研究分担者)</p>
	近年の主な博物館活動の実績	<p>資料紹介活動紹介 2023年度;北海道内博物館合同展示「押し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本」の報告(紀要)</p> <p>調査研究 2024年度;サハリンの民族植物学:現代の視点から見た『Reisen im Amur-Lande und auf der Insel Sachalin』1 シュミットが報告した先住民族の植物名称(紀要、筆頭) 2022年度;野幌森林公園地域のシダ植物相(紀要、筆頭)</p> <p>展示制作 2024年度;植物名に見る「ホロムイ」の謎(クローズアップ展示7) 2024年度;北海道樹木万華鏡ーースキャンアートと標本で見る木々のかたちー(第22回企画テーマ展) 2023年度;押し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本(北海道内博物館合同展示) 2023年度;野幌森林公園の植物を調べる(クローズアップ展示7) 2022年度;もっと!あっちこっち湿地〜自然と歴史をめぐる旅〜(第20回企画テーマ展) 2022年度;世界の昆虫ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー(第8回特別展) 2022年度;リンゴはなぜ赤い?木の実・草の実の不思議な世界(クローズアップ展示7)</p> <p>普及行事 2024年度;野幌森林公園クマゲラー斉調査2025(特別イベント) 2024年度;博物館のウラ側を見てみよう〜生物編〜(特別イベント) 2024年度;博物館で新年祈願!?日本の画材で絵馬づくり(ちゃれんがワークショップ) 2024年度;樹木を知る(ミュージアムカレッジ) 2024年度;「北海道樹木万華鏡」関連ミュージアムトーク(ミュージアムトーク) 2024年度;エゾアカガエルのラブコールを聴こう(自然観察会) 2022年度;木の実・草の実の不思議をさがそう(自然観察会) 2022年度;初夏の森で花をさがそう(自然観察会) 2022年度;アンモナイト折り紙で学ぶ 生物の「かたち」の不思議(ちゃれんがワークショップ)</p>
対外研究成果発信	<p>2024年度;自然史博物館の資料と保存(執筆、分担)</p> <p>2024年度;Ethnobotany on Sakhalin: 19th century and present(発表、連名)</p> <p>2022年度;野幌森林公園と博物館の役割(執筆・発表)</p> <p>2022年度;第1篇 地勢・自然 第4章 動植物 第3節 植物『新 恵庭市史 通史篇』(執筆)</p> <p>2022年度;チョウザメ(ミカドチョウザメ、Sakhalin sturgeon) Acipenser mikadoi はサハリンで繁殖していたか?(発表)</p>	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/mofu-mizushima	

表 溪太 OMOTE Keita

職名	学芸部国民サービスグループ学芸主査(普及事業) 研究部自然研究グループ学芸主査(兼)
学位	博士(理学)、2016年(北海道大学大学院理学院)
担当分野	生物

2024年度	主な業務	教育普及係業務(5教育普及事業、6ミュージアムエデュケーター機能の強化、8広報)
	研究課題	<p>通常研究 ①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究</p> <p>館内共同研究 ②野幌森林公園の生物インベントリー調査(第三次) ③北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用 ④北海道とサハリン(仮題) ⑤寒冷地の自然と適応(仮)</p> <p>外部資金 ⑥博物館標本の賞味期限は?ーDNA半減期の解明と応用ー(科研・研究代表者) ⑦北海道とサハリンにおける氷期遺存種キタキウサギの生物地理(藤原ナチュラリストリ振興財団)</p>
	近年の主な博物館活動の実績	<p>資料紹介活動紹介 2022年度;第20回企画テーマ展「あっちこっち湿地」リメイク展示開催!(ニュース) 2022年度;博物館活動紹介「あなたの好きor嫌いな昆虫は?」結果発表!(ニュース) 2022年度;総合展示紹介・第5テーマ 動物たちの「落とし物」(ニュース)</p> <p>調査研究 2024年度;野幌森林公園の観察会で確認されたバッタ目昆虫種の変化(紀要、共著) 2023年度;「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告(紀要、共著)</p> <p>展示制作 2024年度;みんなの鉄道ーがんばれ!地域の公共交通ー(第10回特別展) 2024年度;楽器 見る・知る・考える(第24回企画テーマ展)</p> <p>普及行事 2024年度;シカ笛をつくろう!(子どもワークショップ) 2024年度;動物の足あと調査(自然観察会) 2024年度;稲わらで鍋敷きを作ってみよう(ちゃれんがワークショップ) 2024年度;親子で探検!森のコレクションをつくろう(子どもワークショップ) 2024年度;トノサマバッタをさがそう(子どもワークショップ) 2024年度;樹木の美しさをじっくり見てみよう(自然観察会) 2024年度;エゾアカガエルのラブコールを聴こう(自然観察会)</p>
対外研究成果発信	<p>2024年度;タイムカプセルの開き方ー博物館標本が縮ぐ生物多様性の過去・現在・未来(執筆・共著)</p> <p>2022年度;「鳥類標本におけるDNA半減期について」(発表・筆頭)</p>	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/70761659	

圓谷 昂史 EN'YA Takafumi

職名	学芸部道民サービスグループ学芸主査（利用促進） 研究部自然研究グループ学芸主査（兼）
学位	修士、2014年（北海道教育大学大学院教育学研究科理科教育専修）
担当分野	地学

2024年度 研究課題	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエデュケーター機能の強化、8広報)
	通常研究	①自然研究グループ関連資料（生物、地学等）および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用 ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ ④北海道とサハリン(仮題) ⑤寒冷地の自然と適応(仮)
	外部資金	⑥貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発（科研：研究代表者）
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2024年度；野幌丘陵の第四系堆積物を用いた地学教材の開発と実践（紀要、筆頭） 2024年度；連続講座「ちゃれんが地学講座」の実践報告（紀要、共著）
	調査研究	2024年度；2023年に北海道余市湾沿岸に漂着したアオイガイの飼育記録（紀要、筆頭） 2024年度；北海道北広島市西の里で新たに発見された第四系の堆積相（速報）（紀要、共著）
	展示制作	2024年度；北広島市で新たに発見されたクジラ化石（クローズアップ展示0） 2024年度；北海道化石会のアンモナイト（道民参加型展示）
	普及行事	2024年度；博物館のウラ側をみてみよう～地学編～（特別イベント） 2024年度；石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！（特別イベント） 2024年度；年表で地球生命史を学ぶ！（ちゃれんがワークショップ） 2024年度；“海岸漂着物”への取り組み-2023年度調査報告-（特別イベント） 2024年度；恐竜時代の岩石を使って、地質図をつくってみよう！（ちゃれんがワークショップ） 2024年度；植物化石から地質時代の環境を調べる（特別イベント）
対外研究成果発信	2024年度；2023年秋季における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着（執筆・筆頭） 2024年度；海岸漂着物を教材とした市民向けバスツアーの実践（発表・筆頭） 2024年度；北海道の海岸漂着物を教材とした海洋教育の取り組み（発表・筆頭）	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/enya.takafumi	

久保見 幸 KUBOMI Koh

職名	総務部企画グループ学芸員 研究部自然研究グループ学芸員（兼）
学位	修士、2021年（富山大学大学院理工学教育部地球科学専攻）
担当分野	地学

2024年度 研究課題	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	通常研究	①自然研究グループ関連資料（生物、地学等）および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用 ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ ④寒冷地の自然と適応(仮)
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2024年度；連続講座「ちゃれんが地学講座」の実践報告（紀要・共著）
	調査研究	2024年度；北海道蝦夷層群函淵層の広域層序対比-層序・化石・年代からの再検討-（紀要・筆頭） 2024年度；北海道北広島市西の里で新たに発見された第四系の堆積相（速報）（紀要・筆頭） 2023年度；北海道大夕張地域に分布する蝦夷層群函淵層の凝灰岩の産状記載（紀要、筆頭）
	展示制作	2024年度；「地質の日」関連展示 恐竜絶滅の痕跡-北海道浦幌町の白亜紀(K)/古第三紀(Pg)境界層の剥ぎ取り標本-（クローズアップ展示0） 2024年度；北海道化石会のアンモナイト（道民参加型展示）
	普及行事	2024年度；恐竜時代の岩石を使って、地質図をつくってみよう！（ちゃれんがワークショップ） 2024年度；石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！（特別イベント） 2024年度；親子で探検！森のコレクションをつくろう（子どもワークショップ） 2024年度；年表で地球生命史を学ぶ！（ちゃれんがワークショップ） 2024年度；植物化石から地質時代の環境を調べる（特別イベント）
対外研究成果発信	2024年度；ジルコン年代学と化石相からみる蝦夷層群函淵層の層序対比の再検討（発表・筆頭） 2023年度；Discovery of Early Paleocene (Danian) tuff from the Yezuo Group in the Yubari area, Hokkaido, Northeast Japan（執筆・筆頭）	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/kubomikoh	

成 田 敦 史 NARITA Atsufumi

職 名	総務部企画グループ学芸主査(中核的博物館) 研究部自然研究グループ学芸主査(兼)
学 位	博士(理学)、2021年(中央大学大学院理工学研究所)
担当分野	地学

2024年度 研究課題	主 な 業 務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	通 常 研 究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究
	館 内 共 同 研 究	②北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用 ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ ④寒冷地の自然と適応(仮)
近年の主な博物館活動の実績	外部資金	
	資料紹介 活動紹介	2024年度;北海道化石会のアンモナイト(道民参加型展示) 2024年度;収蔵資料の活用から新種の植物化石を見つけ出す!ー化石に見る収蔵資料の大切さー(ニュース) 2024年度;連続講座「ちゃれんが地学講座」の実践報告(紀要・筆頭) 2024年度;博物館・ジオパークで地球を学ぼう!(25)北海道博物館(日本地質学会NEWS) 2023年度;北海道博物館の総合展示における来場者調査から得られた観覧動向と諸課題(紀要・筆頭)
	調査研究	2024年度;北海道有珠郡壮瞥町の昭和薪山から産出した植物化石(紀要・筆頭) 2023年度;北海道の新第三系から産出した植物化石リストおよび各分類群の層位的分布(紀要)
	展示制作	2024年度;北海道博物館クローズアップ0「化石の日」関連展示 植物化石と石炭ー古第三紀始新世の植物化石と、石狩炭田の石炭ー 2024年度;北海道博物館第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡」
	普及行事	2024年度;植物化石から地質時代の環境を調べる(特別イベント) 2024年度;樹木の美しさをじっくり見てみよう(自然観察会) 2024年度;樹木を知る(ミュージアムカレッジ) 2024年度;年表で地球史を学ぼう!(ちゃれんがワークショップ) 2024年度;恐竜時代の岩石を使って、地質図をつくってみよう!(ちゃれんがワークショップ)
対外研究成果発信	2024年度;北海道糠平地域の上部中新統から産出したチョウノスケソウ類縁葉化石(発表・筆頭) 2024年度;「化石と石炭の王国」北海道ー過去からのタイムカプセル・そして未来予測ー(発表) 2023年度;北海道中央東部糠平湖周辺地域の貫入岩体のK-Ar年代(執筆・筆頭) 2023年度;Paleovegetation and chronological significance of Early Pleistocene flora from Honbetsu Town, eastern Hokkaido, Japan(発表・筆頭)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/naritaatsufumi	

堀 繁 久 HORI Shigehisa

職 名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部自然研究グループ学芸員(兼)
学 位	学士、1985年(琉球大学理学部生物学科)
担当分野	生物

2024年度 研究課題	主 な 業 務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	通 常 研 究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究
	館 内 共 同 研 究	②野幌森林公園の生物インベントリー調査(第三次) ③北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用
近年の主な博物館活動の実績	外部資金	
	資料紹介 活動紹介	2022年度;北海道博物館第8回特別展「世界の昆虫ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー」(ニュース)
	調査研究	2024年度;野幌森林公園の生物院ベントリー調査 ケシキスイ類(鞘翅目)(紀要) 2024年度;野幌森林公園の観察会で確認されたバッタ目昆虫種の変化(紀要) 2022年度;野幌森林公園のカミキリムシ相(紀要)
	展示制作	2024年度;(歩く宝石)北海道のオサムシ(クローズアップ展示7) 2022年度;世界の昆虫ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー(第8回特別展、チーフ)
普及行事	2024年度;動物の足あと調査(自然観察会) 2024年度;樹木の美しさをじっくり見てみよう(自然観察会) 2024年度;トノサマバッタをさがそう(子どもワークショップ) 2024年度;エゾアカガエルのラブコールを聴こう(自然観察会)	
対外研究成果発信	2023年度;ほっかいどう はじめての虫さがし(北海道新聞社)(執筆) 2022年度;学研の図鑑LIVE昆虫(ゴキムシ類)(分担執筆)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/kuma0364	

研究部 歴史研究グループ

三浦 泰之 MIURA Yasuyuki		職名	学芸部長
		学位	学士、1996年（京都大学文学部日本史学科）
		担当分野	歴史
2024年度	主な業務	学芸部門の統括	
	通常研究	①歴史研究グループ関連資料（考古、文書、美術、記録等）および博物館活動に関する調査研究	
	館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究 ③特別展「新選組永倉新八とその時代」（仮）に向けた調査研究 ④権太記憶継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用	
	外部資金	⑤近現代日本の地域における野球の普及・発展史に関する学際的研究（科研・研究分担者）	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2024年度；北海道博物館所蔵の林梅家資料（四）（紀要、共著） 2022年度；研究活動紹介 昭和期のホームムービー—菱昌七関係記録資料より（ニュース）	
	調査研究	2024年度；（移住）した古文書—北海道内に所在する北海道外関係の近世武家文書を中心に—（『日本史研究』747所収） 2023年度；京都の学塾山本読書室と“古物蒐集家”松浦武四郎（内川隆志編『人文資料形成史における博物館学的研究Ⅲ—根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開—』所収）	
	展示制作	2024年度；みんなの鉄道—がみまぜ！地域の公共交通—（第11回特別展） 2024年度；近代の交通・通信を支えた駅通（クローズアップ展示2）ほか 2023年度；新しく仲間入りした歴史資料たち（クローズアップ展示2）ほか	
	普及行事	2024年度；はじめての古文書講座（全8回）（古文書講座、うち4回担当） 2024年度；ちゃれんが古文書クラブ（全12回）（道民参加型行事、うち6回担当） 2024年度；札幌農学校一期生・内田瀧の日記にある北海道の鉄道関連記事（特別展関連ミュージアムカレッジ）	
対外研究成果発信	2024年度；なつかし映像でふりかえる1930年代から60年代の札幌（札幌市中央区いきいき講座） 2024年度；東北諸藩による幕末の蝦夷地警備（白老町町制施行70周年・仙台藩白老元陣屋資料館開館40周年記念講演会／シンポジウム 基調講演）		
researchmapリンク	https://researchmap.jp/miuray		

鈴木 琢也 SUZUKI Takuya		職名	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 研究部博物館研究グループ学芸主幹（兼）
		学位	修士、2001年（福島大学大学院地域政策科学研究科）
		担当分野	考古
2024年度	主な業務	博物館基盤グループ業務（1資料の収集・保存、2展示、12情報発信）	
	通常研究	①歴史研究グループ関連資料（考古、文書、美術、記録等）および博物館活動に関する調査研究	
	館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究	
	外部資金	③交流・環境からみたオホーツク文化・擦文文化、アイヌ文化（国立歴史民俗学研究中心・研究代表者） ④北方交易の展開にともなう擦文文化集団の拡散についての考古学的研究（科研基盤C・研究代表者） ⑤北からの視点・考古学分析・広域比較に基づく日本古墳築造の総合的研究（科研基盤A・研究分担者）	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2024年度；縄文文化の土偶などの3Dモデル展示（ニュース） 2023年度；ユネスコ世界遺産登録記念 北の縄文世界と国宝（ニュース）	
	調査研究	2024年度；北海道の須恵器（『古代蝦夷と須恵器—北東北・北海道—』高志書院、筆頭） 2024年度；目梨白遺跡試掘調査報告（2024）（『枝幸研究』16） 2023年度；ポータブル複合X線分析による須恵器の胎土分析—北海道および秋田県出土資料の比較検討—（『法政史学』101号） 2023年度；交流から探るオホーツク文化・擦文文化とアイヌの文化（『REKIYAKU』011、筆頭）	
	展示制作	2023年度；ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」（第9回特別展） 2023年度；森のちゃれんが宝箱：スタッフ—押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展覧会!?（第21回企画テーマ展）	
	普及行事	2024年度；北方世界の交易と貿易陶磁器（特別イベント） 2023年度；「北の縄文世界と国宝」展ができるまで（ミュージアムカレッジ） 2023年度；「北の縄文世界」を知る（特別イベント） 2023年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント）	
対外研究成果発信	2024年度；古代北方地域の交流と社会変容（江別市ふるさと歴史講座、講演） 2024年度；擦文文化期の交流・交易（第44回日本貿易陶磁研究会研究集会発表要旨集、執筆） 2024年度；3年間の共同研究—について（国立歴史民俗学研究中心・2024年度第3回研究会、発表） 2023年度；本州との交流（季刊考古学・別冊42「北海道考古学の最前線」、執筆） 2022年度；古代の北方世界における交易と交流（フランス・アルザス欧州日本学研究所国際シンポジウム、発表） 2022年度；古代の北方交流と擦文文化（地域の文化財普及啓発フォーラム 北海道の古代集落遺跡Ⅲ、発表）		
researchmapリンク	https://researchmap.jp/suzuki takuya67		

東 俊 佑 AZUMA Shunsuke

職 名	学芸部研究戦略グループ学芸主査（調査研究） 研究部歴史研究グループ学芸主査（兼）
学 位	修士（文学）、2002年（東北学院大学大学院文学研究科）
担当分野	歴史

2024年度 研究課題	主 な 業 務	研究戦略グループ業務(3調査研究、14研究成果の発信)
	通常研究	①歴史研究グループ関連資料（考古、文書、美術、記録等）および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究 ③北海道とサハリン(仮題)
	外部資金	④『蝦夷島奇観』成立史と写本構造に関する研究—「アイヌ文化成立」言説の探究—(科研・研究代表者)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2024年度；北海道博物館所蔵の林梅家資料（四）（紀要、筆頭） 2023年度；北海道博物館所蔵の林梅家資料（三）—ヨイチ場所の書上 その2—（紀要、筆頭）
	調査研究	2024年度；『蝦夷島奇観』写本の研究（二）（紀要） 2023年度；北海道立図書館所蔵の『アイヌ画譜』について（紀要） 2023年度；『蝦夷島奇観』写本の研究（一）（紀要）
	展示制作	2024年度；幕末における幕府高官の随行と接待（クローズアップ展示1） 2024年度；『蝦夷島奇観』写本から②—クマ祭り—（クローズアップ展示1） 2024年度；『蝦夷島奇観』写本から①—オットセイ猟—（クローズアップ展示1） 2024年度；ヨイチ場所請負人林家文書の世界（クローズアップ展示1）
	普及行事	2024年度；はじめての古文書講座（全8回）（古文書講座、うち4回担当） 2024年度；国境の島：エトロフ島とクナシリ島—樺丸・改俗・勤番—（ミュージアムカレッジ） 2024年度；ちやれんが古文書クラブ（全12回）（道民参加型行事、うち6回担当） 2023年度；はじめての古文書講座（全8回）（古文書講座、うち4回担当） 2023年度；カラフトナヨロ文書とアイヌ乙名の両属をめぐって（ミュージアムカレッジ） 2023年度；ちやれんが古文書クラブ（全12回）（道民参加型行事、うち6回担当）
対外研究成果発信	2023年度；ヨイチ運上家の年中行事と仕事暦：文政13年（1830）の暦を例として（執筆） 2022年度；『アイヌ文化史辞典』（執筆、「ヤエンクアイノ」「樺太のアイヌ」「給料勘定」など18項目）	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/azuma_shunsuke	

田 中 祐 未 TANAKA Yumi

職 名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員（兼）
学 位	修士（文学）、2023年（北海道大学大学院文学院）
担当分野	美術史

2024年度 研究課題	主 な 業 務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	通常研究	①歴史研究グループ関連資料（考古、文書、美術、記録等）および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2024年度；北海道を旅した芸術家たち（ニュース） 2024年度；吉田初三郎と印刷断本『旭川市』『旭川市大島町』（1936年）（紀要）
	調査研究	2024年度；吉田初三郎が描いた旭橋（『北方人文研究』第18号） 2024年度；栗山町の角田神社奉納額—大正期における旧倉藩関係者の動向を手がかりに—（『北方人文研究』第18号） 2023年度；洋画家・櫻井豊松の足跡（『北海道芸術論評』第16号） 2022年度；吉田初三郎と印刷断本『旭川市』『旭川市を中心とする名所交通鳥瞰図』（『日本研究』第66集）
	展示制作	2024年度；北海道樹木万華鏡—スキャンアートと標本で見る木々のかたち—（第22回企画テーマ展） 2023年度；森のちやれんが宝箱：スタッフ押ししの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展覧会!?!（第21回企画テーマ展） 2023年度；木戸竹石の《捕馬図屏風》（クローズアップ展示2） 2022年度；木戸竹石の《鮭漁図屏風》（クローズアップ展示2） 2022年度；生誕200年 絵師・平沢扇山（クローズアップ展示2）
	普及行事	2023年度；博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり（ちやれんがワークショップ） 2022年度；博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり（ちやれんがワークショップ）
対外研究成果発信	2023年度；日本各地の絵馬と角田神社奉納額(栗山町 文化財講座) 2022年度；洋画家・櫻井豊松の足跡—大正・昭和期における北海道出身画家の活動事例—（北海道芸術学会 第40回例会）	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/tanakayumi	

石 子 智 康 ISHIKO Tomoyasu

職 名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員 (兼)
学 位	修士 (文学)、2021年 (早稲田大学大学院文学研究科)
担当分野	歴史

2024年度	主 な 業 務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)					
	研究課題	<table border="1"> <tr> <td>通常研究</td> <td>①歴史研究グループ関連資料 (考古、文書、美術、記録等) および博物館活動に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>館内共同研究</td> <td>②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究 ③特別展「新撰組長倉新八とその時代」(仮)に向けた調査研究 ④権太記意継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用</td> </tr> <tr> <td>外部資金</td> <td></td> </tr> </table>	通常研究	①歴史研究グループ関連資料 (考古、文書、美術、記録等) および博物館活動に関する調査研究	館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究 ③特別展「新撰組長倉新八とその時代」(仮)に向けた調査研究 ④権太記意継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用	外部資金
通常研究	①歴史研究グループ関連資料 (考古、文書、美術、記録等) および博物館活動に関する調査研究						
館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究 ③特別展「新撰組長倉新八とその時代」(仮)に向けた調査研究 ④権太記意継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用						
外部資金							
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2024年度: 権太守警察部の辞令 (ニュース) 2023年度: 身近な歴史から大きな歴史に (ニュース)					
	調査研究	2024年度: ある権太出身者の引揚が後の生活一幼少期の引揚体験と自身の経験の振り返りについて (紀要、共著)					
	展示制作	2024年度: 「国境の地域「権太」」(クローズアップ2) 2024年度: 北海道博物館第10回特別展「みんなの鉄道ーがんばれ!地域の公共交通ー」(第10回特別展) 2024年度: たくぎん (クローズアップ6) 2023年度: 森のちゃれんが宝箱: スタッフー押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?(第21回企画テーマ展)					
	普及行事	2024年度: 日記や新聞に見る北海道と権太の鉄道 (ミュージアムカレッジ)					
	対外研究成果発信	2023年度: 権太守警察部の成立と展開 (発表) 2020年度: 植民地権太の地方都市ー北海道拓殖銀行資料を用いて (発表)					
researchmapリンク	https://researchmap.jp/ishiko-tomoyasu						

右 代 啓 視 USHIRO Hiroshi

職 名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員 (兼)
学 位	博士 (歴史学)、2011年 (駒澤大学大学院)
担当分野	考古

2024年度	主 な 業 務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエデュケーター機能の強化、8広報)					
	研究課題	<table border="1"> <tr> <td>通常研究</td> <td>①歴史研究グループ関連資料 (考古、文書、美術、記録等) および博物館活動に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>館内共同研究</td> <td>②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>外部資金</td> <td></td> </tr> </table>	通常研究	①歴史研究グループ関連資料 (考古、文書、美術、記録等) および博物館活動に関する調査研究	館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究	外部資金
通常研究	①歴史研究グループ関連資料 (考古、文書、美術、記録等) および博物館活動に関する調査研究						
館内共同研究	②北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究						
外部資金							
博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度: 資料紹介 貝製平玉ー貝取間2洞窟遺跡ー (ニュース)					
	調査研究	2023年度: キタオットセイ遺存体のDNA分析および炭素・窒素・酸素安定同位体分析ー北海道博物館所蔵の北見市常呂栄浦第一・稚内市大岬1遺跡出土資料ー (紀要、共著) 2022年度: 北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究 (科研成果報告、編著)					
	展示制作						
	普及行事	2023年度: 北海道博物館公開講座 「未来につなぐ北方四島の歴史・文化」					
対外研究成果発信	2023年度: サハリン・北海道・千島列島の防衛的集落ー要害遺跡としての研究ー (科研) 2023年度: 北方領土ストーリーテリング・アーカイブ構築のための調査 (内閣府) 2023年度: 北方四島歴史文化研究交流座談会「後世につなぐ歴史・文化を語る」(科研) 2023年度: 北方四島歴史文化研究交流フォーラム「未来につなぐ北方四島の歴史・文化」(科研) 2022年度: 北方四島の歴史文化をつなぐ史跡・遺跡の評価 (科研)						
researchmapリンク	https://researchmap.jp/ushiro_h						

研究部 生活文化研究グループ

会 田 理 人 AIDA Masato	職 名	総務部企画グループ学芸主幹 研究部生活文化研究グループ学芸主幹 (兼)
	学 位	修士(文学)、2002年 (北海道大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史
2024年度 研究課題	主 な 業 務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	通常研究	①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査 ③北海道とサハリン(仮題)
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2024年度; 展示紹介・第4テーマ 夢の大衆車「トヨタ・パブリカ」 2024年度; 総合展示資料紹介・第3テーマ 大漁(大量)のニシンを肥料に加工する道具 2022年度; 研究活動紹介 利尻島の海女(ニュース)
	調査研究	2023年度; 「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告(紀要、共著)
	展示制作	2024年度; 「みんなの鉄道 ーがんばれ! 地域の公共交通ー」(第10回特別展) 2024年度; 【特別展開連】バスに乗っていこう! (クローズアップ展示6) 2023年度; ナマコ獲りの道具「森のちゃれんが宝箱 ースタッフー押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展覧会!？」(第21回企画テーマ展) 2023年度; 【特別展開連】高度経済成長期の発掘調査(クローズアップ展示6) 2022年度; 職人の道具と技術 馬そり(クローズアップ展示5) 2022年度; 【特別展開連】虫と戦い、虫と親しむ(クローズアップ展示6)
	普及行事	2024年度; ヒツジの毛にふれてみよう① 初めての草木染め 2024年度; ヒツジの毛にふれてみよう② フェルトの雪だるまストラップ 2023年度; ヒツジの毛にふれてみよう① 初めての草木染め 2023年度; ヒツジの毛にふれてみよう② フェルトの雪だるまストラップ 2022年度; 羊毛フェルトの昆虫ストラップ(子どもワークショップ) 2022年度; やってみよう、ステンシル! (子どもワークショップ) 2022年度; 糸電話・風船電話で、もしもし コンニチハ(子どもワークショップ)
対外研究成果発信		
researchmapリンク	https://researchmap.jp/m-aida	

山 際 秀 紀 YAMAGIWA Hideki	職 名	総務部企画グループ学芸主査(社会貢献) 研究部生活文化研究グループ学芸主査(兼)
	学 位	修士(文学)、1994年(大谷大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史
2024年度 研究課題	主 な 業 務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	通常研究	①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査 ③北海道とサハリン(仮題)
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度; 総合展示資料紹介・第3テーマ うまい米No.1への歴史「舟形網」の秘密(ニュース)
	調査研究	2023年度; 「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告(紀要)
	展示制作	2024年度; 乗る・引く・運ぶ、馬の道具(クローズアップ展示5) 2023年度; トラバサミ「森のちゃれんが宝箱 ースタッフー押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、 2023年度; 職人の道具と技術 鍛冶職人(クローズアップ展示5) 2023年度; もっと! あっちこっち湿地~自然と歴史をめぐる旅~(第20回企画テーマ展)
	普及行事	2024年度; のこぎりでネームプレートをつくろう!(ちゃれんがワークショップ) 2023年度; 博物館のウラ側を見てみよう(特別イベント) 2023年度; ミュージアムカレッジ 馬が湿地ではいった靴
対外研究成果発信	2023年度; 北海道のリンゴの歴史(札幌市豊平館 講座) 2022年度; 北海道の博物館施設に保存されている上田式播種機について(北海道産業考古学会)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/m-aida	

尾 曲 香 織 OMAGARI Kaori

職 名	学芸部博物館基盤グループ学芸主査 (展示) 研究部生活文化研究グループ学芸主査 (兼)
学 位	修士、2013年 (筑波大学大学院人文社会科学研究科)
担当分野	民俗

2024年度	主 な 業 務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	研究課題	<p>通常研究 ①生活文化研究グループ関連資料 (生活、産業等) および博物館活動に関する調査研究</p> <p>館内共同研究 ②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査 ③北海道の言語・生活文化にかんする音声映像資料のデジタルアーカイブ構築にむけた基礎的研究 ④北海道とサハリン(仮題) ⑤寒冷地の自然と適応 (仮) ⑥樺太記憶継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用</p> <p>外部資金 戦後北海道における女性の海産物行商と地域社会―「ガンガン部隊」の民俗史的研究― (科研・代表者)</p>
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2024年度; 様々なモノを運ぶガンガン部隊 (ニュース) 2023年度; かつてのくらしを伝える写真たち (ニュース)
	調査研究	2024年度; ある樺太出身者の引揚げ後の生活―幼少期の引揚げ体験と自身の経験の振り返りについて― (紀要、筆頭) 2023年度; 「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告 (紀要、筆頭) 2023年度; 「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告 (紀要、共著)
	展示制作	2024年度; 「楽器 見る・知る・考える」 (第24回企画テーマ展) 2024年度; 「北海道のお葬式」 (第23回企画テーマ展) 2024年度; 「みんなの鉄道ーがんばれ! 地域の公共交通ー」 (第10回特別展)
	普及行事	2024年度; お葬式に関する「コト」からみる移住者にとっての「葬式」 (ミュージアムカレッジ) 2024年度; 鉄道と行商を語る! 列島「ガンガン」サミット (ミュージアムカレッジ) 2023年度; ハレの日の装い (ミュージアムカレッジ) 2023年度; 「北の縄文世界と国宝」展ができるまで (ミュージアムカレッジ)
	対外研究成果発信	2023年度; 企画テーマ展「アンモナイトと生きる―50年の歩みとこれから―」を開催して (執筆) 2022年度; 食生活の変化を捉える動き―特集 日本民俗学の研究動向(2) (執筆) 2022年度; 物の処分における「捨てるのにしのびない」という感情に関する考察 ―博物館への寄贈から― (発表)
researchmapリンク	https://researchmap.jp/30779377	

谷 口 生貴斗 TANIGUCHI Ikito

職 名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部生活文化研究グループ学芸員 (兼)
学 位	学士 (人文学)、2024年 (筑波大学人文・文化学群人文学類)
担当分野	民俗

2024年度	主 な 業 務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエデュケーター機能の強化、8広報)
	研究課題	<p>通常研究 ①生活文化研究グループ関連資料 (生活、産業等) および博物館活動に関する調査研究</p> <p>館内共同研究 ②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査</p> <p>外部資金</p>
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2024年度; ある石の話―郷里と自身とをつなぐもの― (ニュース)
	調査研究	
	展示制作	2024年度; 楽器 見る・知る・考える―北海道博物館資料+栢谷隆男氏コレクション― (第24回企画テーマ展) 2024年度; 岩手県から北海道へ渡った神楽 (クローズアップ展示)
	普及行事	2024年度; 稲わらで「銅敷き」を作ってみよう! (ちやれんがワークショップ)
対外研究成果発信	2024年度; 3代目が語る教員3代のイエー旧宮崎町A家におけるイエと屋敷の歴史 (執筆) 2024年度; 農耕儀礼から捉える歴史の内面化―福岡県糸島市O家におけるウシサマを事例に― (発表)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/ikito	

研究部 博物館研究グループ

青柳 かつら AOYAGI Katsura

職名	学芸部道民サービスグループ学芸主幹 研究部博物館研究グループ学芸主幹(兼)
学位	博士(環境学)、2011年(筑波大学大学院生命環境科学研究科)
担当分野	産業史、博物館学

2024年度	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエデュケーター機能の強化、8広報)	
	研究課題	通常研究	①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究
		館内共同研究	②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査 ③博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究
		外部資金	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2024年度; 研究活動紹介 高齢者福祉施設レク担当者の博物館への意識とは(ニュース) 2022年度; 収蔵資料紹介 窓裾: 目立ての動画記録とスケッチ体験(ニュース)
		調査研究	2024年度; 資料1: (研究事例) 地域での取り組み — 高齢者の地域知を活用した地域学習 — 自然とともに生きる 森林教育学 海青社(共著書籍の筆頭論文) 2023年度; 「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告(紀要、共著)
		展示制作	2024年度; 探してみよう! 地域のお宝(総合展示室小規模展示) 2023年度; いろいろなわら細工(総合展示室クローズアップ展示) 2023年度; 冬山造材を支えた技術: 馬追いの道具から「森のちゃれんが宝箱」— スタッフ押ししの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展覧会!?!— (第21回企画テーマ展) 2022年度; 探してみよう! 地域のお宝(2022年度道北巡回展)
普及行事		2024年度; のこぎりでネームプレートをつくろう!(ちゃれんがワークショップ) 2023年度; 冬山造材を支えた技術: 馬追いの道具から(第21回企画テーマ展ミュージアムトーク)	
対外研究成果発信	2024年度; 博物館における高齢者と協働する地域学習の取り組み(日本森林学会大会 関連集会 第1回森林教育実践研究会) 2022年度; 『JSPS科研費18K01108報告書1. 探してみよう! 地域のお宝 高齢者と協働する地域学習プログラム集』		
researchmapリンク	https://researchmap.jp/read0080880		

櫻井 万里子 SAKURAI Mariko

職名	学芸部博物館基盤グループ主査(図書・情報発信) 研究部博物館研究グループ主査(兼)
学位	学士、1997年(藤女子大学文学部国文学科)
担当分野	図書館情報学

2024年度	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)	
	研究課題	通常研究	①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究
		館内共同研究	②博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究 ③北海道の言語・生活文化にかんする音声映像資料のデジタルアーカイブ構築にむけた基礎的研究
		外部資金	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	
		調査研究	
		展示制作	2024年度; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回)、特別展・企画テーマ展関連図書の展示(4回) 2023年度; 図書室開架図書の入替と特別展・企画テーマ展関連図書の展示(2回入替) 2023年度; 第21回企画テーマ展 森のちゃれんが宝箱 2023年度; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回入替) 2023年度; 図書室開架図書の入替と特別展・企画テーマ展関連図書の展示(2回入替)
普及行事		2024年度; 博物館のウラ側を見よう(特別イベント) 2024年度; 親子で探検! 森のコレクションをつくろう(子どもワークショップ) 2023年度; 博物館のウラ側を見よう(特別イベント) 2023年度; 親子で探検! 森のコレクションをつくろう(子どもワークショップ)	
対外研究成果発信	2023年度; 収蔵資料情報の登録〜公開フローの整理を行ってみたい—総合博物館での一例として— (第61回北海道博物館大会ポスター発表) 2023年度; 「博物館の情報資源と博物館図書室の活動」(第63回北海道図書館大会分科会における発表)		
researchmapリンク	https://researchmap.jp/sakura_lib		

鈴木 あすみ

SUZUKI Asumi

職名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部博物館研究グループ学芸員(兼)
学位	修士(農学)、2018年(帯広畜産大学大学院畜産学研究所)
担当分野	博物館資料学

2024年度 研究課題	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエデュケーター機能の強化、8広報)
	通常研究	①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究
	館内共同研究	②野幌森林公園の生物インベントリー調査(第三次) ③博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究 ④北海道の言語・生活文化にかんする音声映像資料のデジタルアーカイブ構築にむけた基礎的研究 ⑤北海道とサハリン(仮題) ⑥樺太記憶継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用
	外部資金	⑦北海道の小型哺乳類標本コレクションの可視化および収集傾向の時空間解析(科研・研究代表者)
	資料紹介 活動紹介	2024年度;総合展示室資料紹介・第5テーマ「展示室で活躍する“役者”たち」(ニュース) 2022年度;博物館活動紹介 資料情報の公開を進めています!(ニュース)
	調査研究	
	展示制作	2023年度;ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」(第9回特別展)2022年度;アライグマの骨、全部見せます(クローズアップ展示) 2023年度;北海道のひれあし類(クローズアップ展示) 2022年度;もっと!あっちこっち湿地~自然と歴史をめぐる旅~(第20回企画テーマ展)
普及行事	2024年度;博物館のウラ側を見てみよう(特別イベント) 2024年度;親子で探検!森のコレクションをつくろう(子どもワークショップ)	
対外研究成果発信	2024年度;北海道内の博物館における小型哺乳類コレクションの収集傾向に関する研究(発表) 2024年度;真無盲腸目の左右非対称胸椎の高状構造内を走行する静脈に関する研究(発表)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/shrew	

鈴木 明世

SUZUKI Akiyo

職名	総務部企画グループ研究職員 研究部博物館研究グループ研究職員(兼)
学位	修士(建築学)、2018年(早稲田大学大学院創造理工学研究所)
担当分野	建築学

2024年度 研究課題	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	通常研究	①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道における戦中・戦後の暮らしの変化に関する聞き書き調査 ③博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究 ④北海道とサハリン(仮題) ⑤寒冷地の自然と適応(仮)
	外部資金	⑥北海道への養蚕技術の流入と養蚕建築の変容過程(科研・研究代表者) ⑦吉田初三郎『北海道十景』の研究(公益財団法人鹿島美術財団・研究分担者)
博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2024年度;北海道開拓の村 歴史的建造物を守るための基本方針(ニュース) 2023年度;養蚕業の建築からみる本州以南とのつながりと北海道らしさ(ニュース)
	調査研究	2024年度;北海道開拓記念館(現・北海道博物館)の建築にみられる建築家・佐藤武夫の設計意図(紀要)
	展示制作	2024年度;建物を彩るガラス(クローズアップ展示6) 2024年度;北海道開拓の村旧岩間家農家住宅展示改訂 2024年度;総合展示第4テーマ展示改訂
	普及行事	2024年度;のこぎりでネームプレートをつくろう!(ちゃれんがワークショップ) 2024年度;博物館のウラ側を見てみよう(特別イベント)
対外研究成果発信	2024年度;北海道小樽市における戦後建築に関する調査研究 2023年度調査報告:特に小樽中央卸市場について(発表、筆頭) 2024年度;三笠市炭鉱遺構群の調査研究(3) 旧北炭幌内炭鉱の選炭機の現況と復元的考察(発表、共同)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/suzuki_akiyo	

渋谷 美月 SHIBUYA Mizuki

職 名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部博物館研究グループ学芸員(兼)
学 位	学士、2018年(京都工芸繊維大学造形工学課程・デザイン)
担当分野	博物館展示・博物館教育

2024年度	主 な 業 務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエドゥケーター機能の強化、8広報)
	研究課題	通常研究 ①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究
	館内共同研究	②博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究 ③寒冷地の自然と適応(仮)
	外部資金	
博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	
	調査研究	
	展示制作	2022年度;もつと!あっちこっち湿地~自然と歴史をめぐる旅~(第20回企画テーマ展) 2022年度;世界の昆虫 一昆虫を通して、生き物の多様性を知る-(第8回特別展)
	普及行事	
対外研究成果発信	2022年度;ミュージアムがつながりを発信する~おうちミュージアムの仕組みと参加館の取り組み(発表) 2022年度;棚橋賞受賞に寄せて/おうちミュージアムをふりかえる(執筆) 2022年度;おうちミュージアムでミュージアムの新しい使い方を探しませんか(執筆)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/shibuya.mizuki	

高橋 佳久 TAKAHASHI Yoshihisa

職 名	学芸部展示・資料課学芸員 博物館研究センター学芸員(兼)
学 位	修士、2020年(東京学芸大学大学院教育学研究科)
担当分野	文化財保存科学

2024年度	主 な 業 務	展示・資料課業務(1資料の収集・保存、2展示)
	研究課題	通常研究 ①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究
	館内共同研究	②博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究
	外部資金	2023年度:文化財害虫(シミ目)に対する簡便な物理的防除方法の開発~多くの博物館で実践可能な対策を目指して~
博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度:博物館における温湿度管理(ニュース)
	調査研究	2024年度:ニューハクシミに対する簡便な物理的防除方法の効果検証(紀要、筆頭) 2024年度:ATPふき取り検査による北海道博物館収蔵庫内の清浄度調査(紀要、筆頭)
	展示制作	2024年度:「みんなの鉄道 ーがんばれ!地域の公共交通ー」2章(うごかす、まもる)(第10回特別展) 2023年度:博物館資料を虫たちから守る(第21回企画テーマ展)
	普及行事	2024年度:博物館のウラ側を見てみよう(特別イベント)
対外研究成果発信	2024年度:ニューハクシミに対する簡便な物理的防除方法(発表)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/yoshihisa_takahashi	

アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

小川 正人 OGAWA Masahito	職名	学芸副館長 アイヌ民族文化研究センター長(兼)・研究部長(兼)
	学位	博士(教育学)、1995年(北海道大学)
	担当分野	アイヌ史
2024年度 研究課題	主な業務	学芸部門の総覧、アイヌ民族文化研究センターおよび研究部の総括
	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び啓蒙活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道とサハリン(仮題) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト ⑤樺太記憶継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用
近年の主な博物館活動の実績	外部資金	⑥近代日本におけるアイヌ民族と徴兵・軍隊・戦争との関わりについての基礎的研究(科研・研究代表者)
	資料紹介 活動紹介	2024年度: アイヌ民族文化研究センターだより 北海道立アイヌ民族文化研究センターの20年(上)(下)(ニュース) 2023年度: 2023年度新収蔵資料の紹介 1 加藤ソヅエ氏寄贈資料ほか(紀要、共著) 2023年度: 2023年度新収蔵資料の紹介 2 大川原徳右衛門の選挙ポスターと三浦政治の書簡(紀要)
	調査研究	
	展示制作	2024年度: みんなの鉄道ーがんばれ! 地域の公共交通ー(第10回特別展) 2024年度: 測量技師・川村カキトと駅員・森竹竹市の活動(クローズアップ展示4) 2024年度: 「北海道立アイヌ民族文化研究センター」の21年〜開設30周年から振り返る〜(クローズアップ展示3) 2023年度: 北海道・東北北部のアイヌ語地名ー山田秀三の地名研究からー(クローズアップ展示4)
	普及行事	
対外研究成果発信	2024年度: アイヌ民族の近現代史: どう学び、受け止めるべきか(執筆) 2024年度: 現代北海道政治史の中のアイヌ民族(執筆) 2023年度: 「シンポジウム基調報告」アイヌ教育史研究の有効性を問う(発表) 2023年度: アイヌ民族の近代史を考えるー教育をめぐる問題を中心に(発表、執筆)	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/ogamasahito1963	

遠藤 志保 ENDO Shiho	職名	総務部企画グループ研究主査(企画調整) アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究主査(兼)
	学位	修士、2007年(千葉大学大学院文学研究科)
	担当分野	アイヌ文学
2024年度 研究課題	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び啓蒙活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道とサハリン(仮題) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
近年の主な博物館活動の実績	外部資金	
	資料紹介 活動紹介	2022年度: 久保寺逸彦によるアイヌ語語彙カード(紀要) 2022年度: 収蔵資料紹介 久保寺逸彦 最初の調査の記録(ニュース) 2022年度: アイヌ民族文化研究センターだより アイヌ文化巡回展 釧路町で開催しました(9月) / 伊達市で開催中です(9月~11月)(ニュース)
	調査研究	
	展示制作	2024年度: 文字に記されたアイヌ語ーアイヌ自身によるアイヌ語の表記(1)ー(クローズアップ展示4) 2022年度: 久保寺逸彦文庫ーアイヌ文学研究者による調査と資料とおして、時代をさぐるー(第3回蔵出し展) 2022年度: 【特別展関連】アイヌ口承文芸のなかの虫たち(クローズアップ展示4)
	普及行事	2024年度: 2024年度北翔大学公開講座 X 北翔大学・平取町包括連携協定記念シンポジウム「アイヌの伝統文化と歴史から学ぶ これからの私たちの未来のつくり方」パネリスト 2023年度: 「久保寺逸彦『アイヌ語・日本語辞典稿』をめぐって」(アイヌ文化巡回展講座) 2022年度: アイヌ語講座(全4回) 2022年度: 久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く③(ミュージアムカレッジ)
対外研究成果発信		
researchmapリンク	https://researchmap.jp/haocre_hm	

大坂拓 OSAKA Taku

職名	学芸部博物館基盤グループ学芸主査（資料管理） アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ学芸主査（兼）
学位	修士、2008年（明治大学）
担当分野	アイヌ文化

2024年度	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
	研究課題	通常研究 ①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道とサハリン(仮題) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト 外部資金 ⑤博物館収蔵アイヌ民具資料の考古学的手法による分析：移入品としての漆器を対象として（科研・研究代表者） ⑥在ドイツのアイヌ・コレクションの調査研究（科研・研究分担者）
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介 2022年度；2022年度新収蔵資料の紹介—標茶町町別で実施された熊送り儀礼の写真展「まかー」（紀要、共著） 調査研究 2022年度；千島アイヌのゴザに関する基礎的検討—市立函館博物館所蔵資料の位置づけについて—（紀要） 2022年度；市立函館博物館が所蔵する噴火湾アイヌの木幣について—資料情報を復元・再検討する試み—（紀要、共著） 展示制作 2022年度；久保寺逸彦文庫—アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる—（第3回蔵出し展） 2022年度；受け継がれる手業—二風谷の工芸品（クローズアップ3） 普及行事 2023年度；「開拓」とアイヌ民族の土地（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信	2024年度；写真が語るアイヌの近代「見せる」「見られる」のはさま（執筆） 2024年度；近代初頭の石狩川河口域におけるアイヌの鮭漁場—黒田清隆の指示による大網導入とそれに起因する経営破綻を中心として—（執筆） 2024年度；1876年興羽巡幸の奉迎に立ったアイヌの姿—「対艦に移る途上、小樽に上陸した樺太アイヌ一行」説の訂正—（執筆） 2024年度；【書評】浅倉有子編著『漆器からみるアイヌの社会と文化』（執筆） 2023年度；近代北海道における（アイヌ）の境界—松前地西在相沼内村に生まれたサモエの事例を中心として—（執筆） 2023年度；アイヌに対する「認知」の空白と博物館・美術館展示（執筆） 2023年度；博物館展示におけるアイヌの歴史・文化—その現状と課題（発表） 2023年度；アイヌの歴史と文化（発表） 2023年度；明治前半期の石狩川中・下流域におけるアイヌのくらし（発表） 2022年度；博物館展示を通して考える「アイヌ文化」（発表） 2022年度；北海道地券発行条例によるアイヌ民族「住居ノ地所」の官有地第三種編入について—札幌県作成「官有地調」の検討を中心として—（執筆） 2022年度；札幌博物館所蔵アイヌ民具資料（死体包装用縄・背負縄）の資料情報の復元（執筆、共著） 2022年度；千島アイヌの編組製品とその技術的系譜（発表） 2022年度；琴似又一郎の写真について—北海道大学附属図書館所蔵資料の再検討—（執筆） 2022年度；アイヌ民族の塩利用（執筆） 2022年度；アイヌ文化史辞典（分担執筆）	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/osaka_taku	

亀丸由紀子 KAMEMARU Yukiko

職名	学芸部道民サービスグループ学芸員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ学芸員（兼）
学位	修士（文学）、2019年（北海道大学大学院文学研究科）
担当分野	アイヌ文化

2024年度	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエデュケーター機能の強化、8広報) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
	研究課題	通常研究 ①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道とサハリン(仮題) ③寒冷地の自然と適応(仮) ④北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ⑤アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト 外部資金 ⑥考古学的手法を導入した移入品アイヌ民族資料の基礎的研究—耳飾りと首飾りを題材に（科研・研究代表者）
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介 2024年度；アイヌ・ウイルトの布製小物類「まかー」について—北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理報告 2—（紀要、筆頭） 2024年度；研究活動紹介 アイヌの耳飾り・首飾り、そして衣服（ニュース） 2023年度；2023年度新収蔵資料の紹介 1—加藤シヅエ氏寄贈資料「まかー」（紀要、筆頭） 2023年度；「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告（紀要、共著） 調査研究 展示制作 2024年度；「楽器 見る・知る・考える」（第24回企画テーマ展） 2024年度；「北海道のお葬式」（第23回企画テーマ展） 2024年度；新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち（クローズアップ展示3） 2023年度；モノから見るアイヌ文化—首飾りのいろいろ（クローズアップ展示4） 2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 普及行事 2023年度；ハレの日の装い（ミュージアムカレッジ） 2022年度；ハレの日の装い（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信	2024年度；アイヌの耳飾り・首飾り—擦文から現在までを視野に入れて—（発表） 2023年度；アイヌの耳飾り・首飾り（発表）	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/180403kame	

吉川 佳見 YOSHIKAWA Yoshimi

職名	学芸部道民サービスグループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員(兼)
学位	博士(文学)、2021年(千葉大学大学院人文社会科学研究科)
担当分野	アイヌ語

2024年度	研究課題	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアムエドゥケーター機能の強化、8広報) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
		通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び語活活動に関する調査研究
博物館活動の実績	近年の主な	館内共同研究	②北海道の言語・生活文化にかんする音声映像資料のデジタルアーカイブ構築にむけた基礎的研究 ③寒冷地の自然と適応(仮) ④北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ⑤アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
		外部資金	
		資料紹介 活動紹介	2024; アイヌ民族文化研究センターだより 当館のアイヌ語講座のご紹介(ニュース)
		調査研究	
		展示制作	2024; 「楽器 見る・知る・考える」(第24回企画テーマ展) 2022; 文字に記されたアイヌ語ーアイヌ自身によるアイヌ語の表記(1)ー(クローズアップ展示4)
		普及行事	2024; オンラインで楽しむアイヌ語<中級編> 2024; オンラインで楽しむアイヌ語<初級編> 2024; アイヌ語講座〜きほんのキ〜(全4回)
		対外研究成果発信	2024; アイヌ語沙流方言におけるモダリティ(執筆) 2024; AA研所蔵アイヌ語フィールドノートの沙流方言資料の公開に向けて: 公開方法の再考(2)(発表)
		researchmapリンク	https://researchmap.jp/y.yoshikawa

大谷 洋一 OOTANI Yoh'ichi

職名	学芸部博物館基盤グループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員(兼)
学位	
担当分野	アイヌ文学

2024年度	研究課題	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
		通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び語活活動に関する調査研究
博物館活動の実績	近年の主な	館内共同研究	②北海道とサハリン(仮題) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
		外部資金	
		資料紹介 活動紹介	
		調査研究	
		展示制作	2024: 「北海道立アイヌ民族文化研究センター」の21年〜開設30周年から振り返る〜(クローズアップ展示3) 2023: アイヌの子どもの遊び歌一年寄りカラスはどうした?ー(クローズアップ展示3) 2022: 久保寺逸彦文庫ーアイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐるー(第3回蔵出し展) 2022: 萩中美枝さんの仕事: 没後一年を迎え(クローズアップ展示3)
		普及行事	2022; 久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く①(ミュージアムカレッジ)
		対外研究成果発信	
		researchmapリンク	https://researchmap.jp/read0131604

甲 地 利 恵 KÔCHI Rie

職 名	学芸部研究戦略グループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員 (兼)
学 位	修士 (教育学)、1988年 (東京学芸大学大学院教育学研究科)
担当分野	アイヌ文化 (音楽)

2024年度	研究課題	主 な 業 務	研究戦略グループ業務(3調査研究、14研究成果の発信) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
		通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び活活動に関する調査研究
近年の主な博物館活動の実績		館内共同研究	②寒冷地の自然と適応 (仮) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
		外部資金	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査」 (2018~2024年度)
		資料紹介 活動紹介	2023 ; 収蔵資料紹介 宝箱から飛び出した小さなお宝 2022 ; アイヌ民族文化研究センターだより 「見て 聞いて アイヌ文化の世界」 操作方法が変わりました! (ニュース、共著)
		調査研究	2023 ; (編) アイヌ音楽研究に関する文献リスト (2023年まで) (紀要) 2022 ; アイヌの歌の伝統的な技巧の、ジャンルによる使い分けについてのノート (紀要)
		展示制作	2024 ; 「楽器 見る・知る・考える」 (第24回企画テーマ展) 2023、2024 ; 北海道博物館が収蔵するトンコリ (五弦琴) (クローズアップ展示4) 2023 ; 森のちやれんが宝箱 (第21回企画テーマ展) 2022 ; 田辺尚雄によるアイヌ音楽の調査記録 (クローズアップ展示3)
		普及行事	2024 ; レクチャー&コンサート「じっくり聴こう!アイヌの音楽」 (特別イベント) 2022、2023 ; じっくり聴こう!アイヌの音楽 (ミュージアムカレッジ) 2022、2023 ; アイヌ音楽 うたって・おどって・ならして (子どもワークショップ) 2022 ; 「民族音楽学」入門 (ミュージアムカレッジ)
対外研究成果発信			
researchmapリンク			https://researchmap.jp/read0131605

佐々木 利 和 SASAKI Toshikazu

職 名	アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ非常勤研究職員 ※北海道大学アイヌ・先住民研究センター招聘教員 ※東京国立博物館名誉館員
学 位	博士 (文学)、2000年 (早稲田大学)
担当分野	アイヌ民族史・日本近世史

2024年度	研究課題	主 な 業 務	アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
		通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び活活動に関する調査研究
近年の主な博物館活動の実績		館内共同研究	②北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ③アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
		外部資金	
		資料紹介 活動紹介	
		調査研究	
近年の主な博物館活動の実績		展示制作	2022 ; 久保寺逸彦文庫—アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる— (第3回蔵出し展)
		普及行事	2023 ; 「久保寺逸彦 人と学問」 (アイヌ文化巡回展連続講座) 2022 ; 久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く① (ミュージアムカレッジ) 2022 ; 企画展特別講演会 (アイヌ文化巡回展関連講演会)
対外研究成果発信			2024 ; ウィーン万博とアイヌ資料国際シンポジウム 「多文化共生と今後の日本社会—北と南の比較から考える」 (アルザス欧州日本学研究所 (フランス) 主催、法政大学国際日本学研究所 (共催))
researchmapリンク			

奥田 統己 OKUDA Osami

職名	アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ非常勤研究職員 ※札幌学院大学人文学部人間科学科教授
学位	文学修士、1989年（千葉大学）
担当分野	アイヌ語・アイヌ文学

2024年度	主な業務	アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センター業務)
	研究課題	
	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び啓蒙活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づく利活用の促進 ③アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
博物館活動の実績	外部資金	
	資料紹介 活動紹介	2023；総合展示の資料紹介・第2テーマ アイヌの物語を聴く（ニュース）
	調査研究	
	展示制作	2022；久保寺逸彦文庫—アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる—（第3回蔵出し展）
	普及行事	2024；イオマンテカイヨマンテカーアイヌ語の「わたり音」を再考する（ミュージアムカレッジ） 2022；アイヌの英雄叙事詩を聞く—うたと言葉（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信	2024；アイヌ語のわたり音と母音連続（北海道方言研究会第242回例会）	
researchmapリンク	https://researchmap.jp/read0021678	

〈参考〉令和7年度（2025年度）着任職員 ※ 職名は2025年度のものである

館長

荒川裕生	ARAKAWA Hiroki	職名	館長（2025年度～）
職歴	北海道総合企画部政策室参事（2001） 北海道知事政策部知事室次長（2004） 北海道企画振興部計画室長（2005） 北海道企画振興部地域振興・計画局長（2006） 北海道農政部参事監（2008） 北海道総合政策部知事室長（2009） 北海道総合政策部長（2011） 北海道副知事（2013） 学校法人札幌大学理事長（2017）		
社会活動	生活協同組合コープさっぽろ会長（2018年6月～） 公益財団法人北海道スポーツ協会会長（2021年6月～） 北の縄文道民会議代表（2022年7月～）		

学芸職員

柴野初音	SHIBANO Hatsune	職名	学芸部展示・資料課学芸員 北海道研究センター(人文系)学芸員(兼)(2025年度)
		学位	修士(文学)、2025年(北海道大学大学院文学院)
		担当分野	考古
対外研究成果発信	2024年度；小樽市忍路土場遺跡出土種実の研究—2024年度北海道大学史学会 修論・卒論発表会（発表） 2023年度；小樽市における学校天文台についての記録—北海道小樽朝陵高等学校・小樽双葉高等学校について—小樽市総合博物館紀要 37（執筆、共著） 2022年度；K39遺跡北方生物圏フィールド科学センター実験実習棟地点から出土した炭化種子I—北大構内の遺跡XXIX（執筆、共著） 2022年度；札幌市N434遺跡出土炭化種子の再検討—丘珠縄文遺跡年報4（執筆、共著） 2022年度；奥尻島における先史植物利用—レプリカ法による検討—第22回北アジア調査研究報告会予稿集（執筆、共著） 2021年度；札幌市N434遺跡出土炭化種子の研究—2021年度北海道大学史学会 修論・卒論発表会（発表）		
researchmapリンク	https://researchmap.jp/SBNhtn		

波田尚大	HADA Naohiro	職名	学芸部展示・資料課学芸員 北海道研究センター(人文系)学芸員(兼)(2025年度)
		学位	修士(民俗学)、2016年(國學院大學大学院)
		担当分野	民俗
対外研究成果発信			
researchmapリンク	https://researchmap.jp/hadana		

石井祐実	ISHII Yumi	職名	事業部連携協働課学芸員 アイヌ民族文化研究センター学芸員(兼)(2025年度)
		学位	修士(文学)、2024年(北海道大学大学院文学院)
		担当分野	アイヌ文化
対外研究成果発信			
researchmapリンク	https://researchmap.jp/ishiiyumi		

3 利用者数

2024 年度月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合展示室	3,526	6,037	5,538	6,194	8,488	11,523	7,671	3,827	2,686	2,871	3,154	4,669	66,184
うち外国人	410	419	382	633	543	458	482	390	493	574	629	524	5,937
特別展示室	1,872	4,900	3,591	1,872	6,188	5,487	870	3,797	2,344	1,459	2,563	4,279	39,222
はっけん広場	625	706	671	701	1,310	796	792	581	602	485	509	825	8,603
イベント (普及行事・特別イベント)	67	62	79	201	1,327	783	126	240	84	90	130	228	3,417
ウェブサイト	23,728	28,716	25,377	32,901	36,131	31,254	24,208	19,078	15,597	18,143	17,593	21,255	293,981
レファレンス	8	24	17	18	31	13	19	16	18	17	9	15	205

第2期中期目標・計画期(2020~2024年度)利用者数・目標値・達成率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計	目標値	達成率
総合展示室	43,664	36,121	124,391	103,936	66,184	374,296	400,000	93.6%
うち外国人	499	384	2,592	5,506	5,937	14,918	34,000	43.9%
特別展示室	12,563	26,260	82,385	60,582	25,675	207,465	260,000	79.8%
はっけん広場	0	0	102	6,308	8,603	15,013	10,000	150.1%
イベント (普及行事・特別イベント)	783	1,386	2,117	2,198	3,417	9,901	80,000	12.4%
ウェブサイト	333,276	279,677	427,859	413,105	293,981	1,747,898	1,300,000	134.5%
レファレンス	221	157	215	201	205	999	2,800	35.7%

北海道博物館利用状況集計表【総合展示室】(2024年度)

月	開館日数	有料				無料・免除								計	
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳以上	身障者	その他	小計	(人)	うち外国人
4月	25	1,921	244	6	2,171	202	63	11	17	485	224	353	1,355	3,526	410
5月	27	2,836	164	28	3,028	288	1,232	39	16	775	189	470	3,009	6,037	419
6月	26	2,163	217	11	2,391	783	871	8	10	852	142	481	3,147	5,538	382
7月	26	2,699	206	17	2,922	597	484	72	61	983	191	884	3,272	6,194	633
8月	27	4,188	510	71	4,769	847	225	30	11	1,162	402	1,042	3,719	8,488	543
9月	25	3,088	367	11	3,466	5,223	51	105	14	1,384	360	920	8,057	11,523	458
10月	27	2,361	178	34	2,573	2,275	249	816	20	962	192	584	5,098	7,671	482
11月	26	2,062	263	4	2,329	314	32	7	48	449	239	409	1,498	3,827	390
12月	22	1,406	226	10	1,642	311	40	158	32	167	107	229	1,044	2,686	493
1月	24	1,652	202	17	1,871	178	47	100	14	267	157	237	1,000	2,871	574
2月	24	1,803	242	20	2,065	132	23	157	8	331	91	347	1,089	3,154	629
3月	26	2,246	345	44	2,635	318	88	405	0	441	256	526	2,034	4,669	524
合計	305	28,425	3,164	273	31,862	11,468	3,405	1,908	251	8,258	2,550	6,482	34,322	66,184	5,937

北海道博物館利用状況集計表【特別展示室(特別展)】(2024年度)

月	開室日数	有料				無料・免除								計 (人)	企画テーマ展 蔵出し展	計 (人)	
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳以上	身障者	その他	小計				
4月	9	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,872	1,872
5月	27	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,900	4,900
6月	20	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,591	3,591
7月	10	723	50	4	777	173	34	8	1	434	121	324	1,095	1,872	0	1,872	
8月	27	2,473	190	38	2,701	667	153	12	9	1,137	416	1,093	3,487	6,188	0	6,188	
9月	22	1,841	175	8	2,024	1,010	41	10	13	1,169	337	883	3,463	5,487	0	5,487	
10月	5	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	870	870
11月	26	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,797	3,797
12月	22	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,344	2,344
1月	9	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,459	1,459
2月	18	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,563	2,563
3月	26	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,279	4,279
合計	221	5,037	415	50	5,502	1,850	228	30	23	2,740	874	2,300	8,045	13,547	25,675	39,222	

4 企画展開催一覧

特別展等開催一覧

名称	期間	日数	入場者数
第1回特別展 夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・情報—	2015年9月5日～11月8日	56日	51,046人
第2回特別展 ジオパークへ行こう～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～	2016年7月9日～9月25日	68日	59,243人
第3回特別展 プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—	2017年7月8日～9月24日	68日	19,565人
第4回特別展 暮れ維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える—	2018年6月30日～8月26日	50日	44,477人
第5回特別展 アイヌ語地名と北海道	2019年7月6日～9月23日	69日	26,947人
第6回特別展 恐竜展2020 ※新型コロナウイルス感染症拡大により開催中止		—	—
特別企画展 北海道の恐竜	2021年2月12日～3月14日	27日	10,690人
第7回特別展 あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅	2021年7月10日～9月20日	8日	1,411人
※新型コロナウイルス感染症拡大こともなう臨時休館により7月10日～12日、7月22日～9月20日は開催中止			
第8回特別展 世界の昆虫 —昆虫を通して、生き物の多様性を知る—	2022年7月23日～9月25日	56日	59,554人
第9回特別展 北の縄文世界と国宝	2023年7月22日～10月1日	62日	43,473人
第10回特別展 みんなの鉄道—かんぽがね！地域の公共交通—	2024年7月20日～9月23日	57日	13,547人

企画テーマ展等開催一覧

名称	期間	日数	入場者数
第1回企画テーマ展 学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ	2015年4月18日～6月7日	44日	23,889人
第2回企画テーマ展 鶴	2015年6月27日～8月16日	44日	15,091人
第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	6,071人
第4回企画テーマ展 神様おつかい！—地域と人をむすぶ祈りのかたち—	2016年2月27日～4月10日	38日	5,324人
第5回企画テーマ展 アイヌ民族資料を守り伝える力	2016年4月28日～6月5日	34日	9,419人
第6回企画テーマ展 きらい？不思議？楽しい！？漂着物—北の海辺でお宝みつけ！—	2016年10月14日～11月27日	34日	6,139人
第1回蔵出し展 アイヌ民族の造形美—北海道博物館所蔵の木盆—	2016年12月22日～2017年1月15日	18日	1,632人
第7回企画テーマ展 あったか～住まい—北海道・住まいの道のり—	2017年2月3日～3月31日	49日	5,445人
第8回企画テーマ展 夜の森—ようこそ！動物たちの世界へ—	2017年4月28日～6月4日	33日	10,484人
第9回企画テーマ展 弥永コレクション	2017年10月20日～12月24日	54日	8,354人
第10回企画テーマ展 カムイとアイヌの ものがたり	2018年2月2日～4月8日	57日	7,247人
第11回企画テーマ展 野幌森林公園いきもの図鑑	2018年4月27日～6月3日	33日	12,060人
第12回企画テーマ展 りんご農家の道具	2018年9月21日～11月25日	57日	10,085人
第13回企画テーマ展 アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ—博物館の新たな役割—	2019年2月8日～4月7日	51日	8,345人
第14回企画テーマ展 北の手仕事2019	2019年4月27日～6月9日	39日	10,865人
第15回企画テーマ展 エゾシカ	2019年10月12日～12月15日	56日	9,839人
第16回企画テーマ展 北海道神宮 ※2月29日～3月31日臨時休館	2020年2月8日～4月5日	23日	3,826人
第2回蔵出し展 模型でみる札幌建築物語	2020年2月8日～4月5日	23日	3,148人
第17回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+榎谷隆男氏コレクション	2020年4月25日～5月24日 ※中止/オンライン開催	—	—
第18回企画テーマ展 アイヌのくらし—時代・地域・さまざまな姿	2021年10月16日～12月12日	50日	19,288人
第19回企画テーマ展 アンモナイトと生きる—50年の歩みとこれから	2022年2月19日～5月22日	80日	15,354人
第3回蔵出し展 久保寺逸彦文庫—アイヌ文学研究者による調査と資料をとおり、時代をさぐる—	2022年10月29日～2023年1月15日	61日	6,483人
第20回企画テーマ展 もっと！ あっちこっち湿地	2023年2月25日～5月28日	35日	6,200人
第21回企画テーマ展 森のちやれんが宝箱 —スタッフ—押ししの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?!—	2024年2月10日～4月7日	50日	7,633人
第22回企画テーマ展 北海道樹木万華鏡—スキャンアートと標本で見る木々のかたち—	2024年4月27日～6月23日	50日	9,243人
第23回企画テーマ展 北海道のお葬式	2024年10月26日～2025年1月13日	62日	8,470人
第24回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える	2025年2月8日～4月6日	50日	8,334人

その他の展示会開催一覧

名 称	期 間	日数	入場者数
Across Borders:石川直樹写真展 (北海道・アルバータ州協働提携 35 周年記念事業)	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	4,390人
2020 東京オリンピック・パラリンピックがやってくる (秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展)	2017年2月3日～3月17日	37日	4,267人
中島宏章写真展 あなたの街のコウモリの森	2017年4月28日～6月4日	33日	10,484人
生命のれきし—君につながるものがたり— (国立科学博物館 巡回ミュージアム)	2018年12月8日～2019年1月20日	31日	13,101人
TUKU IHO 受け継がれるレガシー (ニュージーランドマオリ工芸学校日本巡回展)	2019年4月27日～5月14日	16日	7,738人

アイヌ文化巡回展開催一覧

名 称	会 場	期 間	日数	入場者数
第1回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2016枝幸 オホーツクミュージアム えさし	2016年7月5日～9月4日		2,705人
第2回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2016美幌 美幌博物館	2016年10月8日～11月27日		1,014人
第3回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2017羅臼 羅臼町郷土資料館	2017年7月22日～10月18日		952人
第4回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2018層雲峡 大雪山国立公園層雲峡 ビジターセンター	2018年8月21日～9月30日		8,792人
第5回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2018標津 標津町生涯学習センター 「あすばる」	2018年10月6日～10月21日		2,164人
第6回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2019白老 白老町中央公民館・ 白老コミュニティセンター	2019年9月17日～9月26日		802人
第7回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2019新ひだか 新ひだか町公民館・ コミュニティセンター	2019年9月22日～9月23日		250人
第8回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展	2020白老 仙台藩白老元陣屋資料館	2020年1月4日～1月19日		201人
第9回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名と木田金次郎 木田金次郎美術館	2020年7月3日～11月3日	106日	2,935人
第10回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～2021幕別 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～2022幕別	①幕別町志願ナウマン象記念館 ②幕別町百年記念ホール	①2021年4月29日～5月17日 ②2022年2月2日～3月7日	①18日 ①1,395人 ②31日 ②7,204人
第11回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から ～2021長万部 長万部町学習文化センター	2021年10月23日～30日	7日	206人
第12回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から ～2022釧路町 釧路町公民館	2022年9月3日	1日	
第13回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～2022伊達 だて歴史文化ミュージアム	2022年9月17日～11月27日	53日	1,473人
第14回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三のアイヌ語地名研究から～ 美幌市郷土史料館	2023年7月7日～9月3日	43日	481人
第15回 アイヌ文化巡回展	札幌の地名と歴史を尋ねて 北海道立道民活動振興 センター (かでの2・7)	2023年8月26日	1日	160人
第16回 アイヌ文化巡回展	第16回アイヌ文化巡回展 in 奥尻町 奥尻町海洋研修センター	2023年10月1日～10月22日	21日	161人
第17回 アイヌ文化巡回展	久保寺 逸彦～釧路が育んだアイヌ文学の泰斗～ 釧路市立博物館	2023年11月18日～2024年2月4日	60日	3,338人
第18回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 広尾町児童福祉会館	2024年6月12日～6月26日	13日	299人

クローズアップ展示の開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2023年度1	北広島市で新たに発見されたクジラ化石	2024年2月16日～4月11日
2	2024年度1	「地質の日」関連展示 恐竜絶滅の痕跡―北海道釧路町の白亜紀(K)/古第三紀(Pg)境界層の剥き取り標本	2024年4月12日～8月8日
3	2024年度2	「化石の日」関連展示 植物化石と石炭	2024年8月9日～12月18日
4	2024年度3	北広島市で新たに発刊されたクジラ化石	2024年12月21日～2025年4月10日

クローズアップ展示1開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	松前・江差湊のにぎわい―『松前江差屏風』を読む―	2015年4月18日～6月28日
2	2015年度2	江差・桧山のんびりと―『江差桧山屏風』を読む―	2015年6月30日～9月27日
3	2015年度3	アイヌ民族の一年―『蝦夷風俗十二月屏風』を読む―	2015年9月29日～2016年1月8日
4	2015年度4	北のシルクロード―サンタン交易をさぐる―	2016年1月9日～4月22日
5	2016年度1	描かれたアイヌ民族のサケ漁―小玉貞農筆『蝦夷国魚場風俗図巻』の世界―	2016年4月23日～6月3日
6	2016年度2	豪商村山家と松前・蝦夷地	2016年6月4日～7月29日
7	2016年度3	アイヌ民族の一年―『蝦夷風俗十二月屏風』を読む―その1	2016年7月30日～9月30日
8	2016年度4	19世紀のアイヌの衣文化―『蝦夷島奇観』と北海道神宮資料から―	2016年10月1日～12月14日
9	2016年度5	アイヌ民族の一年―『蝦夷風俗十二月屏風』を読む―その2	2016年12月17日～2017年2月3日
10	2016年度6	梁川時代の松前藩―『近藤家資料』から―	2017年2月4日～4月7日
11	2017年度1	《松前屏風》を読む	2017年4月8日～6月2日
12	2017年度2	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む（右隻：1～6月）	2017年6月3日～8月4日
13	2017年度3	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む（左隻：7～12月）	2017年8月5日～10月6日
14	2017年度4	豪商村山家の古文書	2017年10月7日～12月13日
15	2017年度5	松前藩家臣近藤家の古文書	2017年12月16日～2018年2月2日
16	2017年度6	ヨイチ場所請負人林家の古文書	2018年2月3日～4月6日
17	2018年度1	巻物を読む 蝦夷国魚場風俗図巻／蝦夷風俗絵巻	2018年4月7日～7月13日
18	2018年度2	古文書を読む 新着資料 フラーシエム家の古文書	2018年7月14日～12月12日
19	2018年度3	屏風を読む 《江差屏風》／《桧山屏風》	2018年12月15日～2019年4月12日
20	2019年度1	『蝦夷風俗十二月屏風』を読む（1）	2019年4月13日～6月7日
21	2019年度2	古地図・絵図からさぐるアイヌ語地名	2019年6月8日～10月11日
22	2019年度3	『蝦夷風俗十二月屏風』を読む（2）	2019年10月12日～12月18日
23	2019年度4	北のシルクロード：サンタン交易と蝦夷錦	2019年12月21日～2020年4月10日
24	2020年度1	近世文書を読む① フラーシエム・コレクション	2020年4月11日～6月11日
25	2020年度2	近世文書を読む② 林家文書	2020年6月12日～8月13日
26	2020年度3	近世文書を読む③ 工藤家文書	2020年8月14日～10月15日
27	2020年度4	近世文書を読む④ 村山家文書	2020年10月16日～12月16日
28	2020年度5	近世文書を読む⑤ 岩野家文書	2020年12月19日～2021年2月18日
29	2020年度6	近世文書を読む⑥ 近藤家文書	2021年2月19日～4月15日
30	2021年度1	描かれたアイヌ民族のサケ漁―小玉貞農筆『蝦夷国魚場風俗図巻』	2021年4月16日～6月17日
31	2021年度2	近世蝦夷地の古文書	2021年6月18日～12月15日
32	2021年度3	松前・江差湊のにぎわい―『松前江差屏風』を読む	2021年12月18日～2022年4月14日
33	2022年度1	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む（右隻：1～6月）	2022年4月15日～6月16日
34	2022年度2	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む（左隻：7～12月）	2022年6月17日～8月11日
35	2022年度3	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む（右隻：1～6月）	2022年8月12日～10月13日
36	2022年度4	《蝦夷風俗十二月屏風》を読む（左隻：7～12月）	2022年10月14日～12月14日
37	2022年度5	近世蝦夷地の古文書	2022年12月17日～2023年4月13日
38	2023年度1	描かれたアイヌ民族のサケ漁―小玉貞農筆『蝦夷国魚場風俗図巻』	2023年4月14日～6月15日
39	2023年度2	『蝦夷島奇観』をさぐる―当館所蔵の模写から―	2023年6月16日～10月12日

番号	年度	名 称	期 間
40	2023年度3	地図に描かれた幕末のカラフト島とエトロフ島	2023年10月13日～12月13日
41	2023年度4	江戸時代終わりごろのイシカリ-村山家の文書と地図から-	2023年12月16日～2024年2月15日
42	2023年度5	仙台石巻漂流民が見たロシア極東-『環海異聞』をもとに-	2024年2月16日～4月11日
43	2024年度1	ヨイチ場所請負人 林家文書の世界①	2024年4月12日～6月13日
44	2024年度2	『蝦夷島奇観』写本から①: オットセイ猟	2024年6月14日～10月10日
45	2024年度3	『蝦夷島奇観』写本から②: クマ祭り	2024年10月11日～2025年2月13日
46	2024年度4	幕末における幕府高官の随行と接待	2025年2月14日～4月10日

クローズアップ展示2開催一覧

番号	年度	名 称	期 間
1	2015年度1	新撰組の元幹部隊士-永倉新八ゆかりの資料-	2015年4月18日～5月31日
2	2015年度2	所蔵資料でふりかえる「札幌まつり」	2015年6月2日～6月28日
3	2015年度3	北海道の双六あれこれ	2015年6月30日～8月30日
4	2015年度4	アイヌを描いた絵師/早坂文嶺	2015年9月1日～11月1日
5	2015年度5	北海道の雑誌あれこれ	2015年11月3日～11月29日
6	2015年度6	北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	2015年12月1日～2016年1月29日
7	2015年度7	北海道へ移住した武士が伝えた古文書	2016年1月30日～4月3日
8	2016年度1	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2016年4月5日～6月3日
9	2016年度2	80年前の画家たちが見た北海道	2016年6月4日～7月29日
10	2016年度3	新撰組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2016年7月30日～9月30日
11	2016年度4	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ ①	2016年10月1日～11月3日
12	2016年度5	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ ②	2016年11月4日～12月14日
13	2016年度6	開拓を支えた交通・通信施設 駅通	2016年12月17日～2017年2月3日
14	2016年度7	江戸時代・明治時代の「熊送り図」	2017年2月4日～4月7日
15	2017年度1	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2017年4月8日～6月2日
16	2017年度2	開道の旅-《北海道巡教錦絵》-	2017年6月3日～8月4日
17	2017年度3	北海道の双六あれこれ	2017年8月5日～10月6日
18	2017年度4	アイヌ民族を描く-早坂文嶺と《蝦夷島奇観》-	2017年10月7日～12月13日
19	2017年度5	馬の肖像画家・島中露山	2017年12月16日～2018年2月2日
20	2017年度6	生誕200年 旅の巨人・松浦武四郎	2018年2月3日～4月6日
21	2018年度1	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2018年4月7日～5月25日
22	2018年度2	新撰組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2018年5月26日～7月13日
23	2018年度3	「北海道の名づけ親」松浦武四郎の語られ方	2018年7月14日～9月14日
24	2018年度4	北海道の双六あれこれ	2018年9月15日～12月12日
25	2018年度5	北海道の引札あれこれ	2018年12月15日～2019年2月8日
26	2018年度6	開拓使のお雇い外国人B.S. ライマンの弟子 山際永吾	2019年2月9日～4月12日
27	2019年度1	松浦武四郎の蝦夷日誌を読む	2019年4月13日～6月7日
28	2019年度2	松浦武四郎の地図からさぐるアイヌ語地名	2019年6月8日～10月11日
29	2019年度3	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2019年10月12日～12月18日
30	2019年度4	新しく仲間入りした歴史資料たち	2019年12月21日～2020年4月10日
31	2020年度1	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2020年4月11日～6月11日
32	2020年度2	新撰組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2020年6月12日～8月13日
33	2020年度3	船絵馬	2020年8月14日～10月15日
34	2020年度4	旧松前藩士 南條家資料	2020年10月16日～12月16日
35	2020年度5	北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	2020年12月19日～2021年2月18日
36	2020年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2021年2月19日～4月15日
37	2021年度1	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2021年4月16日～6月17日

番号	年度	名称	期間
38	2021年度2	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2021年6月18日～8月12日
39	2021年度3	幕末の志士・松浦武四郎が見た、蝦夷地の湿地	2021年8月13日～10月14日
40	2021年度4	アイヌを描いた絵師 早坂文嶺	2021年10月15日～12月15日
41	2021年度5	北海道へ「移住した」古文書たち	2021年12月18日～2022年2月17日
42	2021年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2022年2月18日～4月14日
43	2022年度1	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2022年4月15日～6月16日
44	2022年度2	生誕200年 絵師・平沢屏山	2022年6月17日～8月11日
45	2022年度3	北海道開拓こゆかりの歴史資料たち	2022年8月12日～10月13日
46	2022年度4	木戸竹石の《鮭漁図屏風》	2022年10月14日～12月14日
47	2022年度5	北海道の引札あれこれ	2022年12月17日～2023年2月16日
48	2022年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2023年2月17日～4月13日
49	2023年度1	新選組の元幹部隊士 永倉新八	2023年4月14日～6月15日
50	2023年度2	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2023年6月16日～8月10日
51	2023年度3	関東大震災から100年 災害を伝えた絵葉書	2023年8月11日～10月12日
52	2023年度4	北海道の双六あれこれ	2023年10月13日～12月13日
53	2023年度5	木戸竹石の《捕馬図屏風》	2023年12月16日～2024年2月15日
54	2023年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2024年2月16日～4月11日
55	2024年度1	ヨイチ場所請負人 林家文書の世界②	2024年4月12日～6月13日
56	2024年度2	近代の交通・通信を支えた駅通	2024年6月14日～10月10日
57	2024年度3	新選組の元幹部隊士 永倉新八	2024年10月11日～12月18日
58	2024年度4	国境の地域「樺太」	2024年12月21日～2025年2月13日
59	2024年度5	新しく仲間入りした歴史資料たち	2025年2月14日～4月10日

クローズアップ展示3開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	アイヌ文化 イナウ	2015年4月18日～10月18日
2	2015年度2	サハリン(樺太)の衣文化	2015年10月20日～2016年4月17日
3	2016年度1	伝承者が生きた近現代 鍋澤元蔵さん	2016年4月19日～7月15日
4	2016年度2	昔の記録こみる子どもの遊び	2016年7月16日～12月14日
5	2016年度3	祈りの造形—イクパスイ—	2016年12月17日～2017年4月7日
6	2017年度1	山田秀三とアイヌ語地名を歩く—登別—	2017年4月8日～8月4日
7	2017年度2	先祖供養を行うときの屋内	2017年8月5日～12月13日
8	2017年度3	祈りの造形—死者を悼む—	2017年12月16日～2018年4月6日
9	2018年度1	山田秀三とアイヌ語地名を歩く—旭川—	2018年4月7日～7月13日
10	2018年度2	人と歴史と—川村カトと旭川—	2018年7月14日～12月12日
11	2018年度3	伝承者が生きた近現代 四宅ヤエさん	2018年12月15日～2019年4月12日
12	2019年度1	祈りの造形—死者を悼む (2) 死者用の靴	2019年4月13日～8月16日
13	2019年度2	アイヌ語地名研究者・山田秀三の葉書から	2019年8月17日～12月18日
14	2019年度3	関東におけるアイヌ文化の活動	2019年12月21日～2020年4月10日
15	2020年度1	伝承者が生きた近現代 平賀さだもさん	2020年4月11日～8月13日
16	2020年度2	祈りの造形—狐神の舟	2020年8月14日～12月16日
17	2020年度3	キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料	2020年12月19日～2021年4月15日
18	2021年度1	祈りの造形—音吉さんのイナウ	2021年4月16日～8月12日
19	2021年度2	「水」や「湿地」のアイヌ語地名—山田秀三の地名調査資料から—	2021年8月13日～12月15日
20	2021年度3	久保寺逸彦のアイヌ語辞典	2021年12月18日～2022年4月14日
21	2022年度1	田辺尚雄によるアイヌ音楽の調査記録	2022年4月15日～8月11日
22	2022年度2	受け継がれる手業 二風谷の工芸品	2022年8月12日～12月14日

番号	年度	名 称	期 間
23	2022年度3	萩中美枝さんの仕事	2022年12月17日～2023年4月13日
24	2023年度1	アイヌ語学習教材のいろいろ	2023年4月14日～8月10日
25	2023年度2	小樽アイヌが経験した近代	2023年8月11日～12月13日
26	2023年度3	アイヌの子どもの遊び歌—年寄りカラスはどうした？—	2023年12月16日～2024年4月11日
27	2024年度1	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2024年4月12日～8月8日
28	2024年度2	「開発」とアイヌのくらし—消えたサイノバの集落—	2024年8月9日～12月18日
29	2024年度3	「北海道立アイヌ民族文化研究センター」の21年～開設30周年から振り返る～	2024年12月21日～4月10日

クローズアップ展示4開催一覧

番号	年度	名 称	期 間
1	2015年度1	アイヌ史 1920～30年代の札幌	2015年4月18日～2016年1月31日
2	2015年度2	サハリン(樺太)アイヌの近現代史	2016年2月2日～7月15日
3	2016年度1	千島アイヌの近現代史	2016年7月16日～12月14日
4	2016年度2	北海道南部・渡島半島の近現代史	2016年12月17日～2017年4月7日
5	2017年度1	文字に記されたアイヌ語 —18～19世紀頃の資料から—	2017年4月8日～8月4日
6	2017年度2	首都圏、近畿地方の近現代史	2017年8月5日～12月13日
7	2017年度3	文字に記されたアイヌ語—1890 年ごろの北海道庁の試み—	2017年12月16日～2018年4月6日
8	2018年度1	文書や絵画に見るアイヌの芸能	2018年4月7日～7月13日
9	2018年度2	仕事とくらしのうつりかわり1 毒矢の禁止、そこからの歩み	2018年7月14日～12月12日
10	2018年度3	1870～1920年ごろの札幌	2018年12月15日～2019年4月12日
11	2019年度1	サハリン (樺太) アイヌの近現代史	2019年4月13日～8月16日
12	2019年度2	アイヌ語地名研究者・山田秀三の、アイヌ文化の記録や保存への関わり	2019年8月17日～12月18日
13	2019年度3	モノから見るアイヌ文化—耳飾りのいろいろ	2019年12月21日～2020年4月10日
14	2020年度1	灰場武雄さんがつくったトンコリ (五弦琴)	2020年4月11日～8月13日
15	2020年度2	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2020年8月14日～12月16日
16	2020年度3	渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化	2020年12月19日～2021年4月15日
17	2021年度1	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2021年4月16日～12月15日
18	2021年度2	久保寺逸彦が集めた民具	2021年12月18日～2022年4月14日
19	2022年度1	【特別展関連】 アイヌ口承文芸のなかの虫たち	2022年4月15日～9月29日
20	2022年度2	アイヌ無形文化伝承保存会 その設立と歩み	2022年9月30日～12月14日
21	2022年度3	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2022年12月17日～2023年4月13日
22	2023年度1	北海道博物館が河蔵するトンコリ (五弦琴)	2023年4月14日～8月10日
23	2023年度2	アイヌ北海道・東北北部のアイヌ語地名—山田秀三の地名研究から—	2023年8月11日～12月13日
24	2023年度3	モノから見るアイヌ文化—首飾りのいろいろ	2023年12月16日～2024年4月11日
25	2024年度1	文字に記されたアイヌ語—アイヌ自身によるアイヌ語の表記(1)—	2024年4月12日～8月8日
26	2024年度2	測量技師・川村カ子と駅員・森竹竹市の活動	2024年8月9日～12月18日
27	2024年度3	北海道博物館が河蔵するトンコリ (五弦琴)	2024年12月21日～2025年4月10日

クローズアップ展示5開催一覧

番号	年度	名 称	期 間
1	2015年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2015年4月18日～2016年3月13日
2	2015年度2	北海道の〈やきもの〉① 小森忍の試み	2016年3月15日～7月15日
3	2016年度1	北海道の〈やきもの〉② 古代文字と名付けられた模様	2016年4月22日～6月2日
4	2016年度2	北海道の〈やきもの〉③ 北海道らしさの創造	2016年6月3日～7月29日
5	2016年度3	模型でめぐる北海道の建物① 道南地域の建物	2016年7月30日～9月16日
6	2016年度4	模型でめぐる北海道の建物② 道央地域の建物	2016年9月17日～10月28日
7	2016年度5	模型でめぐる北海道の建物③ 札幌農学校の建物	2016年10月29日～12月14日

番号	年度	名 称	期 間
8	2016年度6	土産品店の店さき	2016年12月17日～2017年4月7日
9	2017年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2017年4月8日～8月4日
10	2017年度2	いろいろな鋸	2017年8月5日～12月13日
11	2017年度3	職人の道具と技術―馬具・蹄鉄―	2017年12月16日～2018年4月6日
12	2018年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2018年4月7日～7月13日
13	2018年度2	集治監と囚人労働	2018年7月14日～12月12日
14	2018年度3	北海道の繊維産業	2018年12月15日～2019年4月12日
15	2019年度1	道産子のブラジル移住100周年	2019年4月13日～8月16日
16	2019年度2	岩手県から北海道へ渡った神楽	2019年8月17日～12月18日
17	2019年度3	看板あれこれ	2019年12月21日～2020年4月10日
18	2020年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2020年4月11日～8月13日
19	2020年度2	馬・馬の道具	2020年8月14日～12月16日
20	2020年度3	吉田初三郎と北海道	2020年12月19日～2021年4月15日
21	2021年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2021年4月16日～8月12日
22	2021年度2	木村捷司の壁画「開拓」制作関連資料	2021年8月13日～12月15日
23	2021年度3	木造建築をたてる技術と道具	2021年12月18日～2022年4月14日
24	2022年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2022年4月15日～8月11日
25	2022年度2	新しく仲間入りした生活・産業資料たち	2022年8月12日～12月14日
26	2022年度3	職人の道具と技術―馬そり	2022年12月17日～2023年4月13日
27	2023年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2023年4月14日～2023年8月10日
28	2023年度2	色々なわら細工	2023年8月11日～12月13日
29	2023年度3	職人の道具と技術―鍛冶職人―	2023年12月16日～2024年4月11日
30	2024年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2024年4月12日～8月8日
31	2024年度2	乗る・引く・運ぶ、馬の道具	2024年8月9日～12月18日
32	2024年度3	いろいろな鋸	2024年12月21日～2025年4月10日

クローズアップ展示6開催一覧

番号	年度	名 称	期 間
1	2015年度1	札幌オリンピック	2015年4月18日～7月26日
2	2015年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)のいろいろ	2015年7月28日～11月29日
3	2015年度3	懐かしのおもちゃ	2015年12月1日～2016年3月27日
4	2016年度1	北海道百年	2016年3月29日～7月29日
5	2016年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2016年7月30日～12月14日
6	2016年度3	懐かしの家庭用品	2016年12月17日～2017年4月7日
7	2017年度1	札幌オリンピック	2017年4月8日～8月4日
8	2017年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2017年8月5日～12月13日
9	2017年度3	札幌の百貨店	2017年12月16日～2018年4月6日
10	2018年度1	懐かしのレコード	2018年4月7日～7月13日
11	2018年度2	「北海道百年」	2018年7月14日～12月12日
12	2018年度3	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2018年12月15日～2019年4月12日
13	2019年度1	おままごの世界	2019年4月13日～8月16日
14	2019年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2019年8月17日～12月18日
15	2019年度3	「すまい」を彩るタイル	2019年12月21日～2020年4月10日
16	2020年度1	みんなが夢中になった子ども雑誌	2020年4月11日～8月13日
17	2020年度2	北海道とオリンピック	2020年8月14日～12月16日
18	2020年度3	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2020年12月19日～2021年4月15日
19	2021年度1	おふるろに行こう!	2021年4月16日～8月12日

番号	年度	名称	期間
20	2021年度2	たくぎん (北海道拓殖銀行)	2021年8月13日～12月15日
21	2021年度3	北海道百年	2021年12月18日～2022年4月14日
22	2022年度1	【特別展関連】 虫と戦い、虫と親しむ	2022年4月15日～9月29日
23	2022年度2	たくぎん (北海道拓殖銀行)	2022年9月30日～12月14日
24	2022年度3	あっちこっちマッチ ～マッチのデザインをめぐる旅～	2022年12月17日～2023年4月13日
25	2023年度1	たくぎん (北海道拓殖銀行)	2023年4月14日～2023年8月10日
26	2023年度2	高度経済成長期の発掘調査	2023年8月11日～12月13日
27	2023年度3	レンガ ー日本の近代化を支えた建築材料ー	2023年12月16日～2024年4月11日
28	2024年度1	たくぎん (北海道拓殖銀行)	2024年4月12日～8月8日
29	2024年度2	バスに乗っていこう！	2024年8月9日～12月18日
30	2024年度3	建物を彩るガラス	2024年12月21日～2025年4月10日

クローズアップ展示7開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	北海道の生物多様性	2015年4月18日～10月18日
2	2015年度2	海からの (おくりもの)	2015年10月20日～2016年4月24日
3	2016年度1	動物の頭骨と歯のかたち	2016年4月26日～7月29日
4	2016年度2	歩く宝石 “北海道のオサムシ”	2016年7月30日～12月14日
5	2016年度3	果実と種子の不思議	2016年12月17日～2017年4月7日
6	2017年度1	北海道のカタツムリのいろいろ	2017年4月8日～8月4日
7	2017年度2	リンゴはなぜ赤い？ 果実と種子のヒミツにせまる	2017年8月5日～12月13日
8	2017年度3	どこのウマの骨でしょう？	2017年12月16日～2018年4月6日
9	2018年度1	「歩く宝石」オサムシ	2018年4月7日～7月13日
10	2018年度2	「生き物たちの北海道」の150年	2018年7月14日～12月12日
11	2018年度3	空飛ぶ鳥の「願いの骨」	2018年12月15日～2019年4月12日
12	2019年度1	昆虫から見る生物多様性	2019年4月13日～8月16日
13	2019年度2	北海道の地名にちなむ植物※	2019年8月17日～12月18日
14	2019年度3	北海道にいるのいらないの？ モグラの仲間	2019年12月21日～2020年4月10日
15	2020年度1	北海道のいろいろなカタツムリ	2020年4月11日～8月13日
16	2020年度2	恐竜と鳥をつなぐ骨	2020年8月14日～12月16日
17	2020年度3	リンゴはなぜ赤い？ 木の実・草の実の不思議な世界	2020年12月19日～2021年4月15日
18	2021年度1	(歩く宝石) 北海道のオサムシ	2021年4月16日～8月12日
19	2021年度2	アライグマのひみつ	2021年8月13日～12月15日
20	2021年度3	ロッペン鳥ってどんな鳥？	2021年12月18日～2022年4月14日
21	2022年度1	【特別展関連】 (歩く宝石) 北海道のオサムシ	2022年4月15日～9月29日
22	2022年度2	リンゴはなぜ赤い？ 草や木の実の不思議な世界	2022年9月30日～12月14日
23	2022年度3	アライグマの骨、全部見せます	2022年12月17日～2023年4月13日
24	2023年度1	野幌森林公園の植物を調べる	2023年4月14日～2023年8月10日
25	2023年度2	北海道のひれあし類	2023年8月11日～12月13日
26	2023年度3	標本3DNAのタイムカプセル	2023年12月16日～2024年4月11日
27	2024年度1	<歩く宝石>北海道のオサムシ	2024年4月12日～8月8日
28	2024年度2	植物名に見る「ホロムイ」の謎	2024年8月9日～12月18日
29	2024年度3	鶏の骨いろいろ	2024年12月21日～2025年4月10日

5 刊行物一覧

これまでに出版した刊行物

名称	刊行年月日	判型	頁数
北海道博物館ガイドブック	2015年4月1日	A5判	64頁
ビジュアル北海道博物館	2016年3月31日	A4判	120頁
北東アジアの十字路 北海道博物館展示案内	2023年3月1日	B5判	64頁
研究紀要			
北海道博物館研究紀要 第1号	2016年3月	A4判	166頁
北海道博物館研究紀要 第2号	2017年3月	A4判	156頁
北海道博物館研究紀要 第3号	2018年3月	A4判	272頁
北海道博物館研究紀要 第4号	2019年3月	A4判	204頁
北海道博物館研究紀要 第5号	2020年3月	A4判	288頁
北海道博物館研究紀要 第6号	2021年3月	A4判	206頁
北海道博物館研究紀要 第7号	2022年3月	A4判	194頁
北海道博物館研究紀要 第8号	2023年3月	A4判	230頁
北海道博物館研究紀要 第9号	2024年3月	A4判	262頁
北海道博物館研究紀要 第10号	2025年3月	A4版	270頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第1号	2016年3月	A4判	234頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第2号	2017年3月	A4判	160頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第3号	2018年3月	A4判	172頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第4号	2019年3月	A4判	150頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第5号	2020年3月	A4判	288頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第6号	2021年3月	A4判	166頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第7号	2022年3月	A4判	128頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第8号	2023年3月	A4判	134頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第9号	2024年3月	A4判	55頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第10号	2025年3月	A4版	95頁
資料目録			
北海道博物館資料目録 第1号 (弥永コレクション)	2017年10月20日	A4判	128頁
北海道博物館資料目録 第2号 (フラージェム・コレクション)	2020年3月	A4判	74頁
北海道博物館資料目録 第3号 (全国権太連盟資料1)	2024年3月27日	A4判	160頁
北海道博物館資料目録 第4号 (全国権太連盟資料2)	2025年3月25日	A4判	183頁
要覧			
北海道博物館要覧 第1号 (要覧2015)	2017年3月31日	A4判	180頁
北海道博物館要覧 第2・3号 (要覧2016・2017)	2018年11月30日	A4判	176頁
北海道博物館要覧 第4号 (要覧2018)	2019年7月31日	A4判	146頁
北海道博物館要覧 第5号 (要覧2019)	2020年7月31日	A4判	142頁
北海道博物館要覧 第6号 (要覧2020)	2021年11月20日	A4判	164頁
北海道博物館要覧 第7号 (要覧2021)	2022年7月29日	A4判	176頁
北海道博物館要覧 第8号 (要覧2022・2023)	2024年9月20日	A4版	172頁
広報誌			
森のちゃれんがニュース 創刊号 (2015秋)	2015年9月1日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第2号 (2015冬)	2015年12月1日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第3号 (2016春)	2016年3月1日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第4号 (2016夏)	2016年7月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第5号 (2016秋)	2016年9月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第6号 (2016冬)	2016年12月22日	A4判	8頁

名称	刊行年月日	判型	頁数
森のちゃれんがニュース 第7号 (2017春)	2017年3月31日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第8号 (2017夏)	2017年6月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第9号 (2017秋)	2017年10月17日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第10号 (2017冬)	2017年12月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第11号 (2018春)	2018年3月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第12号 (2018夏)	2018年7月27日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第13号 (2018秋)	2018年10月19日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第14号 (2018冬)	2018年12月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第15号 (2019春)	2019年3月26日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第16号 (2019夏)	2019年6月25日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第17号 (2019秋)	2019年9月25日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第18号 (2019冬)	2019年12月31日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第19号 (2020春)	2020年3月26日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第20号 (2020夏)	2020年6月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第21号 (2020秋)	2020年9月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第22号 (2020冬)	2020年12月31日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第23号 (2021春)	2021年3月25日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第24号 (2021夏)	2021年6月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第25号 (2021秋)	2021年9月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第26号 (2021冬)	2022年1月5日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第27号 (2022春)	2022年3月24日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第28号 (2022夏)	2022年6月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第29号 (2022秋)	2022年9月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第30号 (2022冬)	2023年1月5日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第31号 (2023春)	2023年3月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第32号 (2023夏)	2023年6月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第33号 (2023秋)	2023年9月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第34号 (2023冬)	2024年1月10日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第35号 (2024春)	2024年3月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第36号 (2024夏)	2024年6月27日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第37号 (2024秋)	2024年9月26日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第38号 (2024冬)	2024年1月10日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース 第39号 (2025春)	2025年3月27日	A4判	8頁
特別展等図録			
夷曾列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界 (開館記念特別展図録) ※編集は北海道博物館、発行は「夷曾列像」展実行委員会・北海道新聞社	2015年9月5日	A4判	196頁
ジオパークへ行くこうへ恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探寸旅～ (第2回特別展図録)	2016年7月9日	A5判	128頁
プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語— (第3回特別展図録)	2017年7月8日	A4判	104頁
幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える— (第4回特別展図録) ※編集は北海道博物館、三重県総合博物館、北海道立帯広美術館、松浦武四郎記念館、発行は株式会社勝毎光風社。	2018年6月30日	A4判	160頁
アイヌ語地名と北海道 (第5回特別展図録)	2019年7月4日	A4判	144頁
あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～ (第7回特別展図録)	2021年7月10日	A4判	136頁
アイヌのくらし—時代・地域・さまざまな姿 (第18回企画テーマ展図録) ※編集は北海道博物館、群馬県立歴史博物館、公益財団法人アイヌ民族文化財団、発行は公益財団法人アイヌ民族文化財団。	2021年10月16日	A4判	300頁
世界の昆虫 —昆虫を通して、生き物の多様性を知る— (第8回特別展図録)	2022年7月23日	A4判	128頁
北の縄文世界と国宝 (第9回特別展図録)	2023年7月22日	A4判	127頁
みんなの鉄道—がんばれ！地域の公共交通—	2024年7月20日	A4版	128頁

名称	刊行年月日	判型	頁数
企画テーマ展パンフレット			
鶴 (第2回企画テーマ展パンフレット)	2015年6月27日	A4判	4頁
北海道のアンモナイトとその魅力 (第3回企画テーマ展パンフレット)	2015年11月28日	A4判	4頁
神様おなかいい!—地域と人をむすぶ祈りのかたち— (第4回企画テーマ展パンフレット)	2016年2月27日	A4判	4頁
アイヌ民族資料を守り伝える力 (第5回企画テーマ展パンフレット)	2016年4月28日	A4判	4頁
きれいな?不思議?楽しい!?漂着物—北の海辺でお宝みつけ!— (第6回企画テーマ展パンフレット)	2016年10月14日	A4判	4頁
あったか!住まい—北海道・住まいの道のり— (第7回企画テーマ展パンフレット)	2017年2月3日	A4判	4頁
夜の森—ようこそ!動物たちの世界へ— (第8回企画テーマ展パンフレット)	2017年4月28日	A4判	4頁
弥永コレクション (第9回企画テーマ展パンフレット)	2017年10月20日	A4判	4頁
カムイとアイヌのものがたり (第10回企画テーマ展パンフレット)	2018年2月2日	A4判	4頁
野幌森林公園いきもの図鑑 (第11回企画テーマ展パンフレット)	2018年4月27日	A4判	4頁
りんご農家の道具 (第12回企画テーマ展パンフレット)	2018年9月21日	A4判	4頁
アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ—博物館のはたす役割— (第13回企画テーマ展パンフレット)	2019年2月8日	A4判	4頁
北の手仕事2019 (第14回企画テーマ展パンフレット)	2019年4月27日	A4判	4頁
エゾシカ (第15回企画テーマ展パンフレット)	2019年10月12日	A4判	4頁
北海道神宮 (第16回企画テーマ展パンフレット)	2020年2月8日	A4判	4頁
楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+栢谷隆男氏コレクション (第17回企画テーマ展パンフレット)	2020年4月25日	A4判	4頁
アンモナイトと生きる—50年のあゆみとこれから— (第19回企画テーマ展パンフレット)	2022年2月19日	A4判	4頁
久保寺逸彦文庫—アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる— (第3回蔵出し展パンフレット)	2022年10月29日	A4判	4頁
もっと!あっちこっち湿地—自然と歴史をめぐる旅— (第20回企画テーマ展パンフレット)	2023年2月25日	A4判	4頁
森のちやれんが宝箱—スタッフ押しのお蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展覧会!?!— (第21回企画テーマ展パンフレット)	2024年2月10日	A4判	4頁
北海道樹木万華鏡—スキャンアートと標本で見る木々のかたち— (第22回企画テーマ展パンフレット)	2024年4月24日	A4版	4頁
北海道のお葬式 (第23回企画テーマ展パンフレット)	2024年10月26日	A4版	4頁
楽器 見る・知る・考える (第24回企画テーマ展パンフレット)	2025年2月8日	A4判	4頁
その他			
『北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」連続講座・特別フォーラム 講演記録』	2021年8月	A4判	186頁
北海道開拓の村建造物紹介① 北海道のニシン漁と青山家—旧青山家漁家住宅の魅力	2022年3月25日	A5判	103頁

6 条例、規則など

1 北海道立総合博物館条例

平成26年10月14日条例第91号

改正 平成28年3月31日条例第37号【第1次改正】

平成31年3月15日条例第17号【第2次改正】

令和2年3月31日条例第23号【第3次改正】

第1章 設置及び管理

(設置)

第1条 北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与するため、北海道立総合博物館（以下「総合博物館」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 総合博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
北海道立総合博物館	札幌市及び江別市

(総合博物館に置く施設)

第3条 総合博物館に、次に掲げる施設を置く。

- (1) 北海道博物館（以下「本館」という。）
- (2) 北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）
- (3) 野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）

(事業)

第4条 総合博物館は、次の表の左欄に掲げる施設の区分に応じ、同表の当該右欄に定める事業を行う。

1 本館	<p>ア 北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。</p> <p>イ 本館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「本館資料」という。）に関する専門的な調査研究を行うこと。</p> <p>ウ 本館資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。</p> <p>エ アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。</p> <p>オ 北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。</p> <p>カ 特別展示室及びその附属設備を北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。</p> <p>キ 本館資料に関し、案内書、解説書、目録、研究</p>
------	--

	<p>紀要等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。</p> <p>ク 他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。</p>
2 開拓の村	<p>ア 北海道の開拓の歴史を示す建造物等を保管し、及び展示すること。</p> <p>イ 北海道の開拓過程における生活様式、年中行事等に係る催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。</p> <p>ウ 開拓の村の展示物に関し、案内書、解説書等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。</p>
3 ふれあい交流館	<p>ア 道立自然公園野幌森林公園の自然に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。</p> <p>イ ふれあい交流館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「交流館資料」という。）に関する調査研究を行うこと。</p> <p>ウ 交流館資料に関し、必要な説明、助言等を行うこと。</p> <p>エ 自然に関する情報提供を行うこと。</p> <p>オ 自然に関する講演会、講習会、研究会等を開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。</p>

2 総合博物館は、前項の事業のほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行う。

(指定管理者による管理)

第5条 総合博物館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定による指定を受けた法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第6条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 第4条第1項の表1の事項カ、2の事項及び3の事項に定める事業に関すること。
- (2) 第8条第1項、第12条第1項、第13条第2項及び第16条第2項の承認に関すること。
- (3) 施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理に関すること。
- (4) その他知事が定める業務

(利用日及び利用時間)

第7条 総合博物館の利用日及び利用時間は、別表第1のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、総合博物館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、臨時に総合博物館の利用日又は利用時間を変更することができる。

(利用の承認)

第8条 本館若しくは開拓の村の施設等又は次に掲げる設備の利用（別表第2に掲げる場合に限る。）をしようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

- (1) 北海道百年記念塔前駐車場
- (2) 北海道開拓の村前駐車場

2 指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。

（利用の承認の基準）

第9条 指定管理者は、前条第1項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

- (1) 利用の目的が総合博物館の設置の目的に反するとき。
- (2) 総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を損傷するおそれがあるとき。
- (4) その他総合博物館の管理運営上支障があると認められるとき。

（利用の承認の取消し等）

第10条 指定管理者は、第8条第1項の承認を受けた者（以下「利用者」という。）が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認を取り消し、又はその利用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらの規定に基づく処分違反したとき。
- (2) 虚偽の申請その他不正な手段により第8条第1項の承認を受けたとき。
- (3) 第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

2 指定管理者は、施設等の維持管理上その他公益上やむを得ない事態が発生したときは、第8条第1項の承認を取り消し、又はその条件を変更することができる。

（利用料金）

第11条 利用者は、その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 前項の規定により指定管理者に納められた利用料金は、指定管理者の収入とする。

3 利用料金の額は、別表第2に定める額の範囲内において、指定管理者が知事の承認を受けて定める。これを変更しようとするときも、同様とする。

4 知事は、前項の承認をしたときは、その承認をした利用料金の額を告示しなければならない。

5 指定管理者は、既に収受した利用料金を還付しないものとする。ただし、指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金の全部又は一部を還付することができる。

6 指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金を減免することができる。

（開拓の村建物等の使用の承認等）

第12条 開拓の村建物等（開拓の村の建物（管理棟のホール、ビジターセンター、体験学習室及び食堂棟に限る。）及び当該建物の附属設備、展示されている建造物等（以下「展示建造物等」という。）並びに入口広場をいう。）を使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。

3 第9条及び第10条の規定は、第1項の承認について準用する。この場合において、同条第1項第3号中「第8条第2項」とあるのは、「第12条第2項」と読み替えるものとする。

（特別観覧等の承認）

第13条 本館資料の閲覧、模写、模造、撮影及び複写（以下「特別観覧」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

2 開拓の村の展示建造物等及び管理棟の模写、模造及び撮影並びに交流館資料の模写、模造、撮影及び複写（以下これらを「特別利用」という。）を業として又は学術研究のために行おうとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

（特別観覧等の方法等）

第14条 特別観覧は、職員の指示に従って行わなければならない。

2 知事は、特別観覧の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

3 特別利用は、指定管理者の指示に従って行わなければならない。

4 指定管理者は、特別利用の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

（模写品等の刊行等の承認）

第15条 本館資料、開拓の村の展示建造物等若しくは管理棟又は交流館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したものを刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

（資料の貸出しの承認）

第16条 本館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

2 交流館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

3 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

- (1) 交流館資料の使用の目的が総合博物館の設置の目的

に反するとき。

(2) 交流館資料を損傷するおそれがあるとき。

(指定管理者の指示等)

第17条 指定管理者は、総合博物館の秩序の維持及び施設等の管理運営上必要があると認めるときは、利用者、第12条第1項の承認を受けた者及びふれあい交流館を利用する者に対しその利用若しくは使用に関し指示をし、又は利用中若しくは使用中の場所に従業員を立ち入らせ、利用若しくは使用の状況を調査させることができる。

(知事による管理)

第18条 第5条の規定にかかわらず、知事は、やむを得ない事情があると認めるときは、総合博物館の管理に係る業務を行うことができる。

2 前項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第7条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「ときは、知事の承認を得て」とあるのは「ときは」と、第8条から第10条まで(第9条及び第10条の規定を第12条第3項において準用する場合を含む。)、第12条第1項及び第2項、第13条第2項、第14条第3項及び第4項並びに第16条第2項及び第3項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第11条第1項中「その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)」とあるのは「別表第2に定める額の範囲内において知事が定める額の使用料」と、「指定管理者」とあるのは「知事」と、同条第5項及び第6項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、前条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「従業員」とあるのは「職員」とし、第11条第2項から第4項までの規定は、適用しない。

(規則への委任)

第19条 この章に定めるもののほか、総合博物館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

第2章 北海道立総合博物館協議会

(設置)

第20条 総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、北海道立総合博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(所掌事項)

第21条 協議会は、知事の諮問に応じ、総合博物館の事業に関する重要事項を調査審議する。

2 協議会は、前項に規定する事項に関し、知事に意見を述べることができる。

(組織)

第22条 協議会は、委員7人以内で組織する。

2 協議会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、特別委員を置くことができる。

(委員及び特別委員)

第23条 委員及び特別委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 博物館に関する知見を有する者

(3) アイヌ民族文化に関する知見を有する者

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 特別委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

(会長及び副会長)

第24条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員が互選する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第25条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(専門部会)

第26条 協議会は、必要に応じ、専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、協議会から付託された事項について調査審議するものとする。

3 専門部会に部会長を置き、会長が指名する委員がこれに当たる。

4 専門部会に属すべき委員及び特別委員は、会長が指名する。

(会長への委任)

第27条 この章に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。

(北海道立アイヌ民族文化研究センター条例等の廃止)

2 次に掲げる条例は、廃止する。

(1) 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例(平成6年北海道条例第4号)

(2) 北海道立開拓記念館条例(昭和46年北海道条例第4号)

(北海道立開拓記念館条例の廃止に伴う経過措置)

3 この条例の施行前に前項(第2号に係る部分に限る。)の規定による廃止前の北海道立開拓記念館条例(以下「旧条例」という。)第11条、第14条第2項又は第17条第2項の規定により指定管理者がした承認は、それぞれ、第12条第1項、第13条第2項又は第16条第2項の規定により指定管理者がした承認とみなす。

4 この条例の施行前に旧条例第14条第1項、第16条又は第17条第1項の規定により知事がした承認は、それぞれ、第13条第1項、第15条又は第16条第1項の規定により知事がした承認とみなす。

5 前2項に定めるもののほか、この条例の施行の日前に旧条例の規定により知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請で、この条例の施行の際承認をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この条例の相当規定に基づき知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。

(北海道個人情報保護条例及び北海道情報公開条例の一部改正)

6 次に掲げる条例の規定中「北海道立開拓記念館」を「北海道立総合博物館」に改める。

(1) 北海道個人情報保護条例(平成6年北海道条例第2号)第44条第2項

(2) 北海道情報公開条例(平成10年北海道条例第28号)第23条

附 則(平成28年3月31日条例第37号)

[北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則]

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月15日条例第17号)

[北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則]

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則(令和2年3月31日条例第23号)

[北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則]

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表第1(第7条関係)

区分	利用日	利用時間
本館、開拓の村及びふれあい交流館	1月4日から12月28日まで (月曜日(当該日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、休日に該当しない当該日の直後の日)を除く。)	午前9時30分から 午後4時30分まで
北海道百年記念塔前駐車場及び北海道開拓の村前駐車場	4月1日から10月31日まで	午前9時から午後5時まで

別表第2(第8条、第11条関係)

1 本館に展示する資料を観覧する場合

(1) 常設展示を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	1人につき 280円
2 1以外の者(学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。)	1,010円	1人につき 860円

(2) 特別展示(本館が開催する特別展示に限る。(3)において同じ。)を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	1人につき 130円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	1人につき 280円
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	1,010円	1人につき 860円

(3) 常設展示及び特別展示を併せて観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	1人につき 130円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	700円	1人につき 510円
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	1,830円	1人につき 1,440円

2 本館において携帯用展示解説器を利用する場合

1回につき 380円

3 本館の特別展示室を利用する場合

1日につき 72,210円

4 開拓の村に入場する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	夏期	1,170円 1人につき 1,060円
	冬期	1,060円 1人につき 990円
2 1以外の者(学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。)	夏期	1,600円 1人につき 1,310円
	冬期	1,310円 1人につき 1,060円

5 開拓の村の馬車鉄道又は馬そりを利用する場合

区分	利用料金の上限額
1 3歳以上15歳未満の者	1人1回につき 250円
2 15歳以上の者	1人1回につき 550円

6 北海道百年記念塔前駐車場又は北海道開拓の村前駐車場を利用する場合

区分	利用料金の上限額
バス	1回1日につき 250円
乗用車	1回1日につき 100円
自動二輪車（原動機付自転車を含む。）	1回1日につき 50円

備考

- 4の表において、夏期とは4月1日から11月30日までとし、冬期とは12月1日から翌年3月31日までとする。
- 6の表において、貨物自動車の利用料金については、車体の大きさによって、バス又は乗用車の区分によるものとする。
一部改正〔平成28年条例37号・31年17号・令和2年23号〕

2 北海道立総合博物館管理規則

平成26年10月14日規則第72号

(改正 平成28年3月31日規則第40号)

(改正 令和3年3月31日規則第34号抄)

(改正 令和5年3月31日規則第39号)

(趣旨)

第1条 この規則は、北海道立総合博物館条例（平成26年北海道条例第91号。以下「条例」という。）第19条の規定に基づき、北海道立総合博物館（以下「総合博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館の制限)

第2条 条例第5条に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められる者に対しては、入館を拒み、又は退館させることができる。

(入館者の遵守事項等)

第3条 入館者は、条例、この規則及び指定管理者の指示に従うほか、特に次の事項を遵守しなければならない。

- 建物、附属設備又は条例第4条第1項の表に規定する本館資料（以下「本館資料」という。）、同表に規定する交流館資料（以下「交流館資料」という。）若しくは条例第12条第1項に規定する展示建造物等（以下「展

示建造物等」という。）を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

- 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

- 指定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

2 指定管理者は、入館者が前項の規定に違反したことにより総合博物館の管理運営上支障があると認めるときは、当該入館者に対しては、総合博物館の利用を制限し、又は退館させることができる。

(利用料金の額の承認)

第4条 指定管理者は、条例第11条第3項の規定により利用料金の額について知事の承認を受けようとするときは、別記第1号様式の利用料金承認申請書を知事に提出しなければならない。

- 前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

(利用料金の還付の基準)

第5条 条例第11条第5項ただし書の規則で定める基準は、次に掲げる場合について、同条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）の全部又は一部を還付することができることとする。

- 条例第8条第1項の承認を受けた者（以下「利用者」という。）の責めに帰することのできない事由によって利用が不可能になったと指定管理者が認めるとき。
- 利用の開始日の前15日までに利用を中止する旨の申出があつて、指定管理者がこれについて相当の理由があると認めるとき。

- 条例第10条第2項の規定により利用の承認を取り消したとき。

- その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(利用料金の減免の基準)

第6条 条例第11条第6項の規則で定める基準は、次のとおりとする。

- 次に掲げる者については、利用料金（条例別表第2の1の事項及び4の事項に係るものに限る。）を免除することができることとする。

ア 小学校若しくは義務教育学校の前期課程の児童又は中学校、義務教育学校の後期課程若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員

イ 土曜日又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定するこどもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者
ウ 学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者（10人以上で利用する場合に限る。）

エ 特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者

オ 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項

に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者

カ 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその引率者

キ 生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護を受けている者

ク 児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された者及びその引率者

ケ 精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。）と判定された者及びその引率者

コ 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第5条の3に規定する老人福祉施設に入所している者及びその引率者

サ 65歳以上の者

シ その他知事がアからサまでに掲げる者に準ずると認める者

(2) 次のいずれかに該当する場合は、特別展示室の利用料金を免除することができることとする。

ア 総合博物館と共同して開催する北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しのために利用するとき。

イ その他知事が必要と認めるとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、知事が特別な理由があると認める場合は、利用料金を減免することができることとする。

(施設設備等の変更の禁止)

第7条 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者は、本館の特別展示室及びその附属設備又は同項に規定する開拓の村建物等（以下「施設設備等」という。）の利用又は使用に際し、施設設備等に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ指定管理者の承認を受けたときは、この限りでない。

(原状回復の義務等)

第8条 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者は、施設設備等の利用又は使用を終了したときは、施設設備等を原状に回復しなければならない。条例第10条（条例第12条第3項において準用する場合を含む。）の規定により利用若しくは使用の承認を取り消され、又は利用若しくは使用を制限され、若しくは停止されたときも、同様とする。

2 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者が前項の義務を履行しないときは、指定管理者が代わって行い、その費用を当該利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者から徴収するものとする。

(特別観覧の承認)

第9条 条例第13条第1項に規定する特別観覧（以下「特別

観覧」という。）の承認を受けようとする者は、別記第2号様式の特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

3 知事は、特別観覧を承認したときは、別記第3号様式の特別観覧承認書を交付するものとする。

(特別観覧等の時間)

第10条 特別観覧及び特別利用（条例第13条第2項に規定する特別利用をいう。以下同じ。）を行うことができる時間は、午前10時から午後4時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、必要があると認めるときは、特別観覧の時間を変更することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、特別利用の時間を変更することができる。（模写品等の刊行等の承認）

第11条 条例第15条の承認を受けようとする者は、別記第4号様式の模写品等刊行等承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

3 知事は、条例第15条の承認をしたときは、別記第5号様式の模写品等刊行等承認書を交付するものとする。

(本館資料の貸出しの承認)

第12条 条例第16条第1項の承認を受けようとする者は、別記第6号様式の資料貸出承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

3 知事は、第1項の規定による申請があったときは、当該申請者が次のいずれかに該当する場合に限り、承認することができる。

(1) 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人が設置する博物館及び美術館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館並びに同法第31条第2項に規定する指定施設の長

(2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館の長

(3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館の長

(4) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校の長

(5) その他知事が適当と認める者

4 知事は、条例第16条第1項の承認をしたときは、別記第7号様式の資料貸出承認書を交付するものとする。

(本館資料等の貸出期間)

第13条 本館資料及び交流館資料の貸出しをすることができる期間(以下「貸出期間」という。)は、60日以内とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、本館資料の貸出期間を延長することができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、交流館資料の貸出期間を延長することができる。
- 4 知事は、必要があると認めるときは、貸出期間中であっても、本館資料の返還を求めることができる。
- 5 指定管理者は、必要があると認めるときは、貸出期間中であっても、交流館資料の返還を求めることができる。

(本館資料等の滅失等の届出等)

第14条 本館資料の貸出しを受けた者は、当該本館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を知事に届け出なければならない。

- 2 交流館資料の貸出しを受けた者は、当該交流館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出なければならない。
- 3 指定管理者は、前項の規定による届出があったときは、速やかにその旨を知事に報告しなければならない。

(利用に供しない本館資料)

第15条 知事は、個人若しくは法人その他の団体(国及び地方公共団体を除く。以下「法人等」という。)の秘密保持のため又は公益上の理由により、一定の期間利用に供することが不適当な情報(以下「個人の秘密等の情報」という。)が記録されている本館資料及び寄贈又は寄託に係る本館資料であって一定の期間利用に供しない旨の条件が付されているもの(以下「条件付き寄贈資料」という。)については、特別観覧その他の利用(以下「特別観覧等」という。)に供しないものとする。

- 2 知事は、本館資料又は条件付き寄贈資料に個人の秘密等の情報とそれ以外の情報が記録されている場合において、当該個人の秘密等の情報とそれ以外の情報とを容易に、かつ、特別観覧等の趣旨が損なわれない程度に分離することができるときは、前項の規定にかかわらず、当該個人の秘密等の情報が記録されている部分を除いて、当該本館資料及び条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。
- 3 知事は、公益上の必要その他相当の理由があり、かつ、個人又は法人等の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認めるときは、第1項の規定にかかわらず、個人の秘密等の情報が記録されている本館資料又は条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。

(本館資料の利用の制限)

第16条 知事は、本館資料の保存上支障が生ずると認められ

るときは、その利用を制限することができる。

(知事による管理)

第17条 条例第18条第1項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第2条中「条例第5条に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)」とあるのは「知事」と、第3条第1項中「指定管理者」とあるのは「職員」と、同条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第5条中「同条第1項」とあるのは「条例第18条第2項の規定により読み替えられた条例第11条第1項」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、同条第1号及び第2号中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第6条各号中「利用料金」とあるのは「使用料」と、第7条ただし書、第8条第2項、第10条第3項、第13条第3項及び第5項並びに第14条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」とし、同条第3項の規定は、適用しない。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
(北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則等の廃止)
- 2 次に掲げる規則は、廃止する。
 - (1) 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則(平成6年北海道規則第66号)
 - (2) 北海道立開拓記念館管理規則(昭和46年北海道規則第27号)
(経過措置)
- 3 この規則の施行前に前項(第1号に係る部分に限る。)の規定による廃止前の北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則(附則第5項において「旧施行規則」という。)第10条、第11条又は第12条ただし書の規定により北海道立アイヌ民族文化研究センターの所長(附則第5項において「所長」という。)がした承認又は許可は、条例の相当規定に基づき知事がした承認とみなす。
- 4 この規則の施行前に附則第2項(第2号に係る部分に限る。)の規定による廃止前の北海道立開拓記念館管理規則(以下「旧管理規則」という。)第6条ただし書の規定により指定管理者がした承認は、第7条ただし書の規定により指定管理者がした承認とみなす。
- 5 前2項に定めるもののほか、この規則の施行の日前に旧施行規則又は旧管理規則の規定により所長又は知事若しくは指定管理者に対してなされた承認又は許可の申請で、この規則の施行の際承認又は許可をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この規則の相当規定に基づき知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。

附 則(平成28年3月31日規則第40号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(令和3年3月31日規則第34号抄)

(施行期日)

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
(経過措置)

2 この規則の施行の際現にこの規則による改正前のそれぞれの規則の規定に基づいて作成されている用紙がある場合においては、この規則による改正後のそれぞれの規則の規定にかかわらず、当分の間、必要な調整をして使用することを妨げない。

附 則 (令和5年3月31日規則第39号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

別記第1号様式 (第4条関係)

年 月 日								
<p>北海道知事 様</p> <p style="text-align: center;">主たる事務所の所在地 指定管理者の名称 代表者の氏名</p> <p style="text-align: center;">利用料金承認申請書</p> <p>北海道立総合博物館の利用料金の額を次とおり定めることについて承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第11条第3項の規定により、申請します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">区 分</th> <th style="width: 40%;">利用料金の額 (円)</th> <th style="width: 30%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			区 分	利用料金の額 (円)	備 考			
区 分	利用料金の額 (円)	備 考						

(日本産業規格 A 4)

別記第2号様式 (第9条関係)

年 月 日																							
<p>北海道知事 様</p> <p style="text-align: center;">申請者 住 所 職 業 氏 名 電話番号</p> <p style="text-align: center;">特別観覧承認申請書</p> <p>次とおり北海道博物館資料の特別観覧の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第13条第1項の規定により、申請します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">資料品名</th> <th style="width: 40%;">点 数</th> <th style="width: 30%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 10%;">観覧日</td> <td style="width: 20%;">年</td> <td style="width: 20%;">月</td> <td style="width: 20%;">日</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>観覧方法</td> <td>観覧</td> <td>模写</td> <td>模造</td> <td>撮影 複写</td> </tr> <tr> <td>観覧目的</td> <td colspan="4"></td> </tr> </table>			資料品名	点 数	備 考				観覧日	年	月	日		観覧方法	観覧	模写	模造	撮影 複写	観覧目的				
資料品名	点 数	備 考																					
観覧日	年	月	日																				
観覧方法	観覧	模写	模造	撮影 複写																			
観覧目的																							

(日本産業規格 A 4)

別記第3号様式 (第9条関係)

年 月 日																							
<p>(申請者) 様</p> <p style="text-align: center;">北海道知事 様</p> <p style="text-align: center;">特別観覧承認書</p> <p>年 月 日申請の北海道博物館資料の特別観覧を次のとおり承認します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">資料品名</th> <th style="width: 20%;">点 数</th> <th style="width: 20%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 10%;">観覧日</td> <td style="width: 20%;">年</td> <td style="width: 20%;">月</td> <td style="width: 20%;">日</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>観覧方法</td> <td>観覧</td> <td>模写</td> <td>模造</td> <td>撮影 複写</td> </tr> <tr> <td>観覧目的</td> <td colspan="4"></td> </tr> </table> <p>注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 北海道立総合博物館条例及び北海道立総合博物館管理規則の規定を遵守すること。 2 北海道博物館資料、施設、設備その他物件を損傷し、又は滅失したときは、これを原形に復し、又はその損害を賠償しなければならないこと。 			資料品名	点 数	備 考				観覧日	年	月	日		観覧方法	観覧	模写	模造	撮影 複写	観覧目的				
資料品名	点 数	備 考																					
観覧日	年	月	日																				
観覧方法	観覧	模写	模造	撮影 複写																			
観覧目的																							

(日本産業規格 A 4)

別記第4号様式 (第11条関係)

その1

年 月 日																										
<p>北海道知事 様</p> <p style="text-align: center;">申請者 住 所 職 業 氏 名 電話番号</p> <p style="text-align: center;">模写品等刊行等承認申請書</p> <p>次とおり(北海道博物館資料 野幌森林公園自然ふれあい交流館資料)の(模写 模造 撮影 複写)品の(刊行 複製 使用)の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 30%;">使用目的</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>資料名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>作品名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>製作数</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>価 額</td> <td style="text-align: center;">有料</td> <td style="text-align: center;">円</td> <td style="text-align: center;">無料</td> </tr> <tr> <td>製作予定年 月 日</td> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">日</td> </tr> </table>			使用目的				資料名				作品名				製作数				価 額	有料	円	無料	製作予定年 月 日	年	月	日
使用目的																										
資料名																										
作品名																										
製作数																										
価 額	有料	円	無料																							
製作予定年 月 日	年	月	日																							

(日本産業規格 A 4)

その2

年 月 日																										
<p>北海道知事 様</p> <p style="text-align: center;">申請者 住 所 職 業 氏 名 電話番号</p> <p style="text-align: center;">模写品等刊行等承認申請書</p> <p>次とおり(北海道開拓の村の展示建造物等 北海道開拓の村の管理棟)の(模写 模造 撮影 複写)品の(刊行 複製 使用)の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 30%;">使用目的</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>建物等の名称</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>作品名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>製作数</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>価 額</td> <td style="text-align: center;">有料</td> <td style="text-align: center;">円</td> <td style="text-align: center;">無料</td> </tr> <tr> <td>製作予定年 月 日</td> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">日</td> </tr> </table>			使用目的				建物等の名称				作品名				製作数				価 額	有料	円	無料	製作予定年 月 日	年	月	日
使用目的																										
建物等の名称																										
作品名																										
製作数																										
価 額	有料	円	無料																							
製作予定年 月 日	年	月	日																							

(日本産業規格 A 4)

別記第5号様式（第11条関係）

年 月 日

(申請者) 様

北海道知事 啓

模写品等刊行等承認書

年 月 日申請の模写品等の（刊行 複製 使用）を次のとおり承認します。

使用目的	
資料名又は建物等の名称	
作品名	
製作数	
価 額	有料 円 無料
製作予定年 月 日	年 月 日

注意

- 1 上記の使用目的以外に使用しないこと。
- 2 使用に際しては、北海道立総合博物館所有の旨を明記すること。
- 3 刊行物、複製品、発表作品等2点を北海道に寄贈すること。

(日本産業規格A4)

別記第7号様式（第12条関係）

年 月 日

(申請者) 様

北海道知事 啓

資料貸出承認書

年 月 日申請の北海道博物館資料の貸出しについて、次のとおり承認します。

使用目的	
使用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目及び数量	

注意 貸出しを受けた資料を上記の使用目的以外の目的に供し、又は上記の使用場所以外の場所で利用してはならないこと。

(日本産業規格A4)

別記第6号様式（第12条関係）

年 月 日

北海道知事 様

申請者 機関名
所在地
代表者名

資料貸出承認申請書

次のとおり北海道博物館資料の貸出しを受けたいので、北海道立総合博物館条例第16条第1項の規定により、申請します。

使用目的	
使用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目及び数量	

(日本産業規格A4)

7 利用案内

1 見学案内

〔開館時間〕

5～9月：9:30～17:00

10～4月：9:30～16:30

※閉館時間の30分前までにお入りください。

〔休館日〕

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は直後の平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

※このほか臨時休館する場合があります。詳しくは、ウェブサイトなどをご確認ください。

〔観覧料〕

(1) 総合展示室の観覧料

区 分	大学生・高校生	一 般
個 人	300円	800円
10名以上の団体料金、道民割	200円	600円

※中学生以下、65歳以上の方は無料です。入館の際に年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください。

※道民割は、入館の際に道内在住であることがわかるもの（免許証など）をご提示ください。

※障害のある方は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。

※高校生は、土曜日・5月5日（こどもの日）・11月3日（文化の日）に利用する場合、並びに学校教育又は社会教育を目的として利用する10名以上の団体の場合は無料になります。

※その他、北海道博物館と北海道開拓の村の共通チケットや年間パスポートなど、お得なチケットもあります。

(2) 特別展示室の観覧料

- ・特別展では、別途定める観覧料が必要となります。
- ・その他、無料で見学できる企画テーマ展なども開催します。

〔観覧料の免除〕

(1) 次に掲げる事項に該当する方は、それらを証明するものをご提示いただくと、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトを確認するか、電話でお問い合わせください。

- ・小学校の児童又は中学校若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員
- ・土曜日又はこどもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方
- ・学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方（10人以上で利用する場合に限る。）
- ・特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者
- ・児童福祉法に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者
- ・身体障害者福祉法の規定による身体障害者手帳の交付を受けている方及びその引率者
- ・生活保護法による保護を受けている方
- ・児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された方及びその引率者
- ・精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。）と判定された方及びその引率者
- ・老人福祉法に規定する老人福祉施設に入所している方及びその引率者
- ・65歳以上の方
- ・その他知事が上記に掲げる方に準ずると認める方

(2) (1)以外の人で、知事が特別な理由があると認める場合は、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトを確認するか、電話でお問い合わせください。

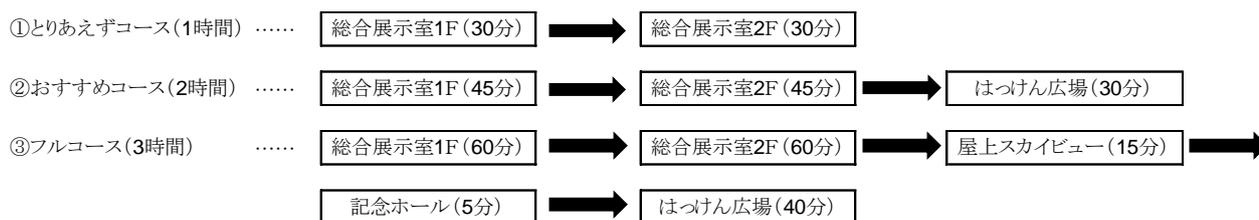
〔お客さまへの注意事項〕

お客さまにおいては、係員の指示に従うほか、特に次のような秩序を乱す行為は禁じられています。

- ・建物、附属施設又は展示資料を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為
- ・他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為
- ・指定の場所以外で飲食し、又は喫煙すること

【おすすめ見学コースおよび所要時間】

どこからでも自由に見学できますが、所要時間の目安としては、次のおすすめ見学コースが参考になります。



※特別展示室も見学すると、さらに30～60分かかります。

※「屋上スカイビュー」は4月～9月の祝日のみ10:00～16:00に実施。雨天や強風などの場合は開放を中止します。

2 図書室の利用

図書室をご利用されるお客さまは、総合展示の観覧なしで利用いただけます。

【利用の手続き】

- ① 1階総合案内で「図書室利用者証」と「図書室利用票」をお受け取りください。
- ② 「図書室利用者証」を着用し、1階総合展示室入口からお入りください。
(利用者証を着用しないと総合展示室の観覧料がかかりますので、ご注意ください。)
- ③ 図書室に着いたら、備え付けの電話でスタッフをお呼びください。そして、スタッフに「図書室利用票」をご提示のうえ、ご利用ください。

【お帰りの際】

- ① 図書室担当のスタッフに「図書室利用票」をお渡しください。
- ② 総合展示室内を通過して1階展示室入口から出て、1階総合案内で「図書室利用者証」をご返却ください。

【利用時間】

開館時間と同じです。

3 収蔵資料のご利用

【資料の特別観覧】

資料の閲覧、模写、模造、撮影又は複写を行いたい場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「特別観覧承認申請書」を提出してください。特別観覧の時間は午前10時から午後4時までです。

【模写品等のご利用】

資料を模写・模造・撮影し、又は複写したもの(模写品等と総称)を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表などに使用する場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「模写品等刊行等承認申請書」を提出してください。

【資料の貸出】

資料の貸出を受ける場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「資料貸出承認申請書」を提出してください。貸出期間は60日間以内ですが、知事が特に必要と認めるときは、延長することができます。

※資料貸出を受けることができる方は、次のとおりです。

博物館法及び独立行政法人通則法に規定する博物館及び博物館相当施設の長、社会教育法に規定する公民館の長、国立の図書館及び図書館法に規定する図書館の長、学校教育法に規定する学校の長、その他知事が適当と認める場合。

4 学校教育用補助教材のご案内

授業などで活用できる補助教材の無料貸出を、北海道内の学校・公民館などを対象として行っています(貸出期間：原則2週間以内)。

ご希望の方は、事前にお電話で「北海道博物館 道民サービスグループ 教材貸出担当」(TEL:011-898-0456)まで、予約状況等の確認・相談をしてください。

【申し込みから返却までの流れ】

- ①電話で予約状況を確認し、仮予約をしてください。
- ②申請書を郵便にて送付してください。(申請書等の書式は、北海道博物館ウェブサイトからダウンロードできます)
- ③借用書を用意し、当館にお越しください。
- ④利用後、活用報告書をお持ちのうえ、教材をご返却ください。

5 交通案内

〔バスをご利用の場合〕

- (1) 新札幌駅から バスターミナル・のりば⑩（北レーン）
 - ・ジェイ・アール北海道バス 新22「開拓の村」行きに乗車し、「北海道博物館」で下車。
- (2) 森林公園駅から 東口バス停
 - ・新札幌駅からの上記のバスが森林公園駅に寄ります。
- (3) 大麻・江別方面から
 - ・ジェイ・アール北海道バス・夕鉄バス新札幌方面行きに乗車し、「厚別東小学校前」で下車（バス停から徒歩15分）。

〔タクシーをご利用の場合〕

新札幌駅から 約10分

〔徒歩の場合〕

森林公園駅から 約20～25分



【北海道博物館ウェブサイト】

<https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

【X（旧 Twitter）】

https://twitter.com/Hokkaido_Museum

【各種の問い合わせ・申し込みは下記まで】

- ①ご利用に関する問い合わせ、学校以外の団体でのご利用、図書室のご利用に関することは
電話：011-898-0466（総合案内）
FAX：011-897-1865
- ②学校団体の予約、イベントの申し込みは
電話：011-898-0500（学校団体受付・行事申込み専用ダイヤル）
FAX：011-898-0590
- ③その他に関することは
電話：011-898-0456（総務部）
FAX：011-898-2657

『北海道博物館要覧』は、当館の年度の活動その他の基本情報について、道民に広く公表するものである。

本要覧は、北海道開拓記念館が1971（昭和46）年以来刊行してきた『北海道開拓記念館要覧』ならびに北海道立アイヌ民族文化研究センターが2003（平成16）年以来刊行してきた『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報』の後継刊行物である。

北海道博物館要覧 第10号（要覧2024年度）

発行

2026（令和8）年3月

編集・発行者

北海道博物館

004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

011-898-0456

www.hm.pref.hokkaido.lg.jp



北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM